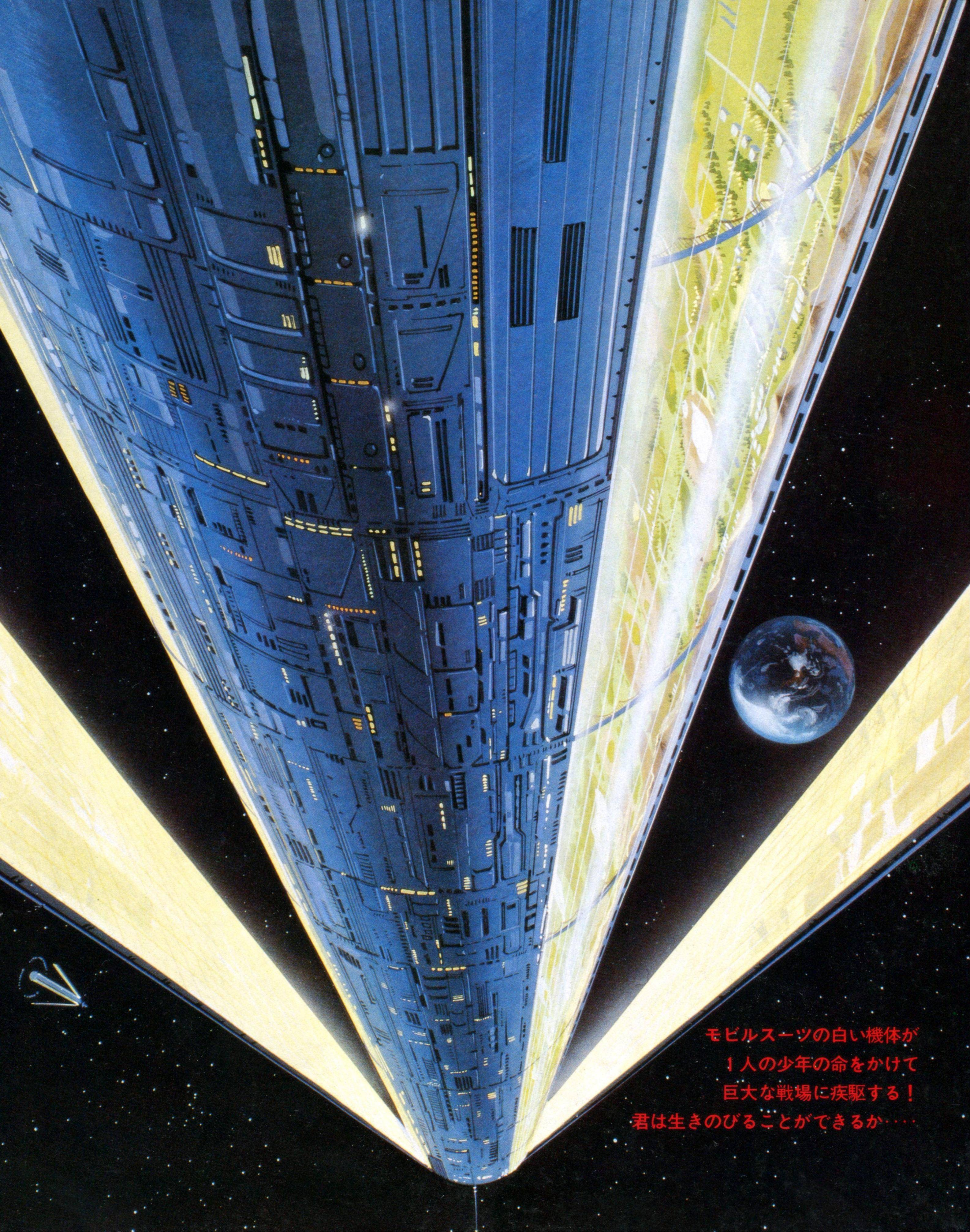
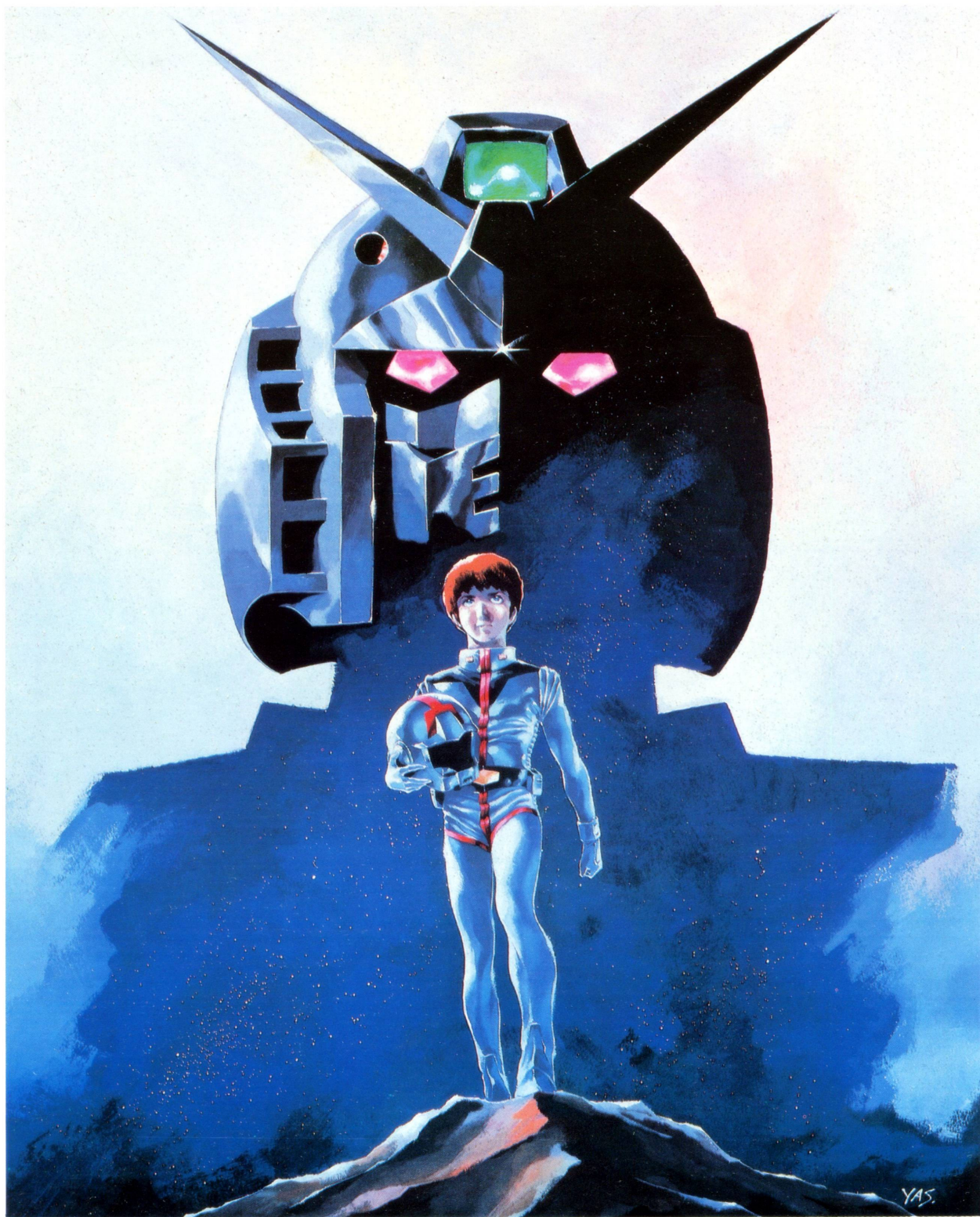
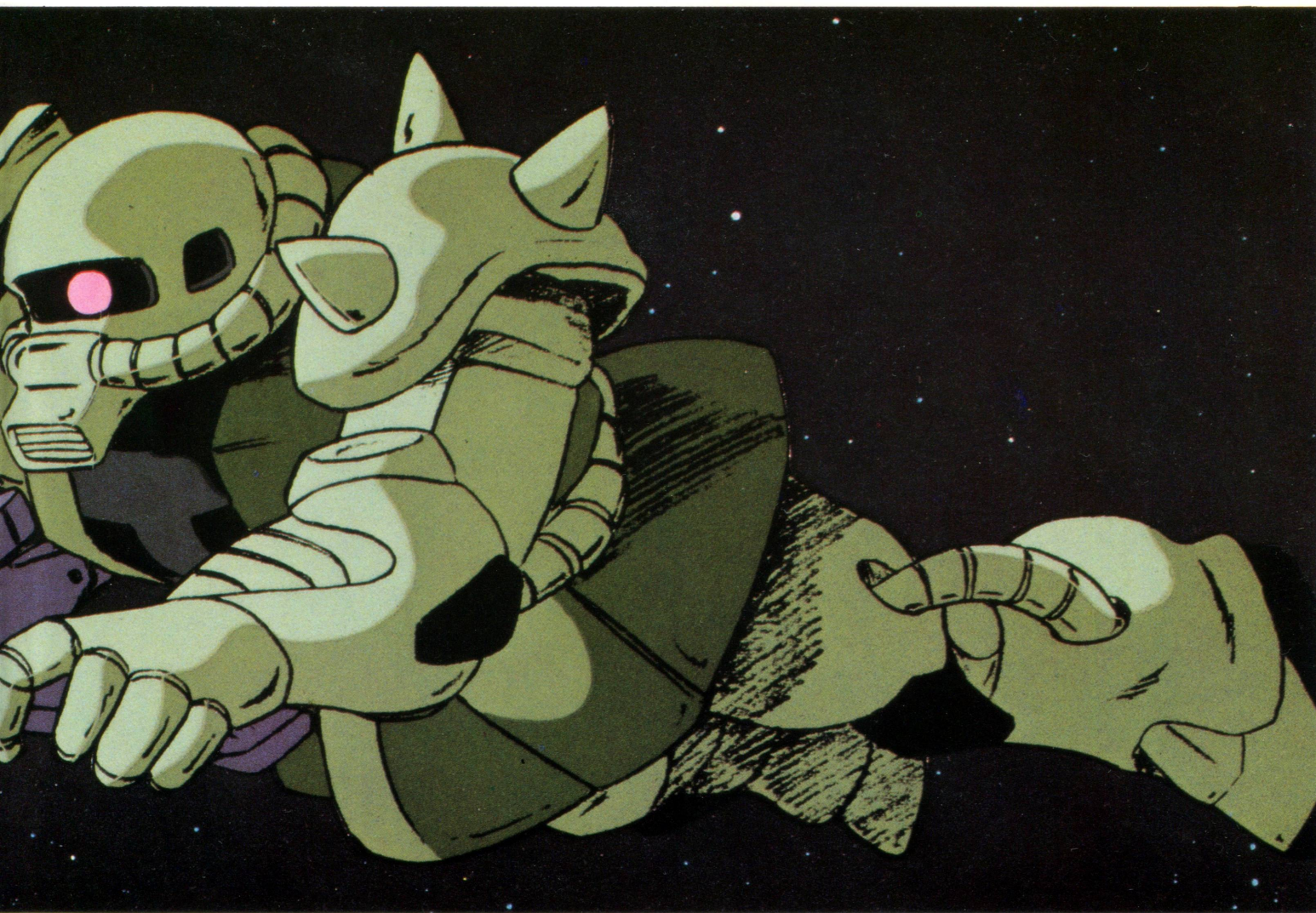
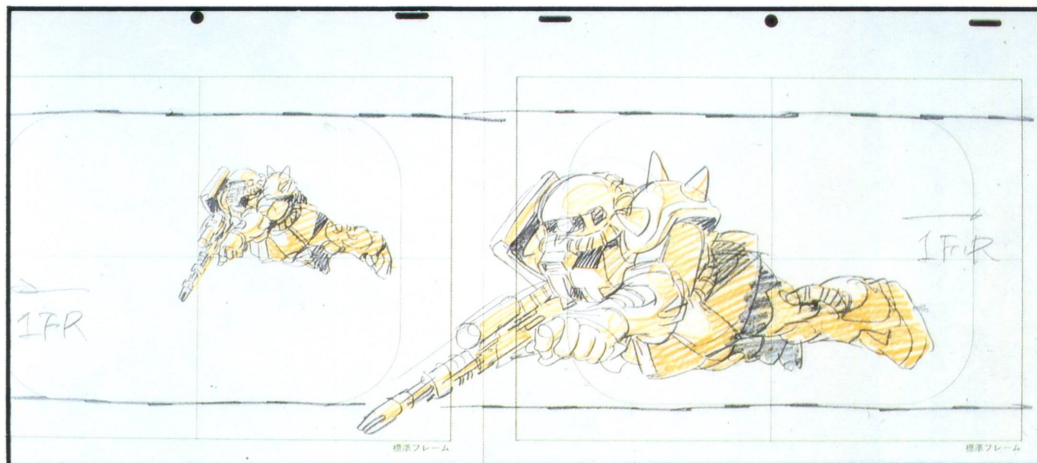
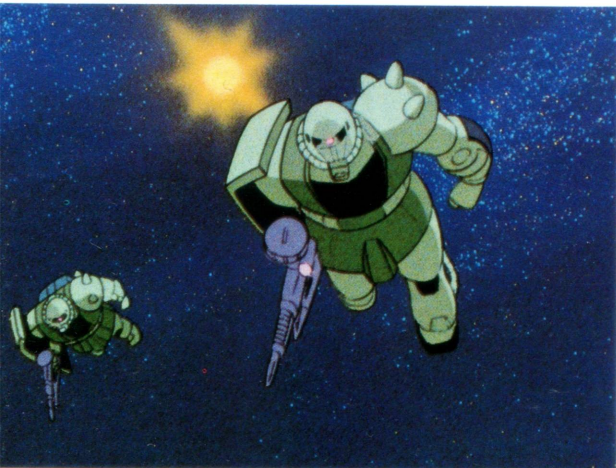
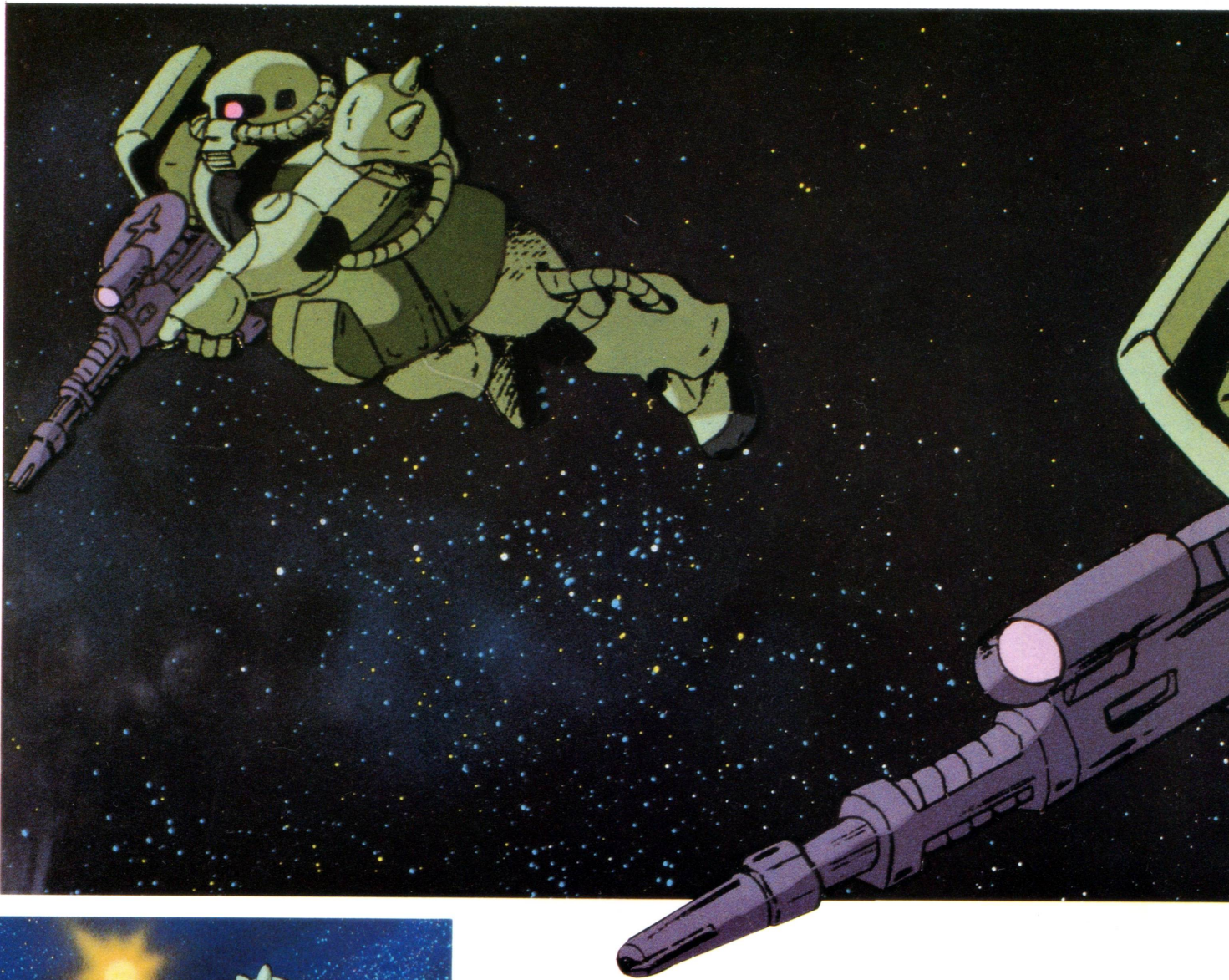
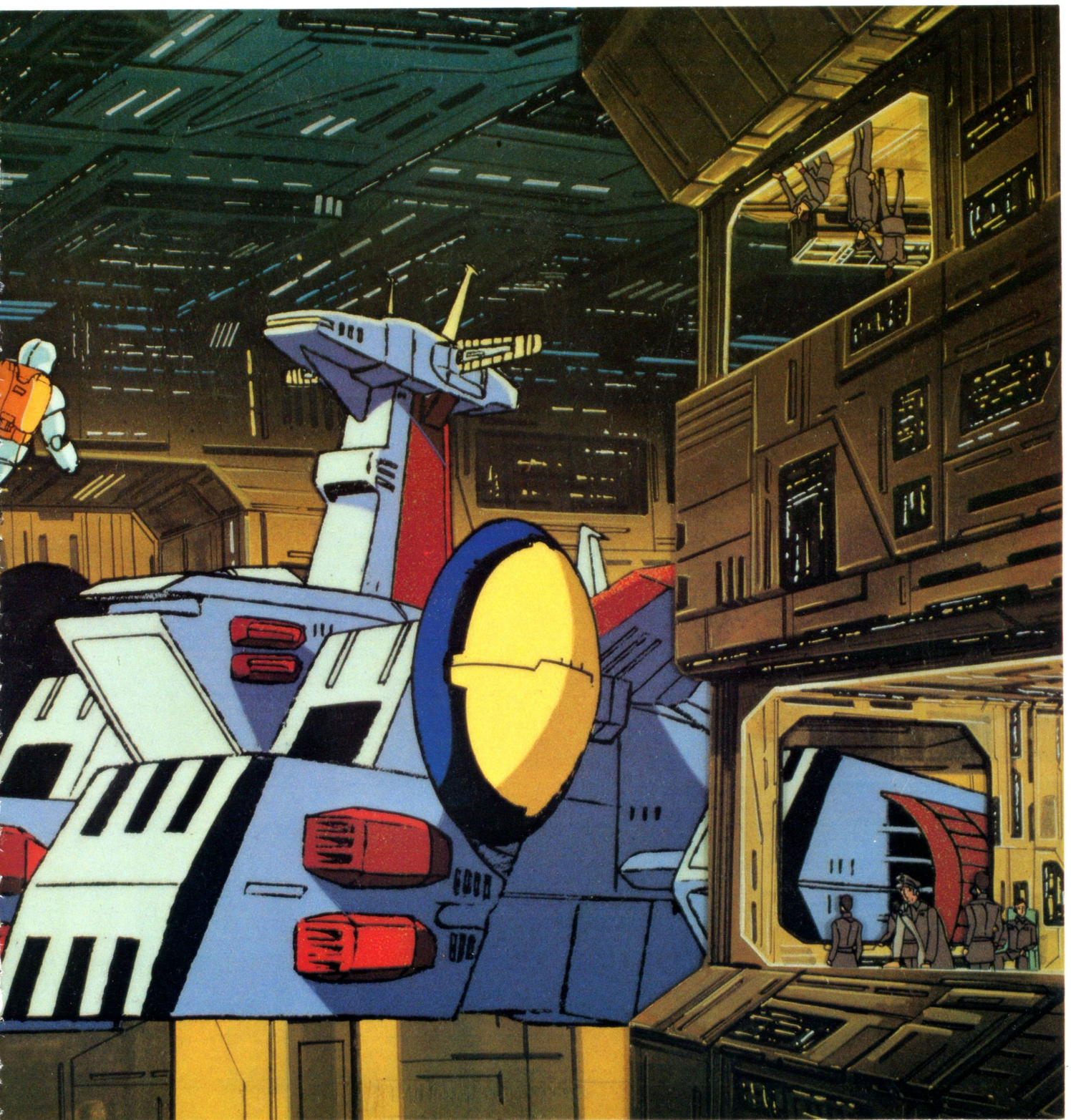
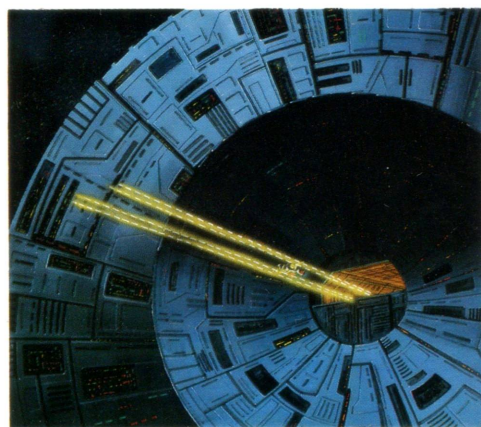
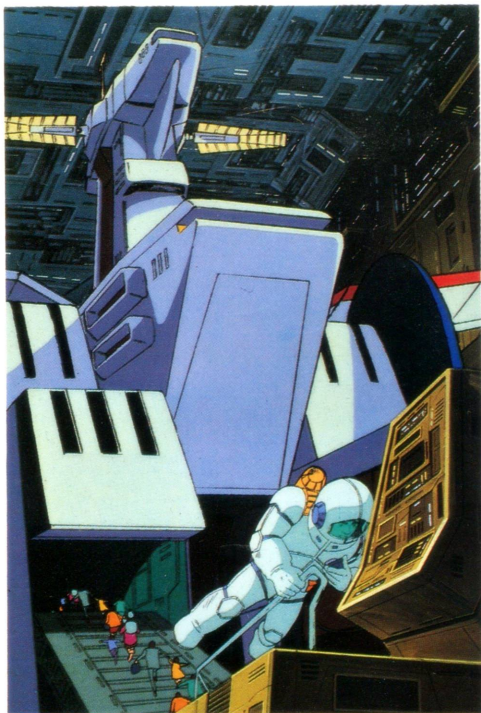
劇場版
アニメグラフブック
講談社 テレビマガジン デラックス 4
MOBILE SUIT
GUNDAM
機動戦士
ガンダム
定価850円
YAS.

モビルスーツの白い機体が
１人の少年の命をかけて
巨大な戦場に疾駆する！
君は生きのびることができるか‥‥

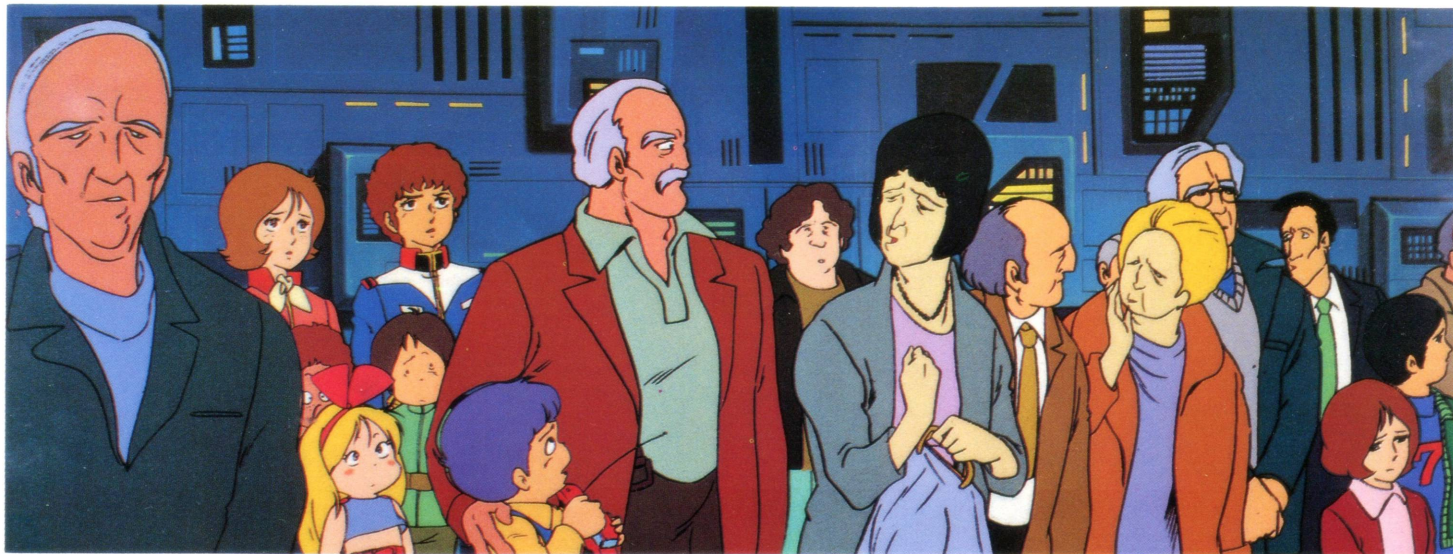
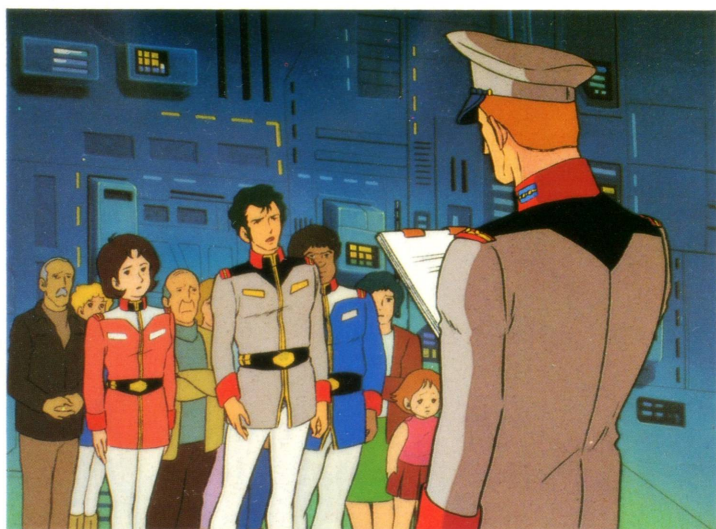
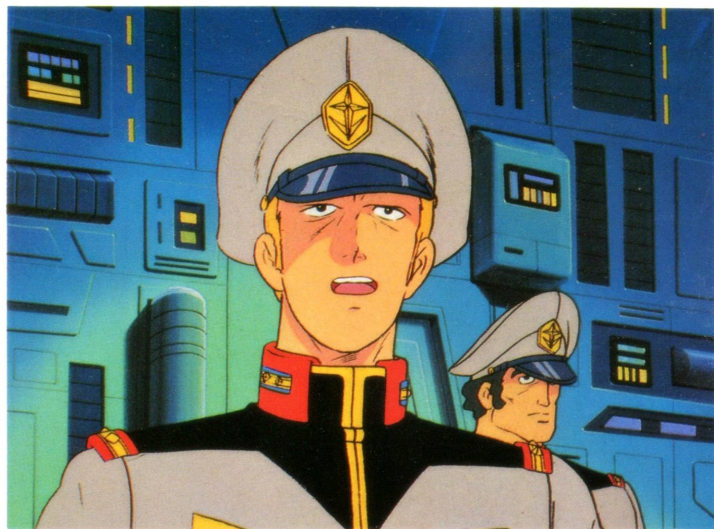
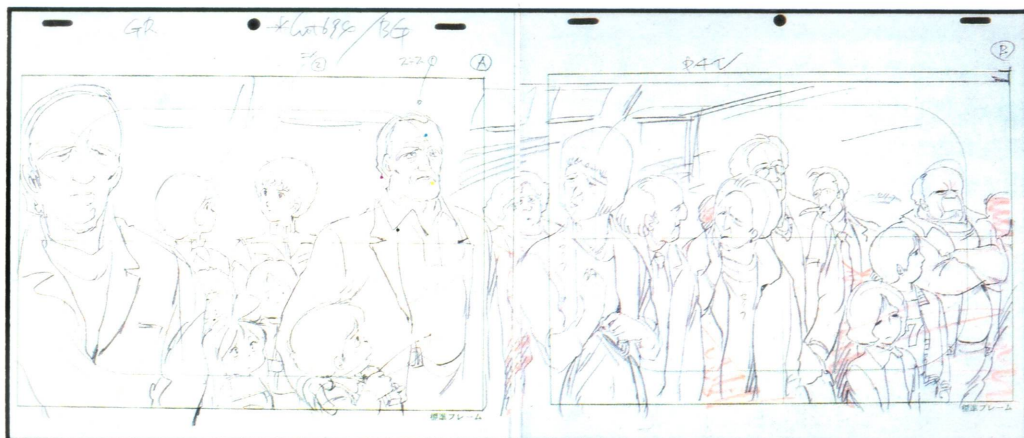
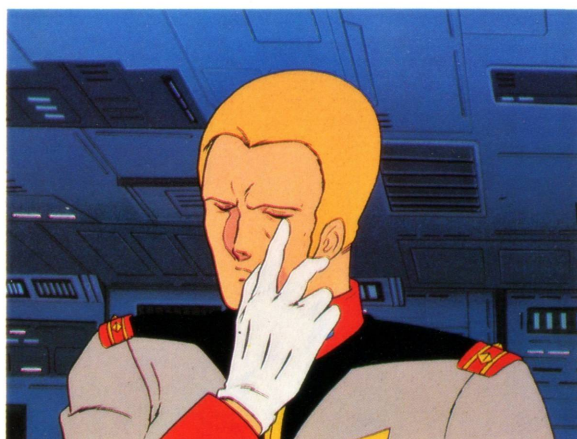
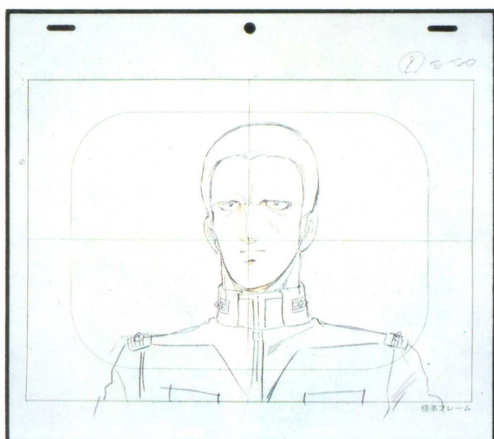
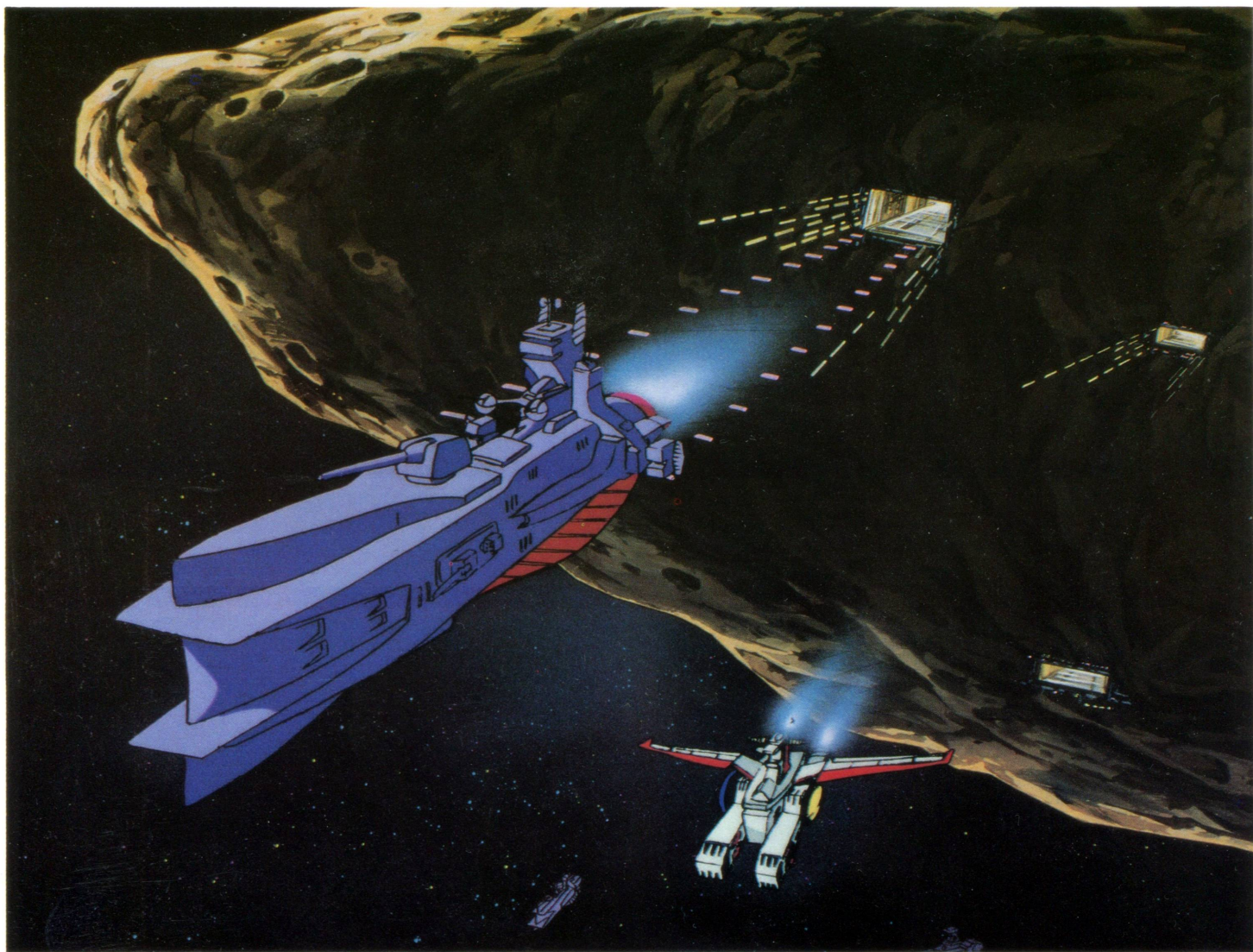
名場面集——PART・1

★セル画と安彦良和氏の第一原画で、新作場面を立体構成!

襲来

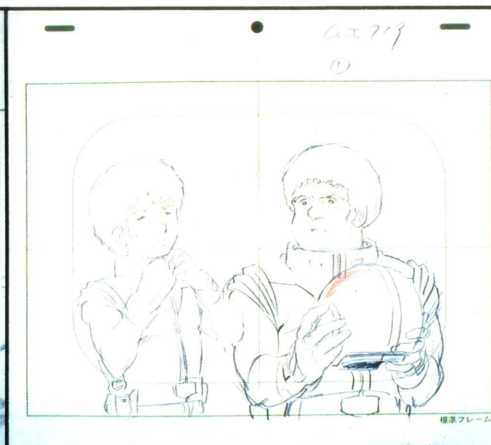
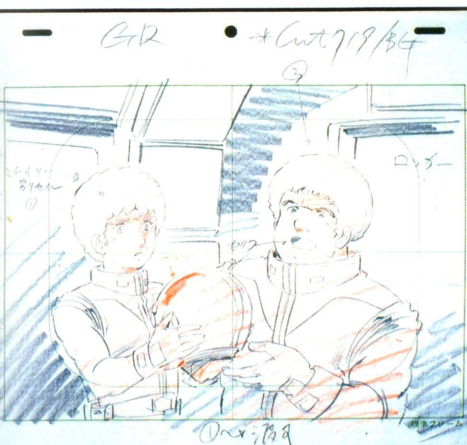
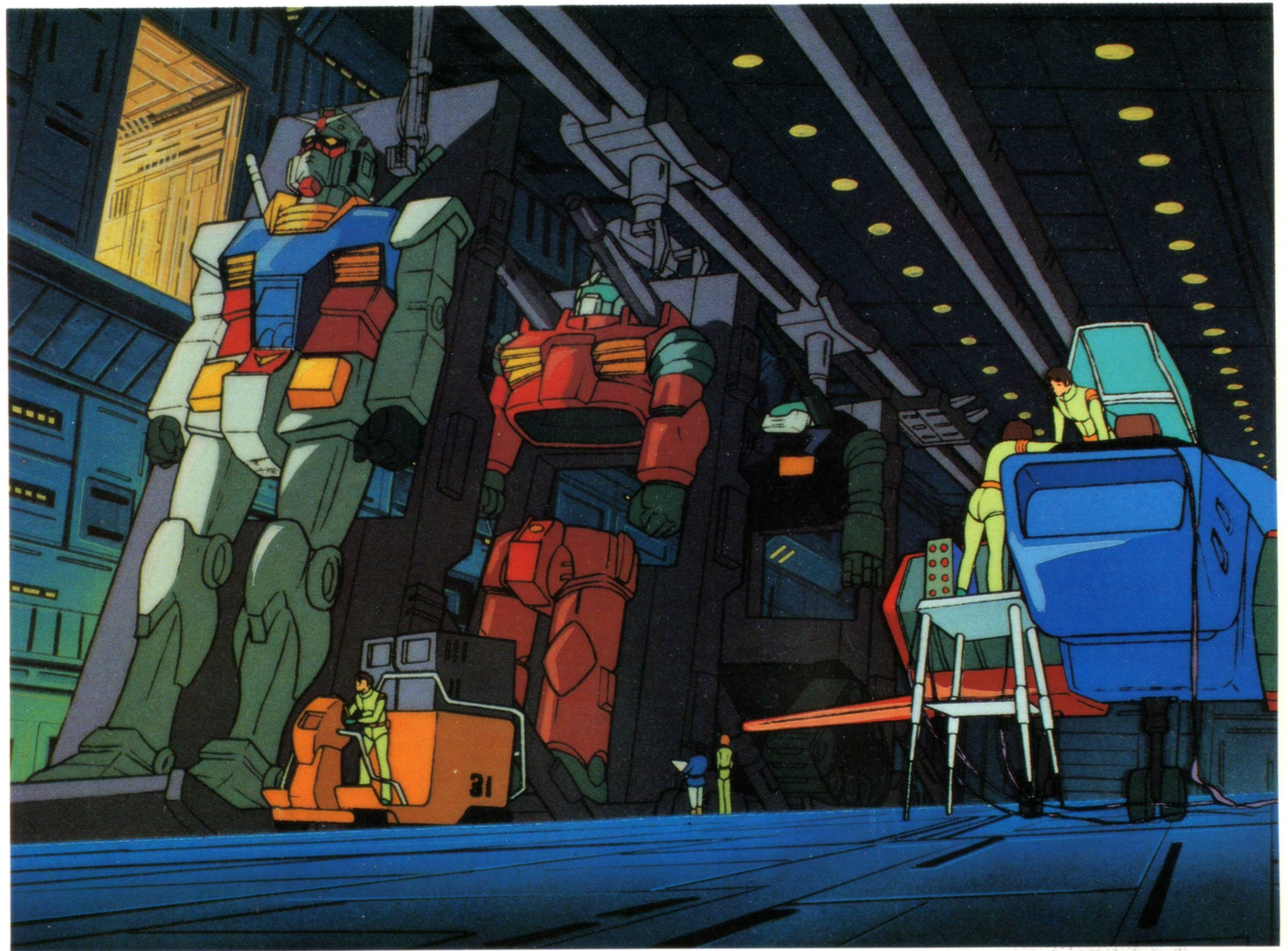
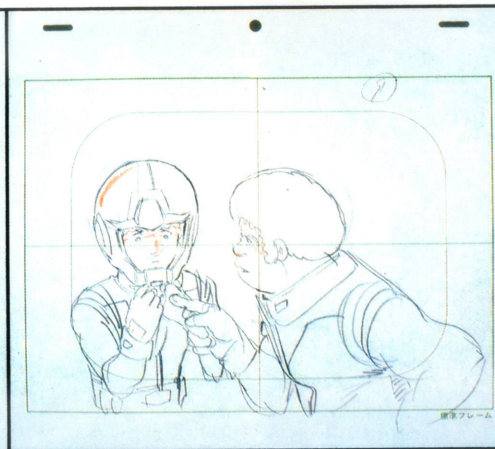
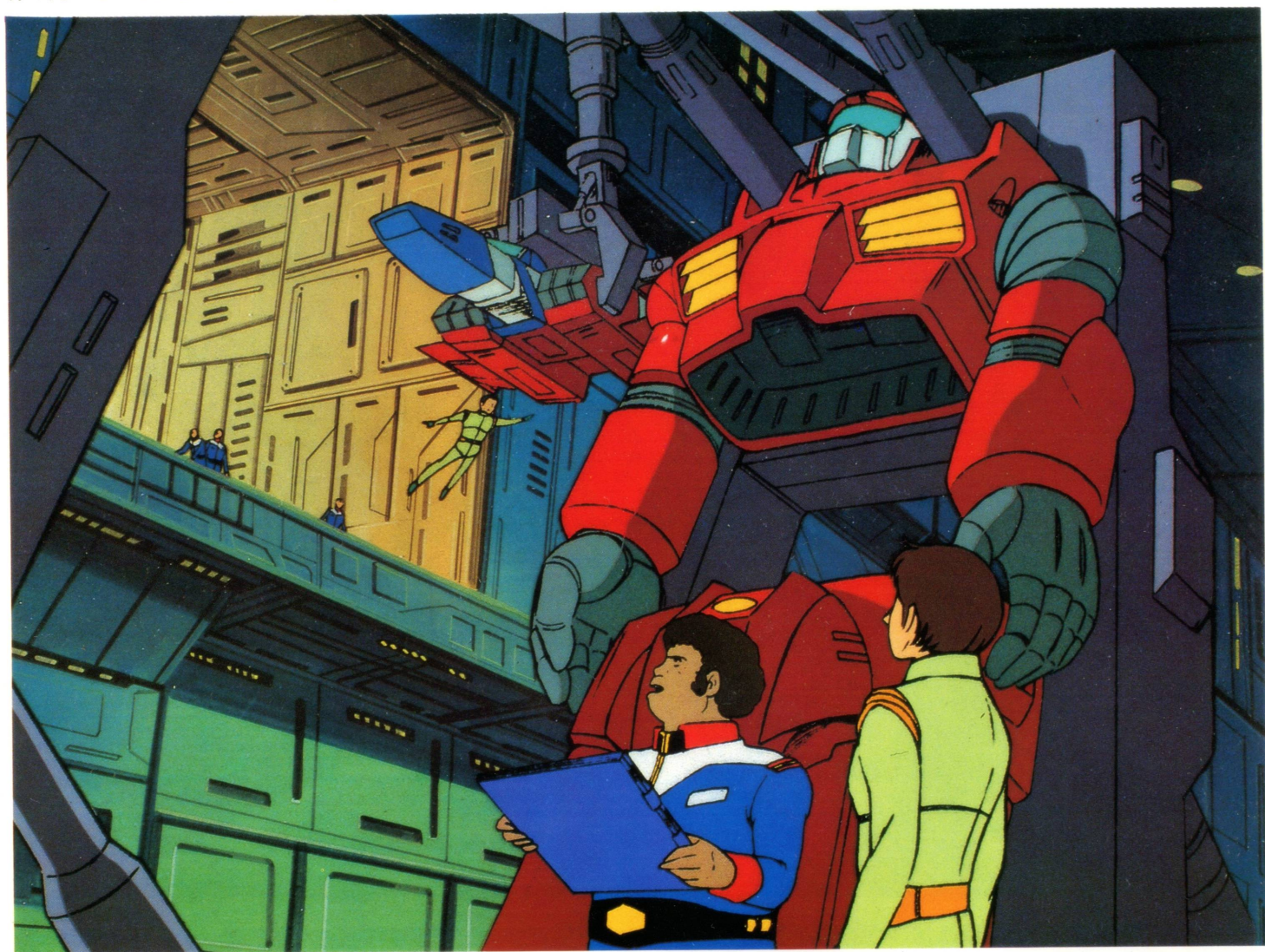
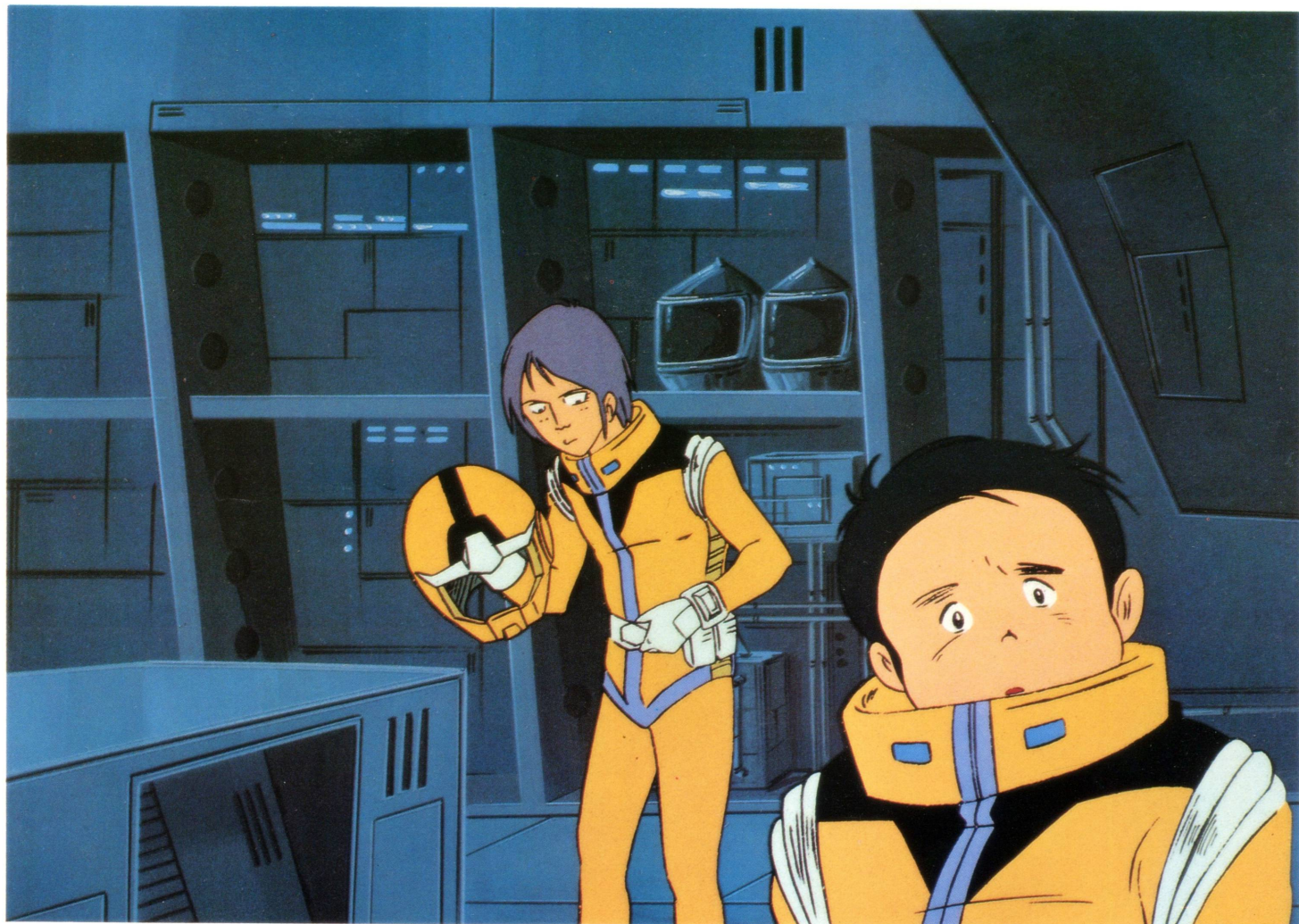
MOBILE SUIT GUNDAM

○ただ，暗闇の静寂の中では，聞こえるのは自分の呼吸音しかない。連邦のモビルスーツの存在を探るため，３機のモビルスーツ・ザクは，すべるように，宇宙都市サイド７へと近づいていった。

ホワイトベース

MOBILE SUIT GUNDAM

○たった２機のザクのために，サイド７は地獄と化した。生き残った人々を乗せて，新造戦艦ホワイトベースは，サイド７を脱出する。船を動かすのは少年たち——もうおとなは，ほとんど生き残っていないのだ。

寒い時代

MOBILE SUIT GUNDAM

○ルナツーで待ち受けていたのは，ホワイトベースを連邦軍本部ジャブローへ届けよ，との命令だった。「素人(しろうと)の集まりなんですよ！」ブライトの悲痛な叫びも無視された。

○ワッケイン司令の目に涙が‥‥。「ジオンとの戦いが，まだまだ困難を極めるというとき，我々は素人まで動員していく。寒い時代とは思わんか。」

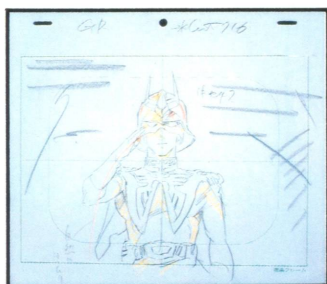
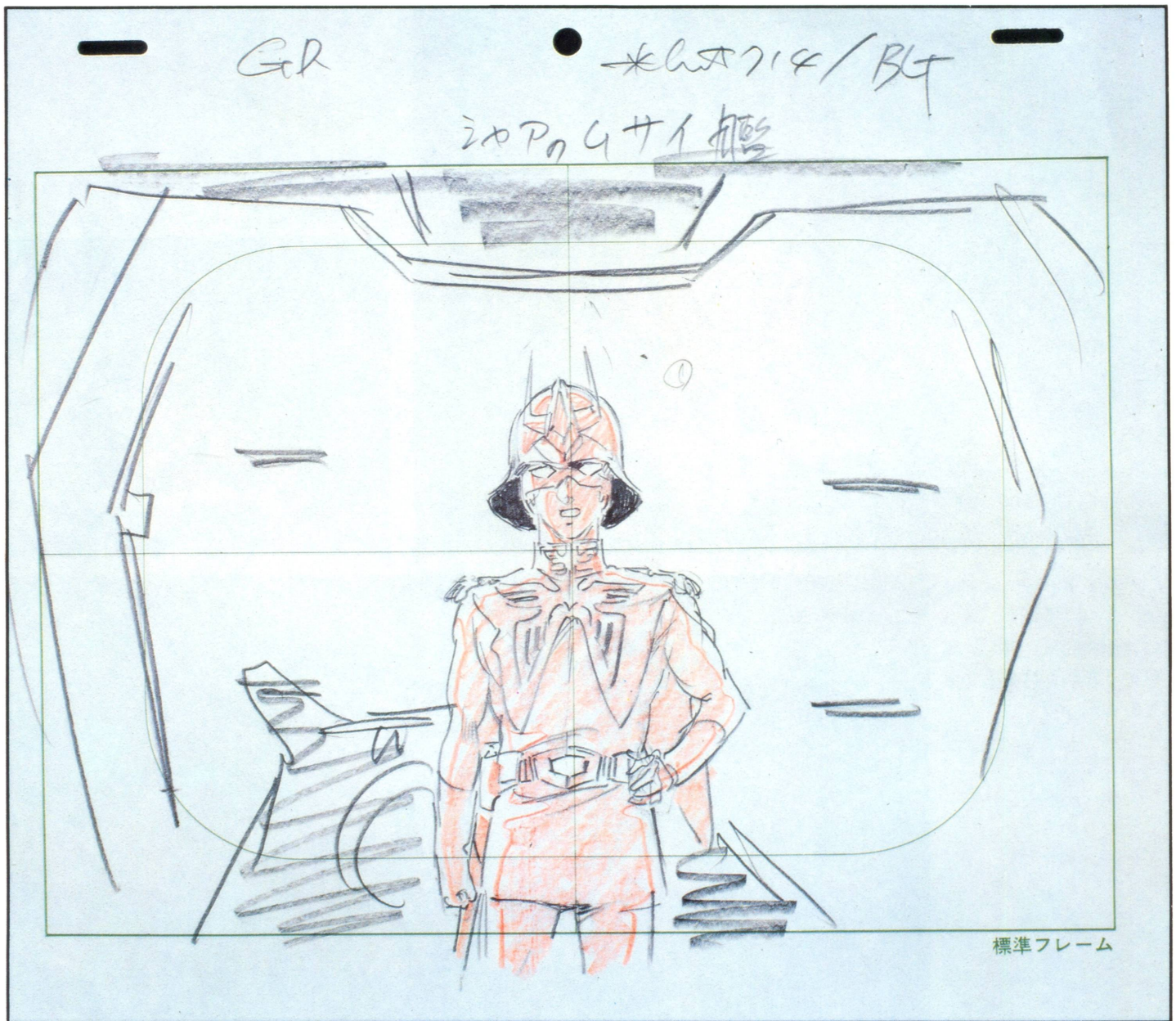
戦闘準備

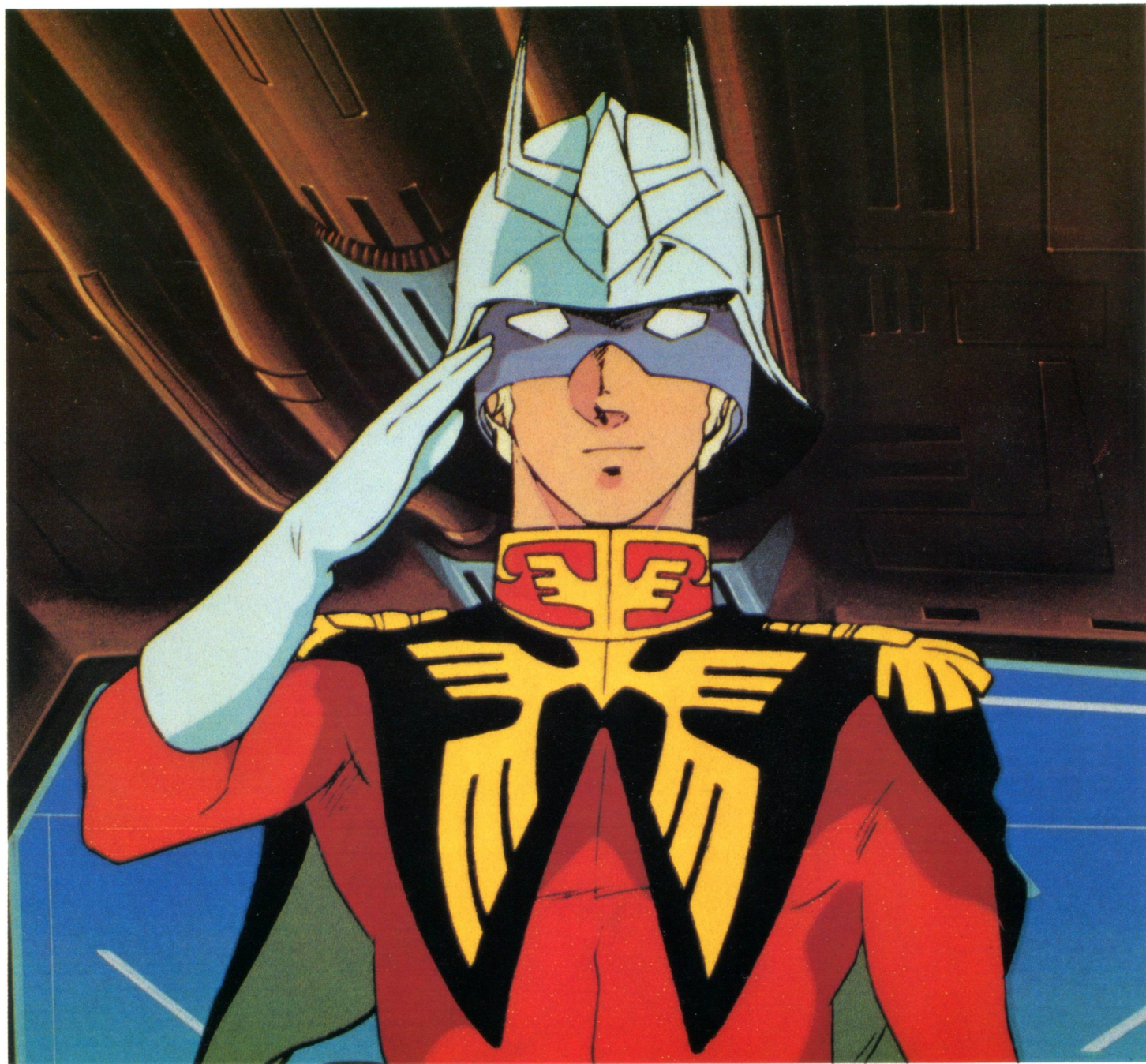
MOBILE SUIT GUNDAM

○戦いと戦いの合間にも，少年たちには休息の時はない。修理と補給。慎重なるメンテナンスを怠れば，それは確実に自分の死へとつながるのだから‥‥。

アムロと仲間

▲カイ・シデン(左)——口数こそ多いものの，結局１人では何もできないことを知る。　ハヤト・コバヤシ(右)——気が弱く，それゆえ能力を発揮できない。小柄だが，柔道の達人。
◀リュウ・ホセイ——やさしい性格の持ち主。みんなのまとめ役。

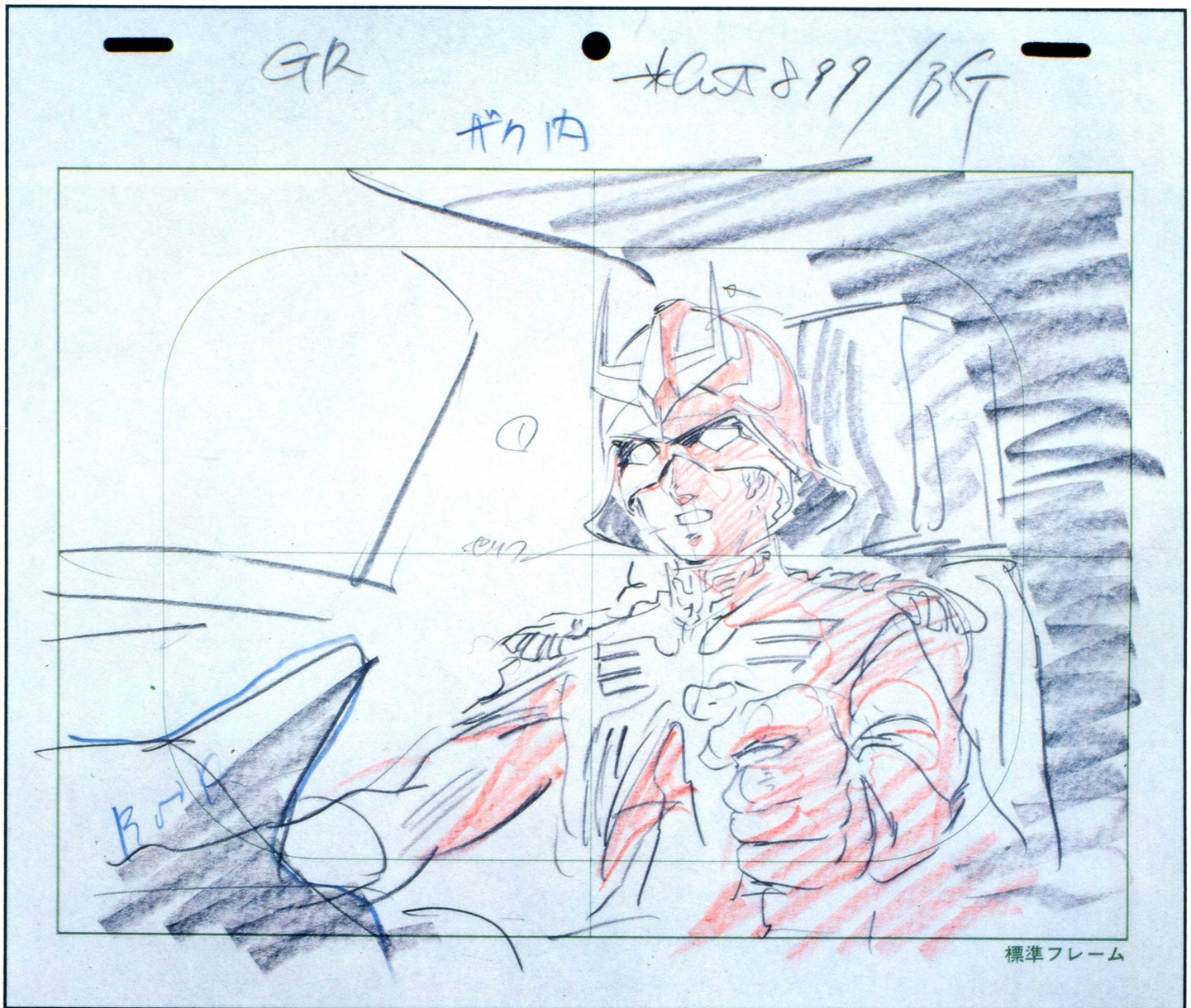
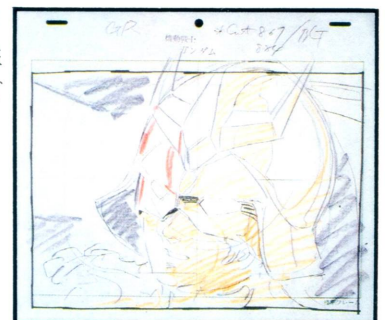
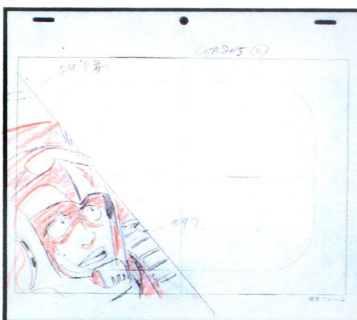
○アムロ・レイ——戦いに巻きこまれたことで，人と人とのつながりを知り，自分の意志とは関係なく，戦士への道を歩みだす。

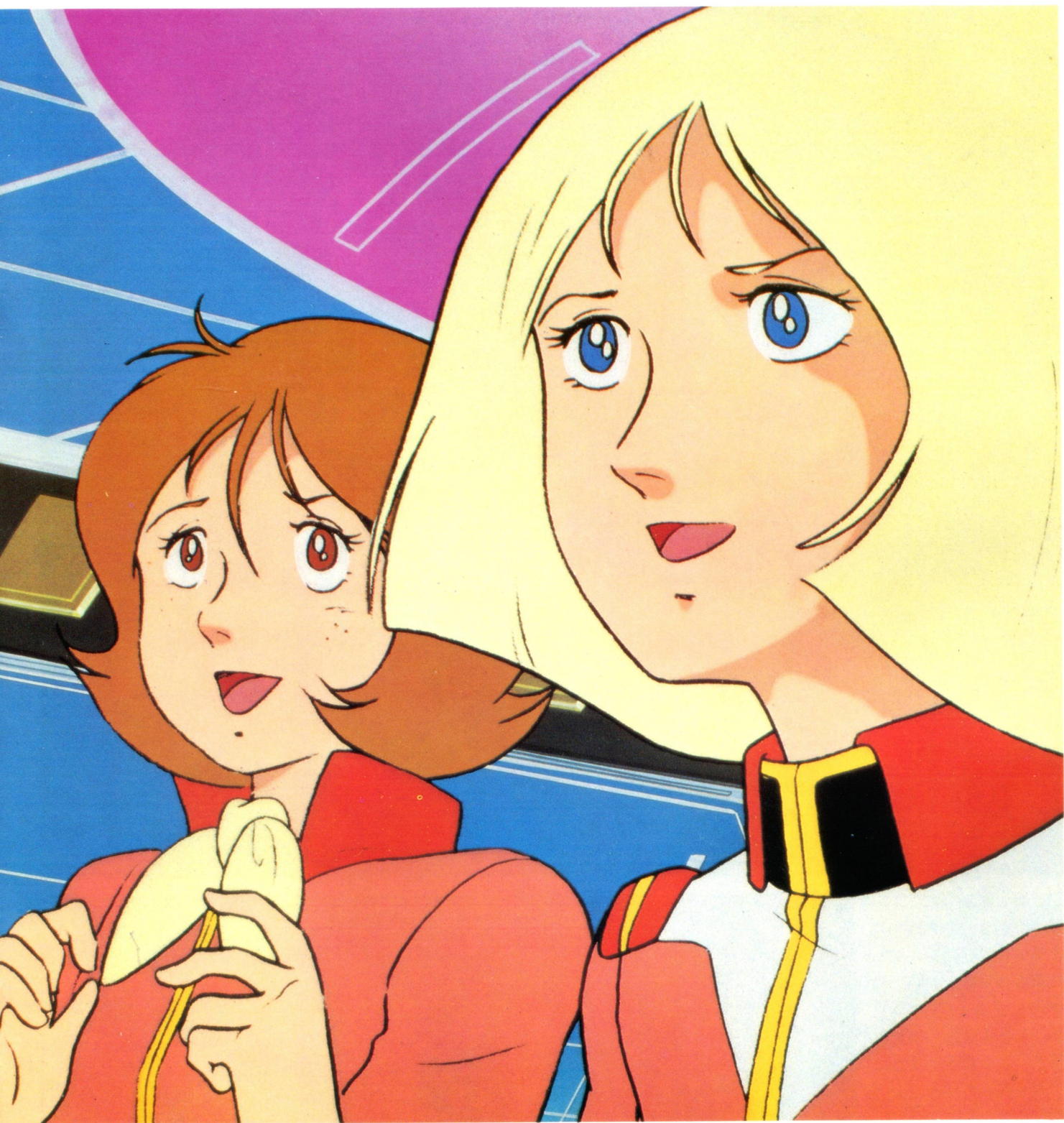
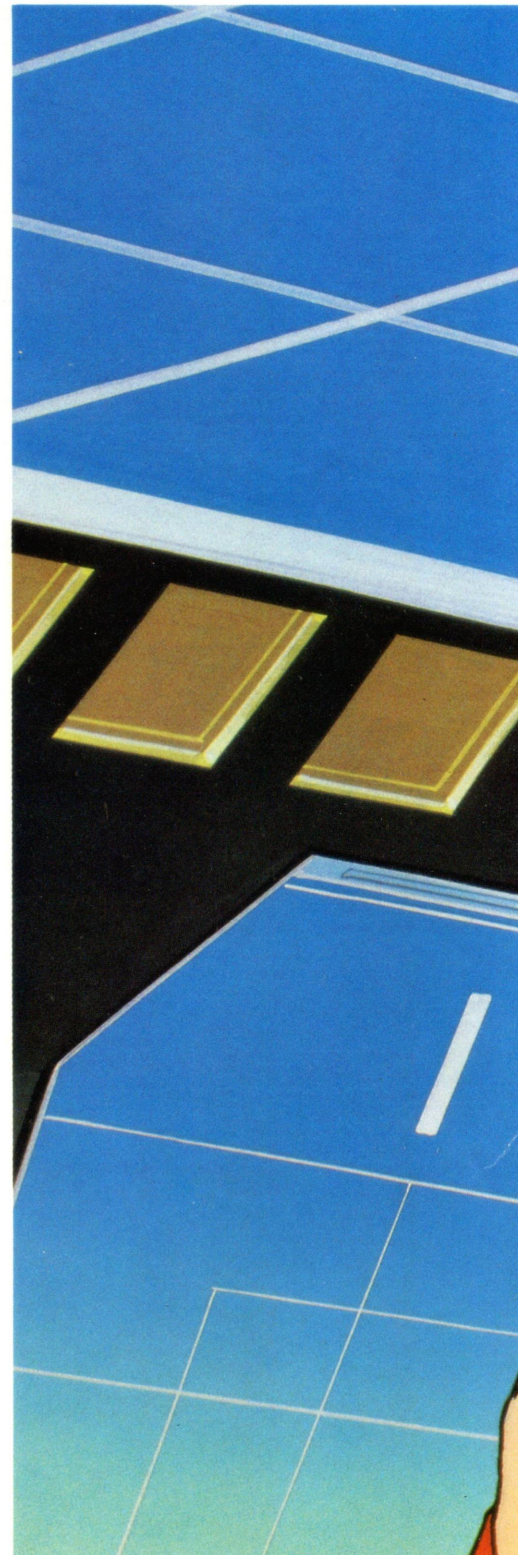
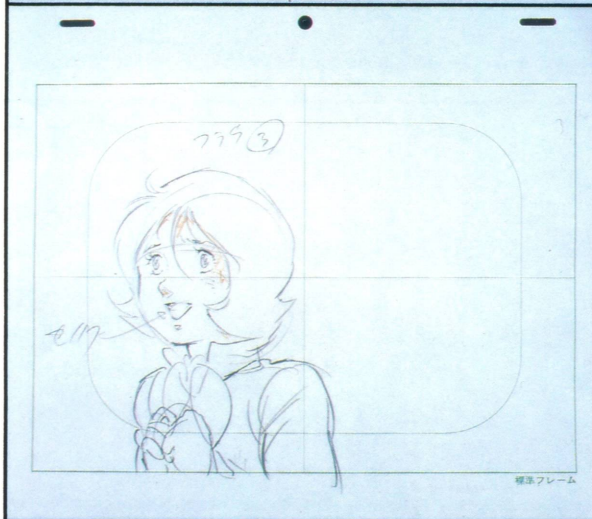
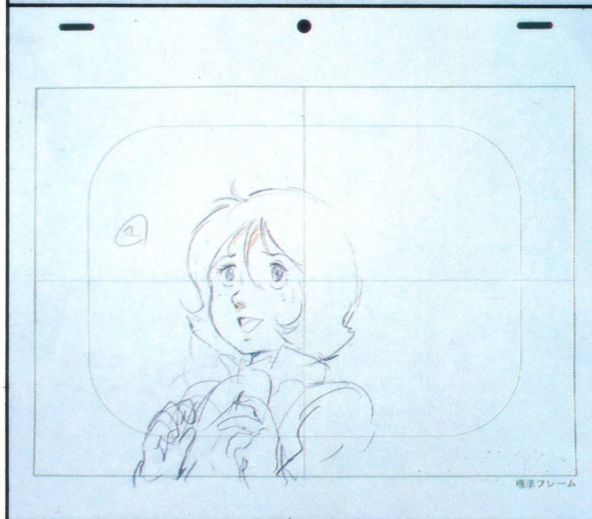
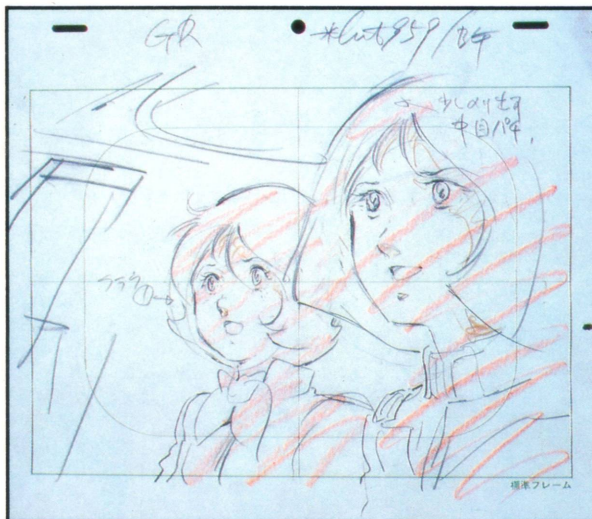
○ホワイトベース乗組員は，各の立場ゆえ，ときには仲間同士，激しいぶつかり合いを見せることもある。

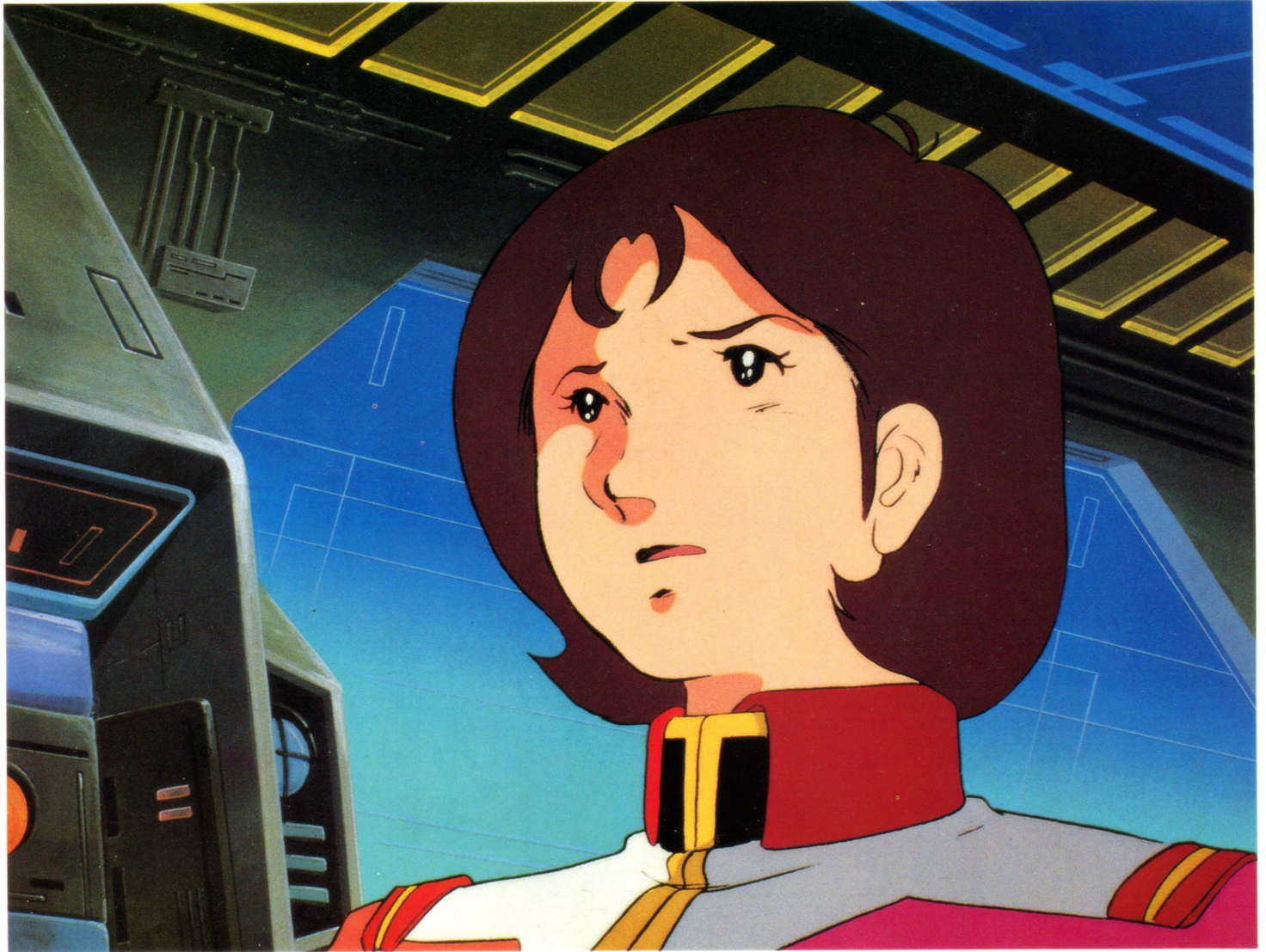
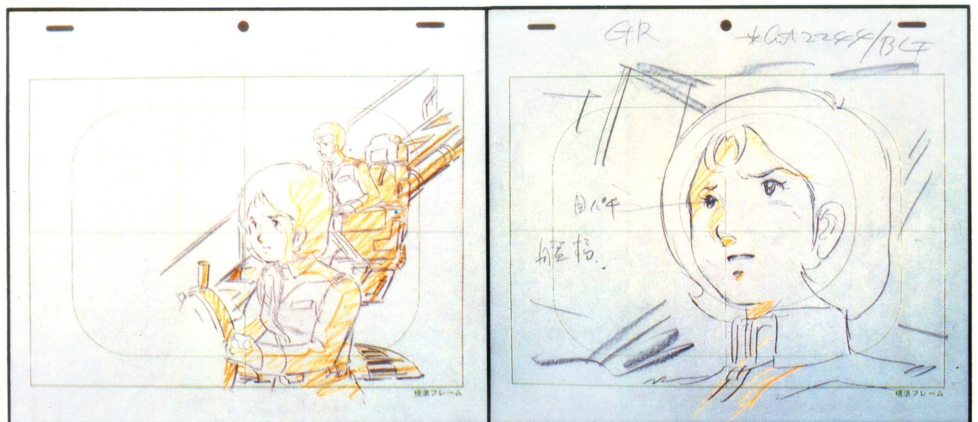
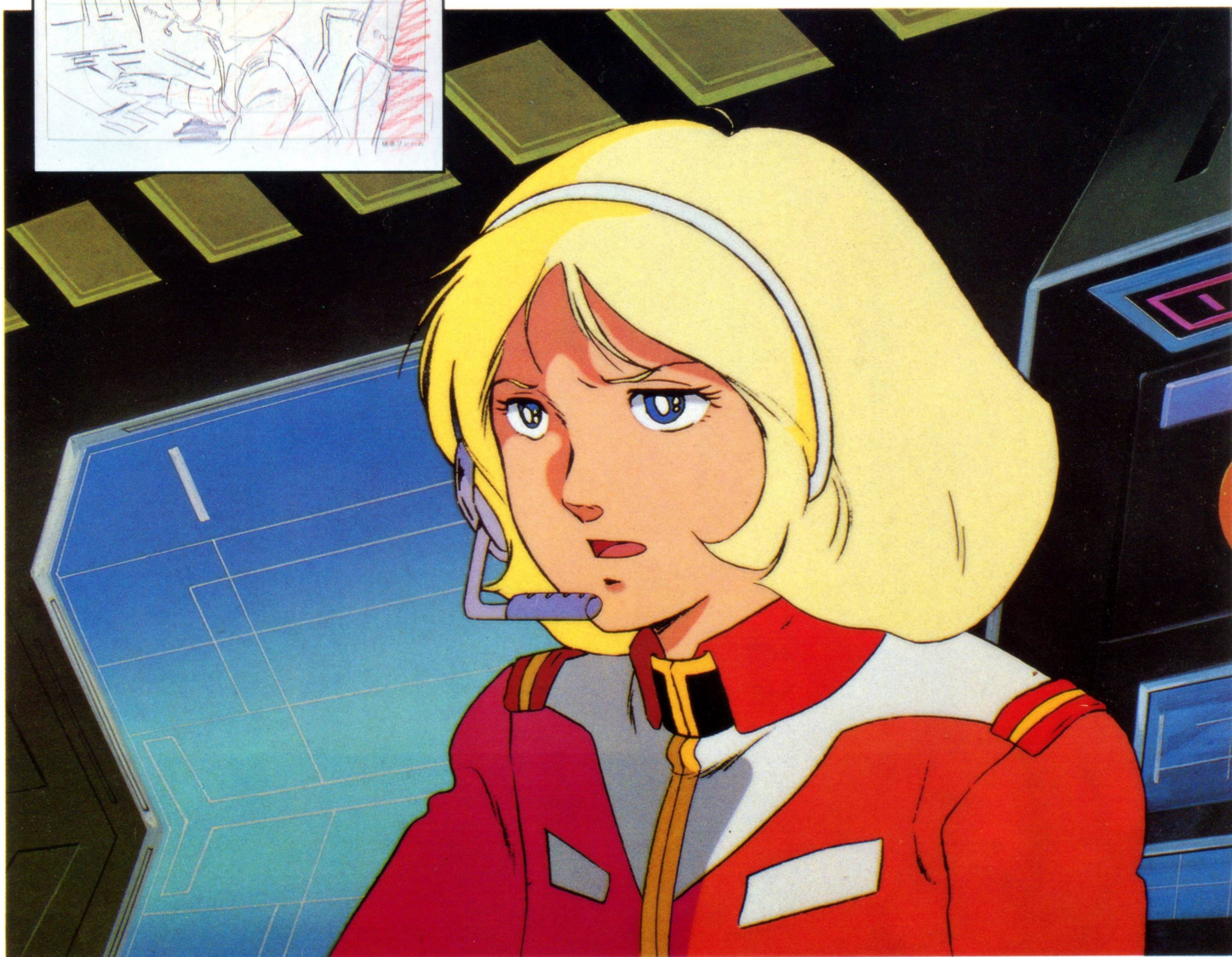
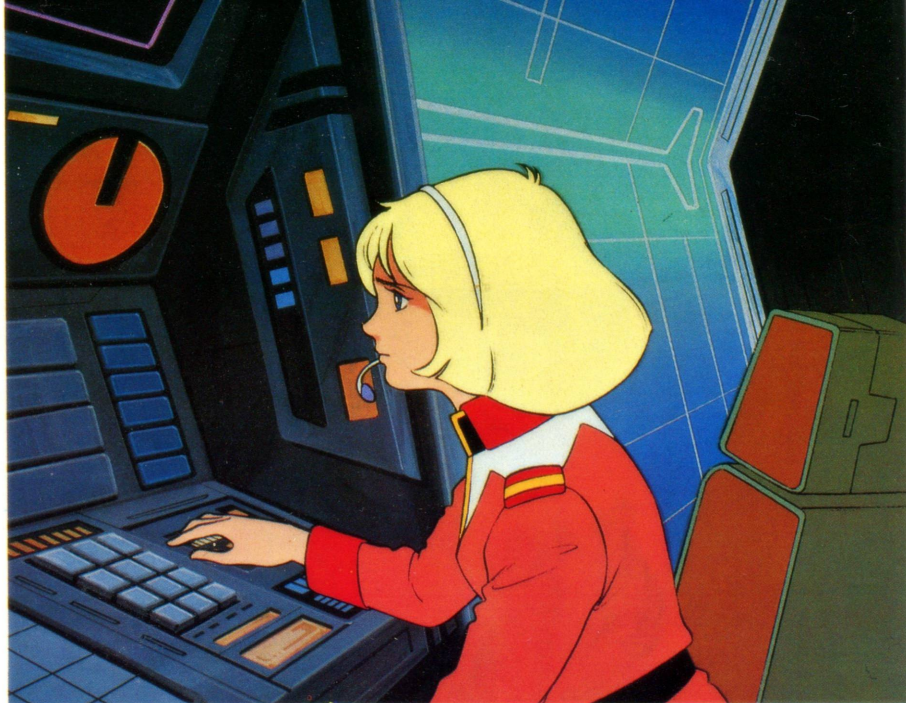
攻撃指令

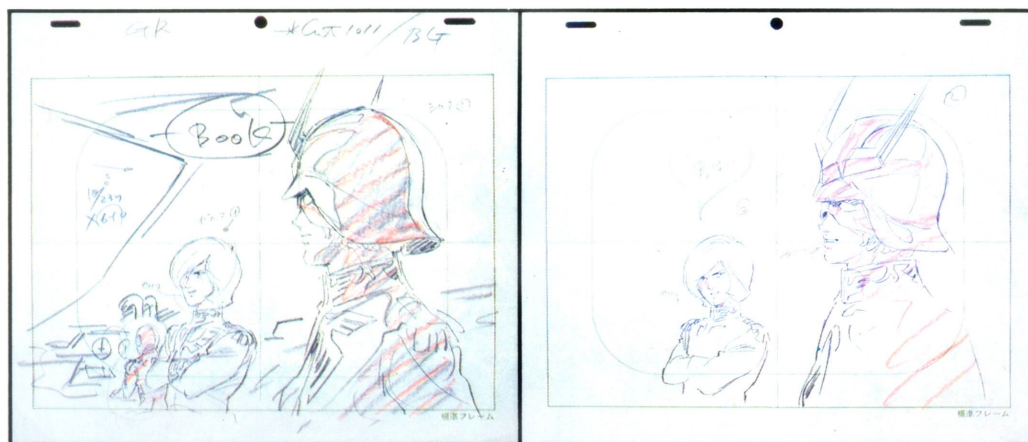
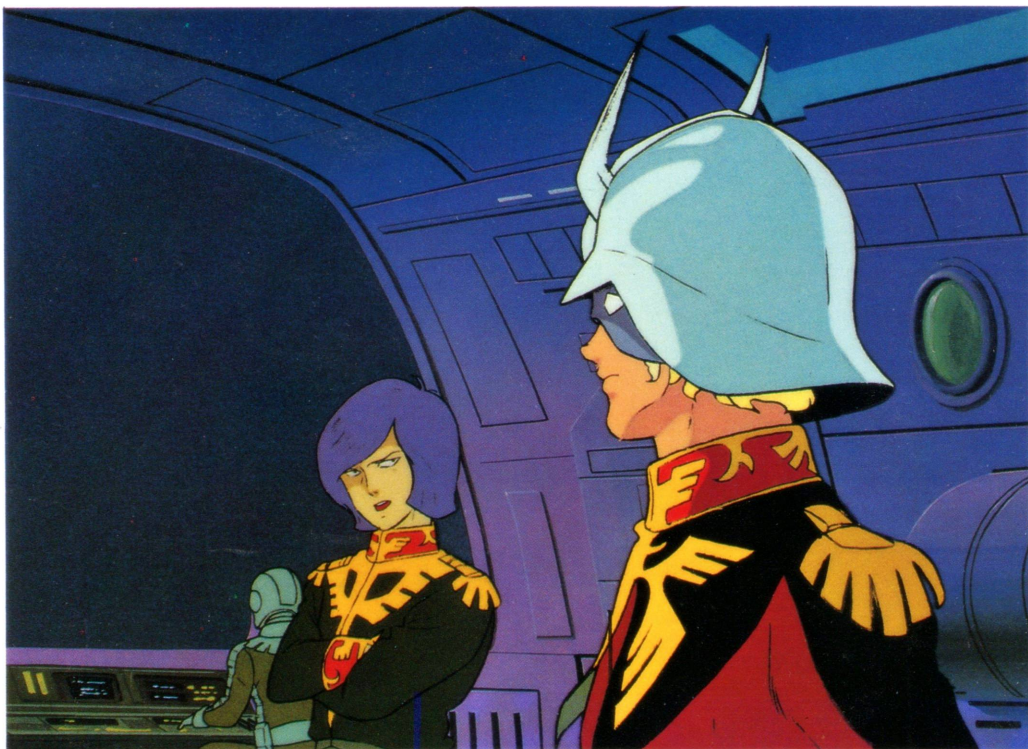
MOBILE SUIT GUNDAM

○赤い彗星のシャアが，部下に向かって命令を下す。１人では，戦いはできぬものだ。部下から信頼されぬ上官など，戦場では即座に死体と化すだけだ。

○「このタイミングで戦闘をしかけたという事実は，古今，例がない。大気圏に突入すれば，ザクとて一瞬のうちに燃えつきてしまうからだ。だからこそ，大気圏突入のために全神経を集中している今こそ，ザクで攻撃するチャンスだ』シャアの作戦は，常に大胆不敵である。

赤い彗星

MOBILE SUIT GUNDAM

○こうしてモビルスーツの操縦かんを握っているときが，いちばん自分らしい。戦いのにおいが，自分には性に合ってるのかもしれぬ，と思いもする。シャア・アズナブル——赤い彗星と呼ばれる男。

○正確な状況判断こそ，戦場で生きのびる唯一の手段ではないのか。激しい銃撃の中で，シャアの声がとどろく。「クラウン，もっと接近してたたけ！ よく相手を見て，下から攻めてみろ！」

よろこび

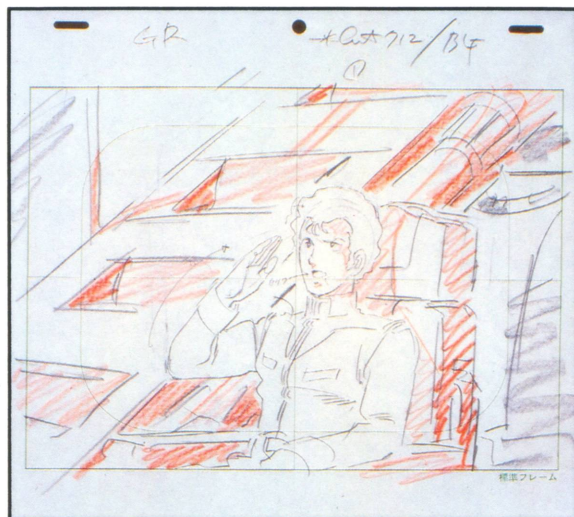
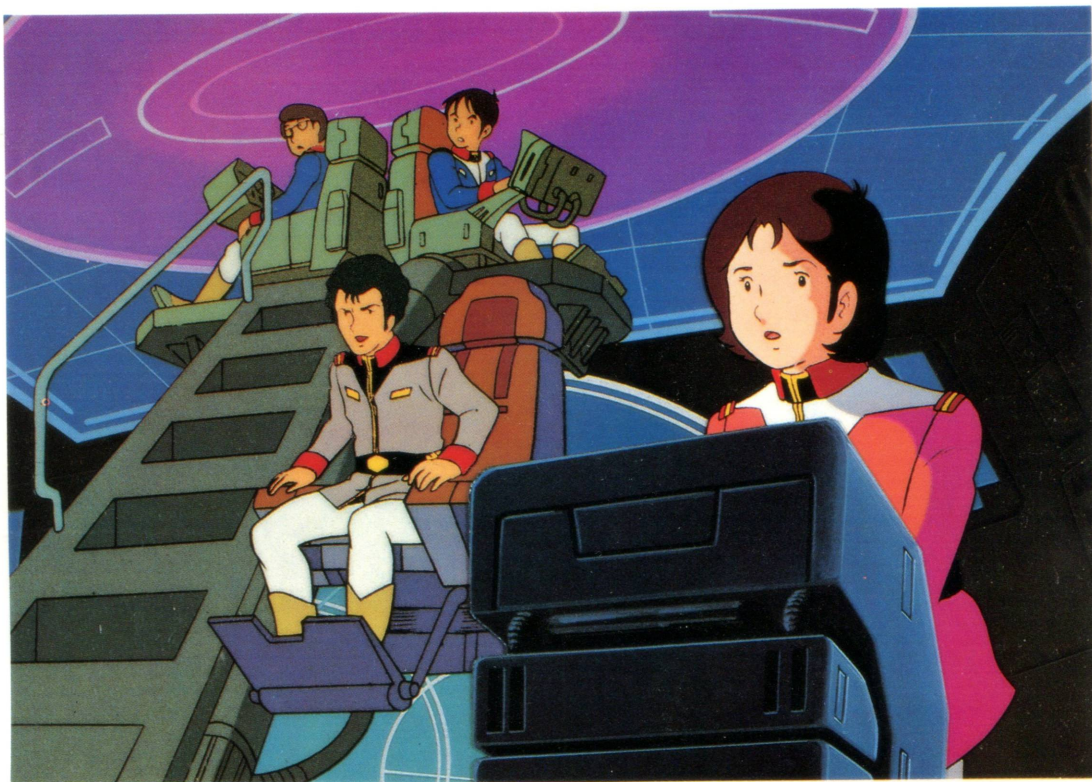
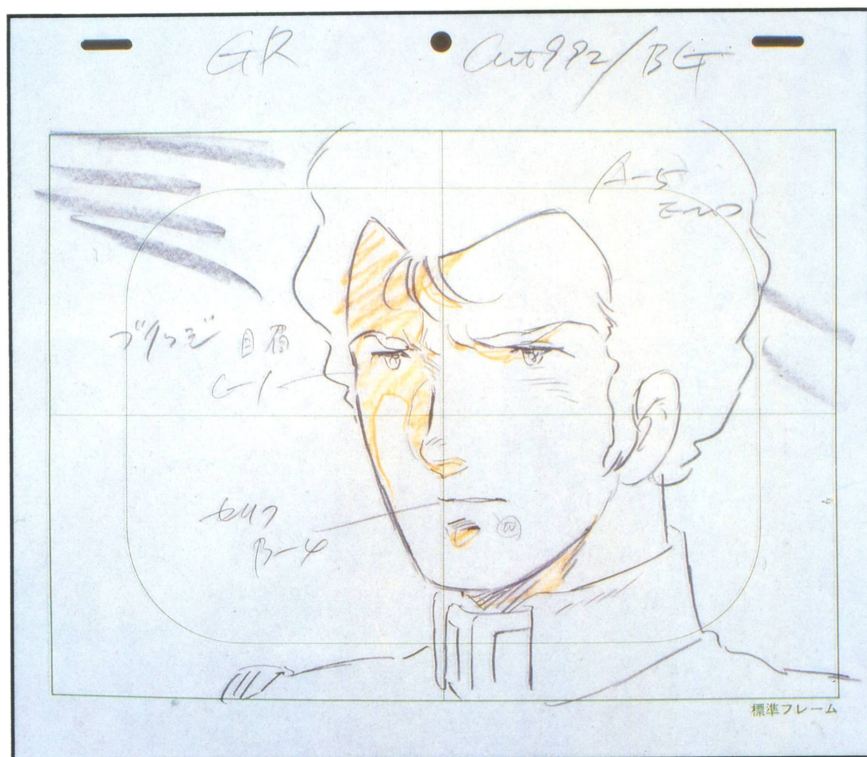
MOBILE SUIT GUNDAM

○アムロが独断で大気圏突入を行ったことが，ホワイトベース艦内に重苦しい空気をもたらした。
「ガンダムが無事です。アムロが！」フラウの声が，ブリッジの空気を一変させた。
　フラウ・ボウ——明るいえがおがよく似合う女の子。

ブリッジの花

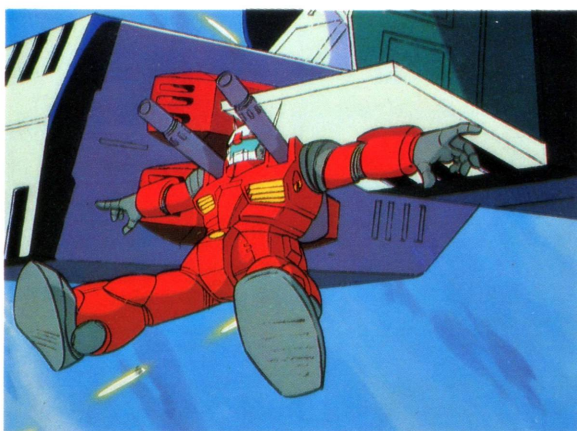
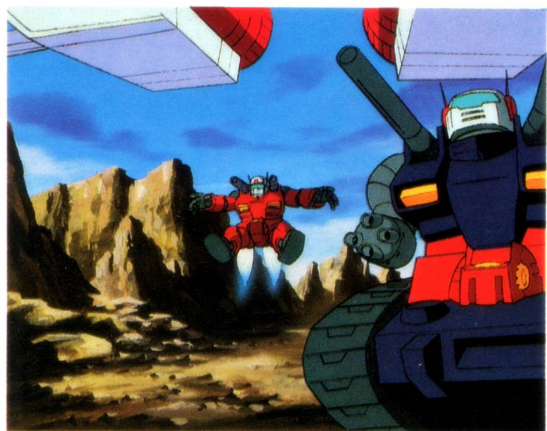
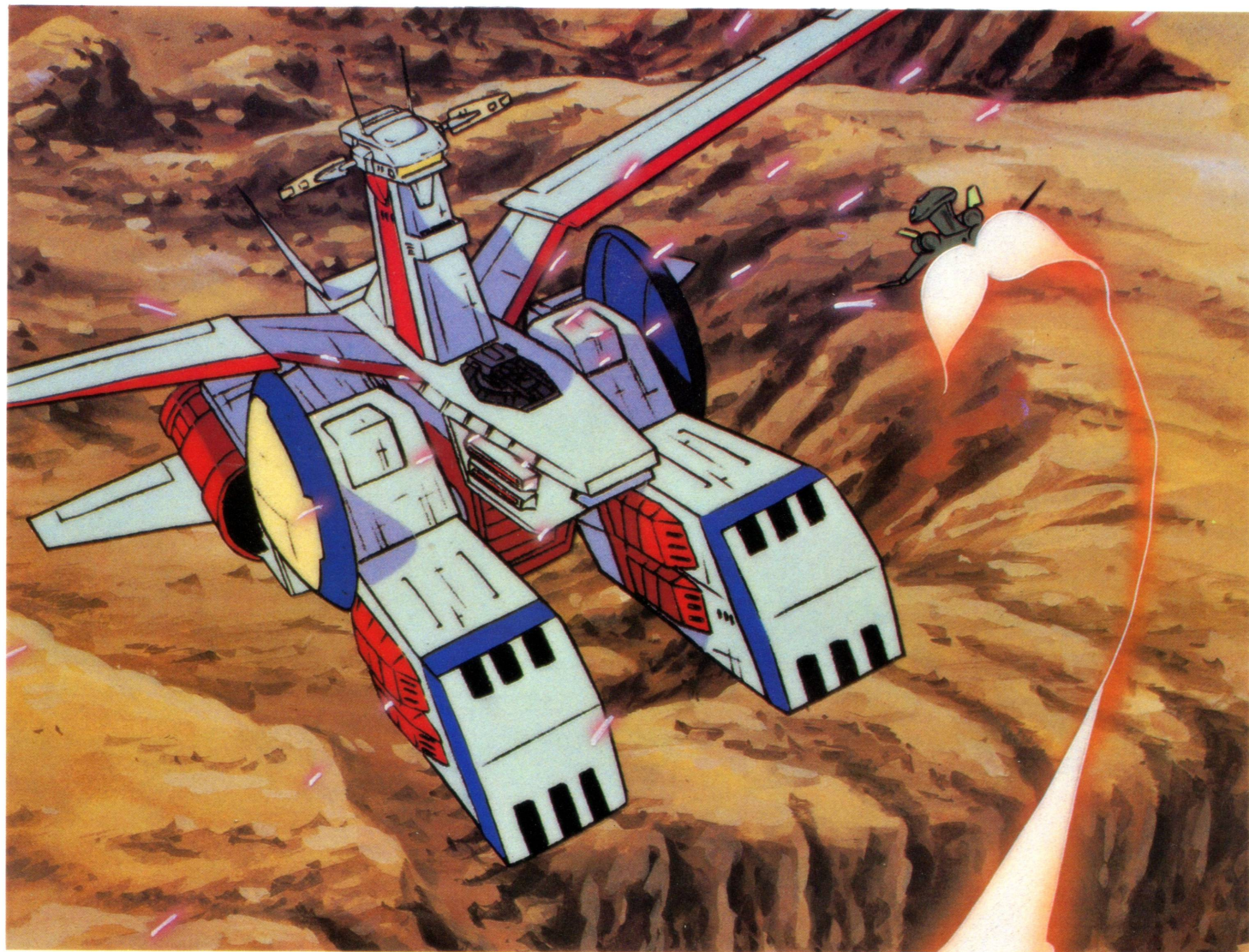
MOBILE SUIT GUNDAM

○ミライ・ヤシマ――ホワイトベースの操舵輪を手にしたときから，彼女の生き方は変わった。今は，仲間のことだけを考えて，船を操る。

○セイラ・マス——アルテイシア・ソム・ダイクン。ジオン共和国の創始者ジオン・ズムの娘で，シャアの妹。そんな過去を振り切るように，ホワイトベースの通信士の仕事に没頭する。

ガルマとシャア

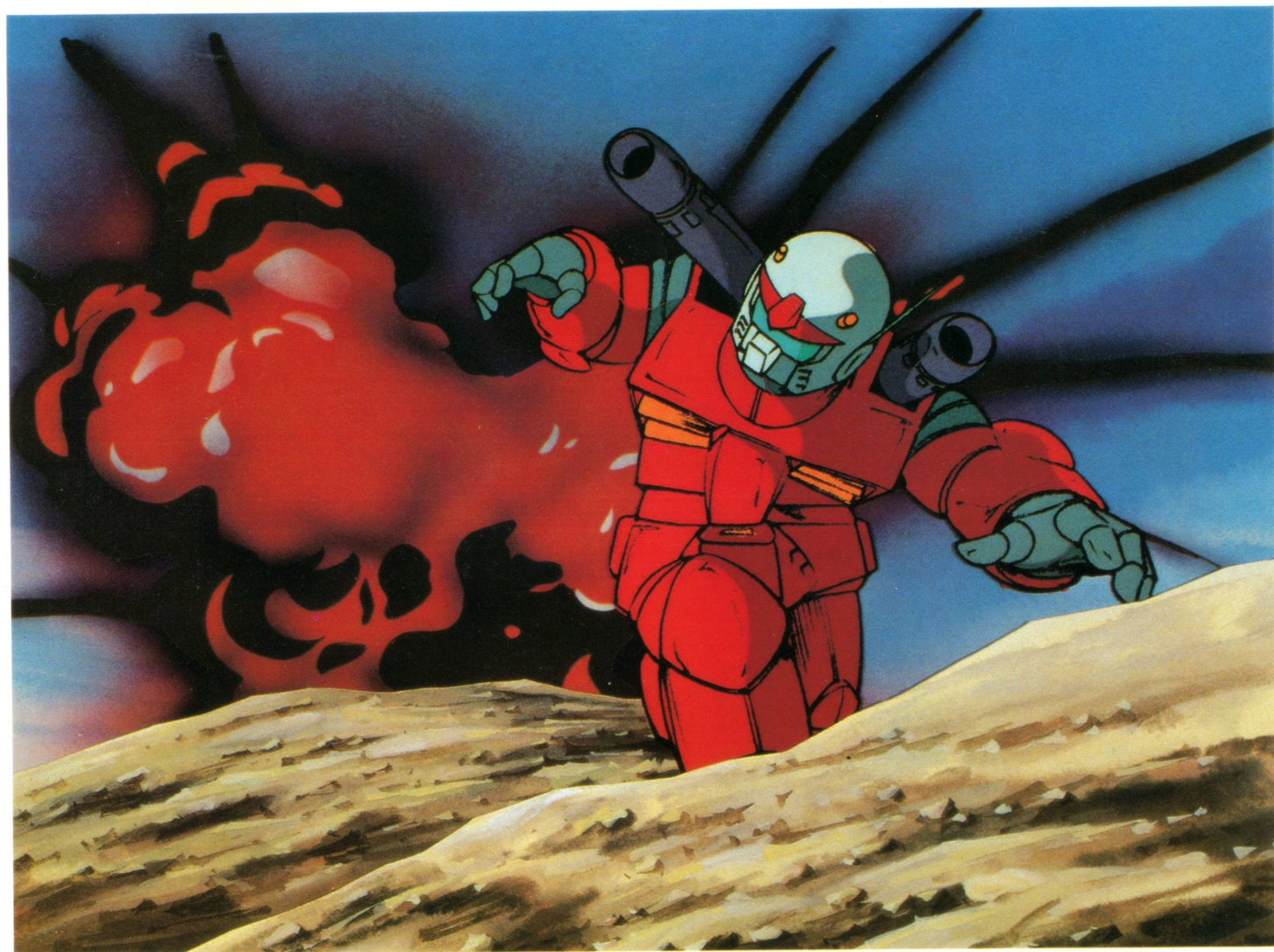
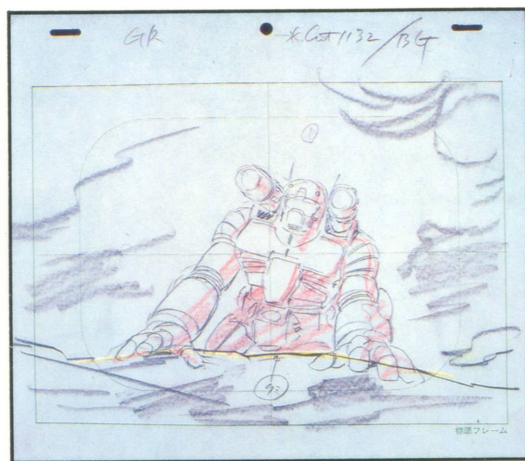
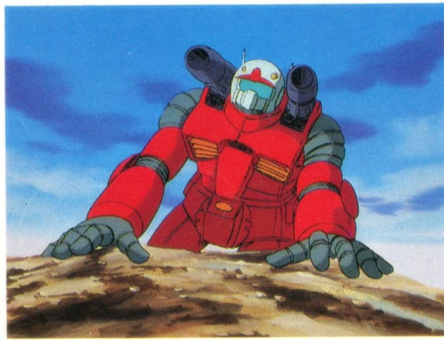
MOBILE SUIT GUNDAM

○「いよう，シャア！　おまえらしくもないな。連邦軍の船1隻にてこずって。」「いうなよ，ガルマ。いや，地球方面軍司令官ガルマ・ザビ大佐とお呼びすべきかな？」「士官学校時代と同じ，ガルマでいい。」　ザビ家の4男，お坊ちゃん育ちのガルマ・ザビは，無二の親友と信じるシャアを出迎えた。

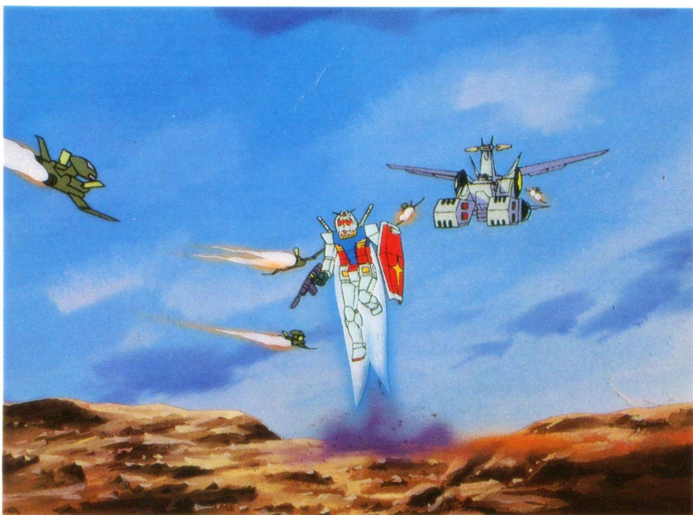
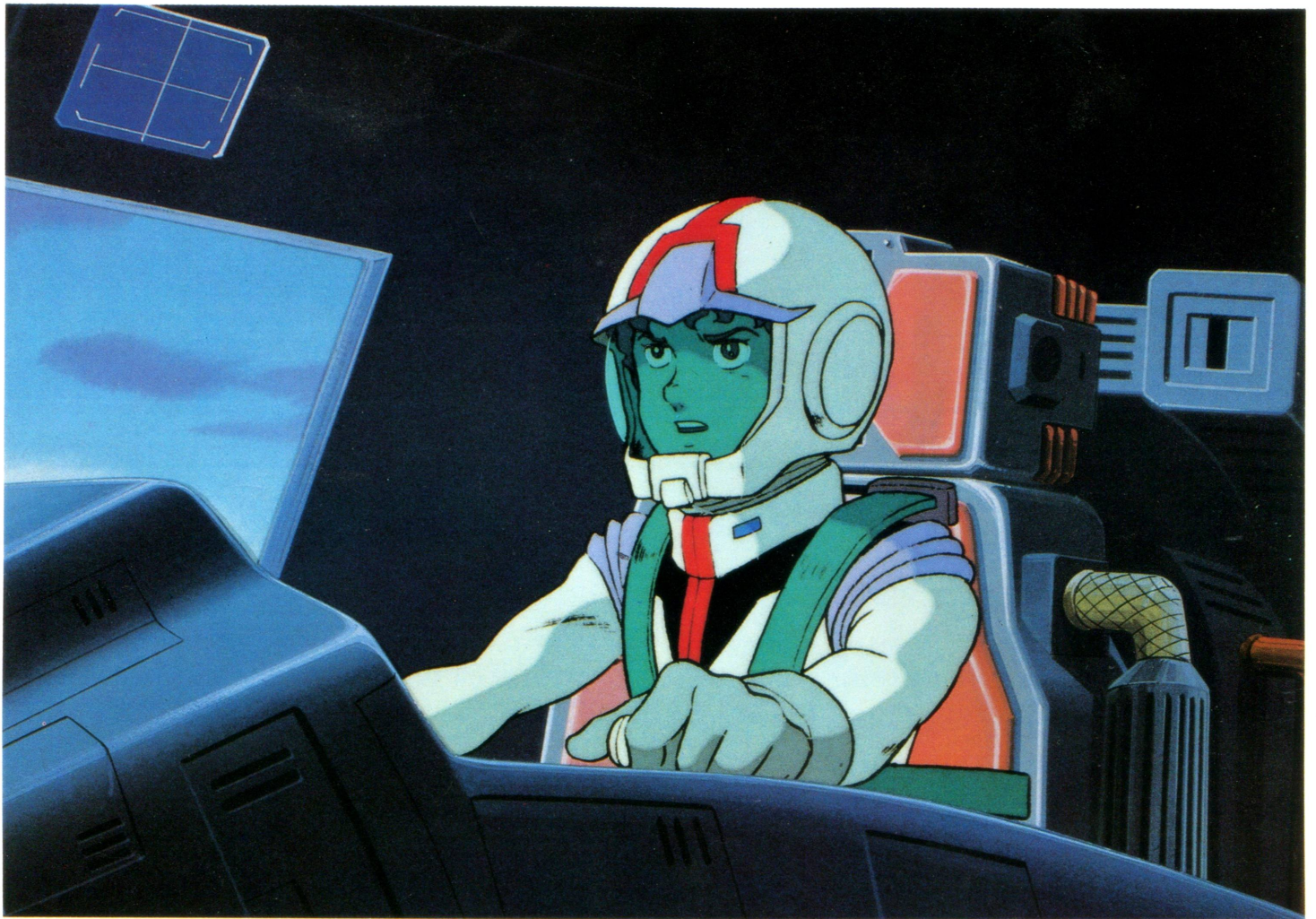
指揮官

MOBILE SUIT GUNDAM

○ブライト・ノア少尉――ホワイトベースのリーダー。リュウとともに，もともとホワイトベースの乗組員である。人の上に立たざるを得なくなったときから，彼は自分と仲間たちに，いっさいの甘えを捨てさせた。

○厳しすぎる，と人はいうかもしれぬ。しかし，生きのびるのに必要とあらば，それでもやるしかないだろう。ブライトの立場は，彼自身にとっても，つらいものだった。

○「アムロ，今のままだったら，きさまは虫けらだ。おれはそれだけの才能があれば，シャアを超えられる奴だと思っていたが，残念だよ！」どうして物事は思うように運ばないのか。ブライトに安らぎはない。

乱 戦

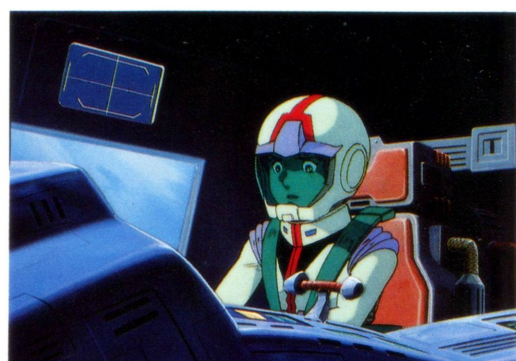
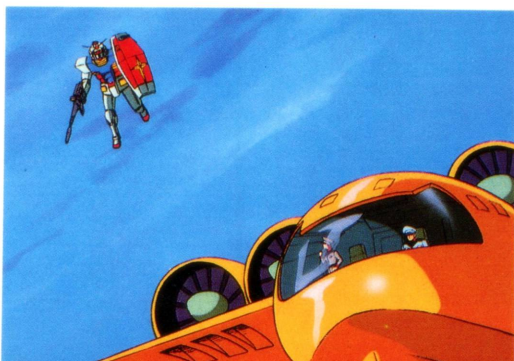
MOBILE SUIT GUNDAM

○ドップの編隊が，ホワイトベースを急襲する。ガンタンク，ガンキャノンが防戦に出るが，形勢は不利になる一方だ。

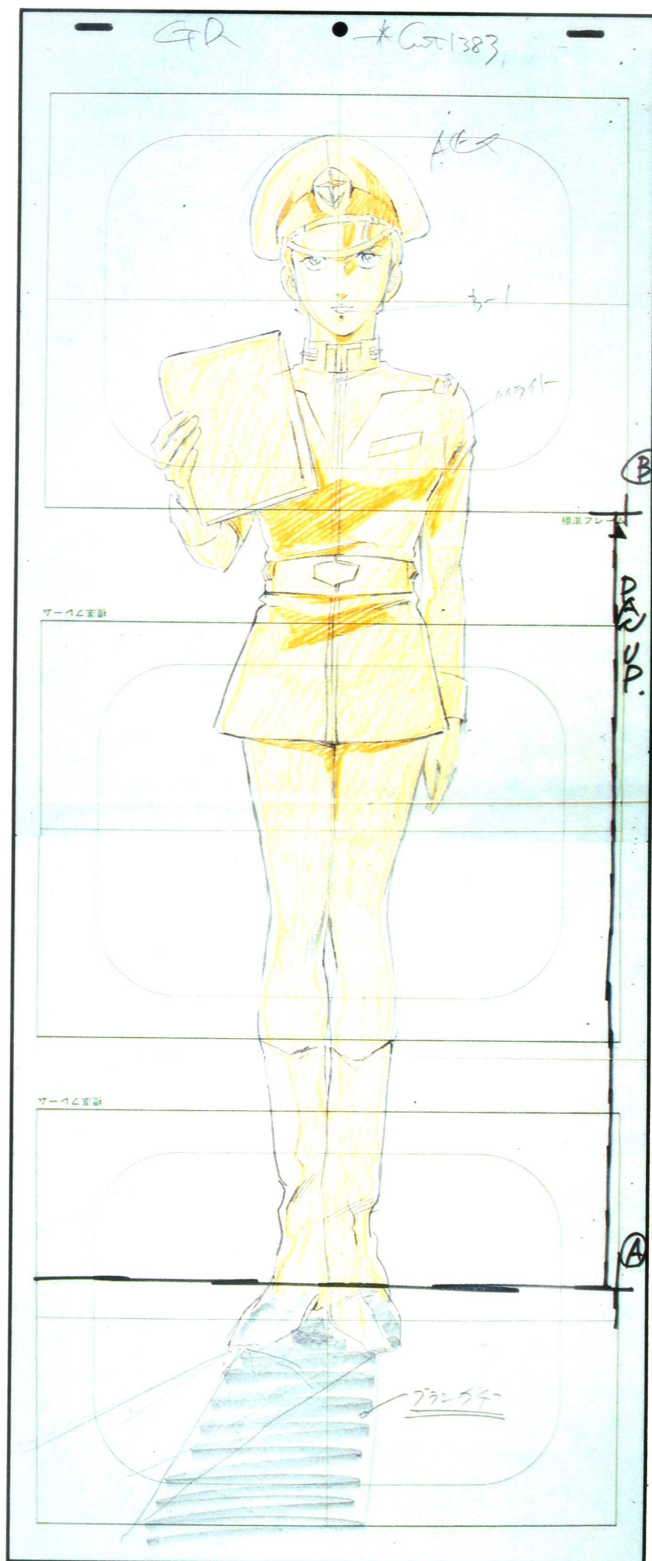
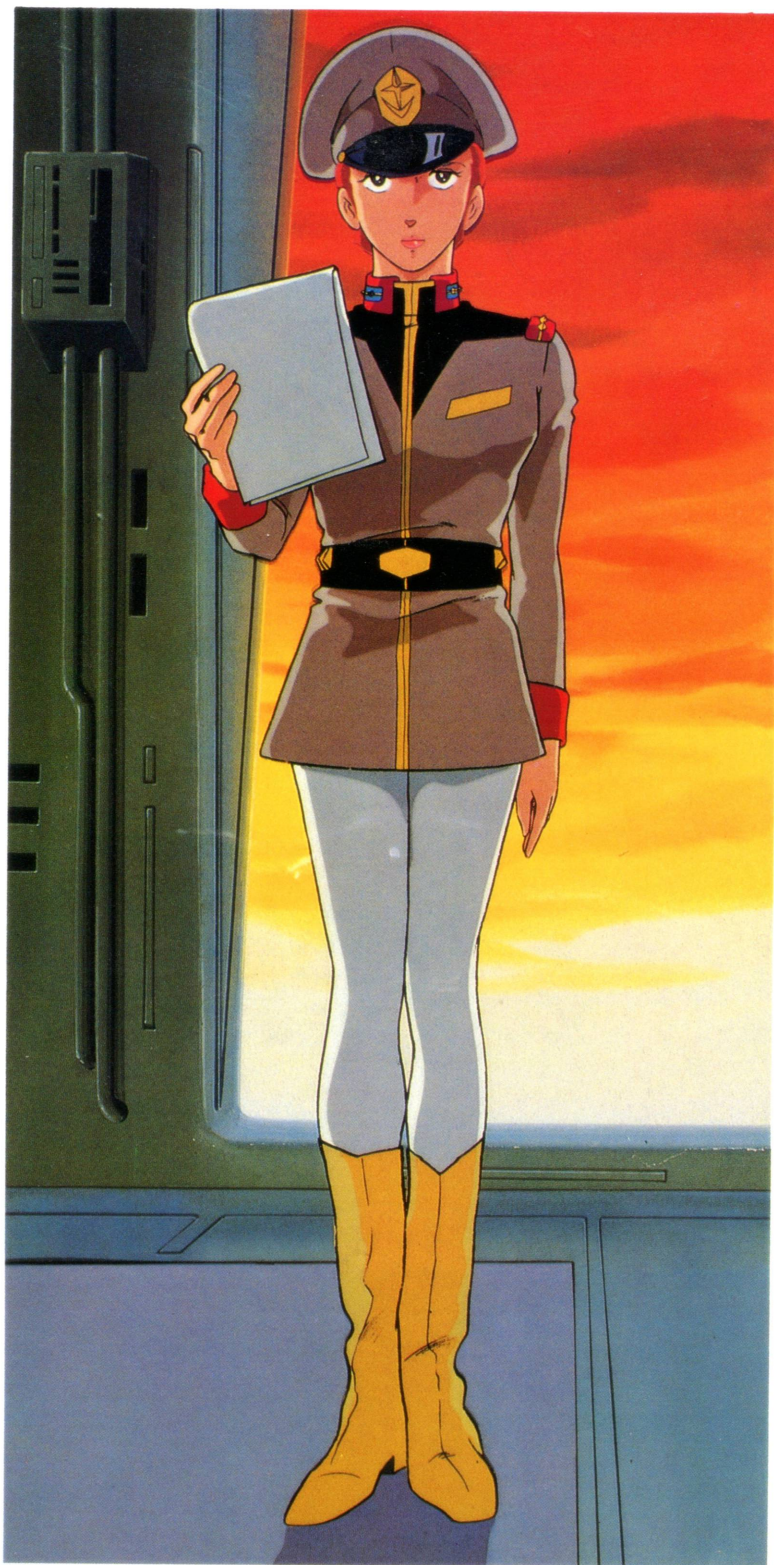
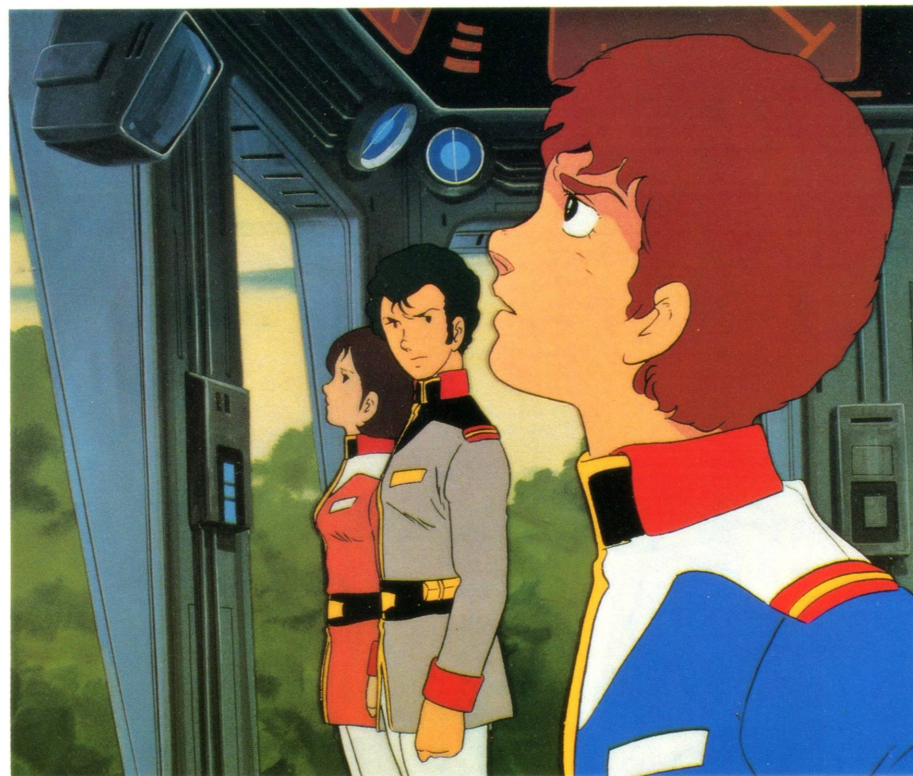
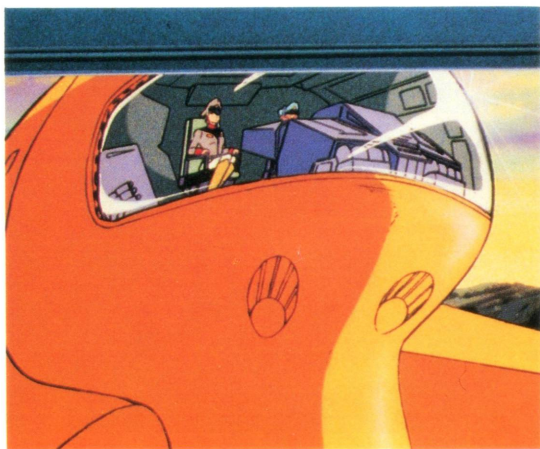
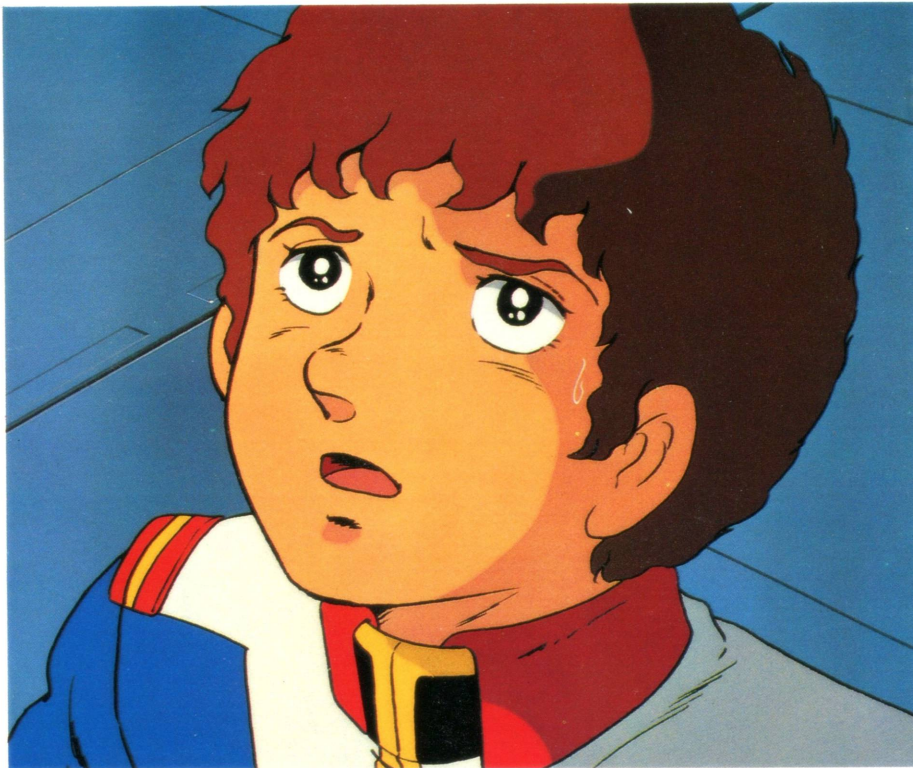
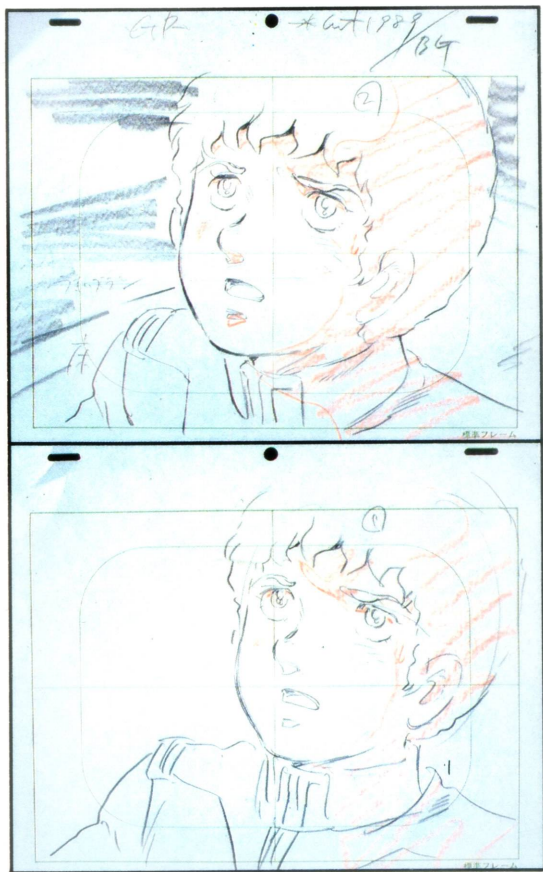
○空のドップ，地上のマゼラアタック。上と下からの波状攻撃に，ホワイトベースは苦戦する。大口をたたいていたカイも，戦場の恐怖に圧倒された。

アムロの戦い

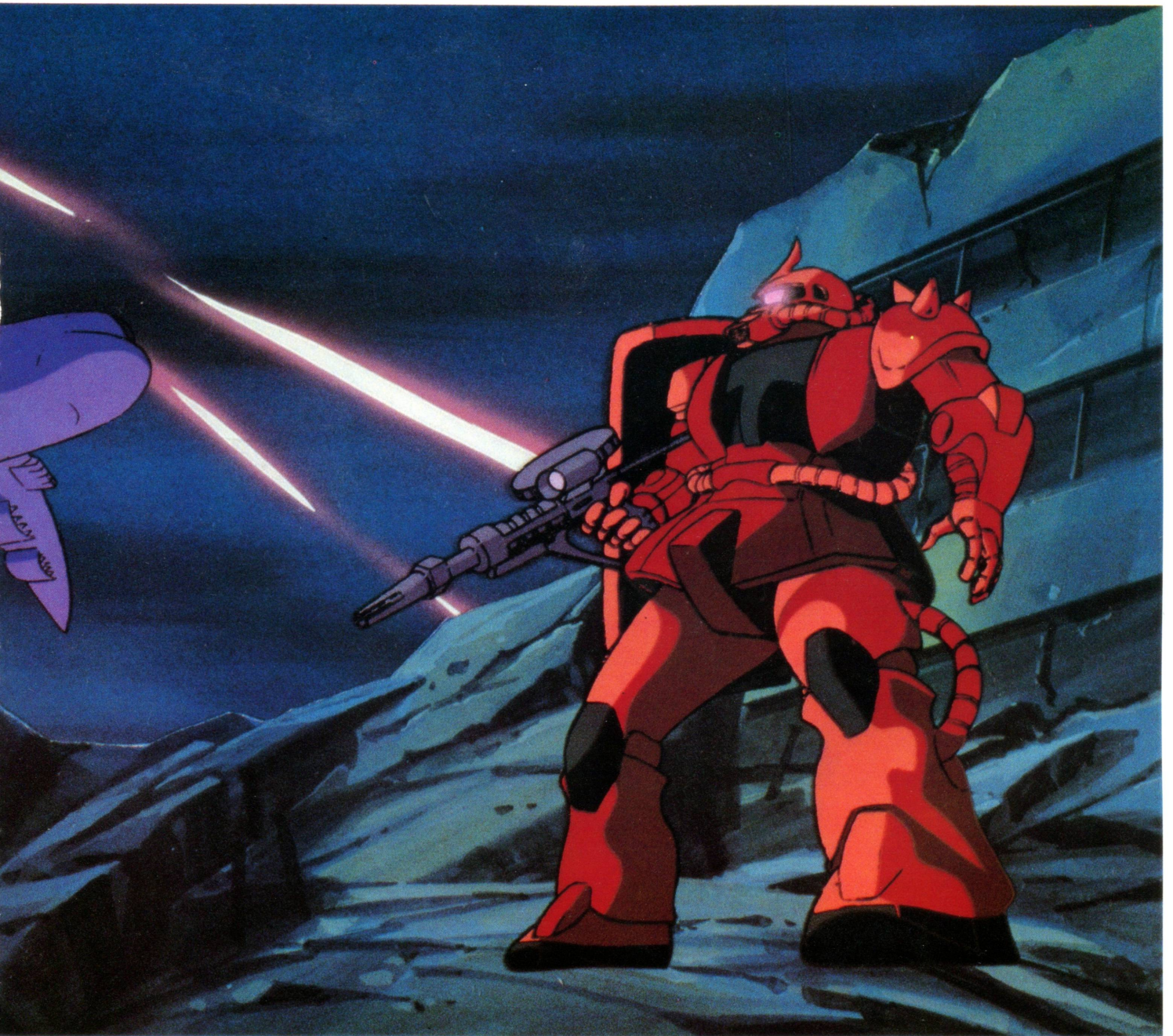
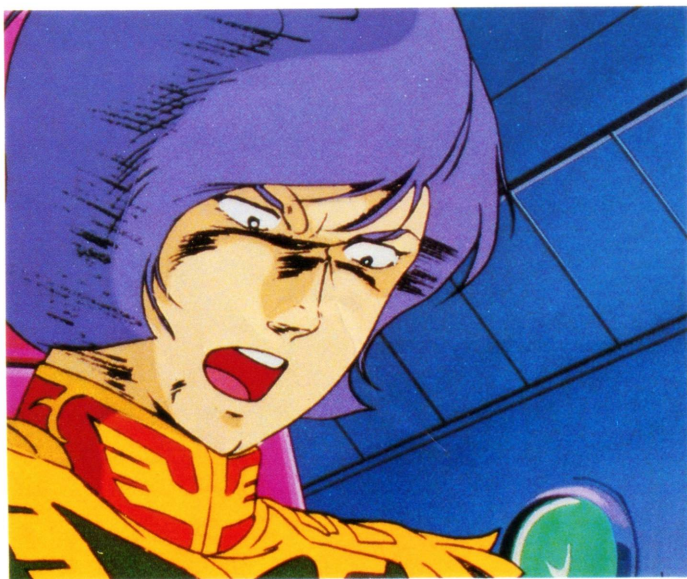
MOBILE SUIT GUNDAM

○「なめるなよ！　ガンダムが，ただの白兵戦用のモビルスーツでないところを見せてやる！」「うわーっ！　モ，モビルスーツが，飛んだあ！」アムロは，ジャンプ力とロケットを使って，ガンダムに空中戦を行わしめた。それは，まさに驚異だった。

機動戦士
ガンダム

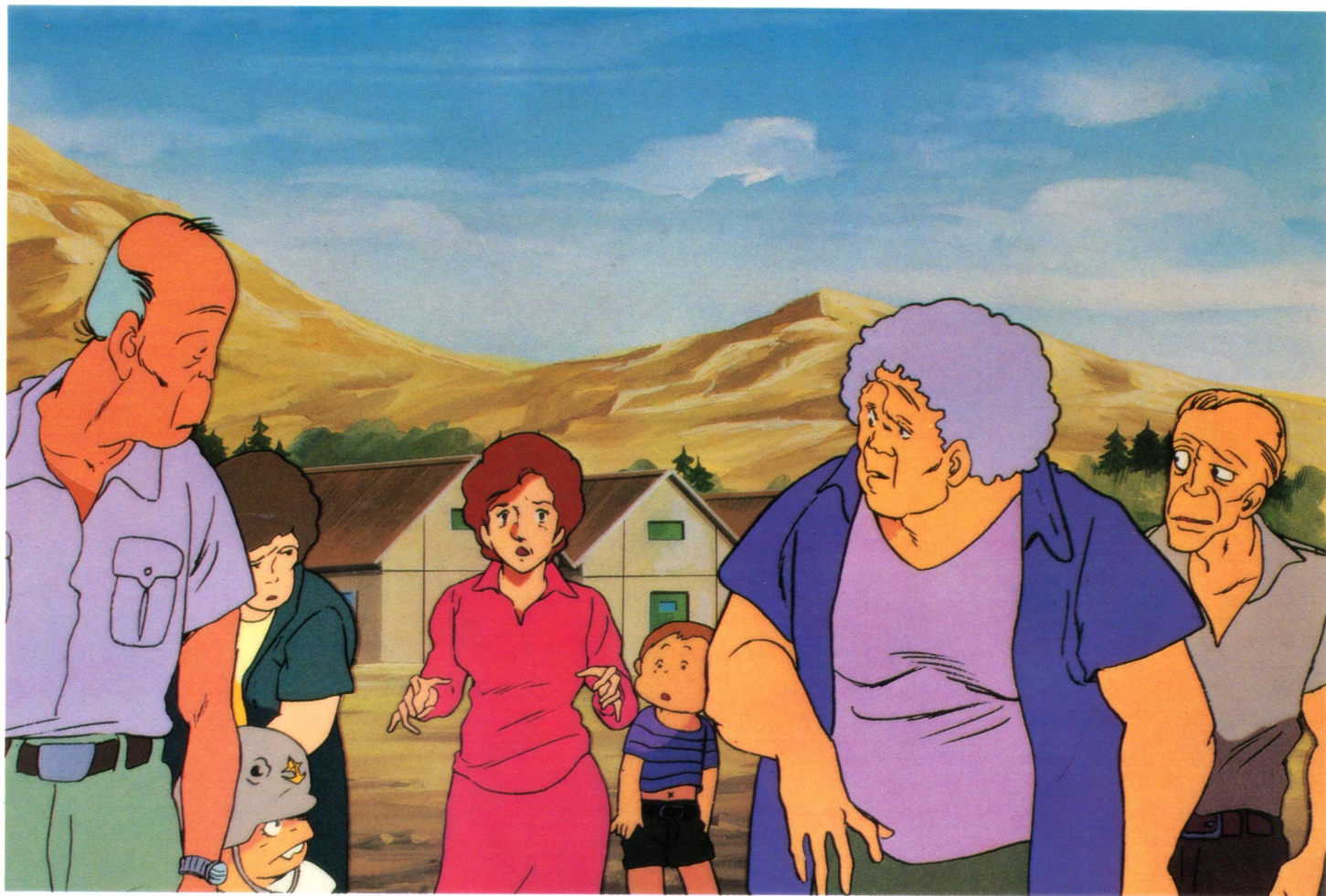
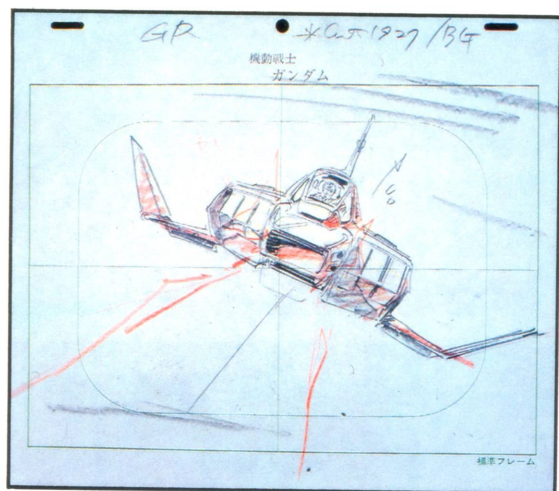
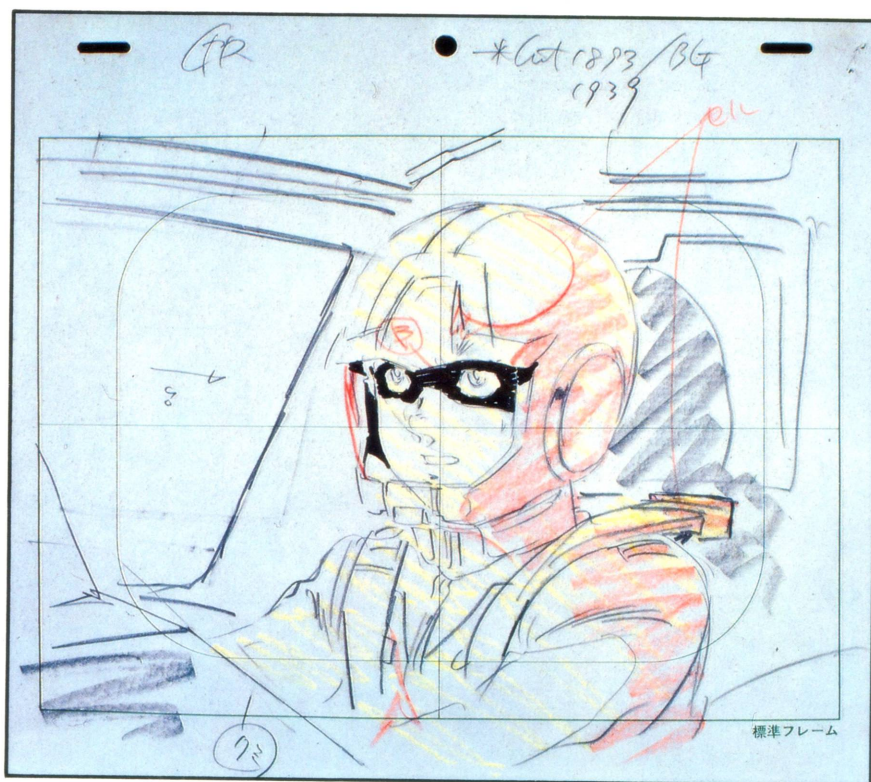
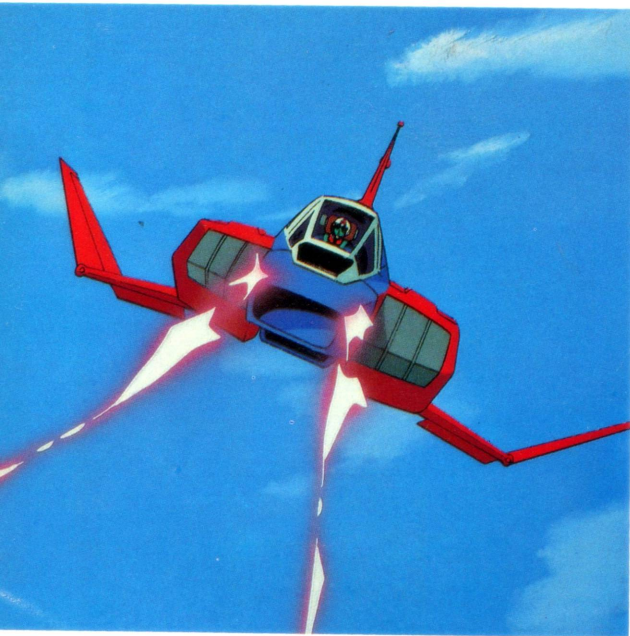
標準フレーム

○「そこのモビルスーツ，聞こえるか！　そのままの高度でホワイトベースにもどれ！」「だ，だれだ？　何でもかんでも知っているようだが。」

あこがれ

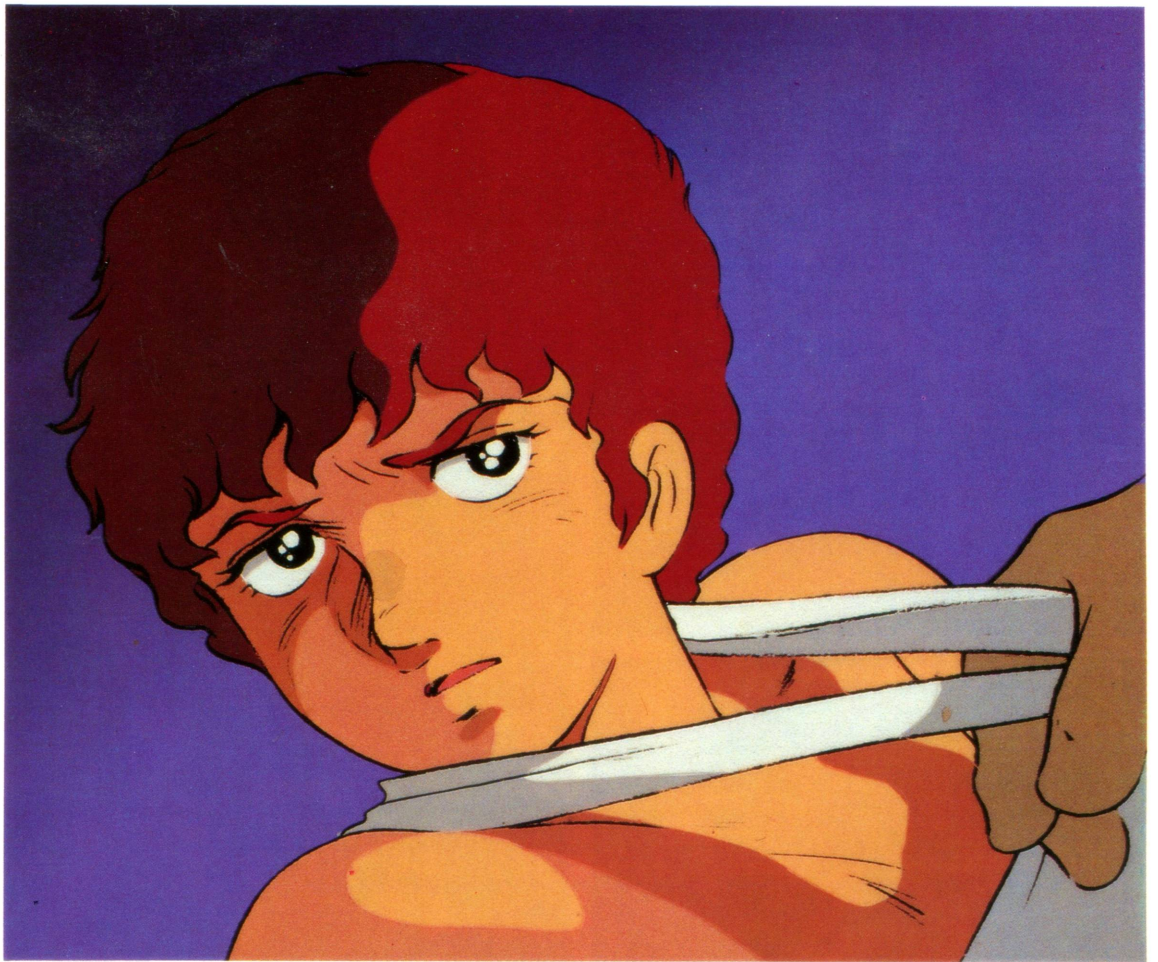
MOBILE SUIT GUNDAM

○ミデア輸送隊の隊長——マチルダ・アジャン。アムロが初めてあこがれをいだいた女(ひと)。再び彼女が訪れたとき，アムロはおのれのうかつさに腹を立てた。もう少し早く目をさませば，それだけ長くマチルダさんを見つめていられたのに・・・・。

ガルマ死す
MOBILE SUIT GUNDAM

○「フフフ‥‥。ガルマ，聞こえていたら，君の生まれの不幸を呪(のろ)うがいい。」シャアのしかけた罠(わな)にはまって，ガルマは死にゆく。「ジオン公国に栄光あれ！」最期(さいご)の瞬間にガルマの脳裏をよぎったのは，言葉とは裏腹に，いとしい恋人イセリナの，わが胸にとびこむ姿であった。

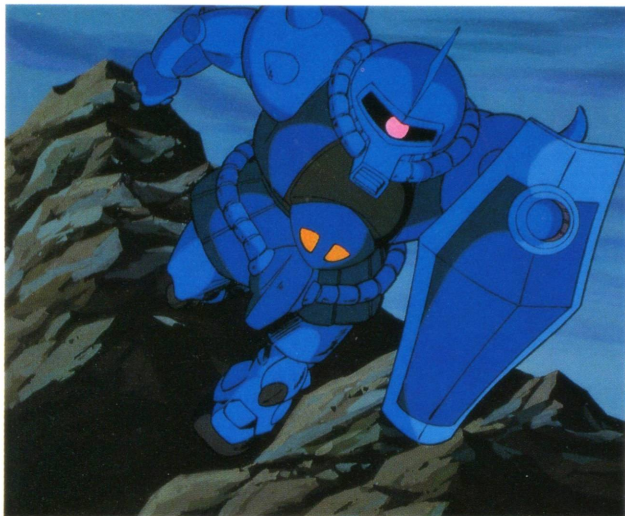
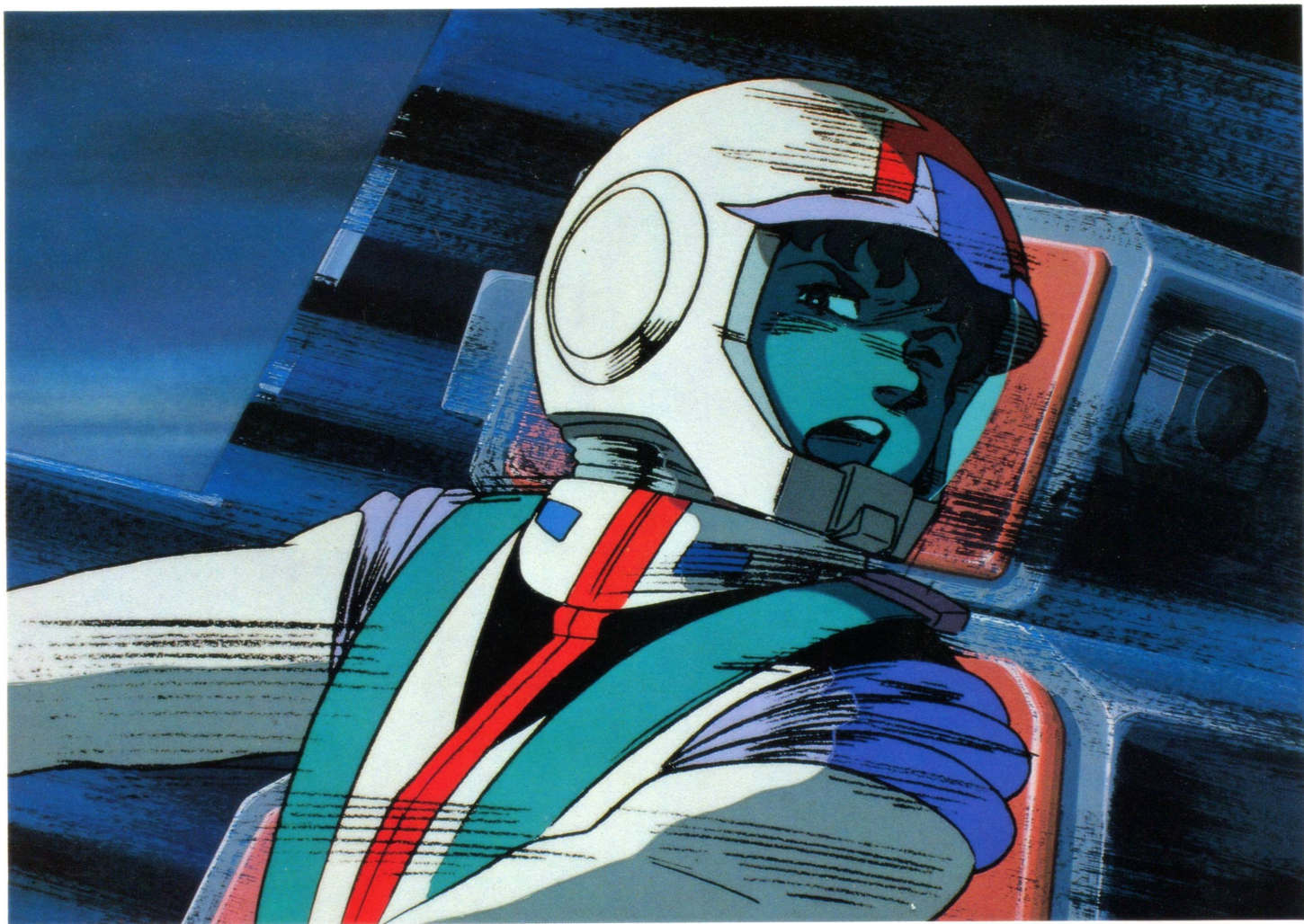
かあさん…

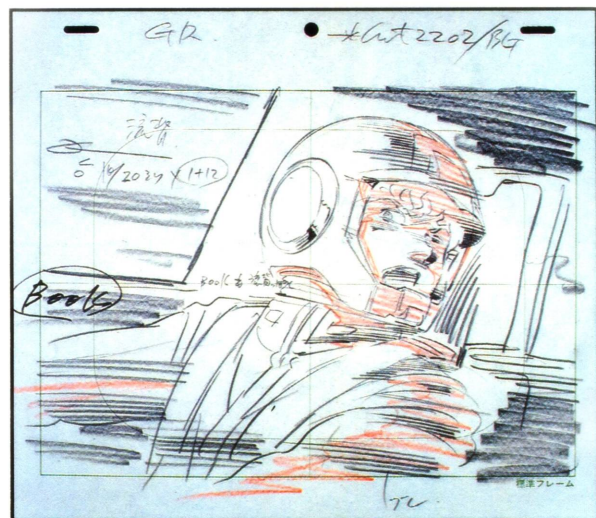
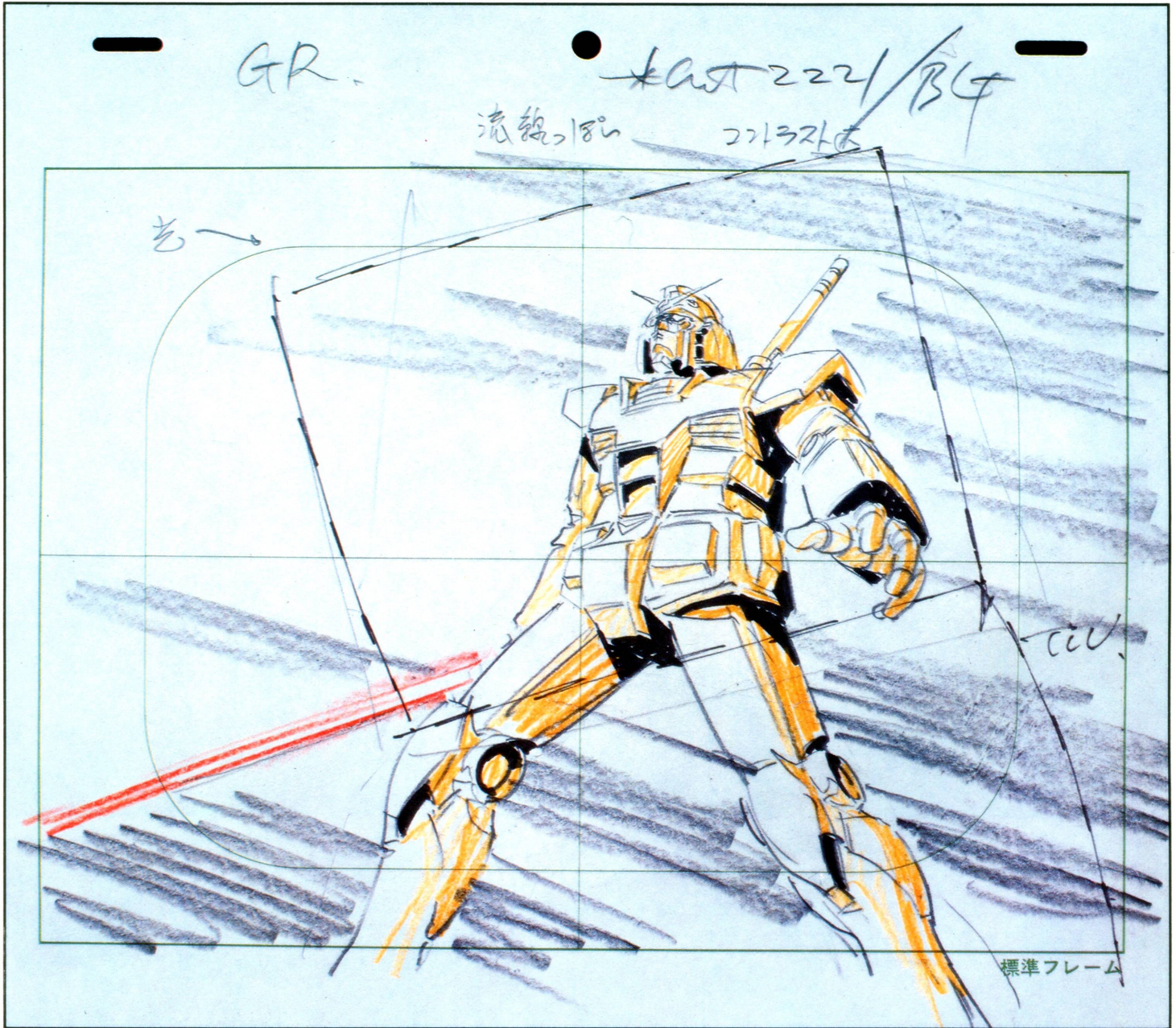
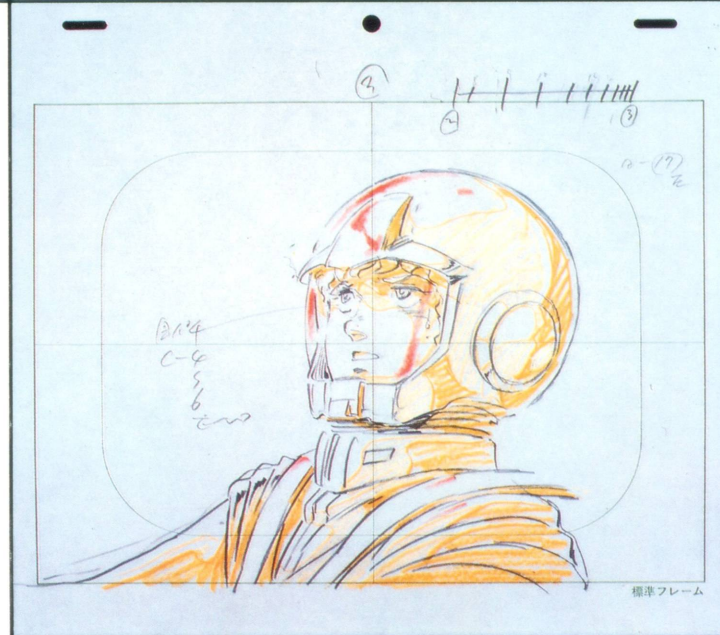
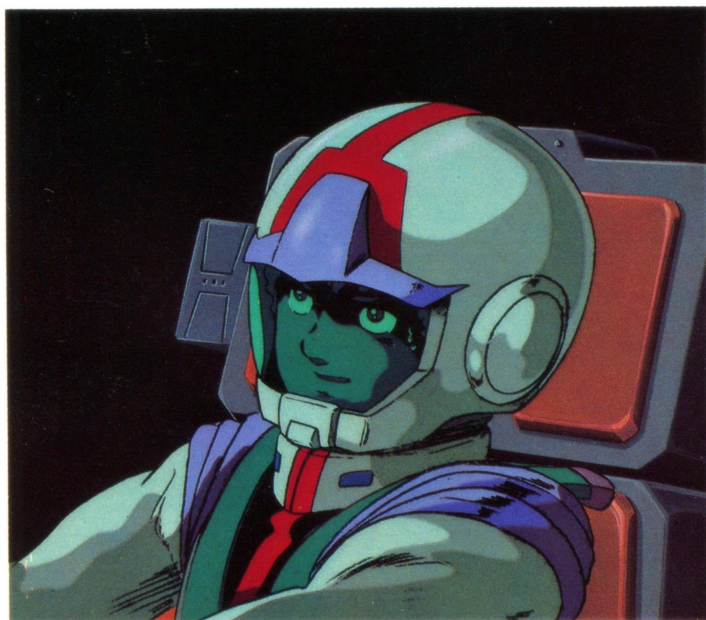
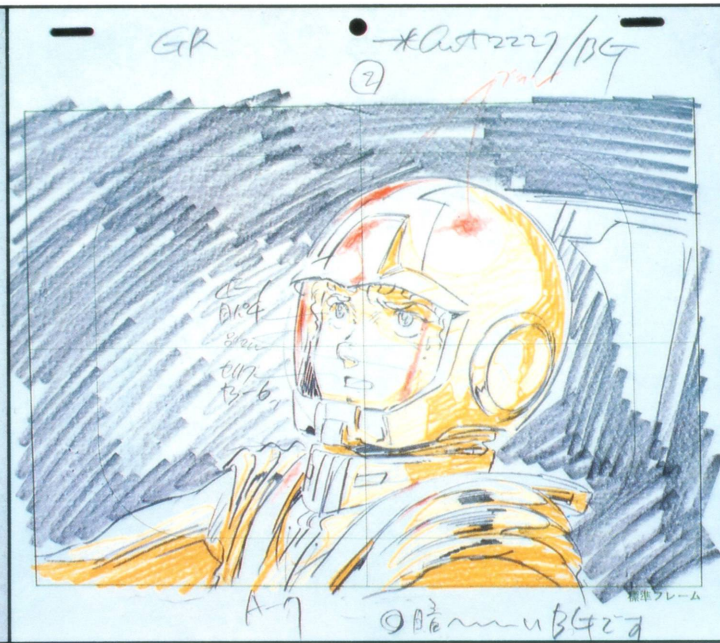
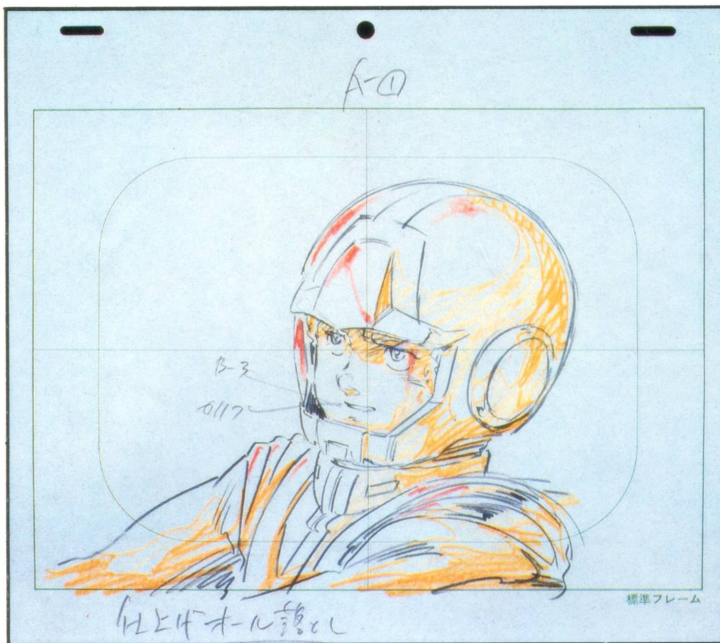
MOBILE SUIT GUNDAM

○「アムロ‥‥アムロかい｡」「‥‥か，かあさん！」10年ぶりに再会した母と子は，人目もかまわず抱き合った。アムロは，忘れかけていたものを，そこに見たような気がした。かあさん‥‥懐かしい響きを持つ言葉だ‥‥。

○10年という年月，立場の違いが，２人の間に決定的な溝を作ったのかもしれなかった。「みんな自分勝手で，自分のことしか考えていない！　ぼくだって，ぼくだって‥‥好きでこんなことやってるもんかっ！」アムロの怒りが，銃弾となってほとばしる。

虚脱感

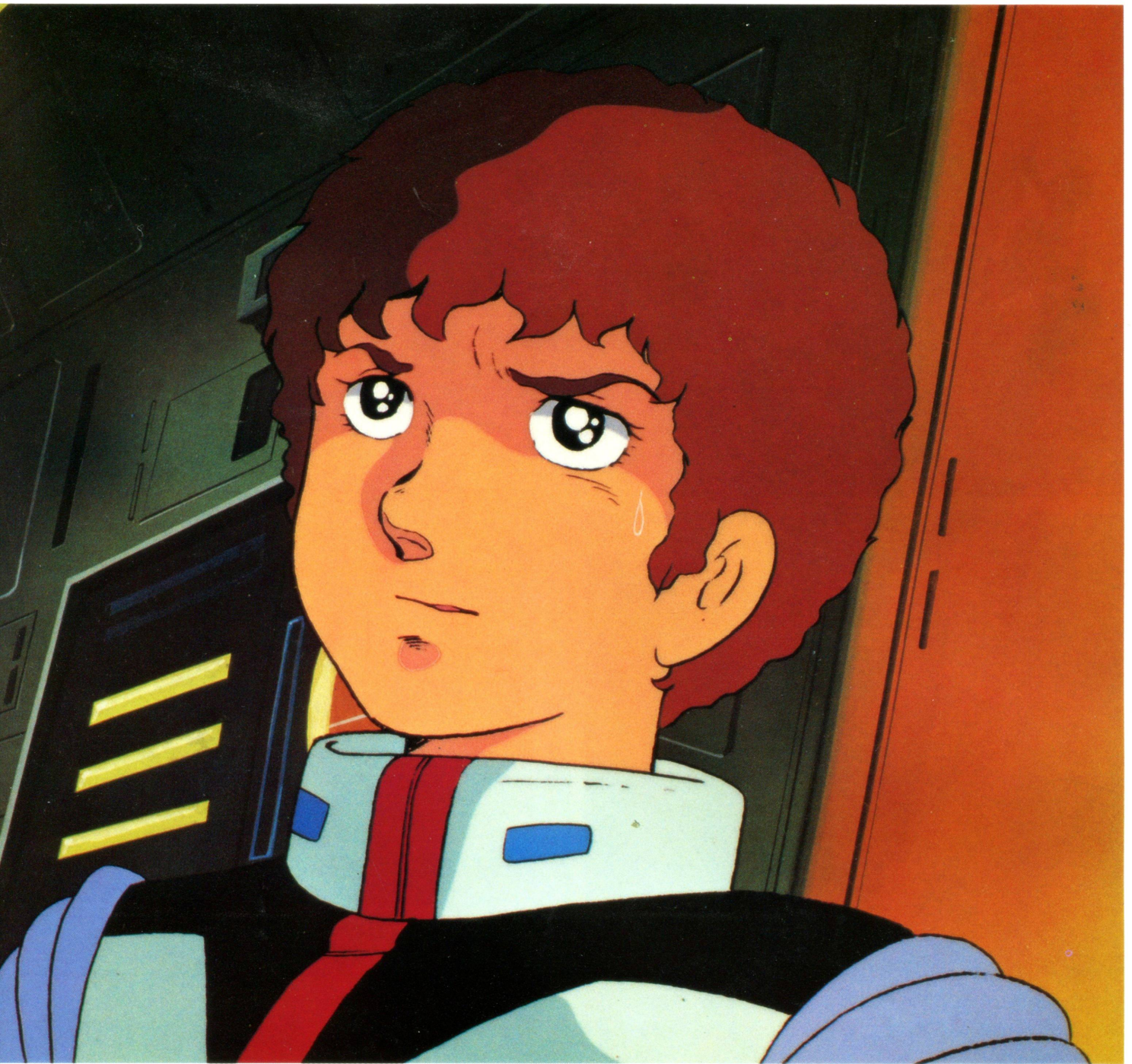
MOBILE SUIT GUNDAM

○母との出会いが，ただでさえ疲れきっていたアムロにはこたえたのだろうか。もうすべてが，どうでもよくなっていた。

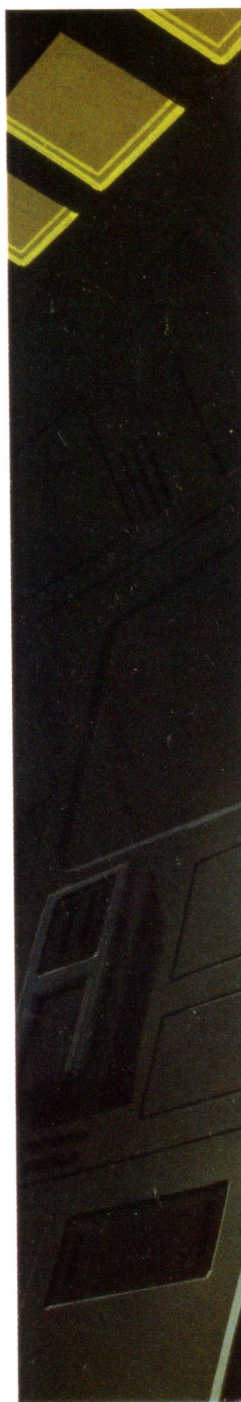
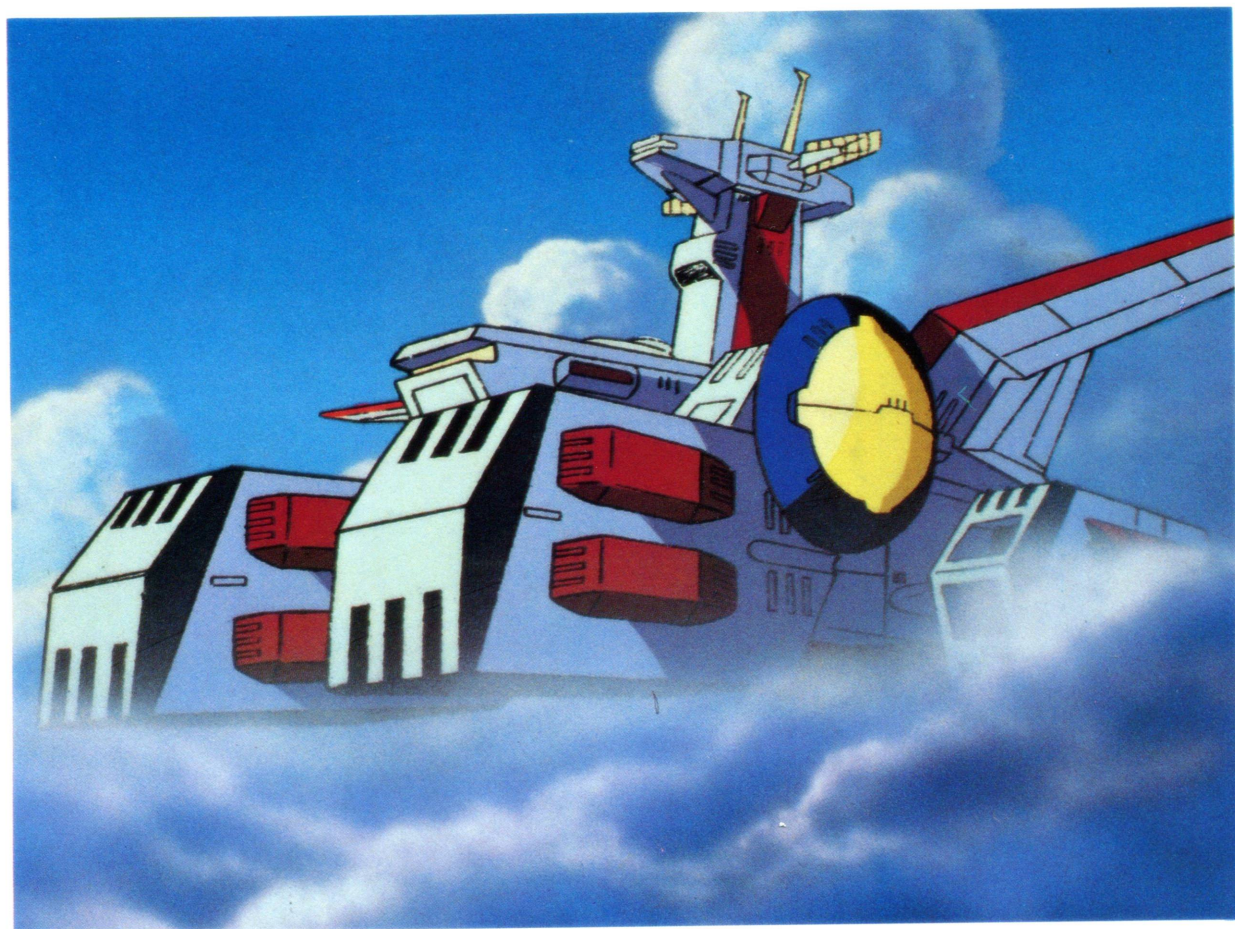
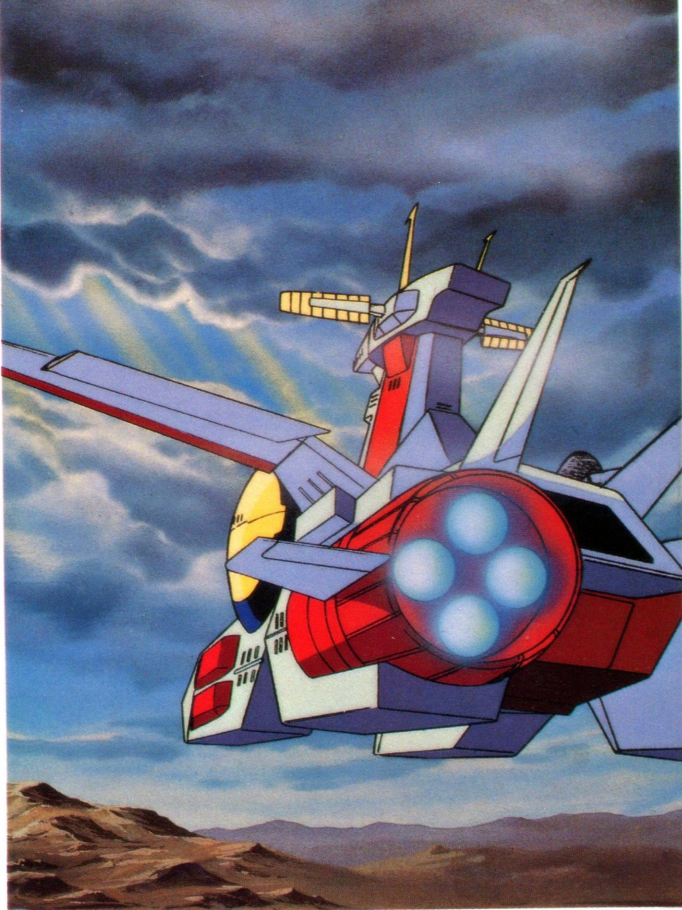
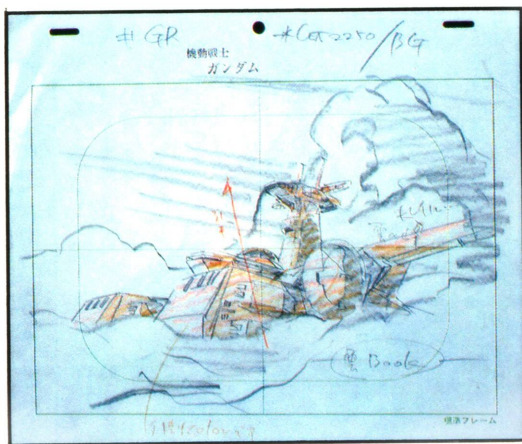
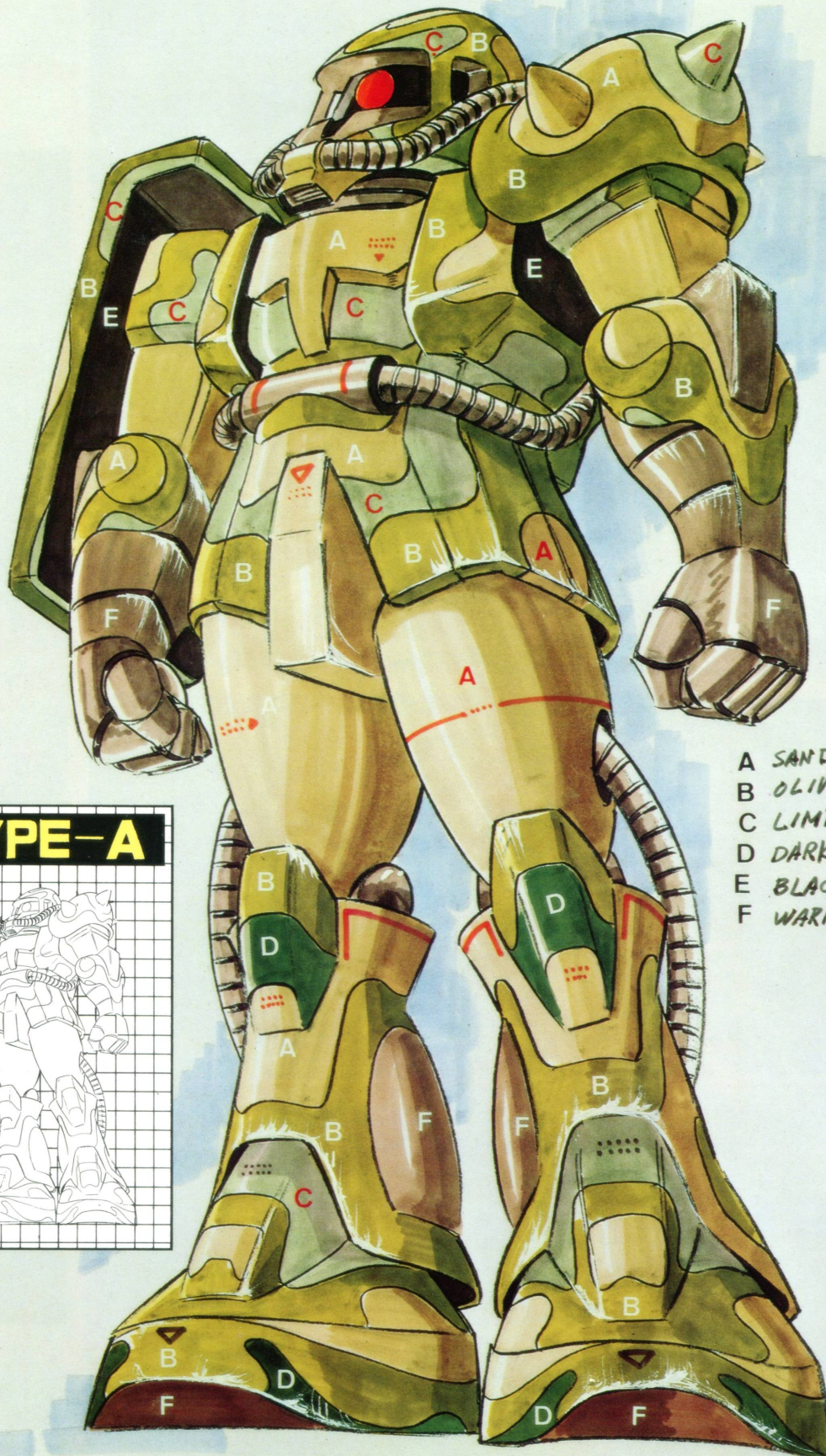
○「アムロ！　しっかりせんか。出発だ。」「リュウさん‥‥。」「ほら，立て！立つんだ！」「わかってますよ‥‥ぶたなくたって，いいでしょう。」

新たな敵

○ランバ・ラルの乗る新型モビルスーツ・グフがガンダムをおそった。「やってやる！　やってやるぞ！　新型のモビルスーツが，なんだ！」正気にもどったアムロは，グフに攻撃をしかけたが，たちまちのうちに逆襲されてしまった。「ザクとは違うのだよ，ザクとは！」

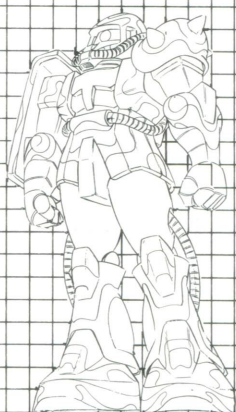
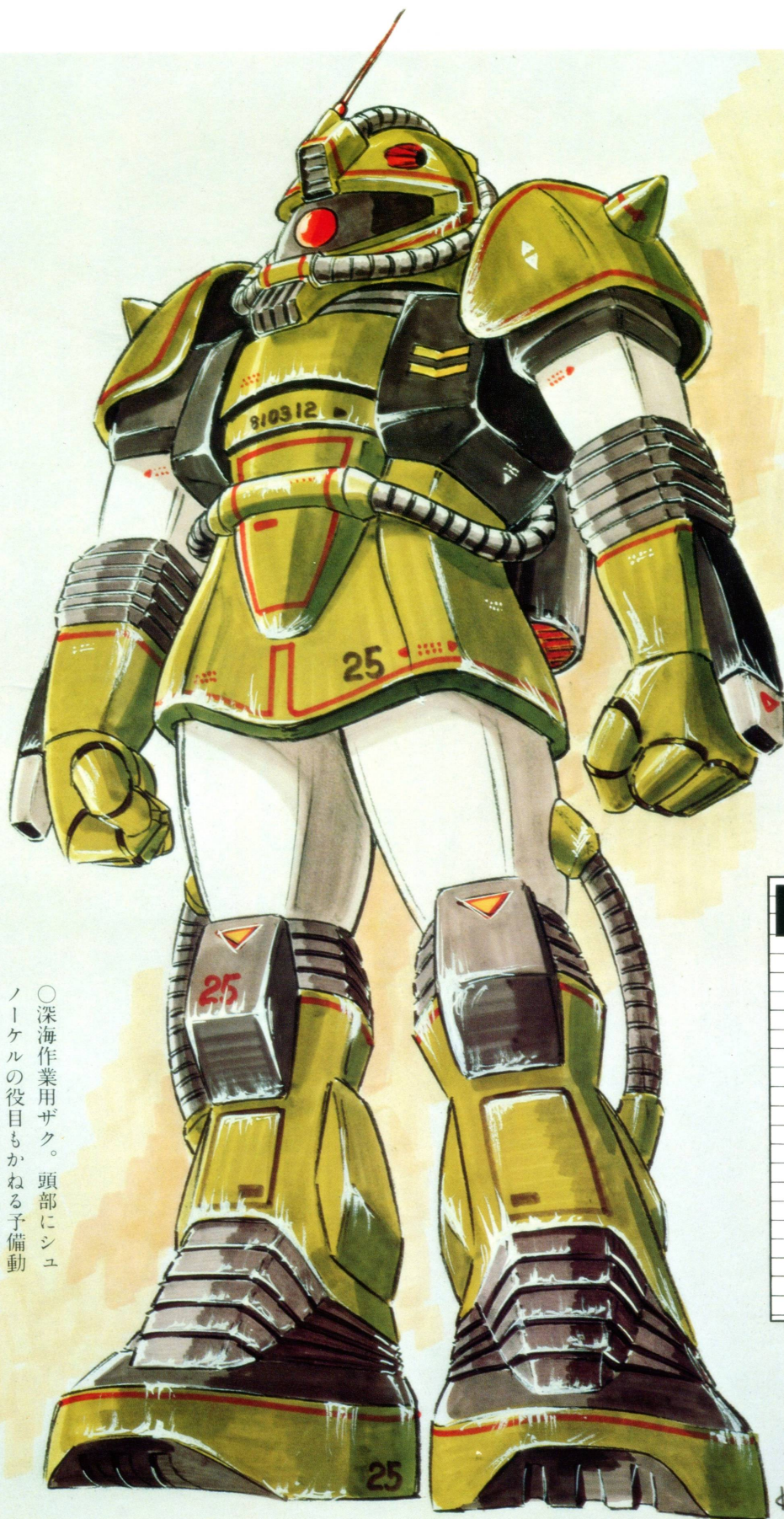
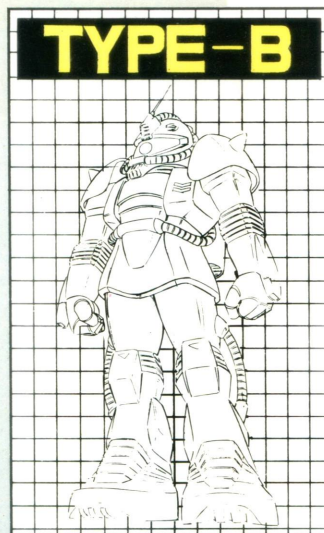
光と闇
MOBILE SUIT GUNDAM

◯グフの攻撃は，単なる小手調べにすぎなかった。戦艦ザンジバルは，グフを収容するや，巨大投光器でアムロたちの目をくらまし，戦線より離脱した。「逃げられた‥‥というより‥‥見逃してくれたのか‥‥。」

これが…敵…

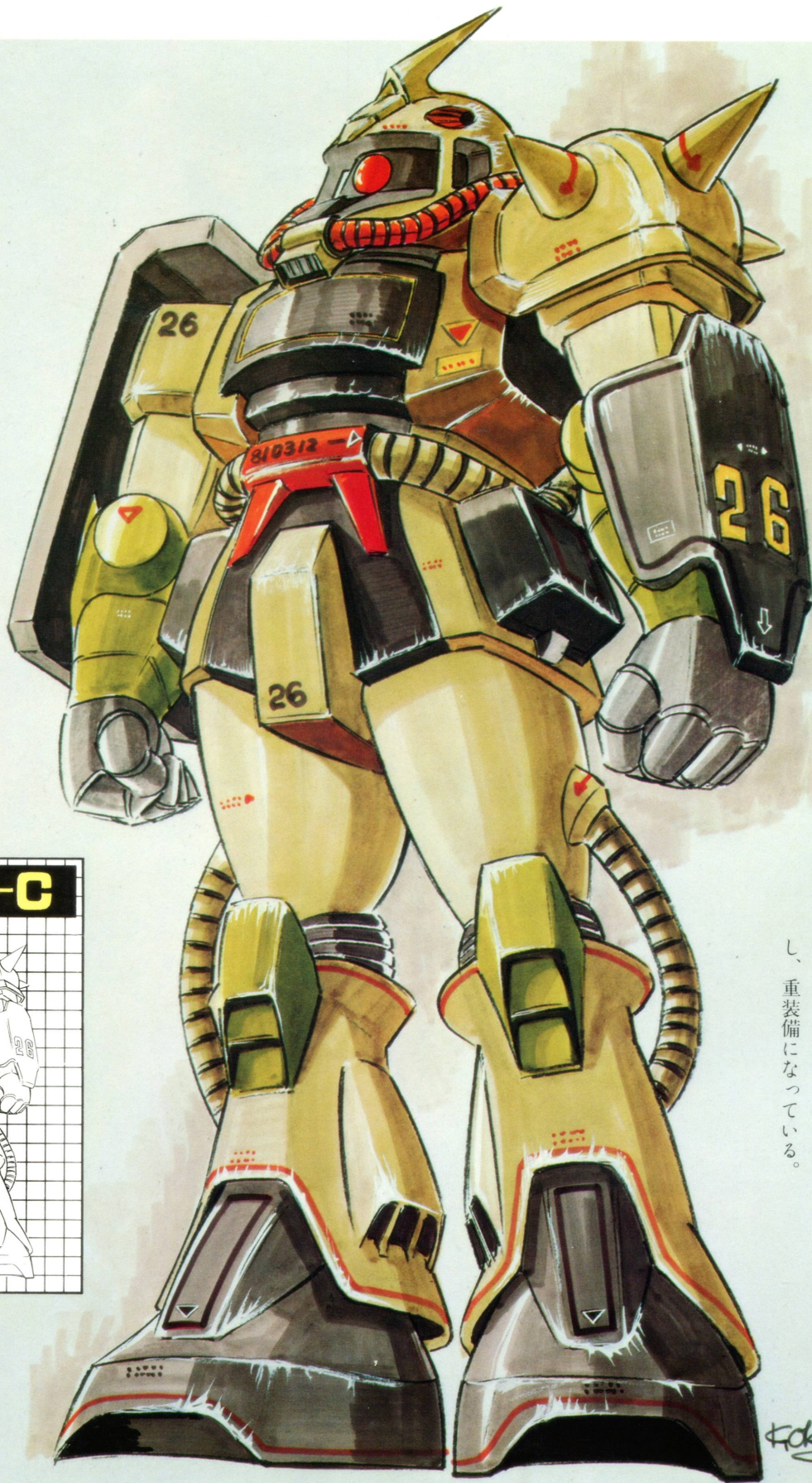
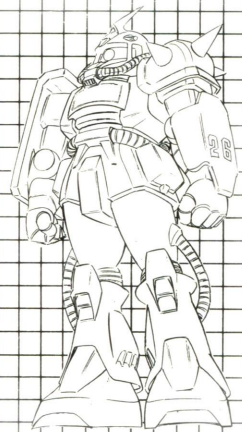
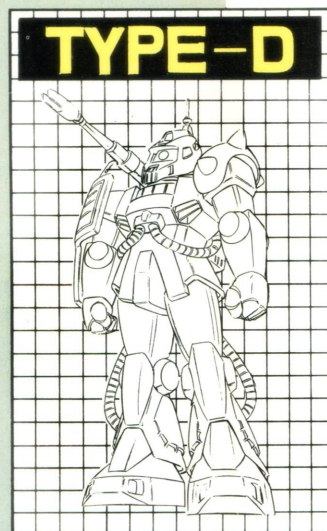
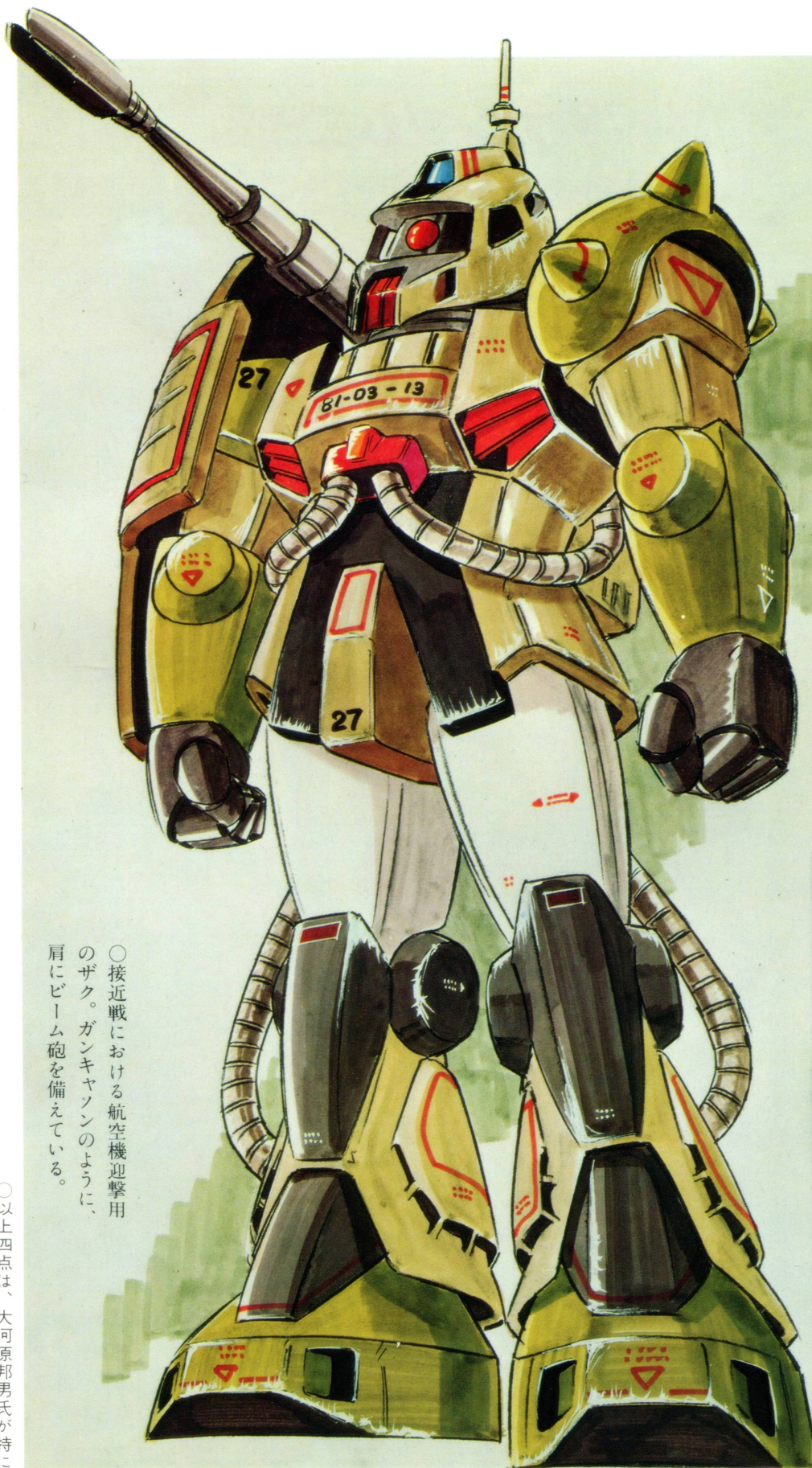
MOBILE SUIT GUNDAM

○戦いからもどってきたアムロは，ギレン・ザビの演説を耳にした。そして，アムロは知るのだった。これから戦っていく敵が，シャアのような個人やモビルスーツのような兵器ではなく，巨大なるもの——国家であるということを。真の戦いは，これから始まるのだ。

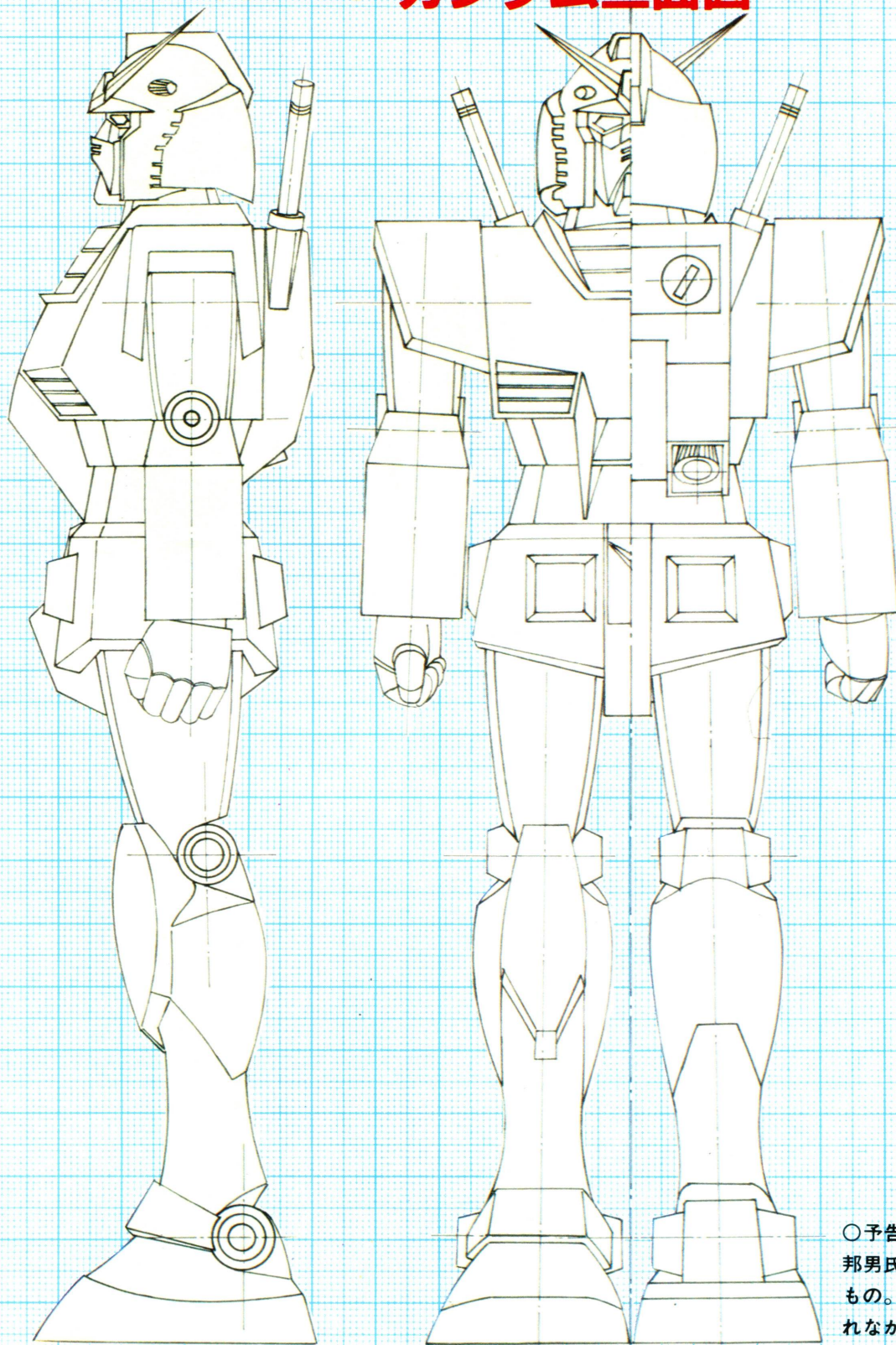
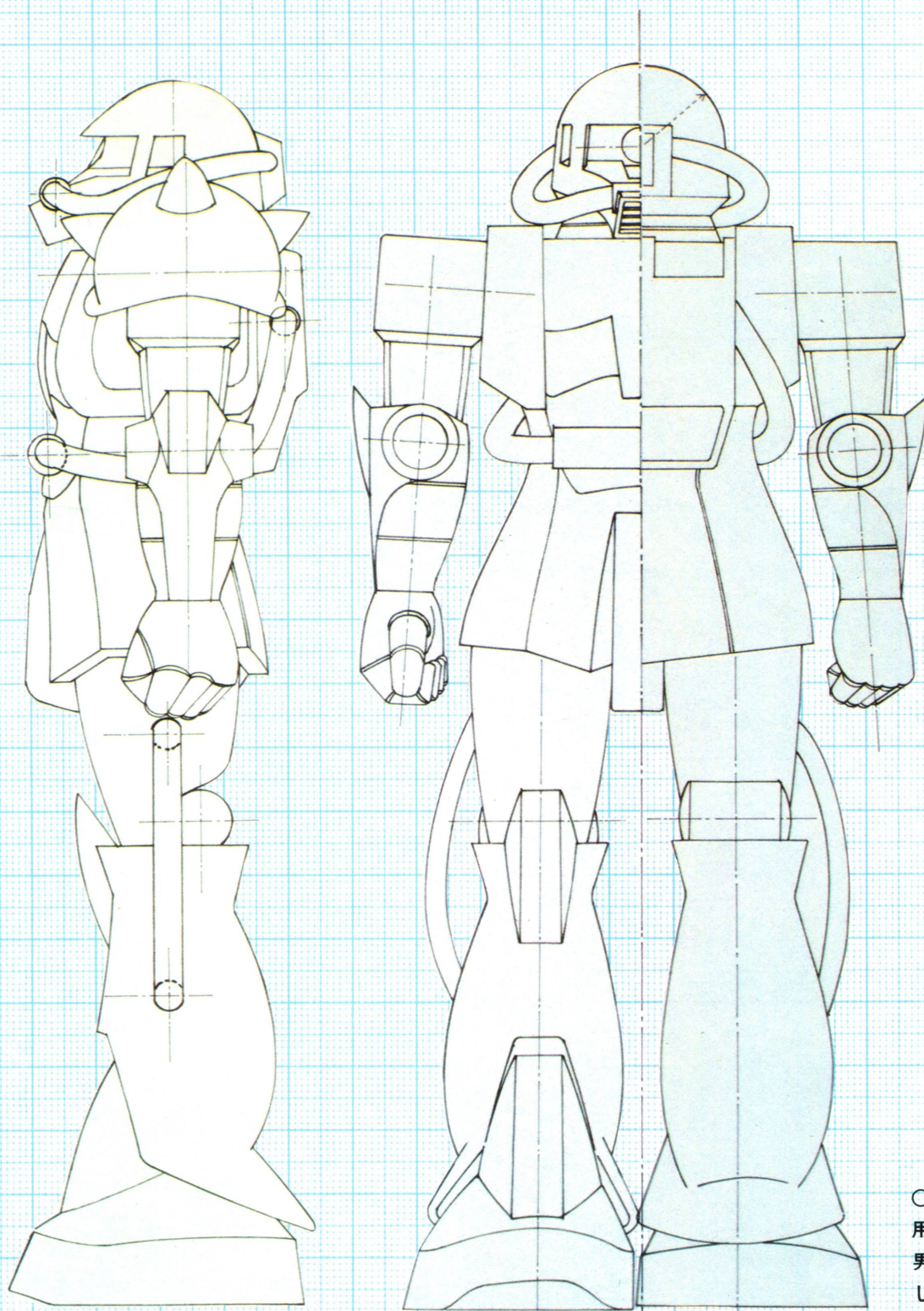
○さまざまな思いの人々を乗せて，ホワイトベースは大地をあとにする。雲海を抜け，ゆっくりと次の目標——ヨーロッパへと旅立つホワイトベース。その雲に映る影は，まるで彼らの背負った十字架のようであった。

Kunio-Ookawara Original-Illustration

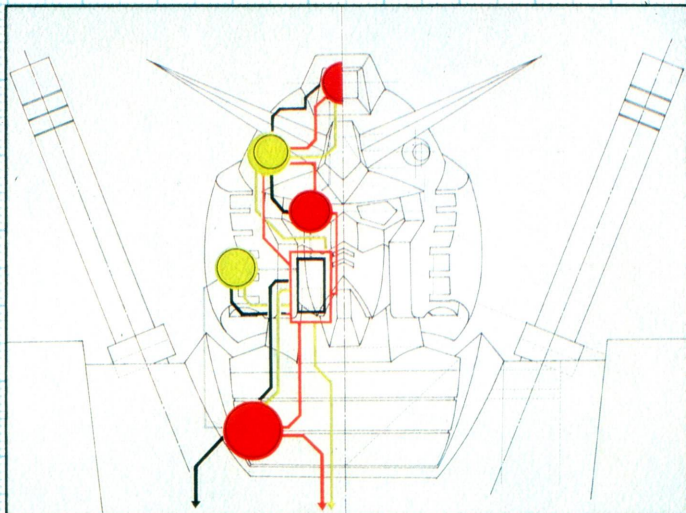
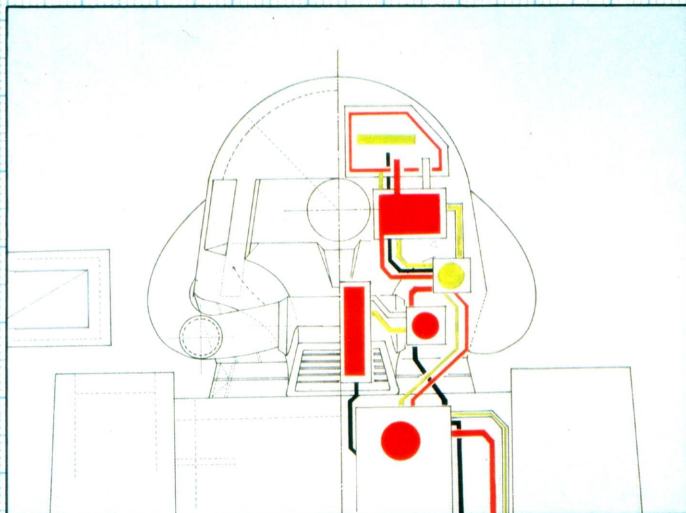
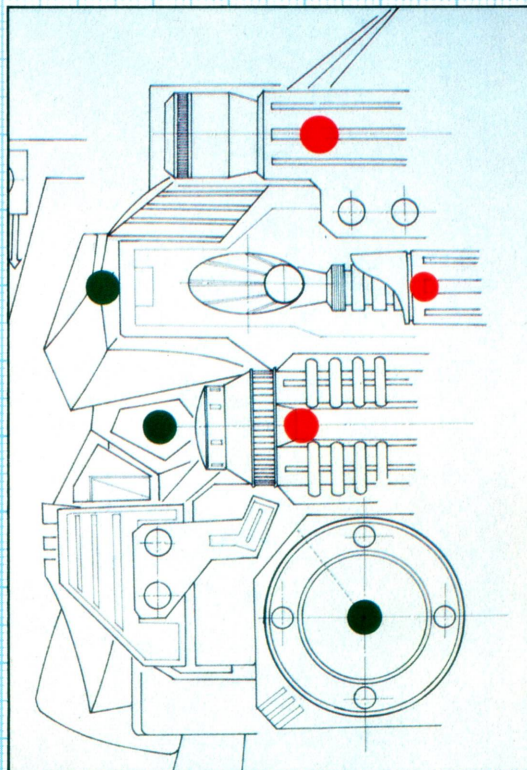
VARIATION OF MOBILE SUIT ZAK

○湿地帯戦用に開発されたザク。全身に防湿加工が施され、水中戦も可能になっている。

○深海作業用ザク。頭部にシュノーケルの役目もかねる予備動力パイプを持つ。

Kunio-Ookawara Original-Illustration

VARIATION OF MOBILE SUIT ZAK

○砂漠(さばく)における戦闘用に改造されたザク。地中での行動も考慮し、重装備になっている。

TYPE－C

○接近戦における航空機迎撃用のザク。ガンキャノンのように、肩にビーム砲を備えている。

○以上四点は、大河原邦男氏が特に本誌のためかき下ろしたものです。

○予告編用に，大河原邦男氏がかき下ろしたもの。実際には使用されなかった。

○同じく予告編用に，大河原邦男氏がかき下ろしたもの。

ガンダム/ザク 頭部構造図

●ガンダム頭部構造図

○三面図と同じく，予告編用に大河原邦男氏がかき下ろしたもの。

●ザク頭部構造図

○モビルスーツの頭部の構造が，概念的に描かれている。

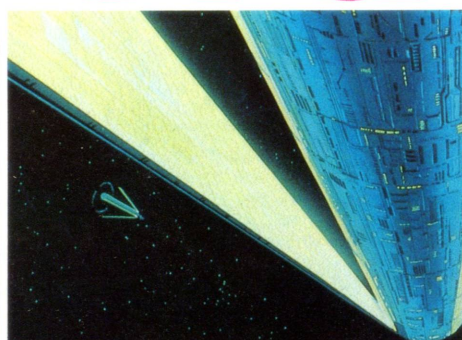
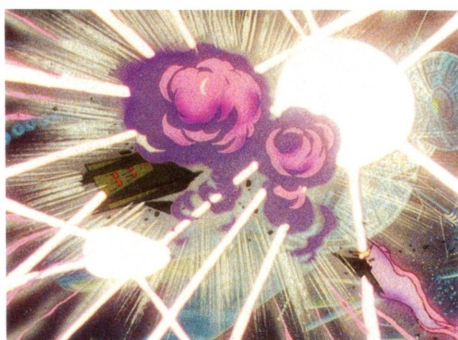
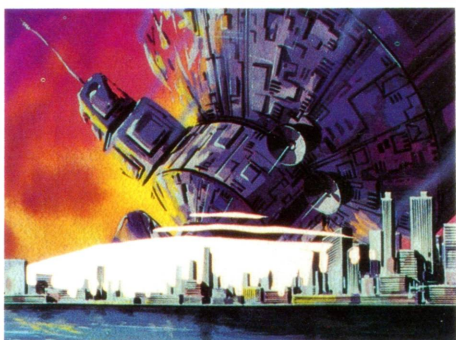
●ガンダム頭部構造図(横)

●ガンダムコクピット構造図

MOBILE SUIT
GUNDAM

STORY

○波乱に満ちた，劇場版「機動戦士ガンダム」のストーリー展開を，フィルム構成で徹底紹介！

配給 松竹株式会社 製作 日本サンライズ

③戦争は激烈をきわめ，双方の人口の半数を死にいたらしめた。人々は，その自らの行為に恐怖した。

②宇宙世紀0079年。宇宙都市サイド３は，ジオン公国を名のり，地球連邦に独立戦争をいどんできた。

①人類が，増えすぎた人口を宇宙に移民させるようになって50年。宇宙植民地は，人類第二の故郷となっていた。

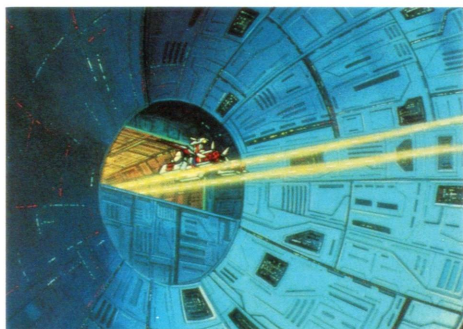
機動戦士
ガンダム
MOBILE SUIT GUNDAM
映倫
110304

宇宙世紀0079

ガンダム目覚める！

MOBILE SUIT GUNDAM FILM STORY

①ジオン軍のモビルスーツ・ザクが３機，辺境の宇宙都市・サイド７に侵入した。

②軍艦の入港にともない，避難命令が出ていた。アムロは，友だちのフラウとともに退避カプセルへ急ぐ。

③新たに開発されたモビルスーツを受領するため，連邦軍の戦艦ホワイトベースがサイド７に入港した。

④連邦軍のモビルスーツを発見したザクは，直ちに攻撃を開始した。

⑤リフトに直撃を受け，燃えながら落ちてくるガンタンク。

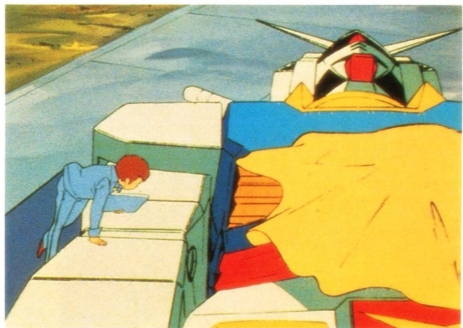
⑥「この震動の伝わり方は‥‥爆発だ」アムロは，みんなを安全な場所へ移そうと考え，外へとび出す。

⑦その目の前に，ザクの巨体が——！　圧倒されるアムロ。

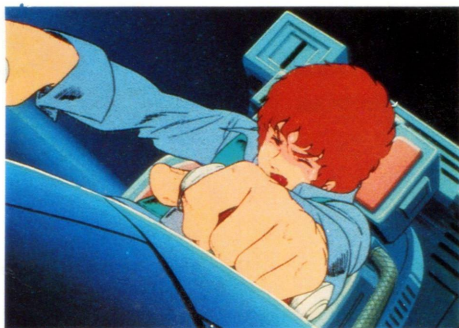
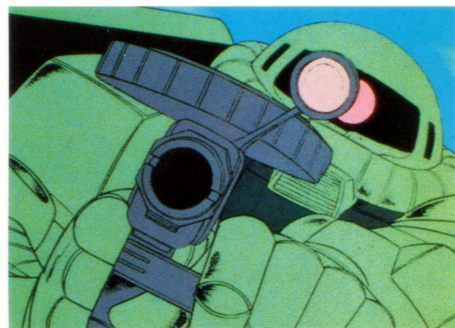
⑧激しい戦闘の中，アムロは極秘資料のファイルを手に入れた。モビルスーツ・ガンダムのマニュアルだ。

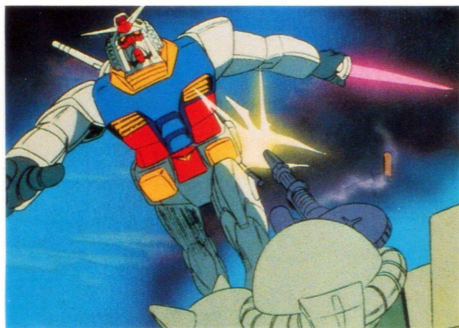
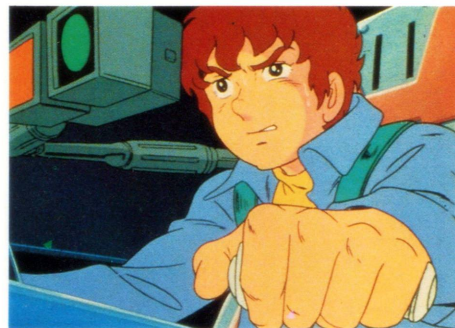
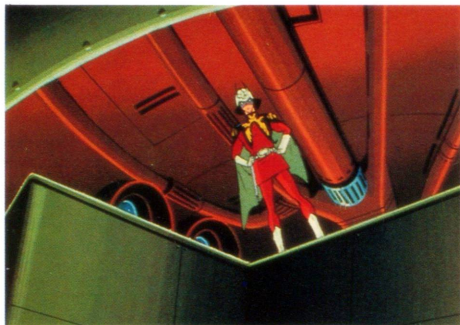
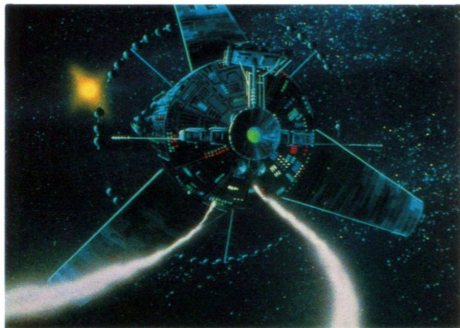
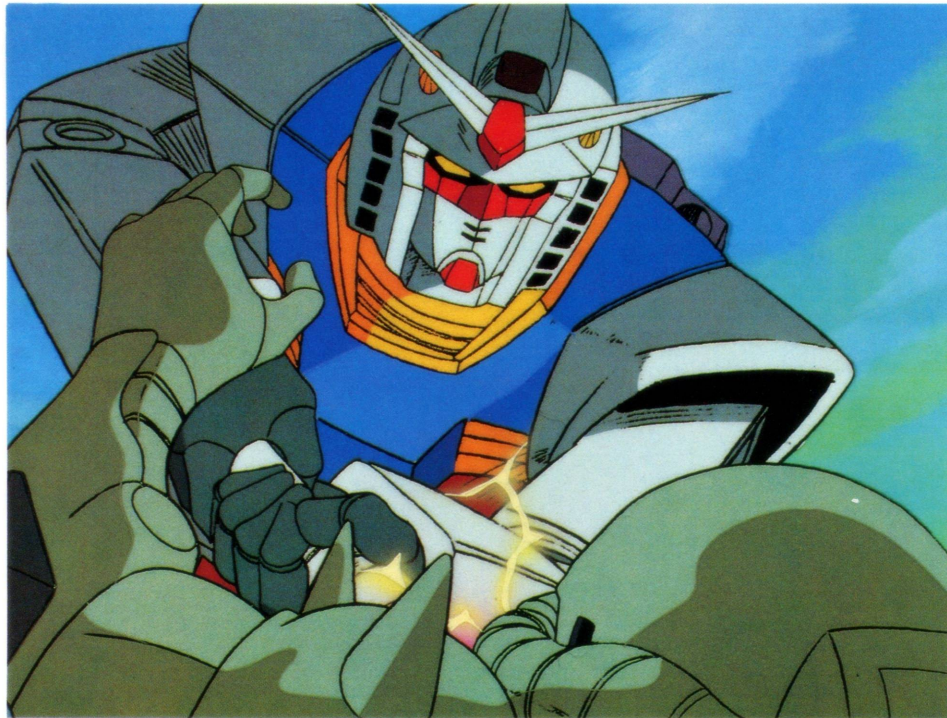
⑨アムロは，避難民よりガンダムを優先させせようとする父・テムにくってかかった。

⑩流れ弾の爆発に巻きこまれたフラウは，母親と祖父を同時に失ってしまう。

⑪「君は強い女の子じゃないか！」アムロは泣きじゃくるフラウを励まし，港へ向かわせた。

⑫ガンダムに乗りこむアムロ。ファイル片手に，ガンダムを動かし，ザクに立ち向かおうというのだ。

○功をあせった１人のジオン兵の暴走のため，それまで平和だったサイド７（セブン）は一瞬にして地獄の戦場と化した。機械好きの少年アムロは，偶然手に入れたマニュアルをもとにガンダムを操り，ついにザクを倒すことに成功する。ＴＶシリーズの第１話が，ほとんどそのまま使われている。

⑮ガンダムはついに立ちあがった。

⑭ザクのライフルをあびて，思わず身をすくめるアムロだが，ガンダムの装甲は，びくともしない。

⑬ガンダムにねらいをつけるザク。

⑱サーベルでまっ二つにされたザクは，大爆発を起こした。その衝撃で，サイドの隔壁に穴があいてしまう。

⑰ビームサーベルを手に，逃げる１機のザクを追ってジャンプするガンダム。

⑯アムロは，バルカン砲でザクを攻撃する。

⑳ムサイのブリッジで報告を受けるシャア少佐。

㉑ムサイのミサイルがサイド７に向かって飛ぶ。シャアの攻撃は続いていた。

⑲ザクの核融合エンジンを破壊すれば，その爆発でサイドにも大きな被害をあたえてしまう。それに気づいたアムロは，おそいかかるもう１機のザクのコクピットに，サーベルを突き刺して倒した。

赤い彗星 シャアの襲撃！

MOBILE SUIT GUNDAM FILM STORY

①アムロの乗るガンダムは，部品の積みこみ作業を手伝っていた。

②ジオン軍の攻撃で軍人や技師は全滅し，ホワイトベースのパオロ艦長も重傷を負っていた。

③死亡した操舵手の代わりに，ミライがホワイトベースの操艦を担当することになった。

④シャアは突撃隊員を招集し，サイド７に向かった。連邦軍のモビルスーツのデータを集めるためだ。

⑤ガンダムのパイロットが少年と知り，ブライト少尉はすぐにおろそうとするが‥‥。

⑥身勝手なカイに平手打ちをあびせるセイラ。「それでも男ですか！　軟弱者！」

⑦パオロ艦長の決定で，アムロはガンダムを任されることになった。

⑧逃げ遅れた人をさがしていたセイラは，赤いノーマルスーツのジオン兵を発見する。

⑨マスクをはずすシャア。キャスバルとアルテイシア，兄と妹のつかの間の再会であった。

⑩港に突入したシャアは，ホワイトベースをカメラに収めるが，少年たちに狙撃され脱出にうつった。

⑪逃げるシャアたちに，スコープでねらいをつけるアムロ。だが，その照準は激しくゆれた。

⑫「ドッキングベイを出ます！」かじをとるミライ。

○正規の軍人を失ったホワイトベースは，アムロやブライトといった少年たちの手でサイド7から脱出する。そこへ，赤い彗星・シャアが強襲をかけてきた。ガンダムと赤いザクの初めての対決。アムロは，戦いの真の恐ろしさを思い知らされるのだった。第2話と第3話の一部を使用。

⑬ドッキングベイを出ていくホワイトベース。「ミノフスキー粒子，戦闘濃度での散布急げ！」

⑭オペレーターが猛スピードで接近するザクをキャッチした。「シャアだ‥‥赤い彗星だ。」

⑮驚異的なスピードで迫る，シャアの赤いザク。

⑯ガンダムで迎え撃ったアムロは，初めて相対する強敵に戦慄した。「これが‥‥た，戦い‥‥。」

⑰「速い！　なんという運動性。」さすがのシャアも，ザクをはるかに超えるガンダムの性能に舌を巻いた。

⑱モビルスーツ同士の激しい格闘戦。

⑲ガンダムのビームライフルは，スレンダーのザクを一撃で撃破した。シャアはやむをえず退却する。

⑳「ガンダムの性能をあてにしすぎる。」ブライトは，アムロの戦いぶりをたしなめた。

㉑「やれるとはいえない。けど，やるしかないんだ。」ブライトへの怒りをおさえるアムロ。

㉒「宇宙に出たの，初めてなんですよ。」「エリートでいらっしゃったのね。」「皮肉ですか？」

㉓「ブライト少尉を気にして，むきになることないのに。」「関係ないよ。」ガンダムの整備にうちこむアムロ。

㉔そのころ，シャアのムサイはパプアから武器の補給を受けていた。

ルナツー／灼熱の大気圏

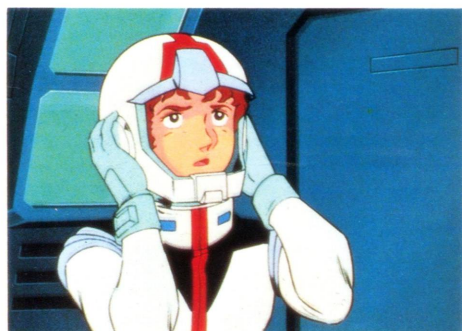
MOBILE SUIT GUNDAM FILM STORY

①ルナツー基地にたどりついたホワイトベースだったが，ワッケイン司令は避難民の受け入れを拒否した。

②「この船は新型の戦艦です。地球連邦軍本部ジャブローに直行して，皆さんの以後の処理を決定します。」

③「たどりつけますかね？」「知るものか！」ワッケインは，素人まで動員する戦争の苛酷さを嘆く。

④ハヤトの射撃訓練をからかうカイ。セイラが声をかける。「第１戦闘配備のまま，待機してください。」

⑤ミライは，シャアの追撃を心配していた。「君は大気圏突入することだけを考えていてくれ。」「了解。」

⑥大気圏突入が近づき，ノーマルスーツを着るアムロ。「いつの間にか，戦争させられて‥‥。」

⑦「行きまーす！」アムロは，ザクの攻撃を防ぐために，ガンダムで出撃した。

⑧４分以内にホワイトベースにもどらなければ，大気との摩擦熱で焼け死ぬ。敵も味方も決死の攻防戦だ。

⑨先導するサラミスのカプセルと，ホワイトベースをねらって，ムサイからミサイルが発射された。

⑩「照準がいちいち狂っている！」アムロは必死でレバーを操作し，ザクにいどんでいった。

⑪「あ，あんな所にバルカン砲が！」ガンダムの攻撃に悲鳴をあげるジェイキュー。

⑫「フフ‥‥モビルスーツの性能の差が戦力の決定的差でないことを‥‥教えてやる！」

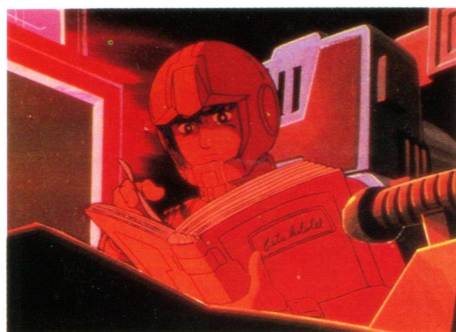
○地球連邦軍本部ジャブローの一方的な命令によって，素人同然の乗組員と避難民を乗せたまま，ホワイトベースは地球におりることになった。大気圏突入のわずかなタイミングを利用して，シャアは再びホワイトベースにおそいかかる。第３・４・５話を中心に，新作部分を大幅に追加。

⑬ガンダムが投げつけたバズーカを払いのけるザク。

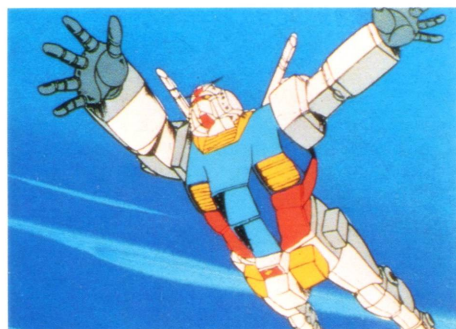
⑭「と，止まれーっ！」ザクのパンチでふっとばされたガンダムに，アムロは逆制動をかけた。

⑮「ガンダムを収容しろ！　燃えてしまう。」リード中尉が叫ぶ。すでにオーバータイムだ。

⑯「ザクには，大気圏を突破する性能はない‥‥しかし，クラウン。むだ死にではないぞ！」

⑰回収不能になったザクは，パイロットを乗せたまま摩擦熱で溶けくずれていく。

⑱「あった！　大気圏突破の方法が！　間に合うのか‥‥。」次々とボタンを押していくアムロ。

⑲冷却エアが噴き出し，ガンダムは耐熱フィールドに包まれた。

⑳シャアは地球方面軍司令のガルマ大佐に連絡をとった。「敵のＶ作戦の正体をつきとめたんだがね。」

㉑無事に大気圏を突破し，降下してくるガンダム。

㉒疲れきってもどったアムロを，心配そうに見送るフラウ。

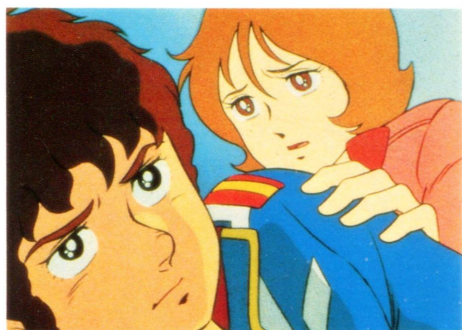
㉓「ひとりにしてくれよ‥‥な。」子どもたちのお祝いをことわって，アムロは部屋へはいってしまう。

㉔ホワイトベースを追うガルマ。「今までの地球連邦軍の戦艦とは，まったくけたが違うようだ‥‥。」

ジオン包囲網を脱出せよ！

MOBILE SUIT GUNDAM FILM STORY

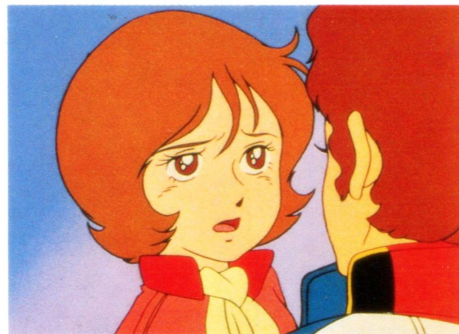
①「どうしたの？」「なんでもないよ。」アムロは，部屋にとじこもったままだった。

②「ガルマ，君が行くこともなかろうに‥‥。」「私には姉に対しての立場があるといったろう？」

③「あたし‥‥アムロが戦ってくれなければ，とっくに死んでいたわ。」「ぼくだって，そうなんだよ！」

④ガルマの指揮するドップ編隊が，ホワイトベースに攻撃をかけてきた。

⑤リュウとハヤトがガンタンクで，カイはガンキャノンで出撃する。

⑥「きさま，なぜ自分の任務をはたそうとしないんだ！」ブライトはアムロをなぐりつけた。

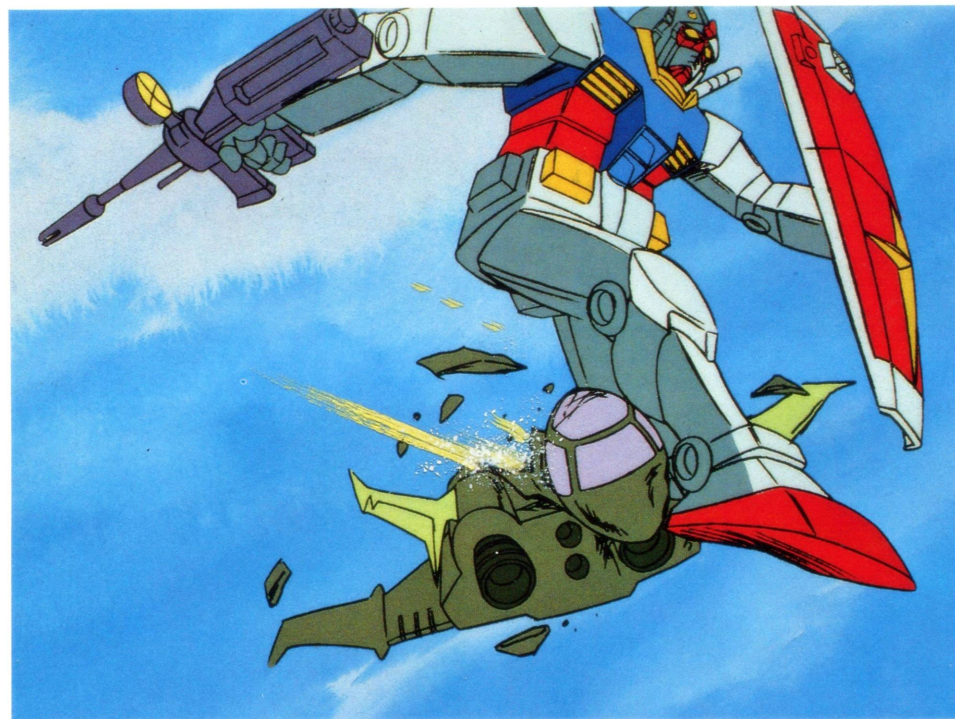
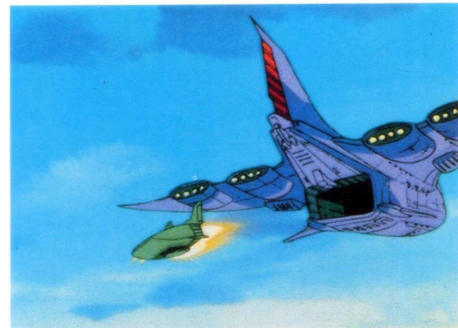
⑦「な，なぐったね。」怒りにふるえるアムロは，二度とガンダムに乗らないといいだした。

⑧「きょうまでホワイトベースを守ってきたのはおれだ，っていえないアムロなんて，男じゃない。」

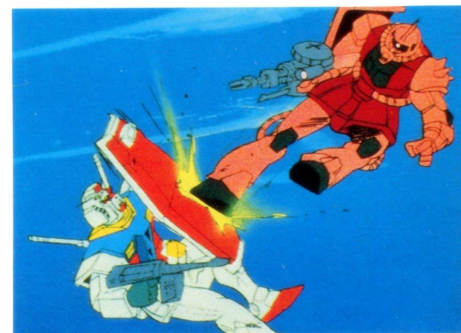
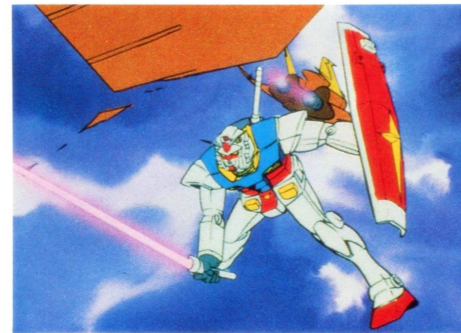
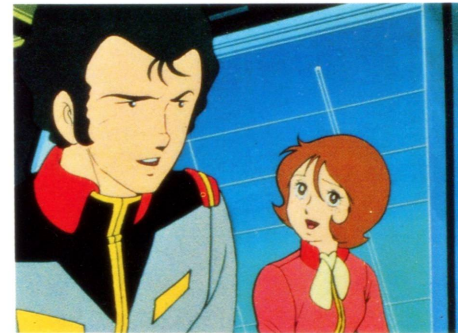
⑨ドップの編隊に加えて，マゼラアタックの地上部隊もホワイトベースをはさみ撃ちにしようと迫る。応戦するガンキャノンは，バルカン砲の雨をあびて苦戦を強いられていた。

○無事地球に降下したホワイトベースだったが，シャアの攻撃によって進路を変えられ，ジオンの勢力圏内に追いやられてしまった。これをたたこうと出撃する地球方面軍司令・ガルマ大佐。アムロは，ガンダムを使って空中戦を展開し，敵を一蹴するが‥‥。第6～9話分で構成。

⑫ガルマはモビルスーツの足を止めるため，ホワイトベースに集中攻撃をかけるよう命じた。

⑪フラウから渡された栄養剤を飲みほし，出撃していくアムロ。

⑩弾丸が切れたガンキャノンの中で，カイはふるえあがった。

⑮アムロはジャンプ力とロケットノズルを駆使し，陸戦兵器のモビルスーツであるガンダムに，空中戦を行わしめた。ビームライフルで狙撃され，あるいはコクピットをけとばされて，ドップは次々と撃墜されていく。

⑬ガンダムが出撃したと知ったシャアは，ガルマを援護しようと発進した。

⑭「なめるなよ！　ガンダムがただの白兵戦用のモビルスーツでないところを見せてやる！」

⑱シャアのザクがガンダムをおそうが，ホワイトベースのミサイル攻撃を受けて，後退をよぎなくされた。

⑰ガルマの機も翼を切られ，ガウに逃げ帰った。

⑯「あいつのいいところだ。ふさぎこんでいても，戦いのことを忘れちゃいなかったんだ。」

シャアの陰謀　ガルマの死

MOBILE SUIT GUNDAM FILM STORY

①連邦軍のミデア輸送機が，ガンダムに後退するよう呼びかけてきた。

②マチルダ中尉は，レビル将軍の命令で補給と避難民の収容にやってきたのだった。

③アムロは，この年上の女性にほのかなあこがれを抱いた。

④「パーティーなどと‥‥占領政策の一つか‥‥。」シャアの目がぶきみに光る。

⑤ガルマはガンダムを手みやげにして，父のデギン公王に，イセリナとの結婚を認めさせようと考えた。

⑥「それで聞きとどけてもらえねば，私もジオンを捨てよう。」「ああ‥‥ガルマ様。」

⑦ジオンの警戒網にホワイトベースがひっかかった。ガルマは，機動1個中隊をひきいて出撃する。

⑧ホワイトベースは雨天野球場にひそみ，ガウの編隊を待ち受ける。ガンダムとはさみ撃ちにする作戦だ。

⑨ガウはローラーシフトをしき，じゅうたん爆撃によってホワイトベースをいぶり出そうとした。

⑩「お父様にだって，私を自由にする権利はないわ！」ガルマのもとへ行こうとして，止められるイセリナ。

⑪「木馬なり，モビルスーツを発見したら，すぐに知らせろ！　ガウでしとめてみせる。」

⑫シャアは部下をひきつれ，ホワイトベース捜索に向かった。

○ジオン公国を治めるザビ家の末弟・ガルマは，地球方面軍司令の立場から，また恋人・イセリナとの結婚を父に認めさせるためにも，ガンダムを捕獲しようと必死になっていた。復讐の機会をうかがうシャアの，深いたくらみも知らずに――。第10話を中心に，第11話の一部も加えられている。

⑬ザクをおびきよせようと，バズーカを撃つガンダム。

⑭身をかわすシャアのザク。シャアは，ガンダムの動きから，その作戦を見抜いた。だが‥‥。

⑮「モビルスーツは逃げるぞ！　その先に木馬がいるはずだ，追えるか!?」「追うさ！」

⑯ガンダムを追って前進したガウに，後方からホワイトベースのいっせい射撃があびせられた。

⑰ガルマはガウを回頭させ，ホワイトベースに体当たりしようとする。

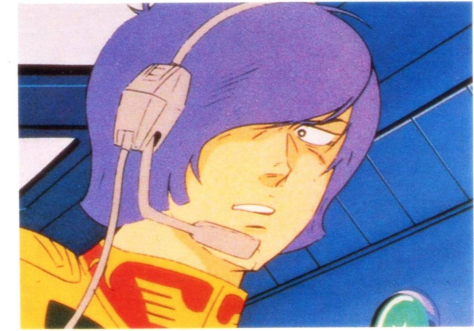
⑱「君はいい友人であったが，君の父上がいけないのだよ。フフフ‥‥ハハハハ。」

⑲「シャア‥‥はかったな，シャアー！」

⑳「ジオン公国に栄光あれーっ！」ホワイトベースに特攻をかけるガルマ。

㉑だが，その寸前に大爆発を起こし，ガウは地表に激突した。

㉒ガルマの戦死を知らされ，嘆き悲しむイセリナ。

㉓「静かに，丁重に‥‥ガルマの冥福を祈ってやってくれまいか？」デギン公王もむすこの死をいたむ。

㉔しかし，ジオンの最高指導者であるギレン総帥は，弟の死を国民の戦意高揚に利用しようと考えていた。

母との別離

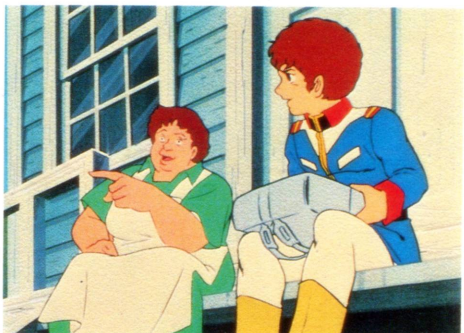
MOBILE SUIT GUNDAM FILM STORY

①「アムロ，知らないかい？」「おかあさんに会いに行ったわ。」「へえ，さっきのコアファイターがそうかい。」

②家に帰ってみると，母の姿はなく，酔った兵士たちの怒声がアムロを迎えた。

③「アムロと離れるのがいやなら，おまえもくればいいんだ。」「でも‥‥宇宙に出るのは‥‥。」

④「ごめんね，アムロ。あたしは，宇宙の暮らしってなじめなくて……。」アムロに別れを告げるカマリア。

⑤横暴な兵士になぐりかかるアムロ。悲しみが怒りに変わっていた。

⑥アムロは，くだもの売りのおばさんから，母が避難民キャンプで働いていると教えられた。

⑦パトロール機ルッグンが，ホワイトベースに接近。リュウがコアファイターで撃墜しようとする。

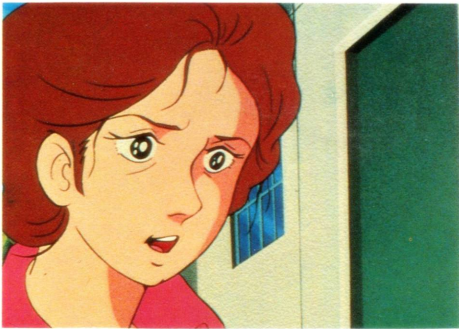
⑧コアファイターでキャンプに着陸したアムロの前に，なつかしい母の姿が‥‥。

⑨抱き合う母子。

⑩リュウは燃料タンクをやられ，ルッグンを討ちもらしてしまった。

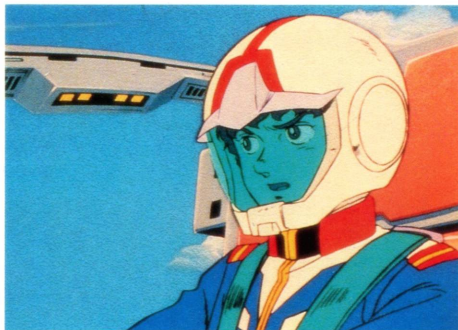
⑪アムロを呼び出す緊急サインが鳴った。それを聞きつけて，見回りのジオン兵・ロスが近づいてくる。

⑫アムロはロスを撃ち，さらにもう1人のマグにも発砲する。

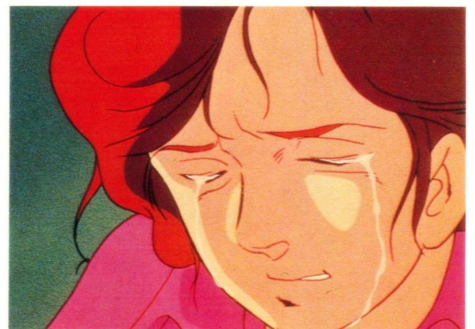
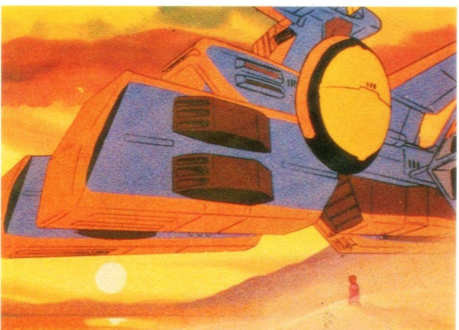
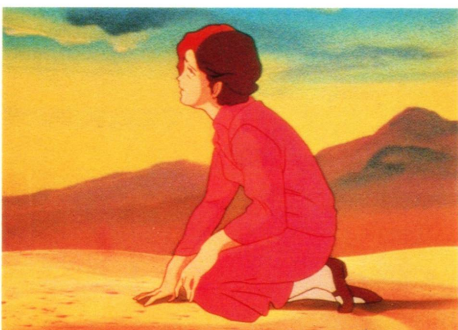
○ミデア機との接触を前にして，海岸線に身を隠すホワイトベース。わずかな時間を利用して故郷へ帰ったアムロは，久しぶりに母親と再会する。だが，それは悲しい別離の始まりでもあった。第13話をそのまま使用し，ミデア機の部分など新作も加えられている。

⑮「そ，そうだけど‥‥そうだけど，人様に鉄砲を向けるなんて。」

⑭「じゃあ，かあさんは，ぼくがやられてもいいっていうのかい！　せ，戦争なんだよ。」

⑬「あの人たちだって，子どももあるだろうに。それを，鉄砲を向けて撃つなんて‥‥すさんだねえ。」

⑰アムロはむなしさと怒りに身をまかせ，ジオンの前線基地に機銃掃射をあびせた。

⑯母をふりきって，ルッグンの攻撃に向かうアムロ。「ぼくだって，好きでこんなことやってるもんか！」

⑳「アムロくん，どうするね？　‥‥我々は出発するが‥‥。」

⑲アムロは，マチルダのミデア機に従って，基地を離れた。

⑱「虫も殺せなかった子が‥‥。」悲しみにうちひしがれるカマリア。

㉓カマリアを残して，ホワイトベースは上昇していく。

㉒「‥‥アムロ‥‥。」カマリアはなすすべもなく，去っていくむすこを見送るだけだった。

㉑母親に敬礼するアムロ。「これからも，おたっしゃで。おかあさん！」

国家 巨大なる敵

MOBILE SUIT GUNDAM FILM STORY

①「ニュータイプという言葉は，ご存じ？」ブライトに説明しているマチルダ。

②「おまえは寝てなくちゃならん時間だろ。」「少尉のいうとおりよ，寝るのもパイロットの仕事のうちですよ。」

③マチルダの機を見送るアムロ。フラウが悲しげに，そっとその場を離れていく。

④ジオンでは，国民的なアイドルだったガルマ・ザビの国葬が始まろうとしていた。

⑤デギンはビデオレターを再生し，ありし日のガルマの思い出にひたっていた。

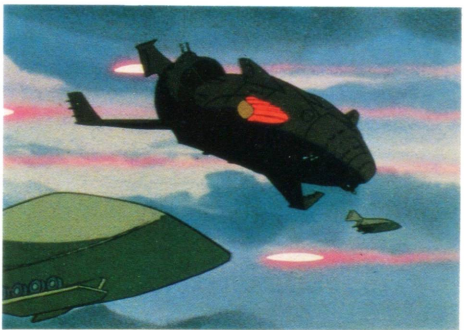
⑥ドズル中将の命令を受け，ガルマのあだ討ち部隊としてランバ・ラル大尉が派遣されてきた。

⑦「アムロ，脳波レベル，オチテル。」ハロが元気のないアムロを心配する。

⑧たび重なる戦闘，そして母との別れ。アムロの心は傷つき，ぽっかりと穴があいたようになっていた。

⑨シャアが左遷されたことを知ったキシリアは，部下に命じてシャアとの接触をはかった。

⑩初めて見る雷におびえるハモン。「だいじょうぶだ。もっとも，こんなに間近で見ると恐ろしいものだがな。」

⑪虚脱状態になって，ベッドの上にうずくまっているアムロ。

⑫ラルの乗るザンジバルは，ホワイトベースへの攻撃を開始した。

○休む間もなく，次の戦場へ向かって移動するホワイトベース。その前に新たな敵，ランバ・ラルが立ちふさがった。一方，ジオン公国では，国をあげてのガルマの葬儀が行われていた。地球連邦を倒せと叫ぶ，大群衆の声がアムロたちを戦慄させる。第12話に第14話の一部が加えられている。

⑬リュウはアムロの手を引いて，ガンダムの格納庫へ走る。

⑭ラルも新型モビルスーツ・グフに乗って出撃した。

⑮「アムロが，新米の兵隊のよくかかる病気になっているんだ！」ブライトは，かまわず発進を命じた。

⑯高熱を発するヒートロッドがシールドにあたり，ガンダムはその衝撃でふっとばされた。

⑰さらにロッドをくり出して，ガンダムに迫るグフ。

⑱ガンダムはバズーカの爆発を，シールドで受けとめた。

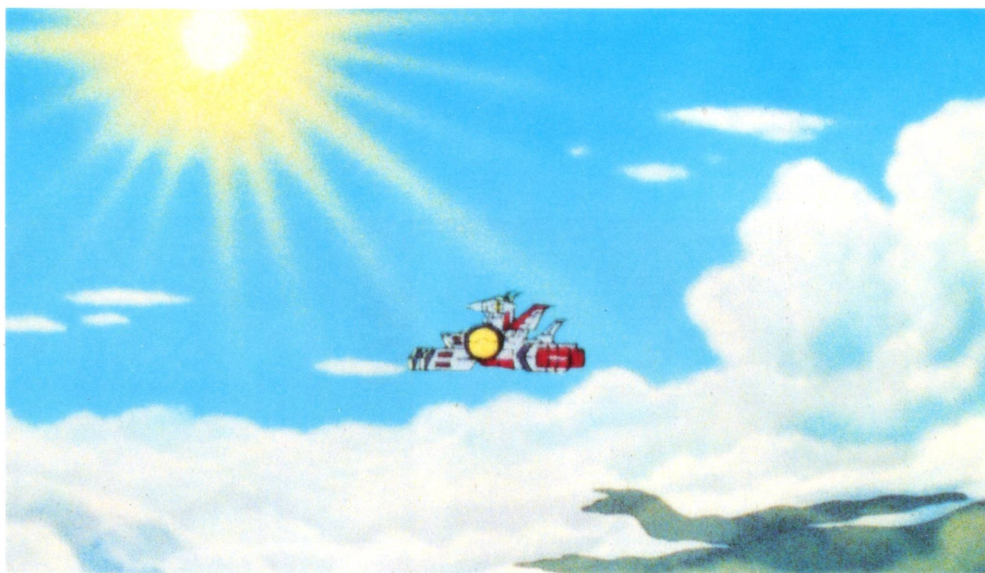
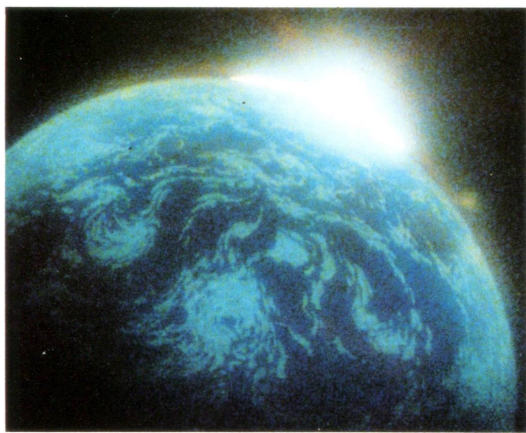
⑲ザクとは比べものにならないパワーを誇るグフの前に，苦戦するガンダム。

⑳ホワイトベースの攻撃を受けたラルたちはザンジバルに引き返し，急いで戦線を離れた。

㉑「ギレンめ，あてつけに実況放送を世界じゅうに流している！　アムロも見ておくんだな。」

㉒酒場で放送を見ているシャア。そこへ，キシリアの命を受けた親衛隊員が現れた。

㉓「ジーク・ジオン！」ギレンの，そしてジオンの人人の叫びがこだまする。

㉔「こ，これが‥‥敵‥‥。」スクリーンを見つめているアムロ。

○輝く陽光を受けて，ホワイトベースは新たな戦場へ向かう。彼らの行く手には，どんな運命が待ち受けているのか・・・・。

STAFF TITLE

原作 矢立 肇
富野喜幸

企画 山浦栄二
伊藤昌典

製作 岸本吉功

主題歌「砂の十字架」
作詞 作曲 谷村新司
唄 やしきたかじん
レコード キングレコード (K07S-157)

音楽 渡辺岳夫
松山祐士

キャラクターデザイン 安彦良和
メカニカルデザイン 大河原邦男

脚本 星山博之
荒木芳久
山本 優
松崎健一

アニメーションディレクター 安彦良和

総監督 富野喜幸

シャア 池田秀一
ガルマ 森 功至
デギン 藤本 譲
キシリア 小山茉美
ギレン 田中 崇
ドズル 長堀芳夫
ランバラル 広瀬正志
ハモン 中谷ゆみ

声の出演
アムロ 古谷 徹
ブライト 鈴置洋孝
リュウ 飯塚昭三
カイ 古川登志夫
ハヤト 鈴木清信
ミライ 白石冬美
セイラ 井上 瑤
フラウ 鵜飼るみ子

作画協力
アド・コスモ
わぁぷ
シャフト
ビーボォー

茨田佳子
原田雅祥
梅津美幸
鈴木 昇
笹木寿子
大森英敏

アニメーター
兵頭 敬
中村 清
板野一郎
前島和子
服部あゆみ

美術監督 中村光毅
音響監督 松浦典良

背景 東條俊寿
森 博敬
川名俊英
長尾 仁
遠山久実子
伊藤夏子
佐藤久美子

カマリア 倍賞千恵子 (特別出演)

おばさん 片岡富枝
フラウの母 加川三起
ハヤトの母 鈴木れい子
ペロ 門谷美佐
ハロ 高木早苗
ナレーター 永井一郎

側近 滝 雅也
クラウン 戸谷公次
ジェイキュー 二又一成
ゲビル 佐藤政治
クランプ 竜田直樹
メカマン 金沢寿一
カンプ 沢木郁也
ゴロ もりしげき

イセリナ 上田みゆき
エッシェンバッハ 緑川 稔
ガデム 水島鉄夫
デニム 緒方賢一
ジーン 若本紀昭
ハンブル 田中康郎
ロス 寺田 誠
スレンダー 鈴木誠一

テム 清川元夢
マチルダ 戸田恵子
パオロ 政宗一成
ワッケイン 曽我部和行
リード 石森達幸
マーカー 塩谷 翼
オスカ 島田 敏
オムル 塩沢兼人

監督 藤原良二
演出協力 貞光紳也
小鹿英吉
横山裕一郎

音楽出版 指田英司
渉外 野辺忠彦
タイトル 石田 功
橋爪朋二
制作助手 又吉智子
制作進行 植田益朗
製作主任 安達 登

編集 鶴渕友彰
片石文栄
効果 松田昭彦
伊藤 修
整音 大塚晴寿
相築 晃
録音 整音スタジオ
録音制作 現

撮影 坂東昭雄
斉藤秋男
平田隆文
菅野 淳
三浦豊作
旭プロダクション
現像 東京現像所

吉野美雪
三上しをり
石橋玲子
三浦真季子
里野恵美子
特殊効果 土井通明

色指定 満江敬雄
仕上 角田きみ子
平 一枝
加藤はるみ
松浦妙子
池田みつえ

プロデューサー 渋江靖夫
岩崎正美

製作協力 名古屋テレビ
創通エージェンシー
協力 講談社

豊住政弘
草刈忠良
八木岡正美
望月真人
神田 豊
協力 サンライズ音楽出版

アートランド
アート・テイクワン
アップル
シャフト
スタジオ・ディーン
竹川早苗
伊藤京子
滝口雅彦

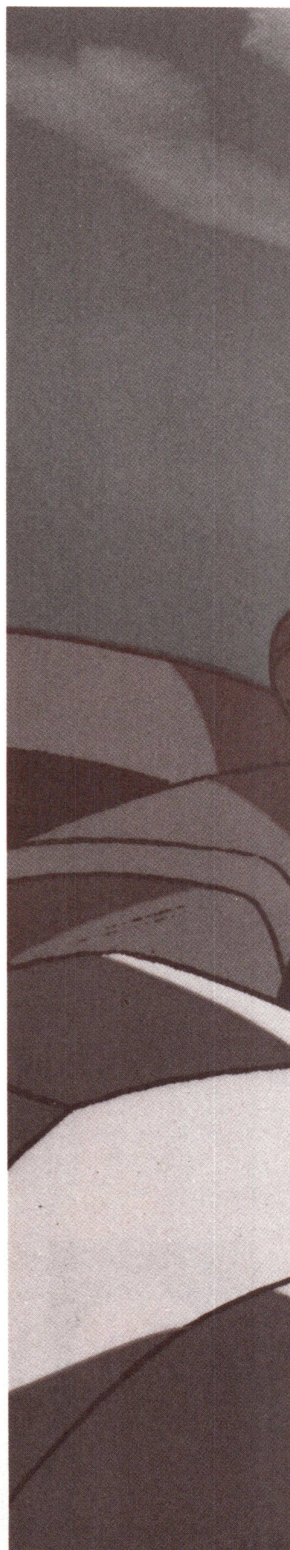
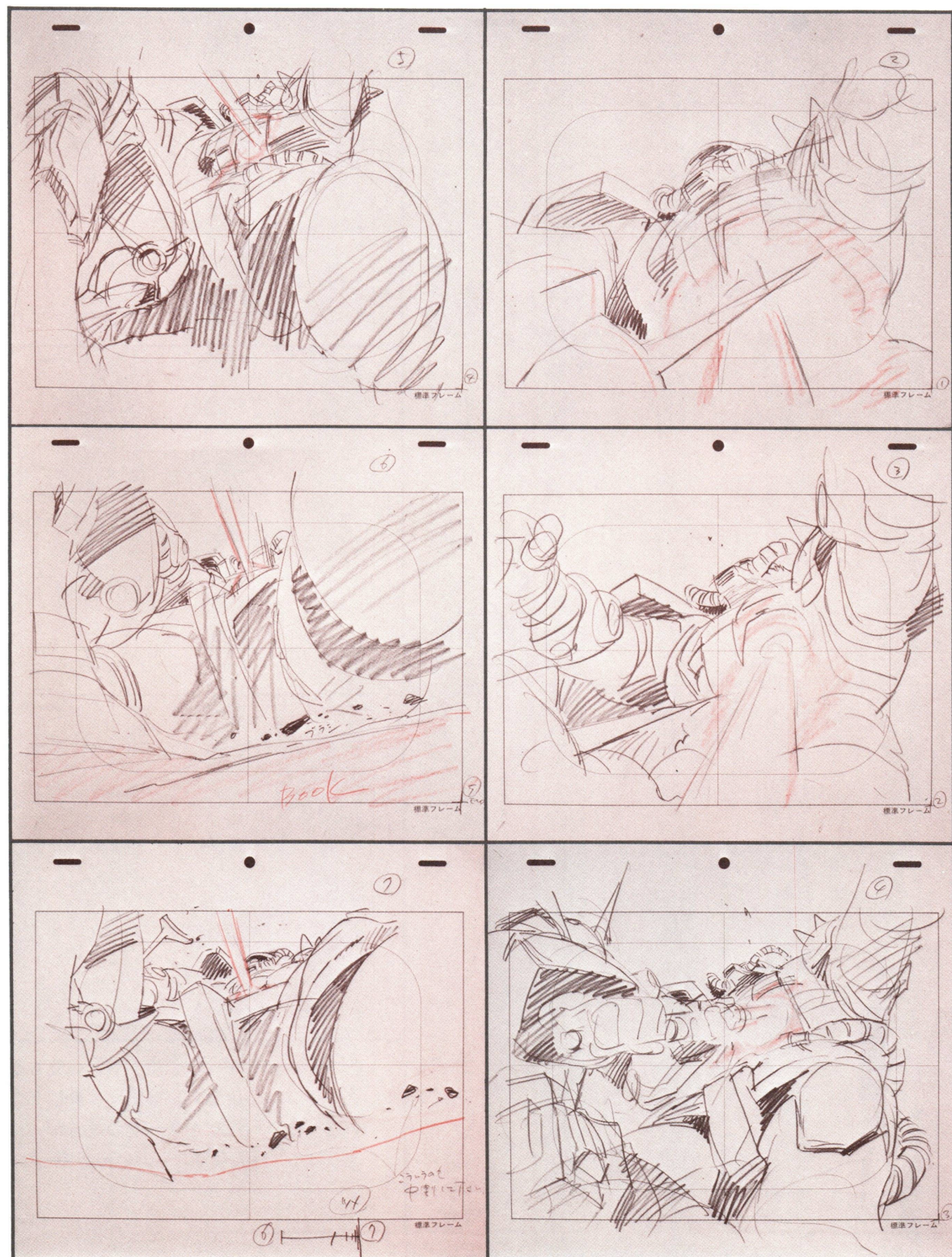
田島 実
戸川俊信
浜津 守
菜野川智美
池羽厚生
中村プロダクション
スタジオZ
タイガープロダクション

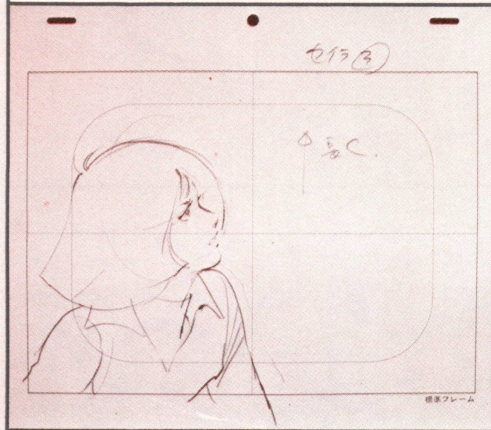
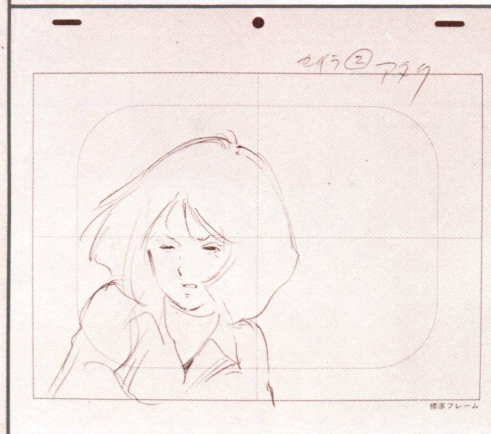
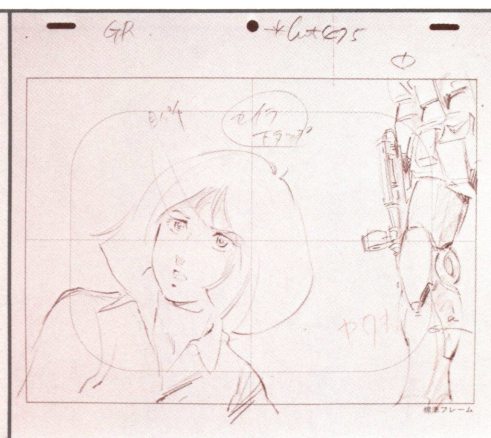
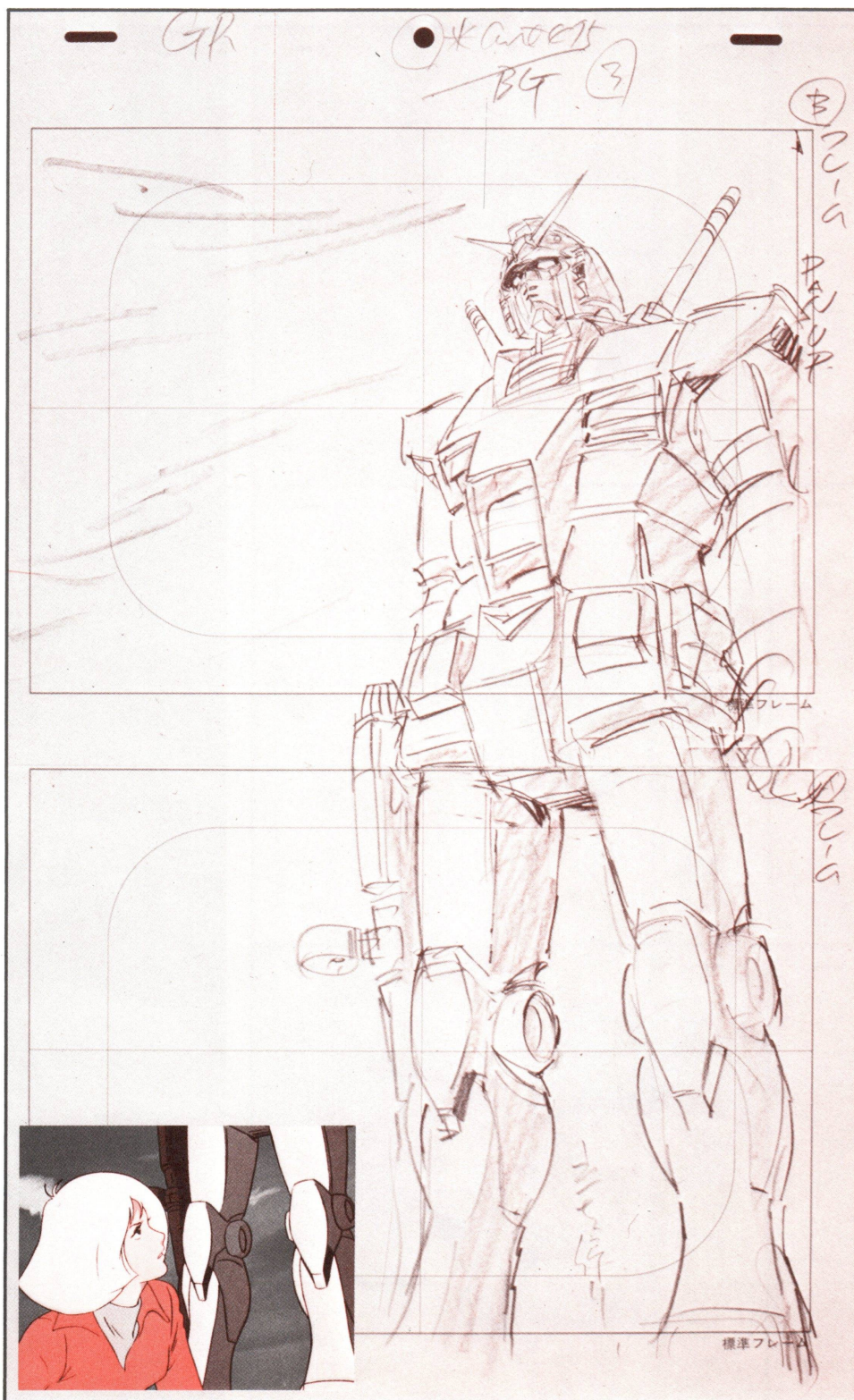
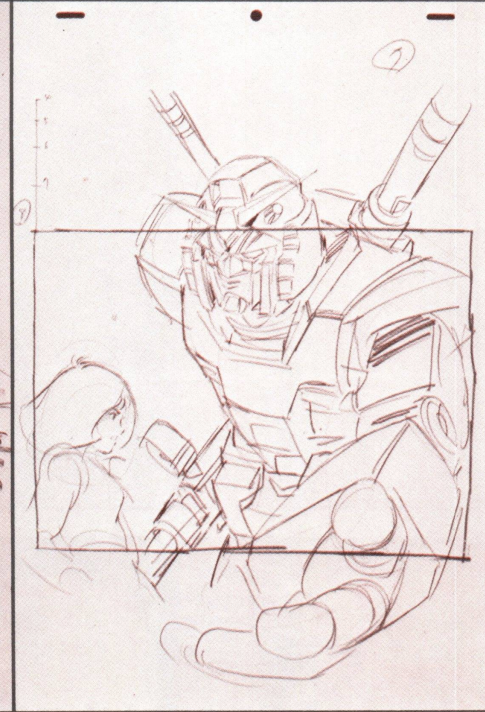
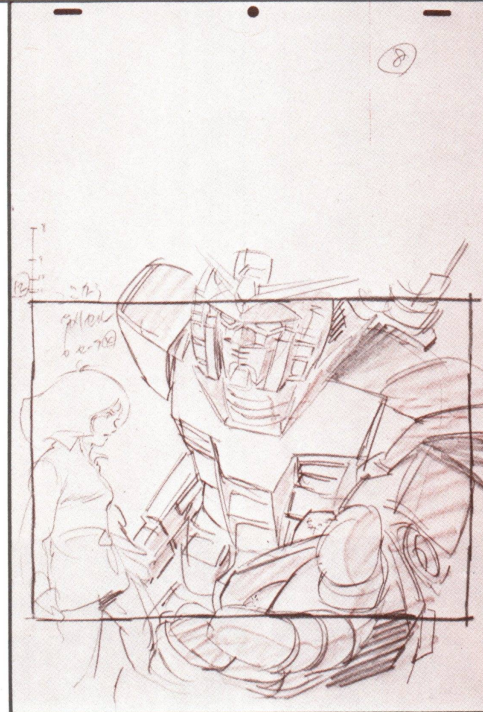
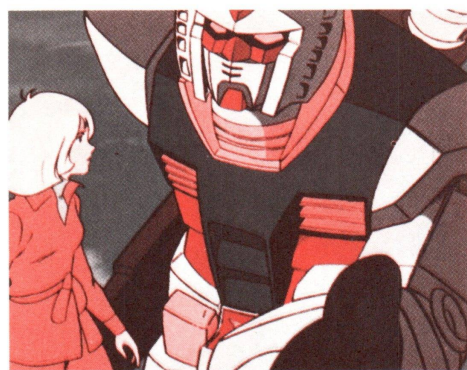
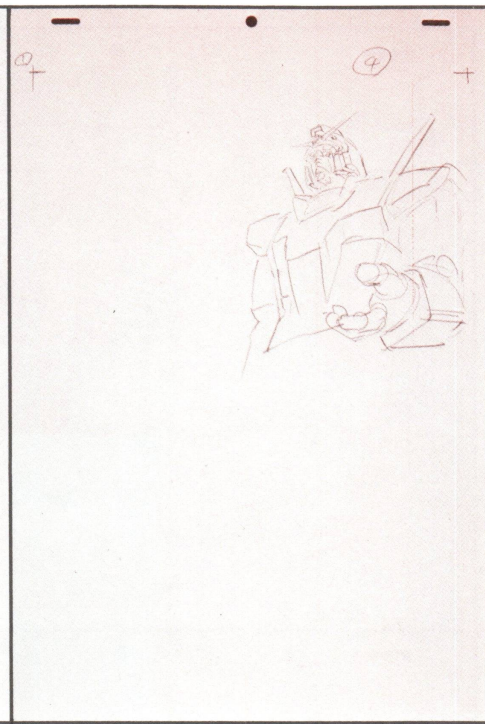
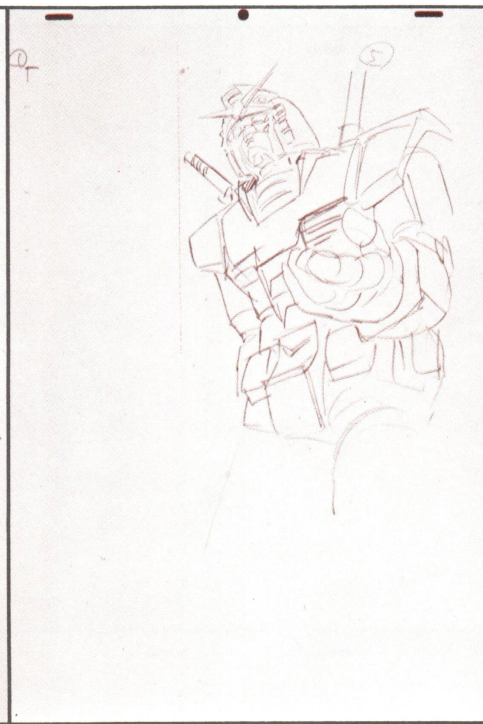
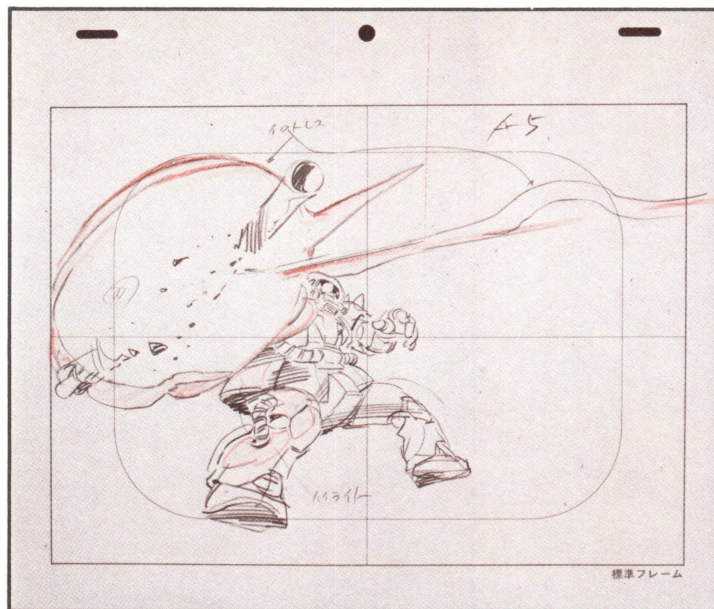
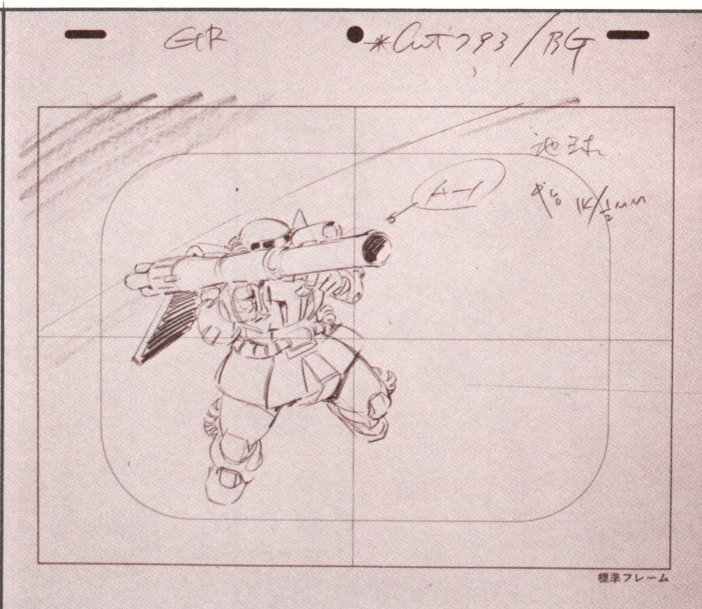
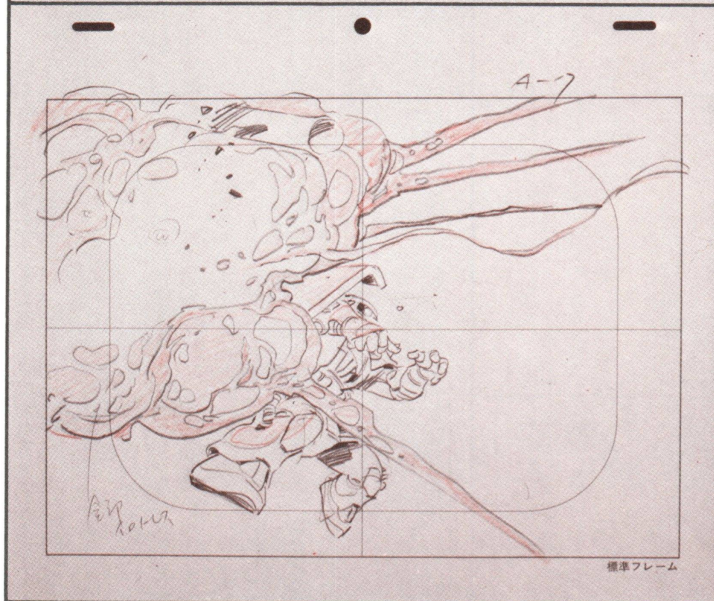
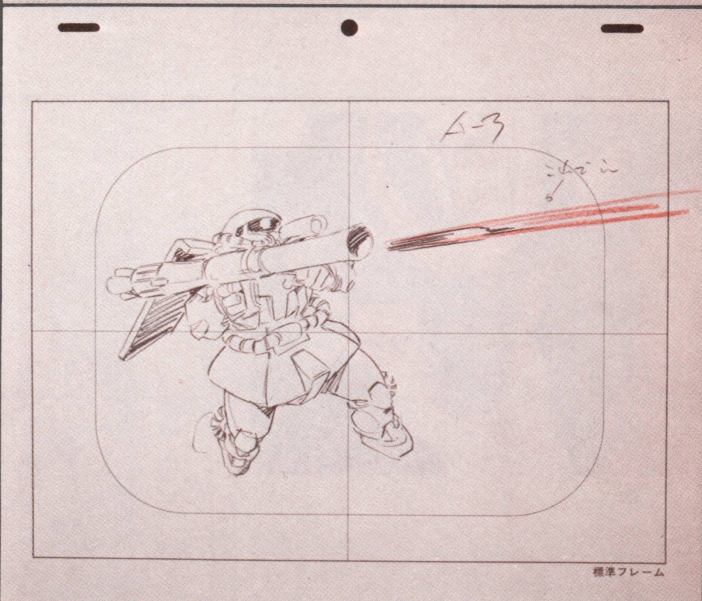
シリーズ製作スタッフ 富沢和雄
青鉢芳信
中村一夫
山崎和男
伊東 誠
多賀かずひろ
高木敏夫
上条 修

名場面集 — PART・2

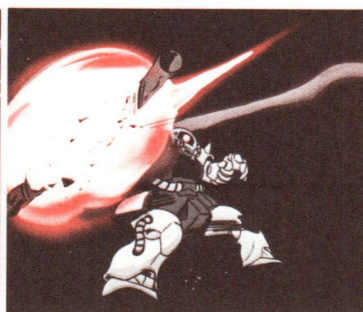
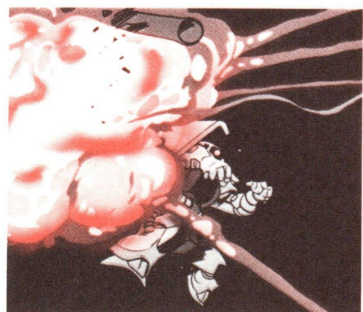
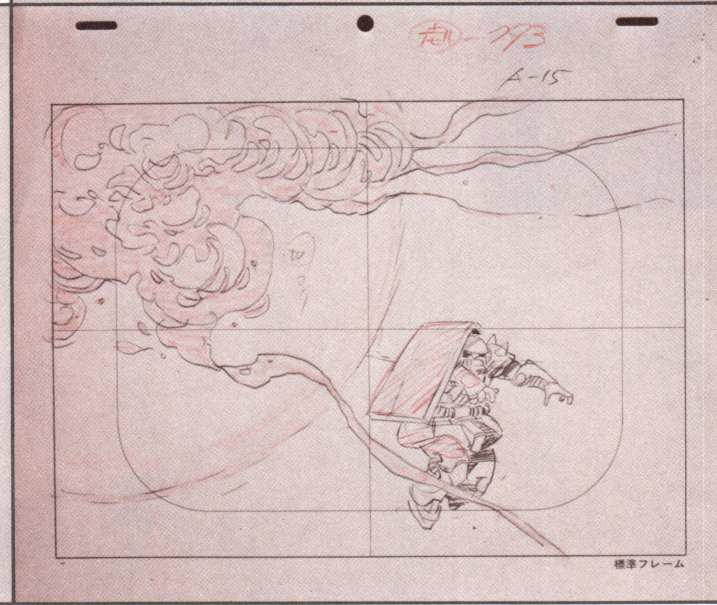
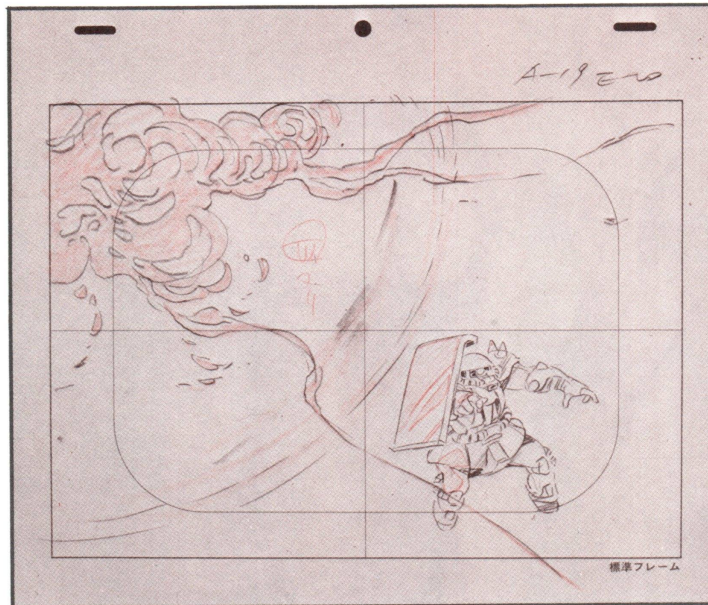
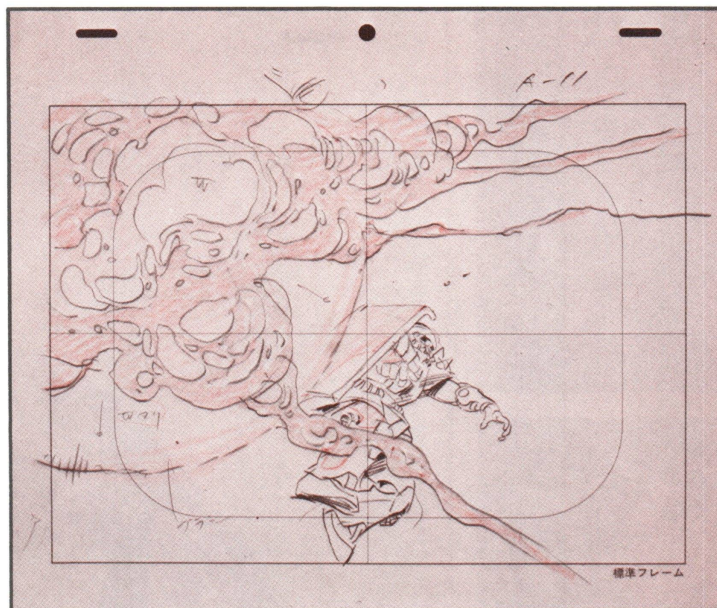
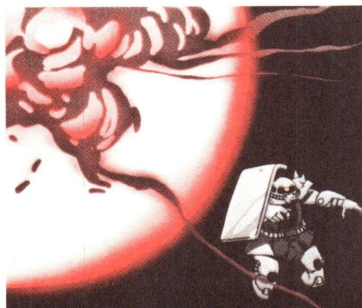
とどめ

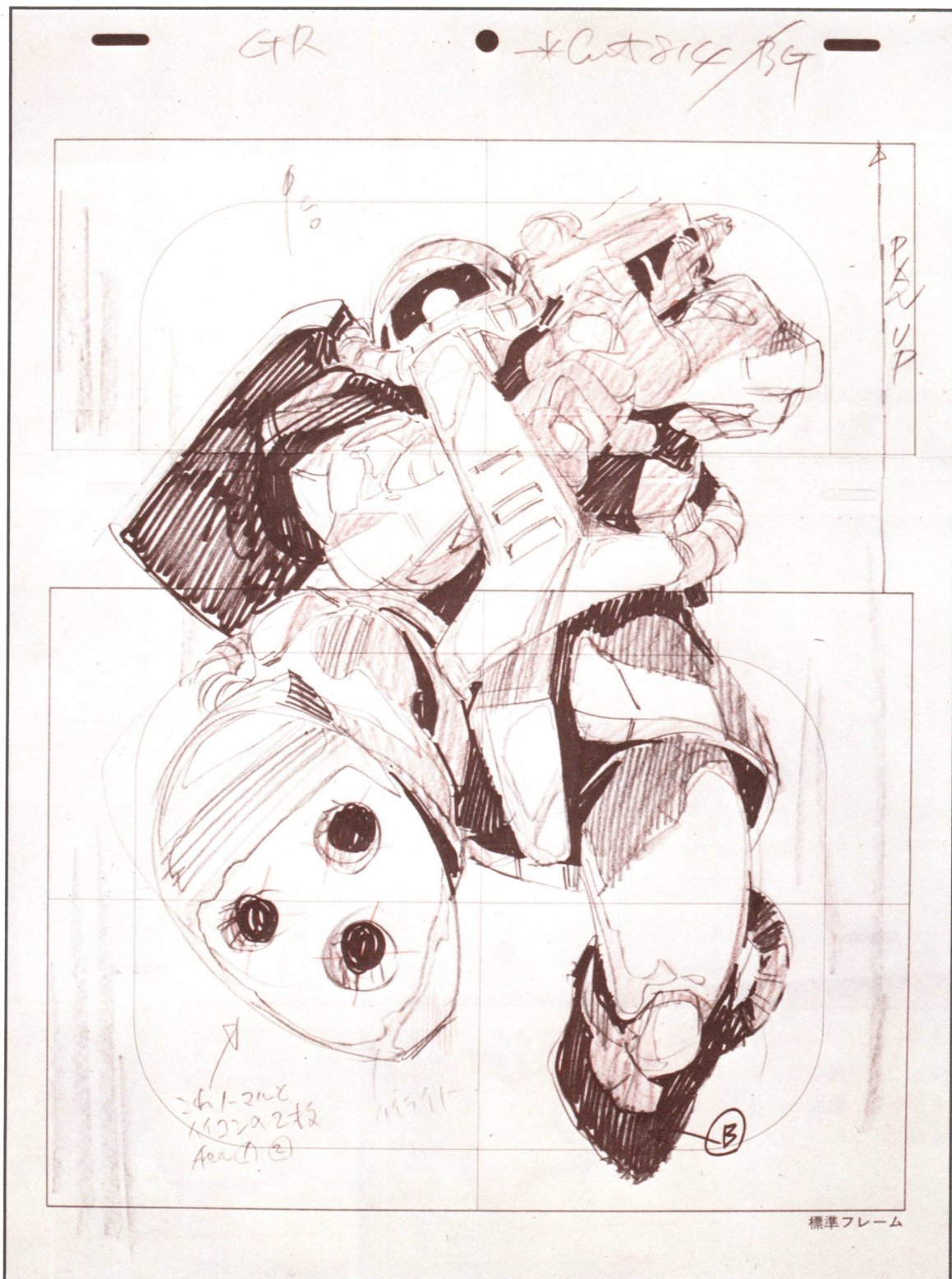
MOBILE SUIT GUNDAM

○「どうする‥‥コクピットだけを，ねらえるのか‥‥」ガンダムの突き出したビームサーベルは，深々とザクの胸に刺さった。地面に倒れたザクに，ガンダムは，さらにとどめの一撃を加える。

セイラとガンダム

MOBILE SUIT GUNDAM

○「に，兄さん‥‥」生き別れの兄らしきジオン兵に出会い，セイラは動揺していた。そこへモビルスーツの足音が。見上げると，巨大なガンダムの姿があった。

○「スーパーナパームを使います。手に乗ってください」ガンダムは，そっと手を出し，包みこむようにしてセイラを持ち上げた。

標準フレーム

標準フレーム

標準フレーム

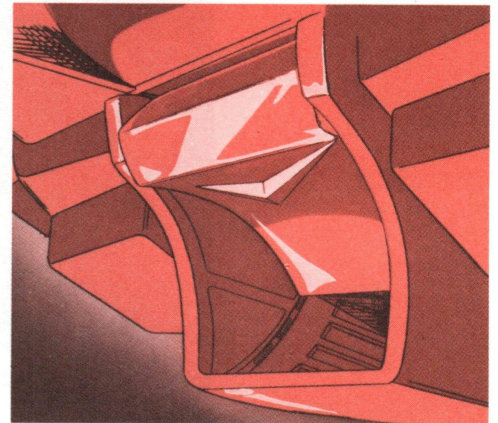
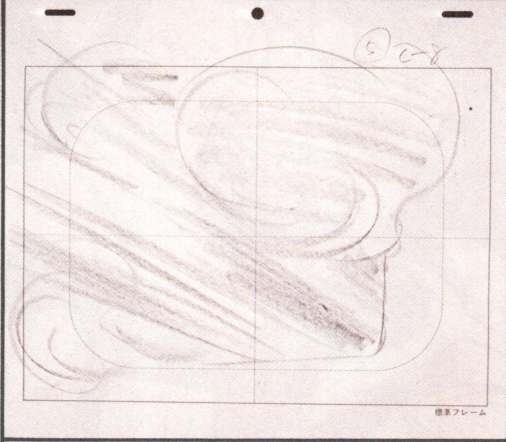
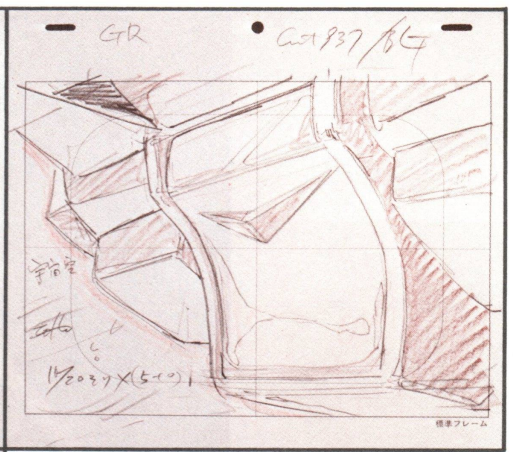
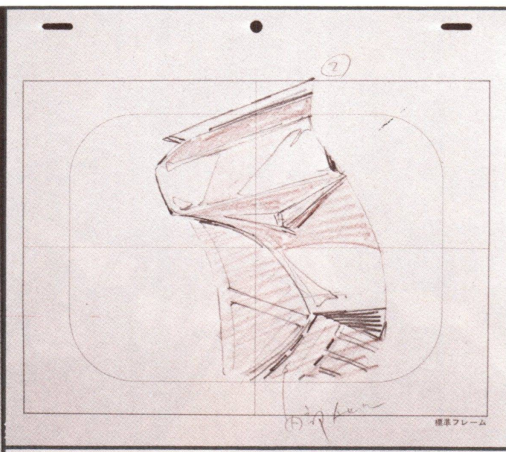
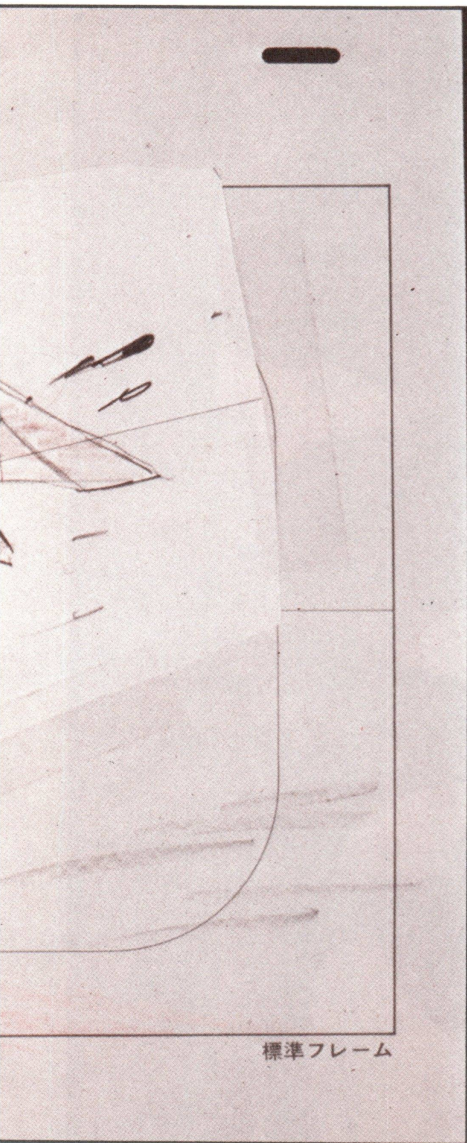
標準フレーム

○大気圏突入をひかえたホワイトベースに，４機のザクが迫る。バズーカのねらいをつけるザク。だが，アムロはその一瞬のすきを見逃さなかった。「うかつな奴め！」ハイパーバズーカの弾丸が，ザクのバズーカを吹きとばした。

○ザクのバズーカの弾帯が，誘爆して大爆発を起こす。さしものザクも，爆風を受けて，よろめいた。

破壊

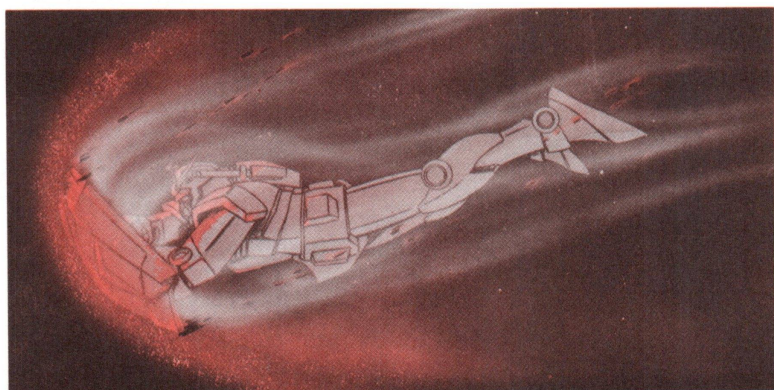
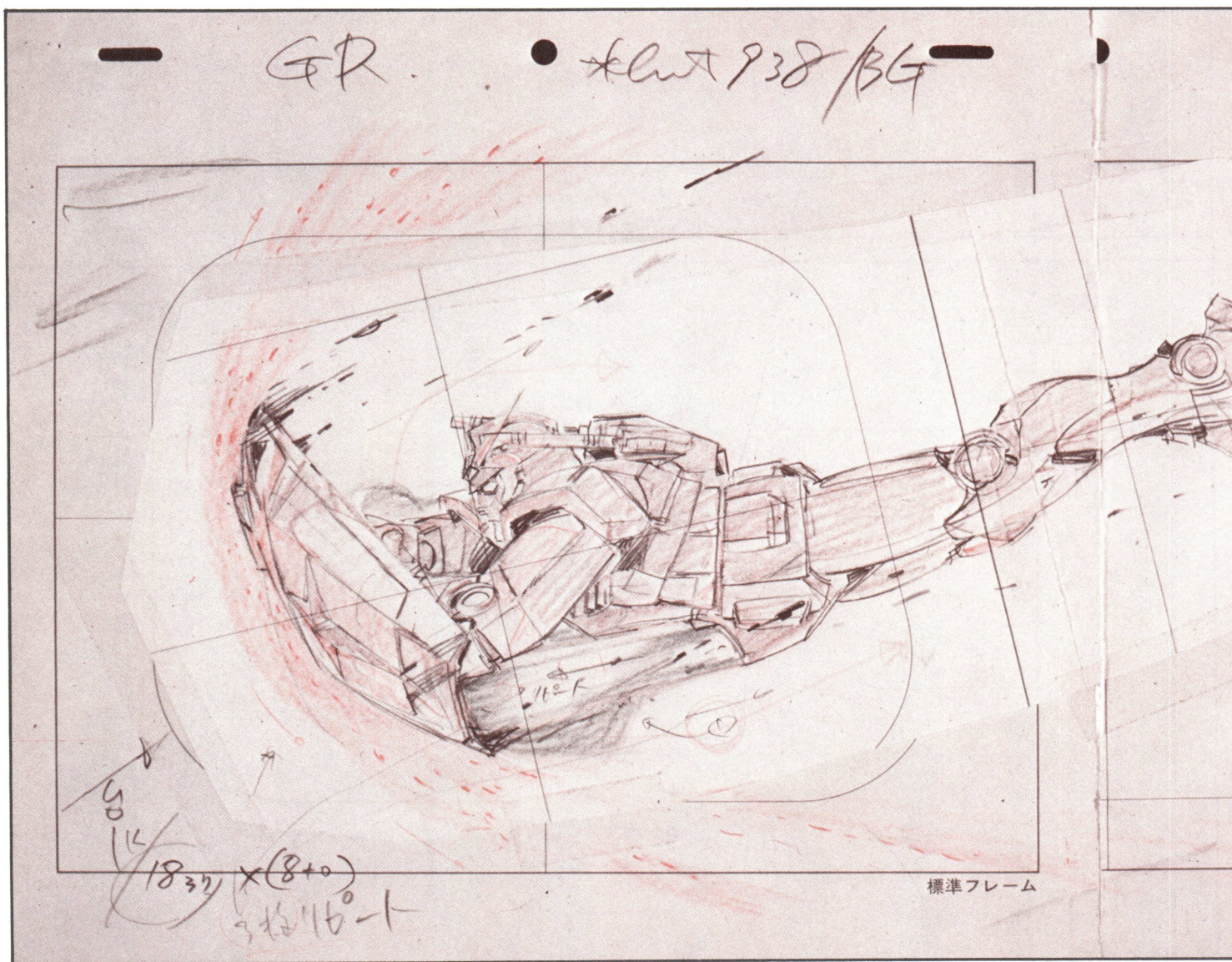
MOBILE SUIT GUNDAM

○マシンガンの銃床をかかげて，ガンダムにザクが迫る。アムロは，とっさにバルカン砲の引き金を引いた。

標準フレーム

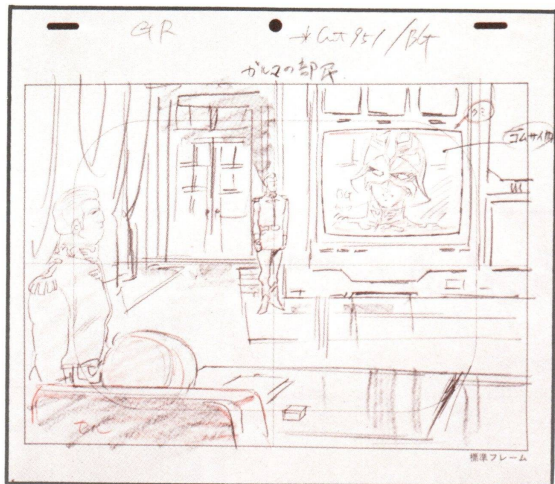
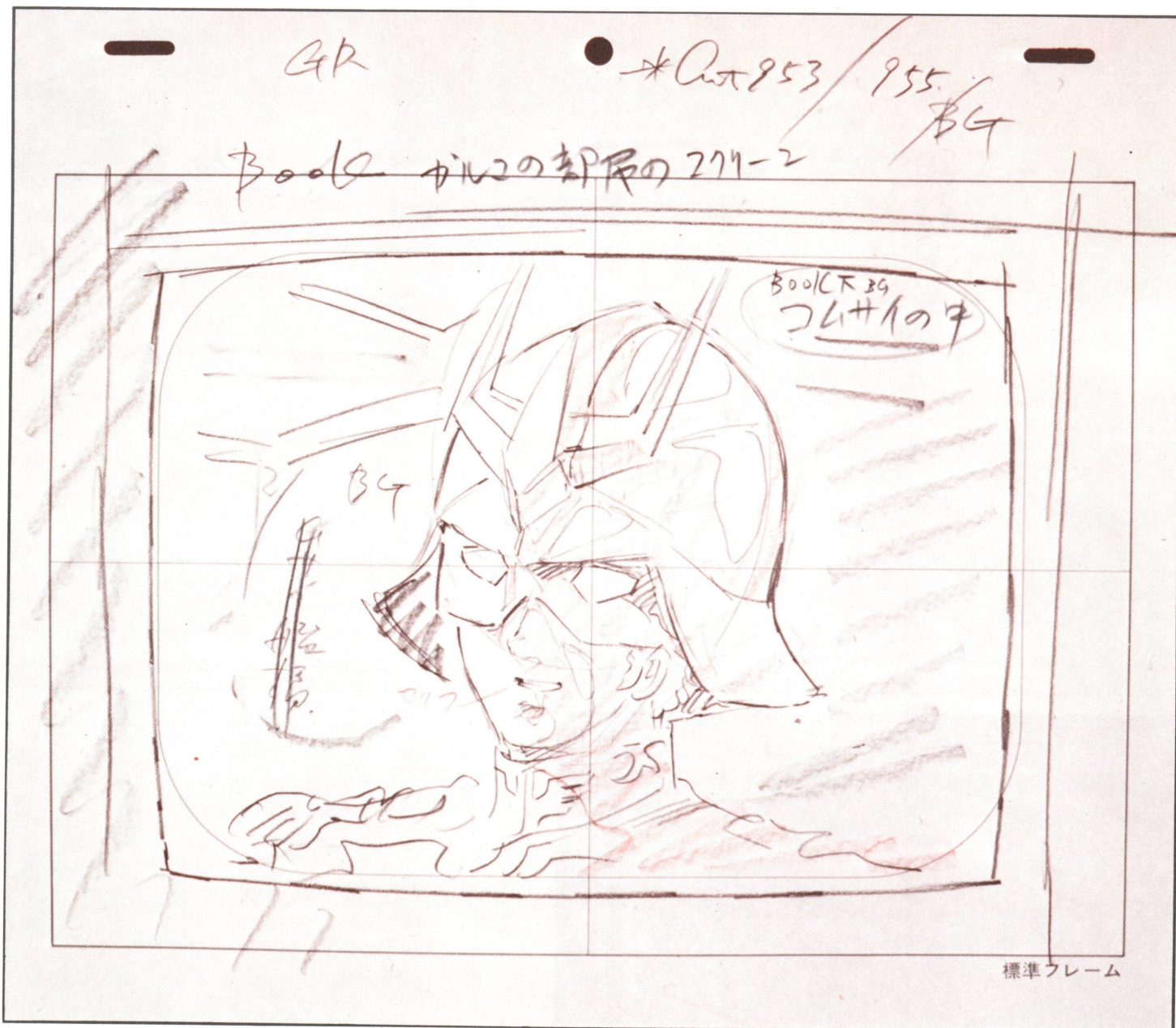
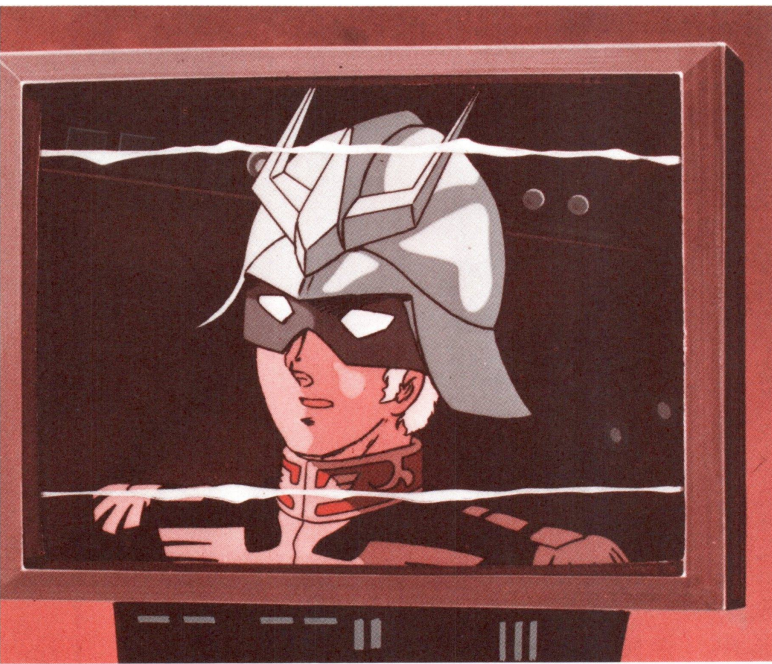
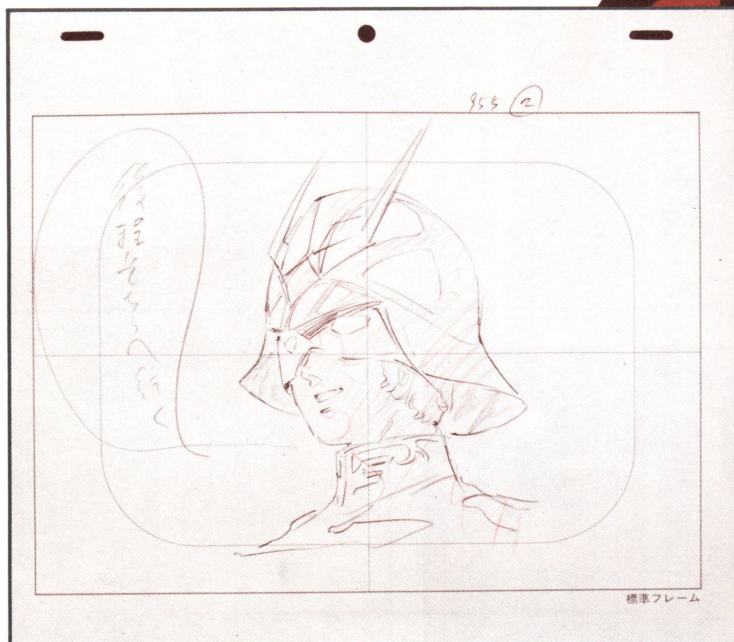
○「あ，あんな所にバルカン砲が！」ジェイキューの悲鳴とともに，ザクは四散した。

耐熱フィールド

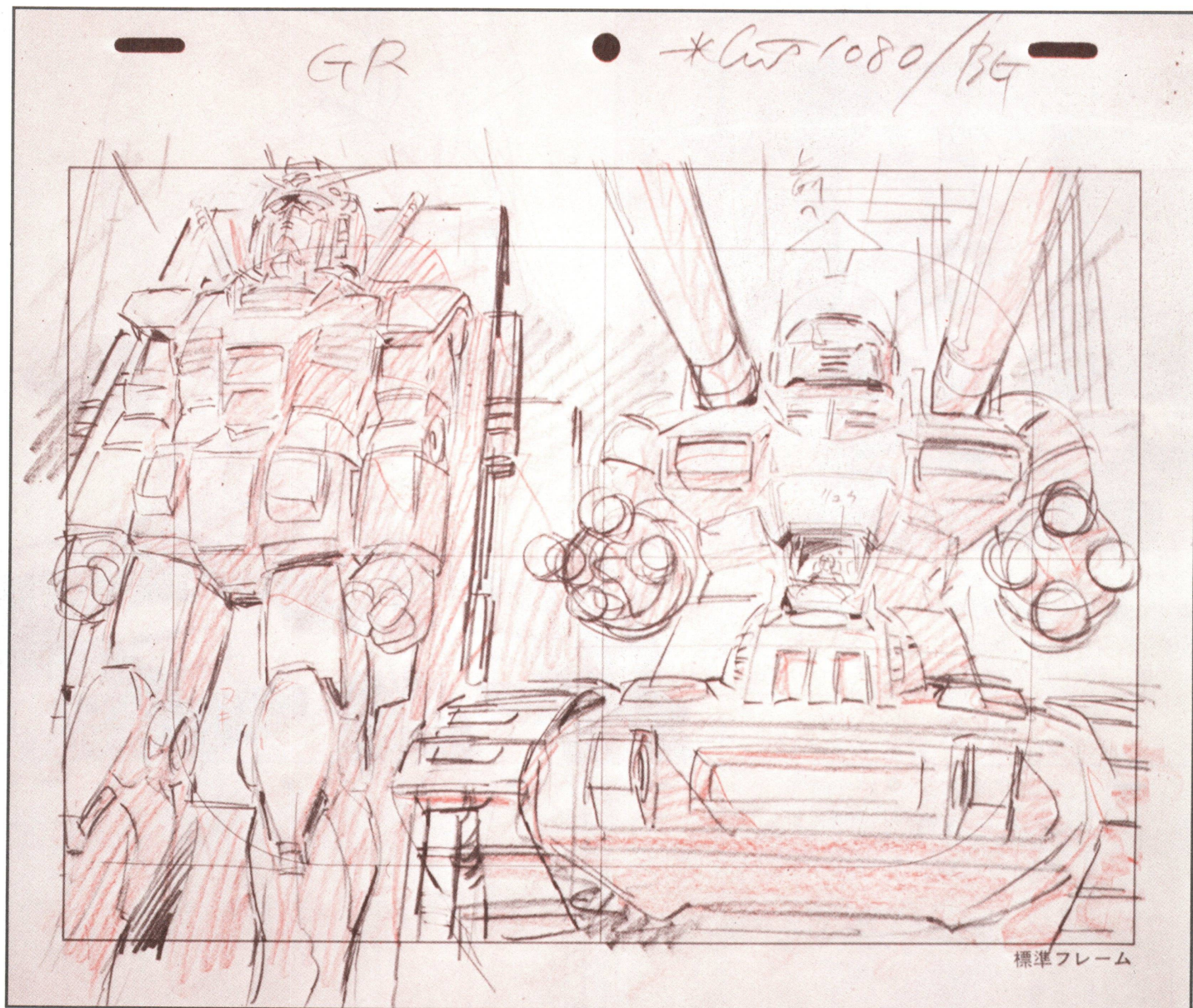
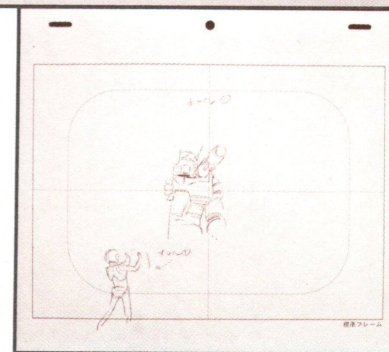
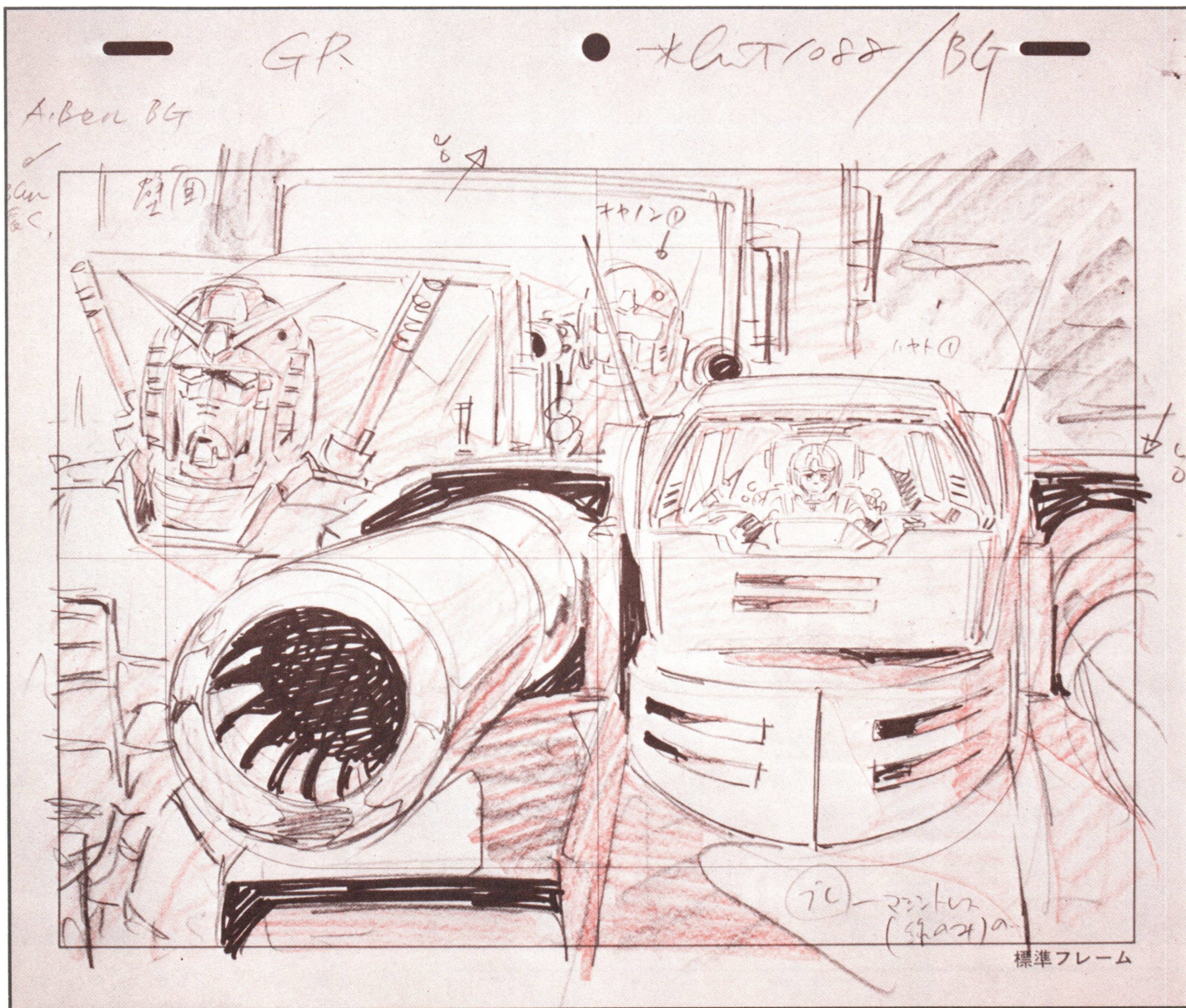
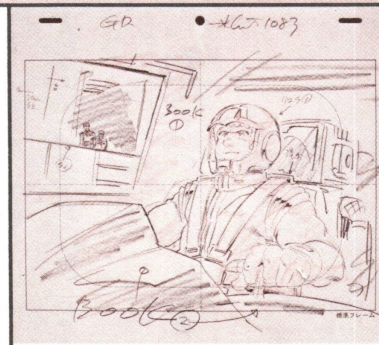
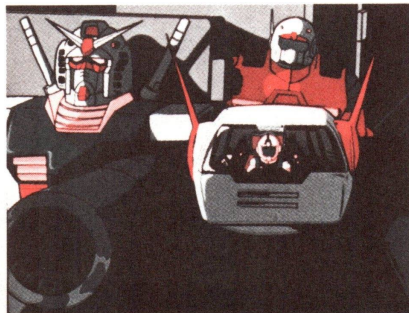
MOBILE SUIT GUNDAM

○大気圏に突入したガンダムの機体が，大気との摩擦で赤熱し始めた。「あった！　大気圏突破の方法が。間に合うのか‥‥姿勢制御，冷却シフト，全回路接続。耐熱フィールド！」

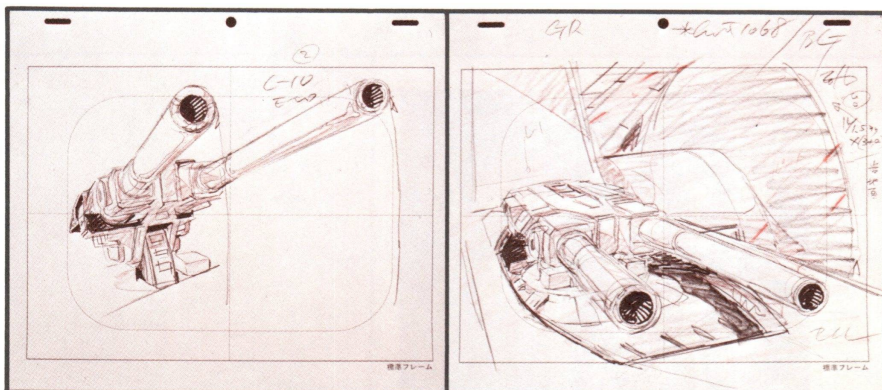
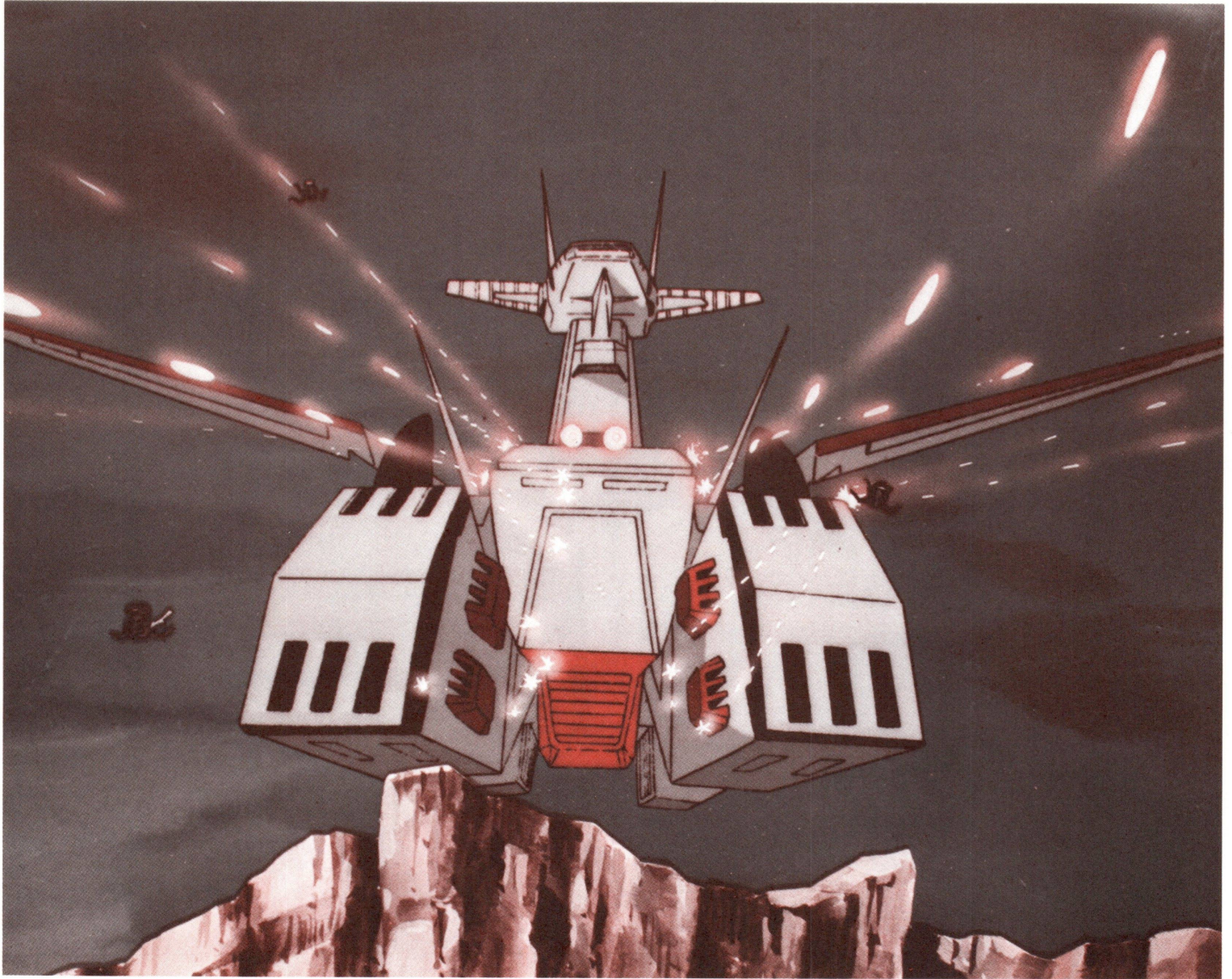
◀ＴＶ版で使用された耐熱フィルム。

○耐熱エアが噴射され，ガンダムシールドにはねかえって，ガンダムの全身を冷却していく。「もつのか‥‥これで‥‥」シールドは，ボロボロに焼けただれるが，ガンダムは無事だ。

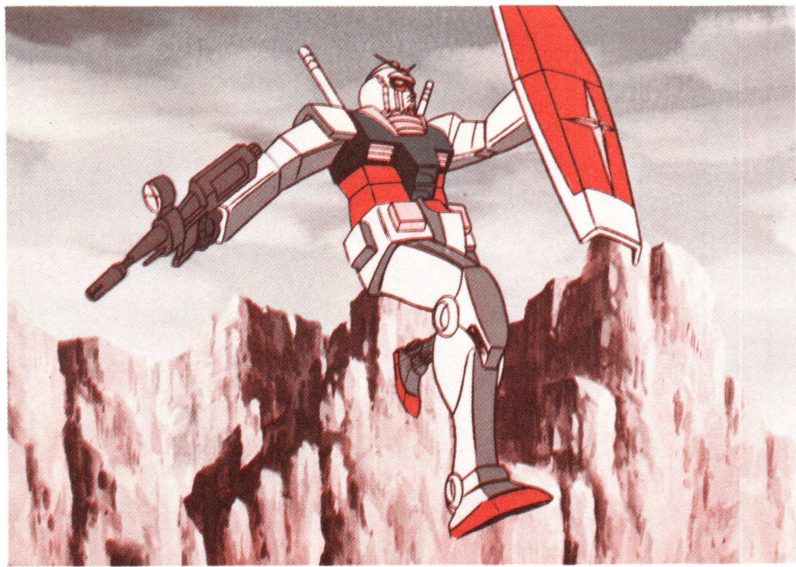
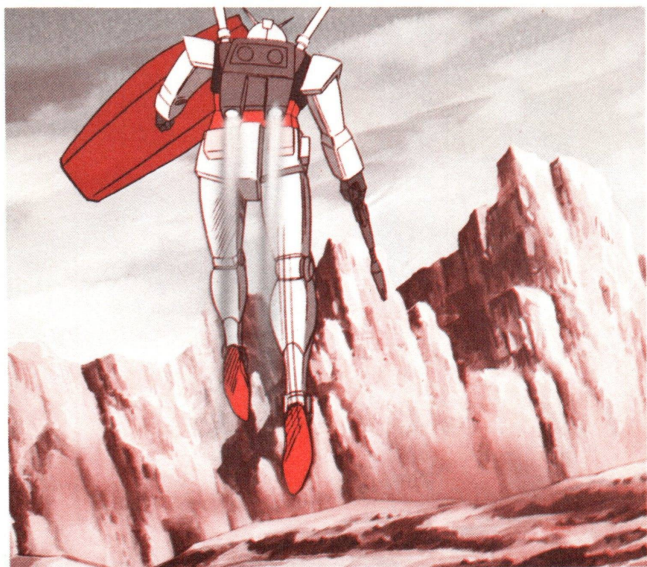
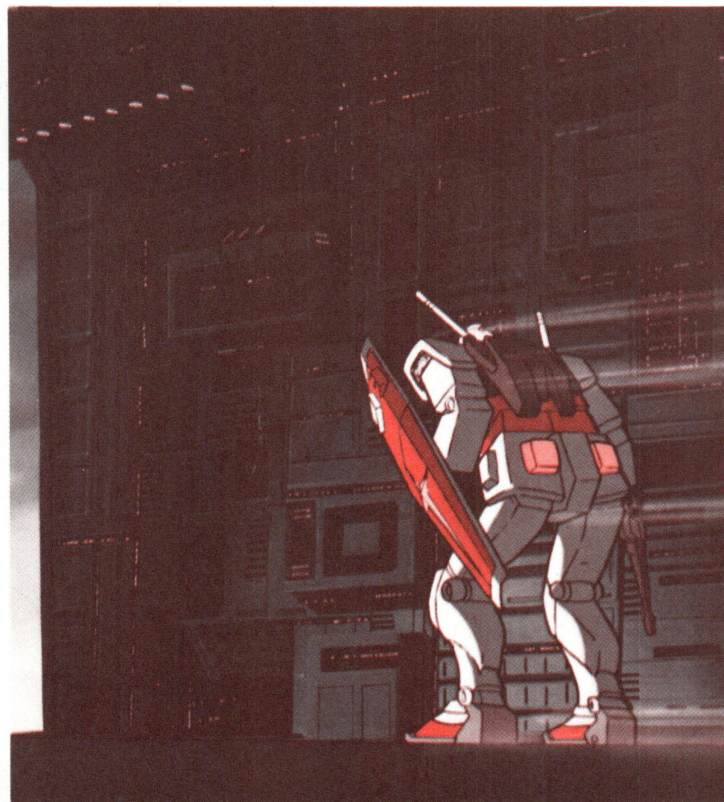
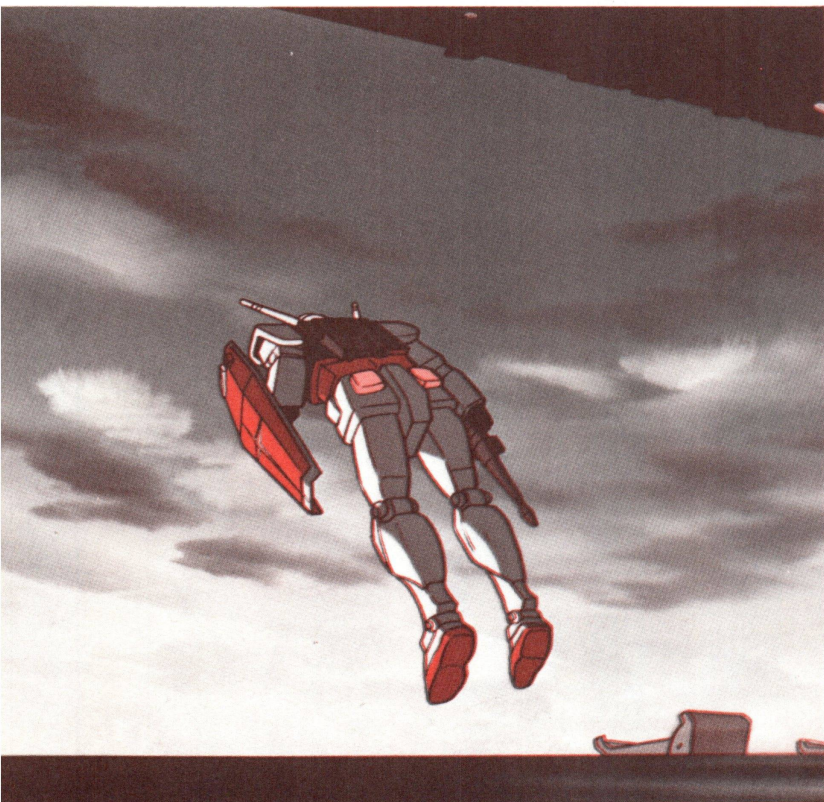
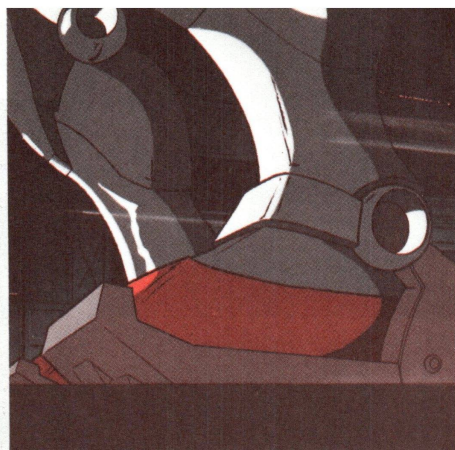
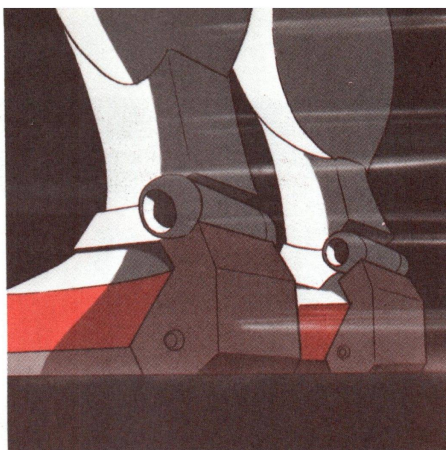
連絡

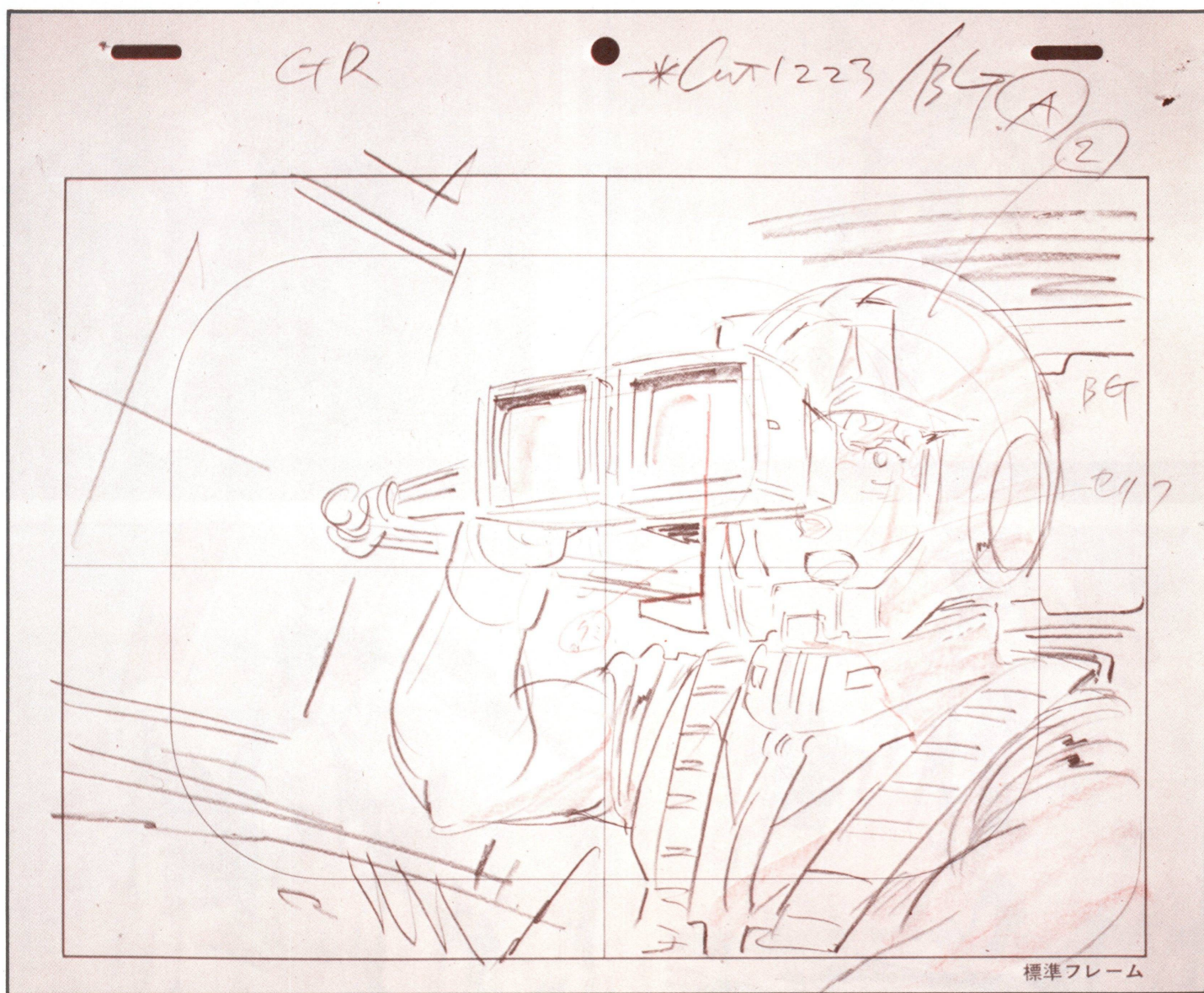
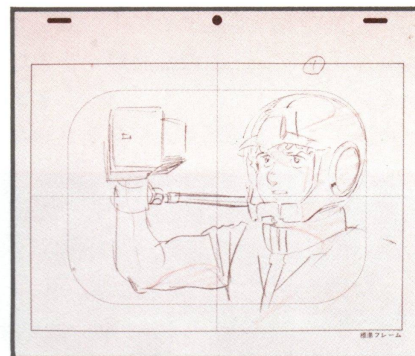
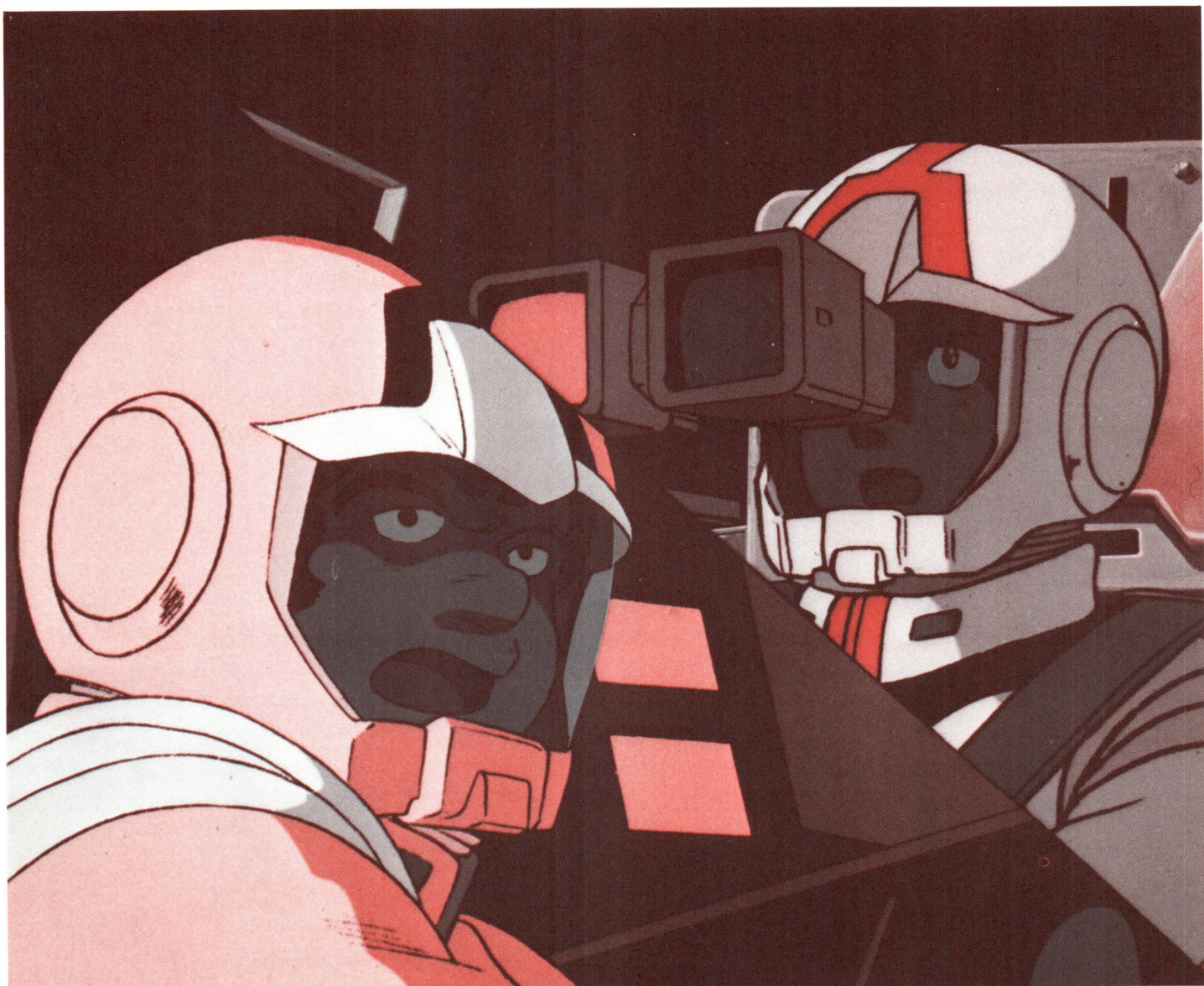
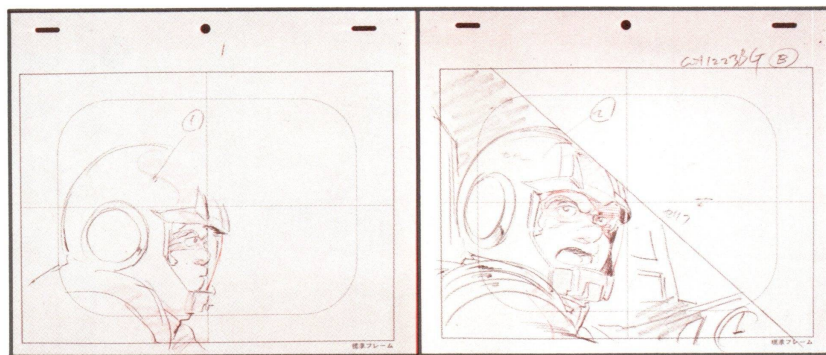
MOBILE SUIT GUNDAM

○ガンダムが大気圏を突破していくのを見たシャアは，大陸のガルマ・ザビ大佐を呼び出すように命じた。「よう，なんだい？　赤い彗星。」「その呼び名は返上しなくちゃならんようだよ，ガルマ・ザビ大佐。」

○「フフ‥‥珍しく弱気じゃないか。」「敵のＶ作戦って聞いたことあるだろう？　その正体をつきとめたんだがね。そちらにおびきこみはした。君の手柄にするんだな。のちほど，そちらへ行く。」

出撃

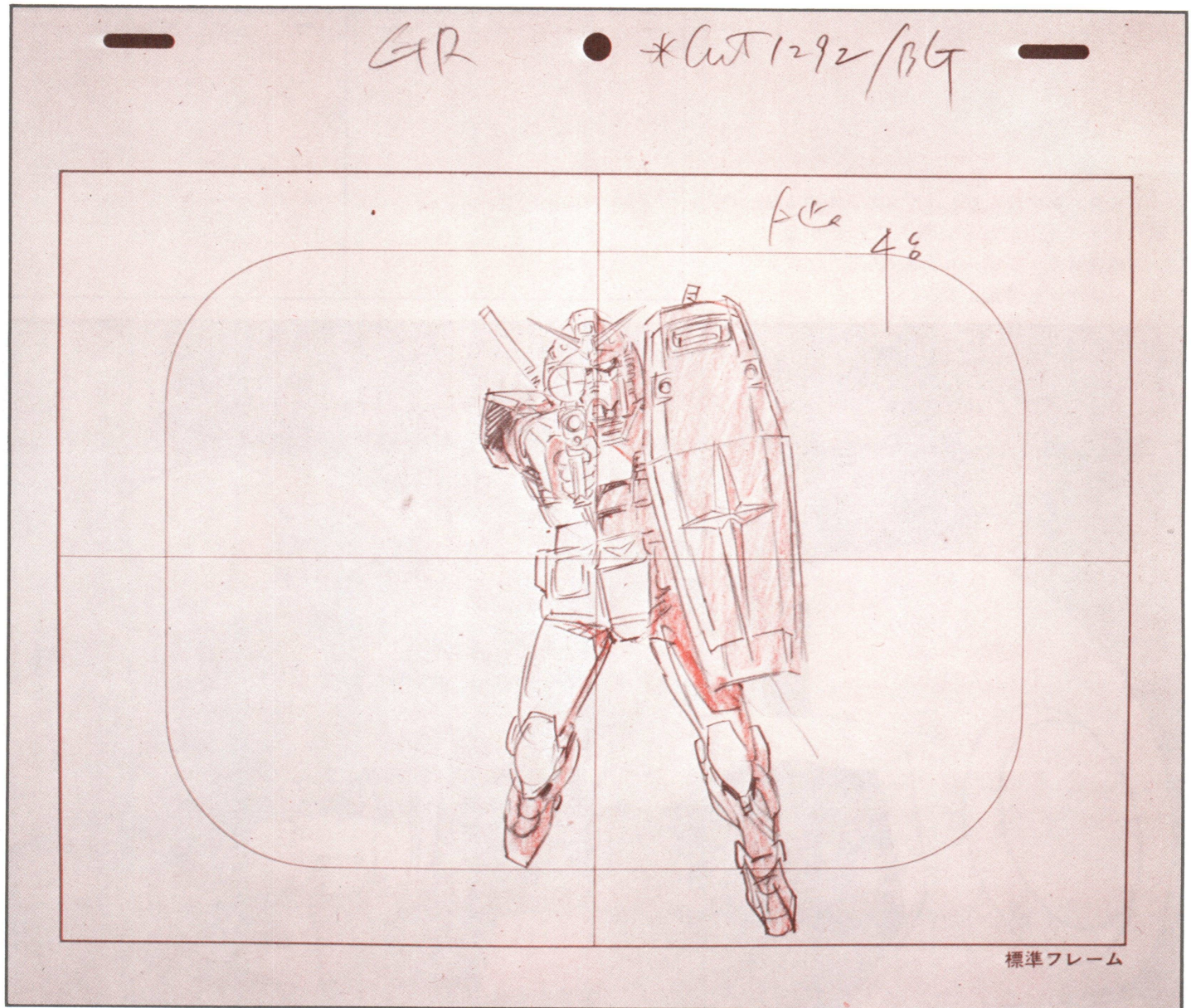
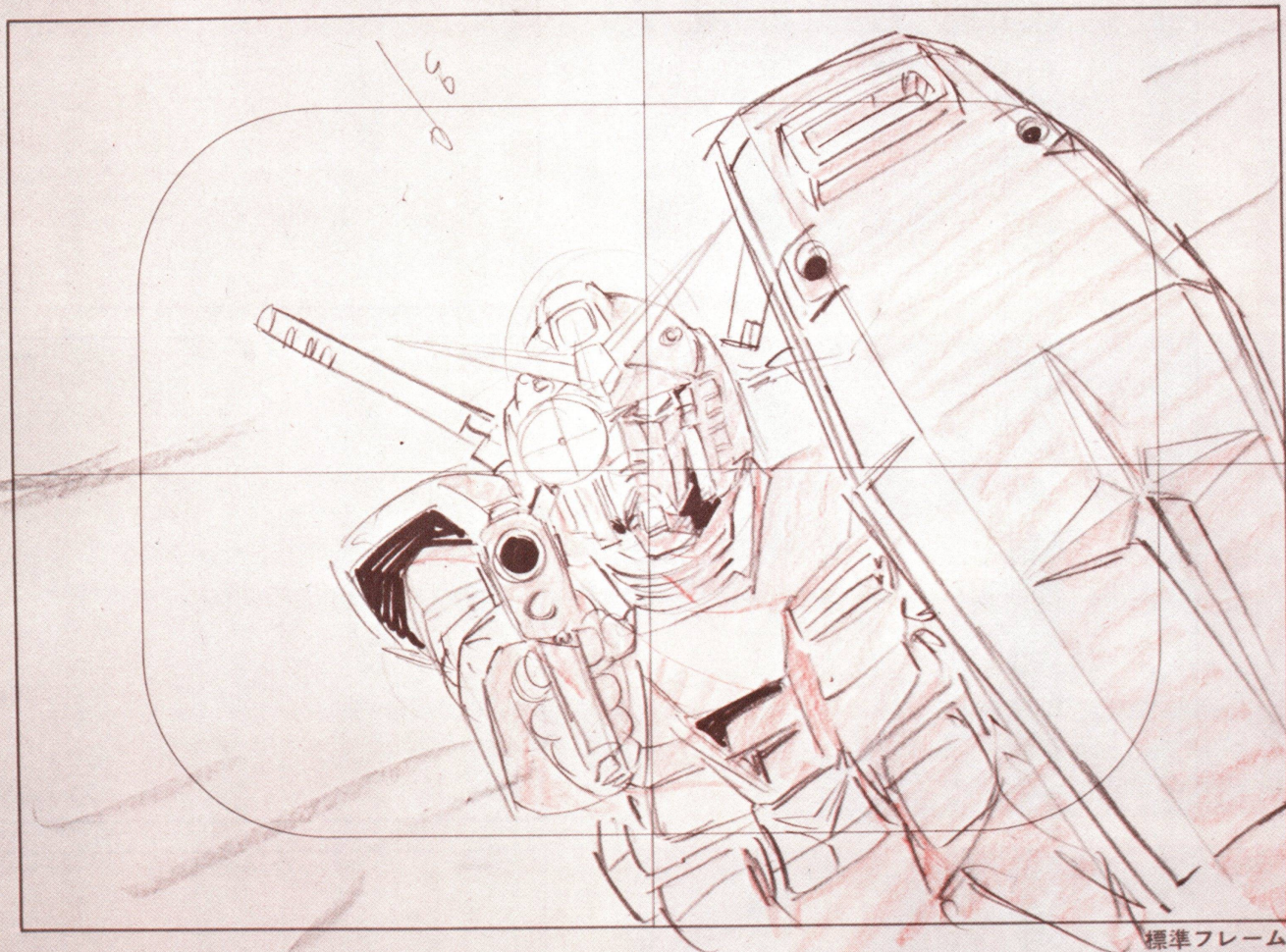
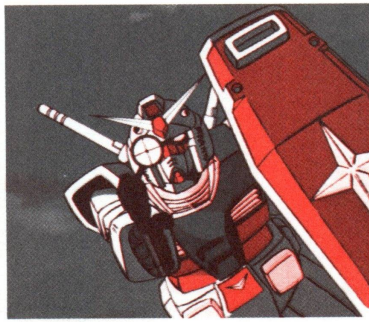
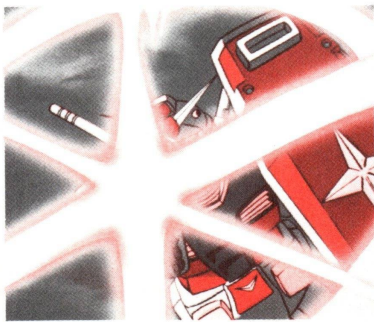
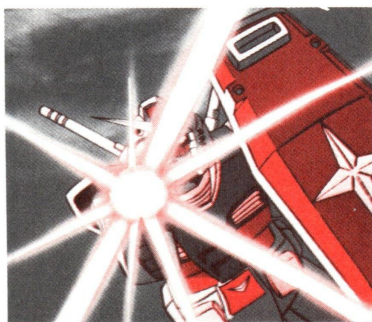
MOBILE SUIT GUNDAM

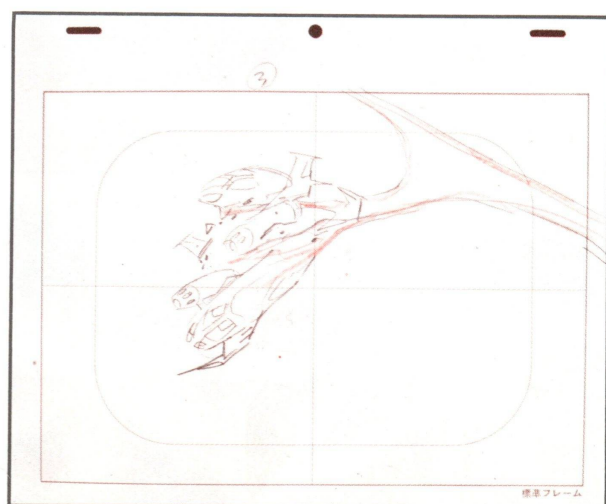
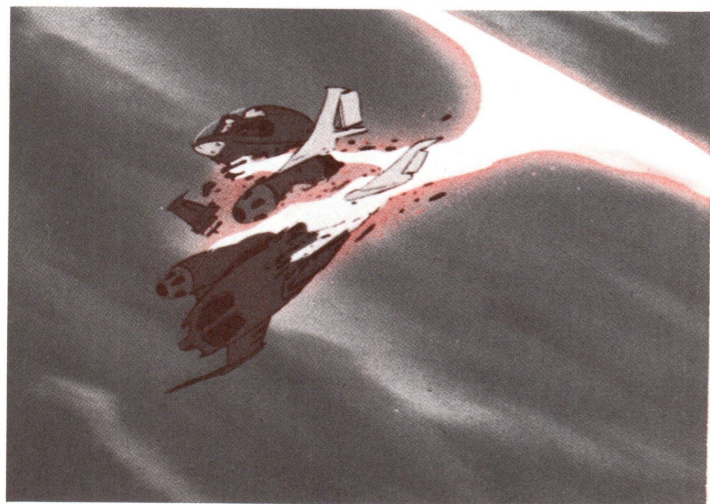
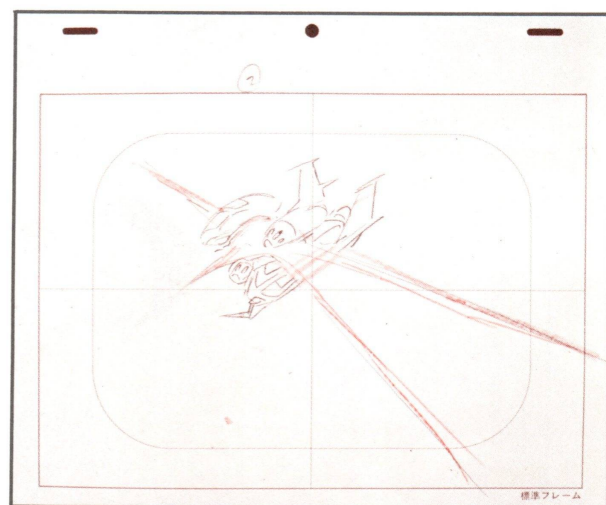
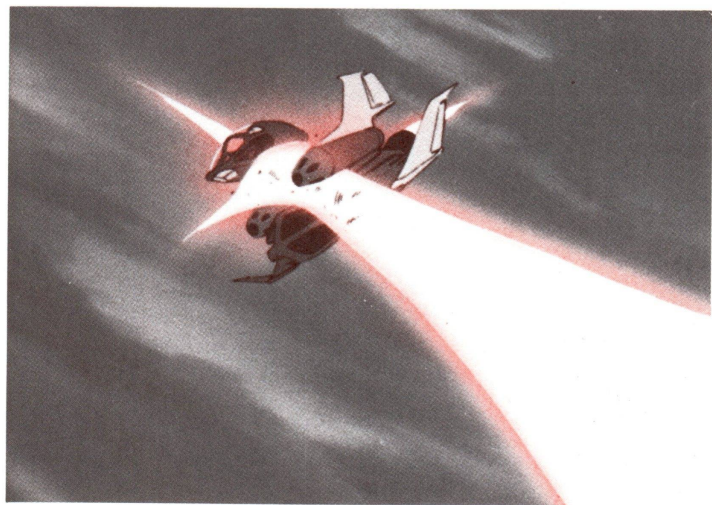
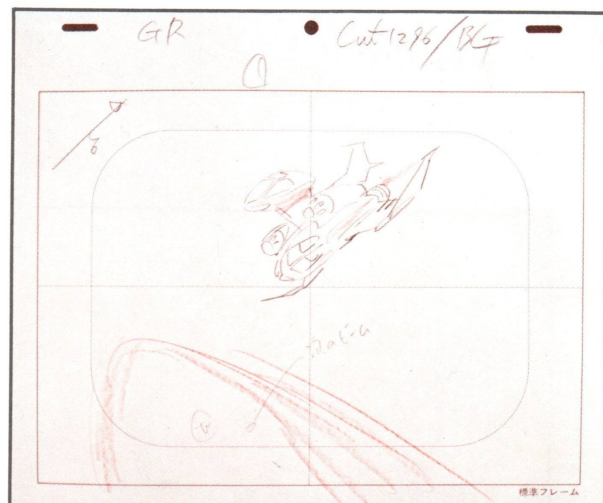
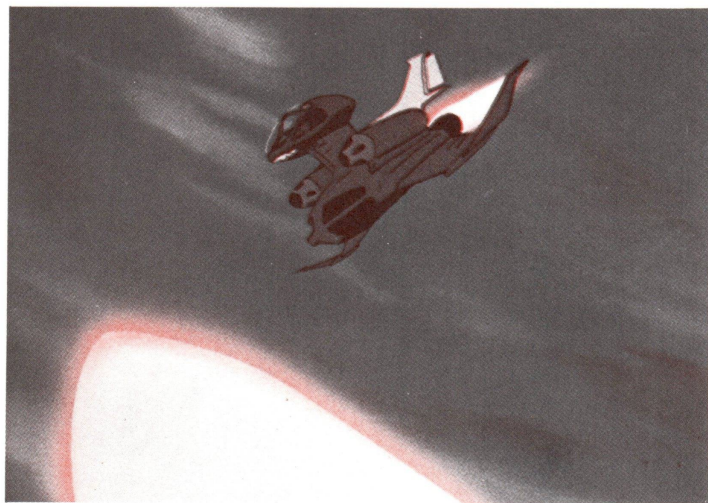
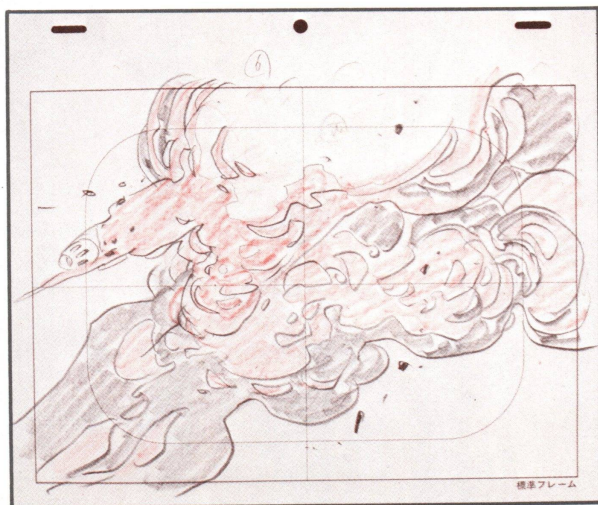
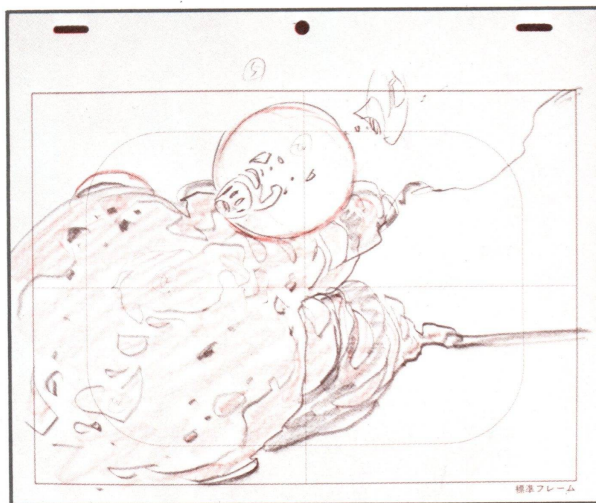
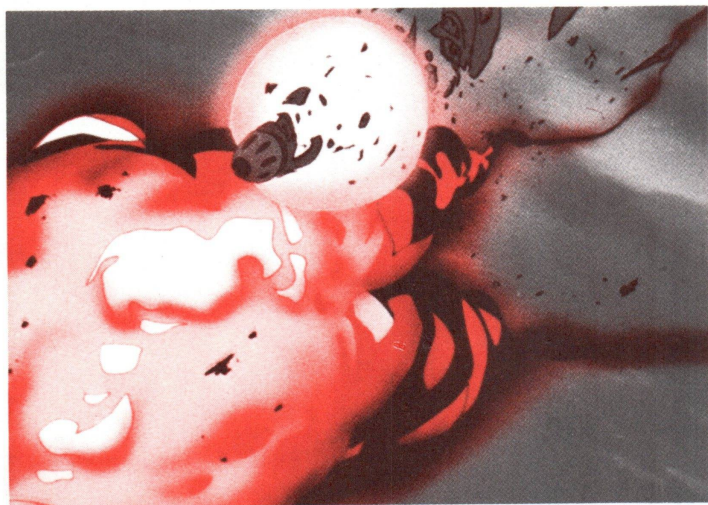
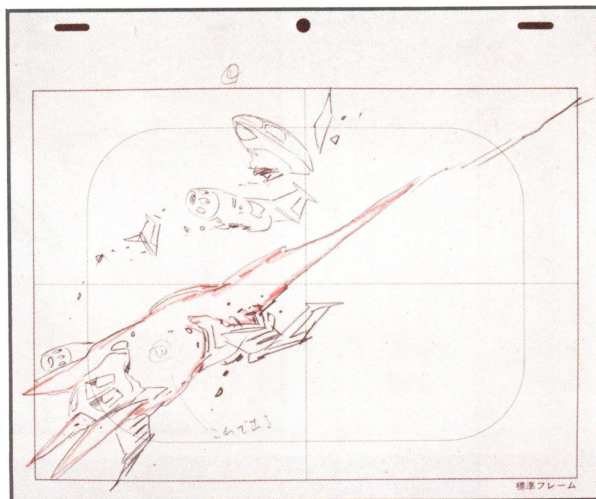
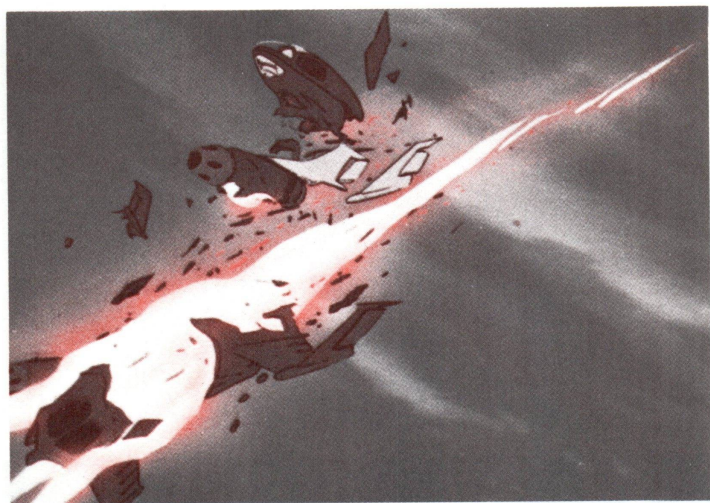
標準フレーム

○地球へおり立ったホワイトベースは，ガルマ隊の猛攻撃を受けた。「オーライ，オーライ！　ガンタンクは出られるぞ！」メカマンのオムルの誘導で，ガンタンクはデッキを前進する。

○「ブリッジ，聞こえるか！　ガンタンク，出撃するぞ。ハヤト，いいな。わかるか？」「わかります。任せてよ」リュウが操縦，ハヤトが砲撃手を受け持って，ガンタンクが援護に出た。

発進

MOBILE SUIT GUNDAM

○次々と飛来するドップ戦闘機の群れ。地上にはマゼラアタック戦車部隊。ホワイトベースは，主砲と対空砲火で応戦するが，攻撃はやむことを知らない。

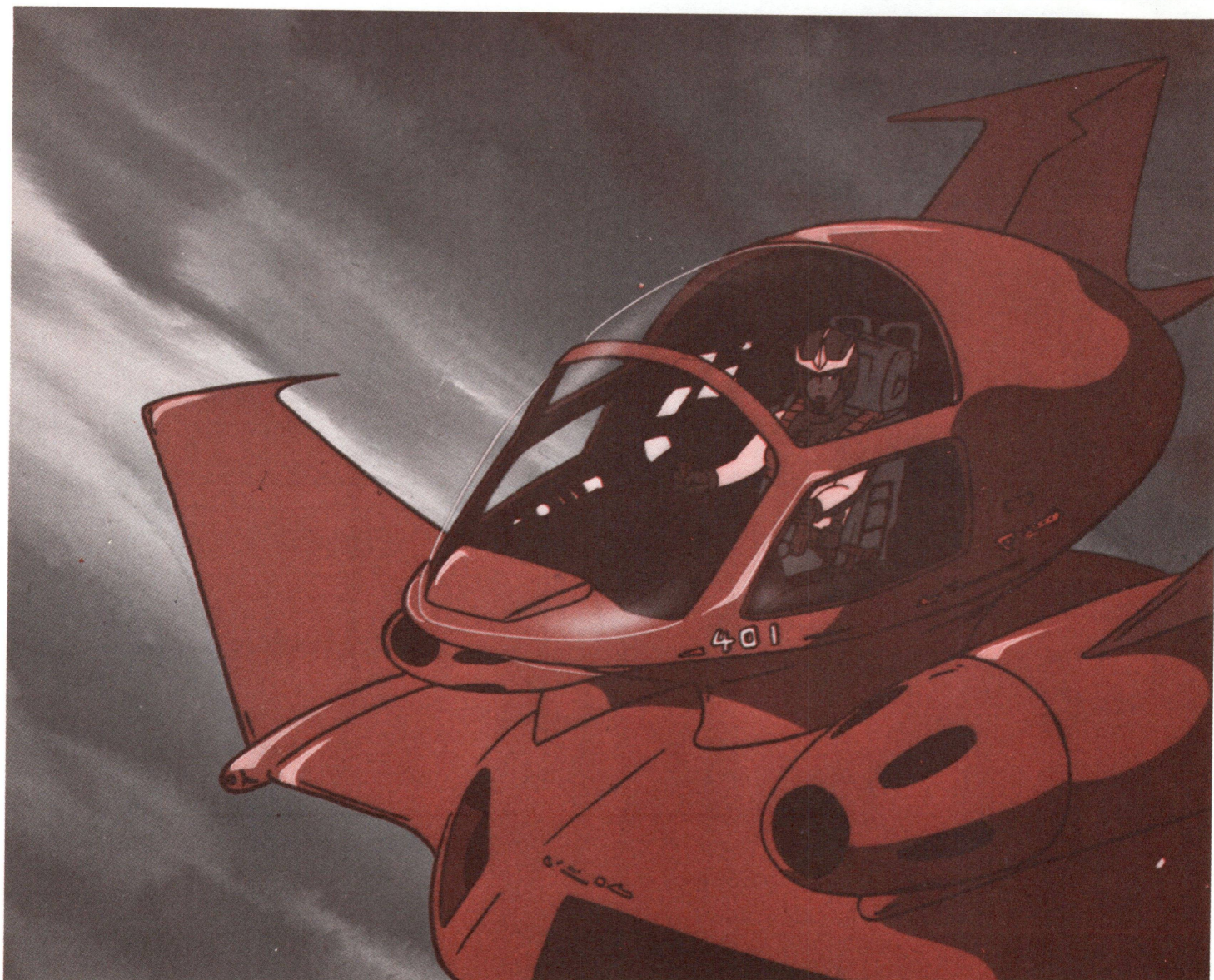
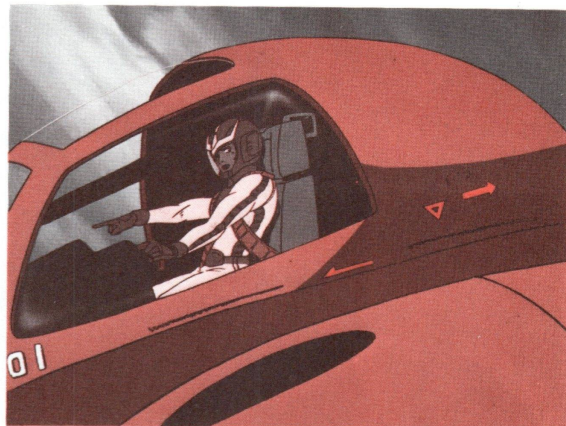
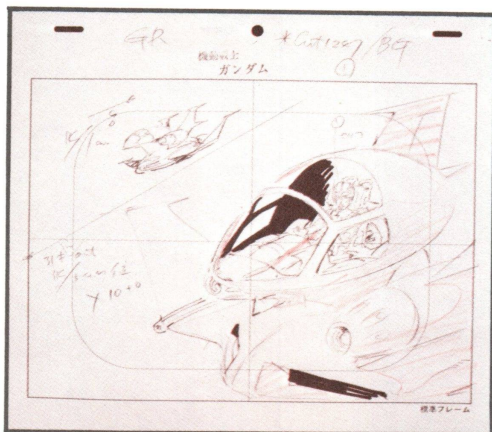
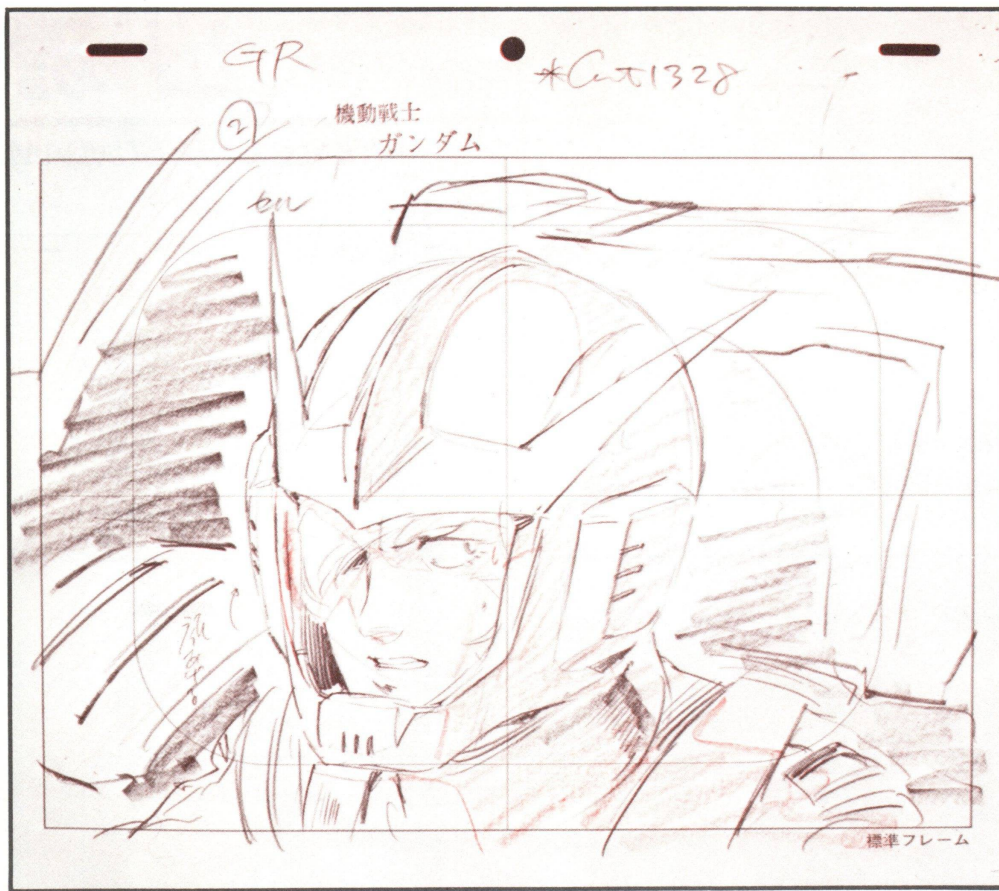
○「発進です。進路クリア！　気をつけてね，アムロ」「はい。どこの進路がクリアだと？　敵がいないとでもいうのか！　‥‥いきまーす！」ついに，アムロはガンダムを発進させた。

○アムロは，スコープをセットして，マゼラアタックにビームライフルのねらいをつける。

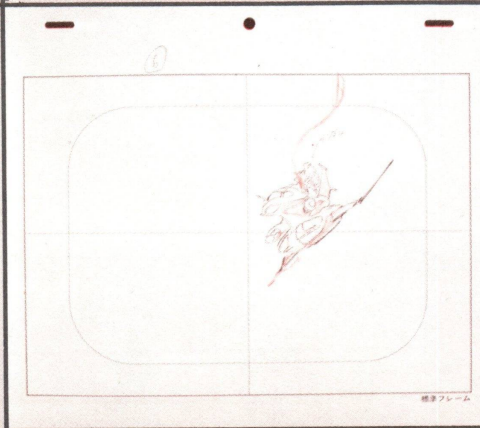
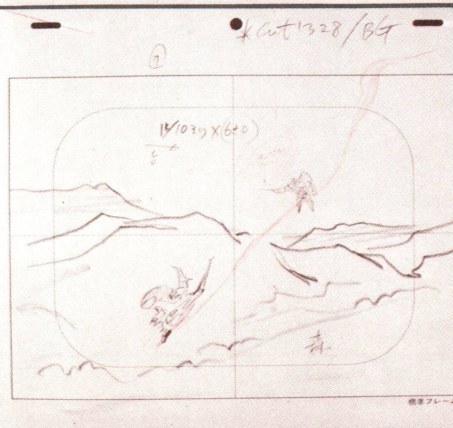
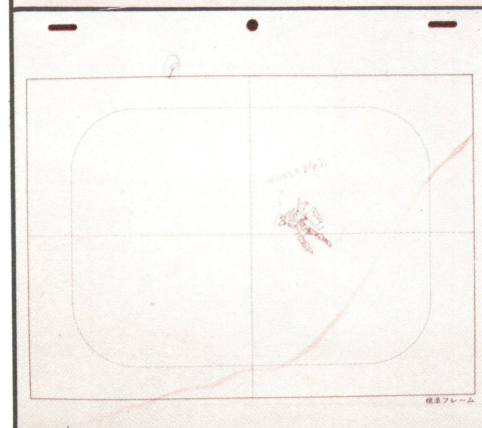
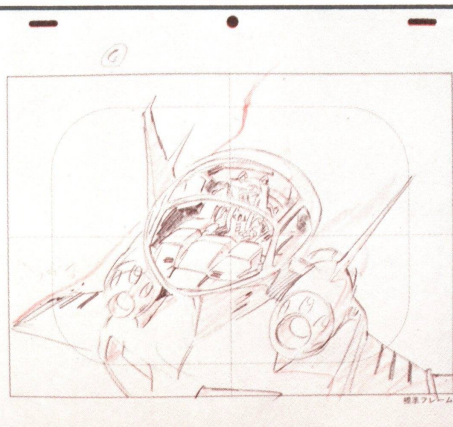
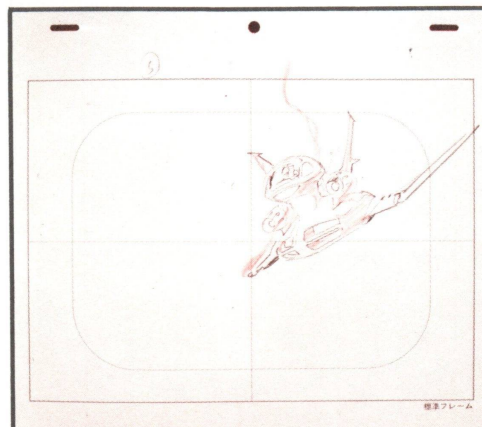
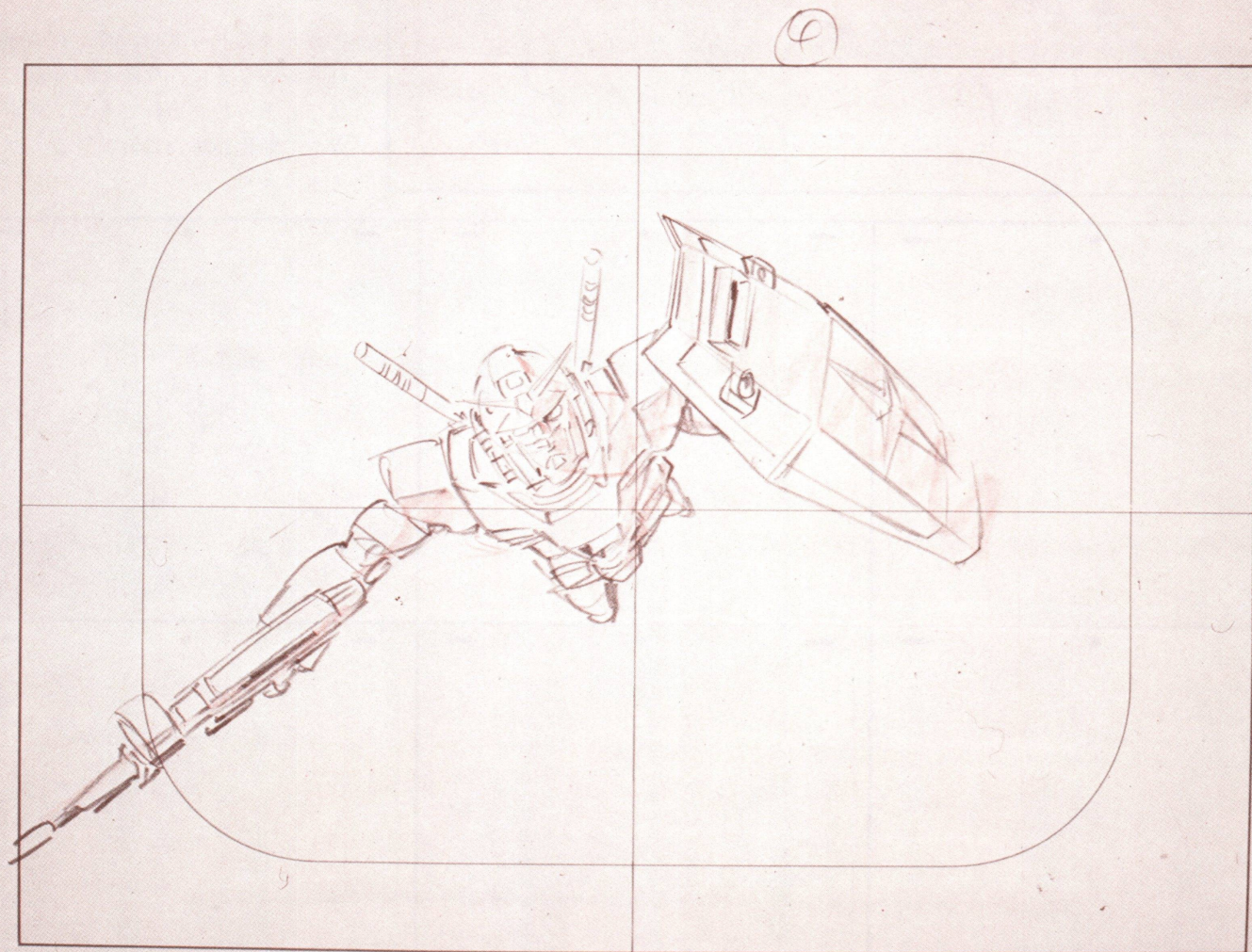
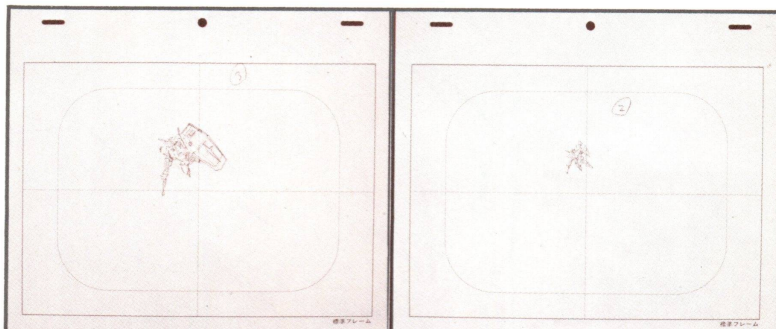
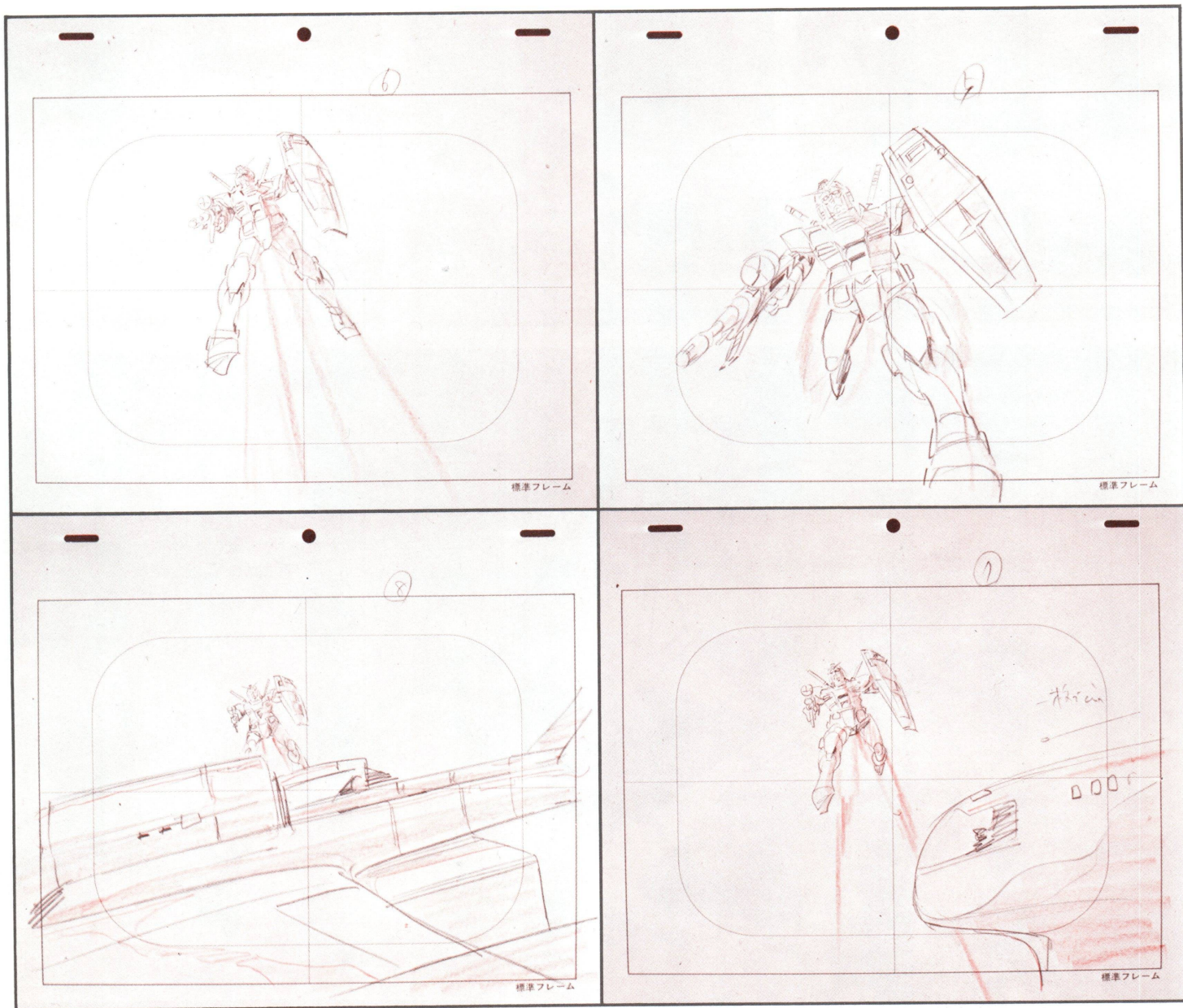
GR
*Cut 1223 / BG Ⓐ ②
BG
セリフ
標準フレーム

○「リュウ，さがれ。あとはガンダムがやる。」「頼むぜ！　カイがねらい撃ちされそうなんだ。」連続発射されるビームライフルに，マゼラアタックは次々と爆発していく。

翔べ！ガンダム

MOBILE SUIT GUNDAM

○空中高く躍り上がったガンダム。「そこだ！」ビームライフルが，ドップに向かって放たれた。高エネルギーの粒子が，光の噴流となって直進する。

標準フレーム

爆発

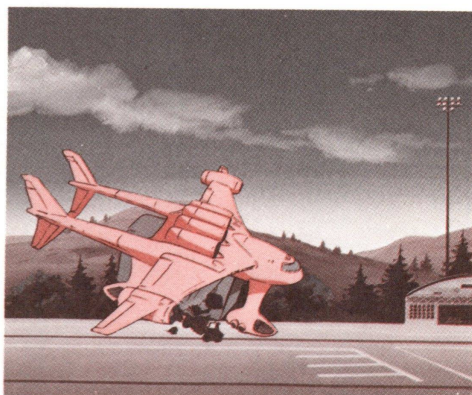
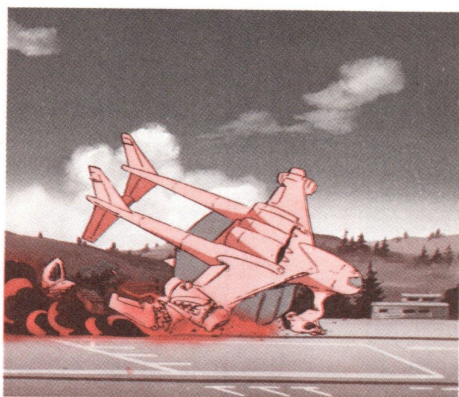
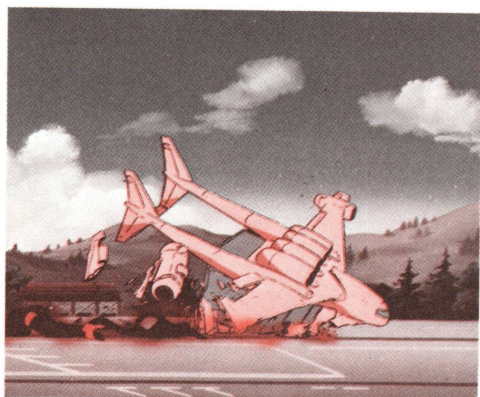
MOBILE SUIT GUNDAM

○光の束が，ドップをつらぬいた。ドップは，ばらばらに分解しはじめ，燃料に火が回って大爆発を起こした。

ガルマ専用ドップ

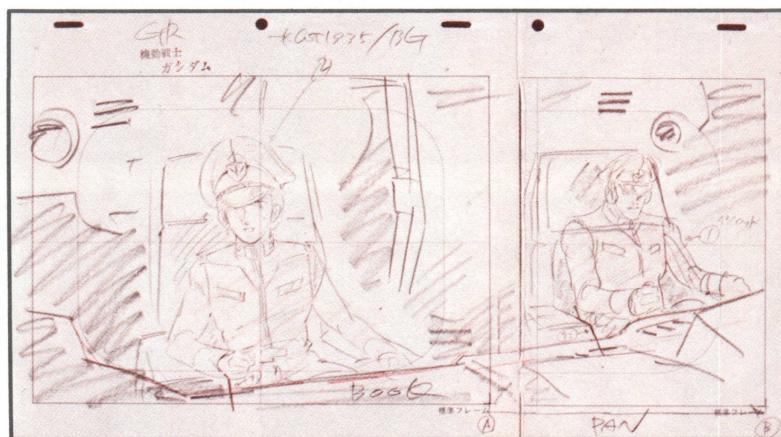
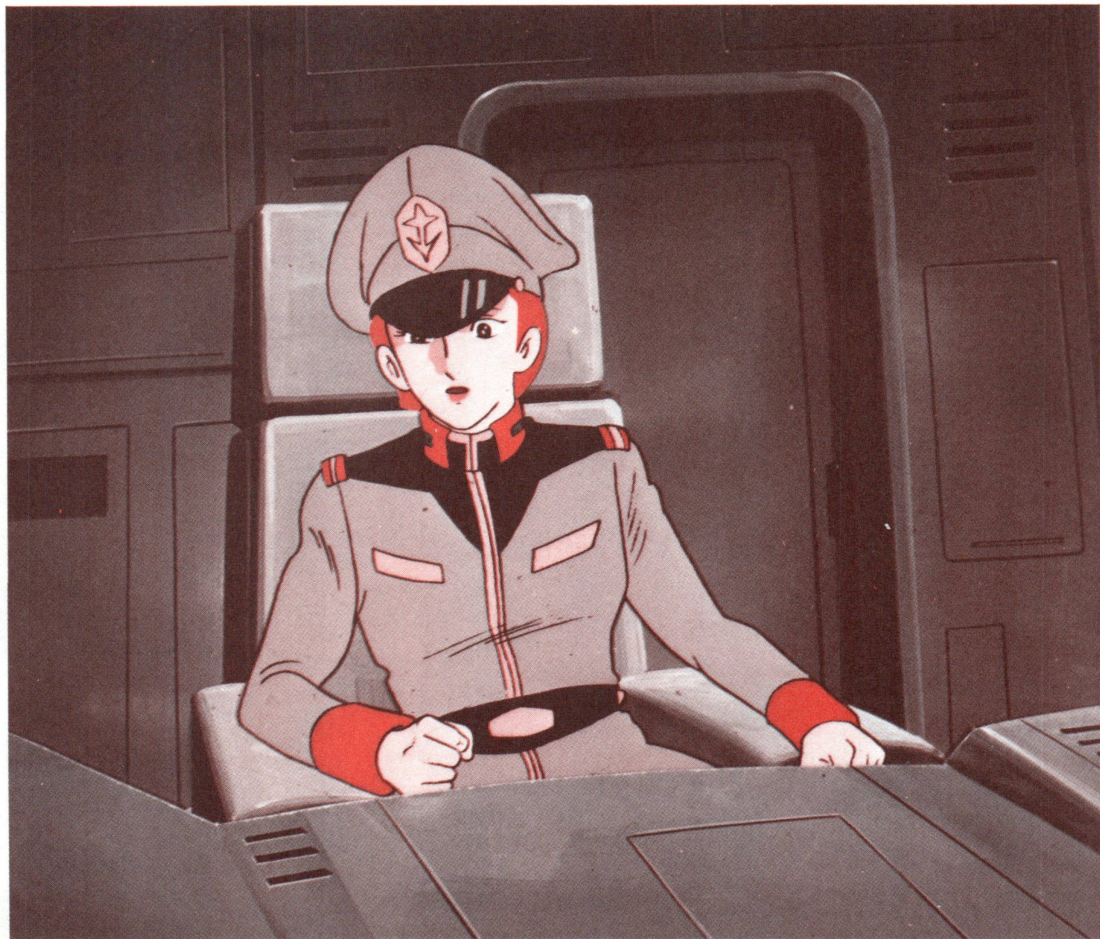
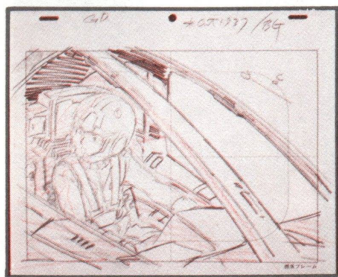
MOBILE SUIT GUNDAM

○姉のキシリアへの立場上，ガルマも出撃せざるをえなかった。通常のドップと異なり，ガルマのドップは茶色をしている。

○ガルマのドップは，ガンダムとすれちがいざまに，片翼を切り落とされてしまった。それでもガンダムをガウの射程距離内におびきこもうとするガルマ。

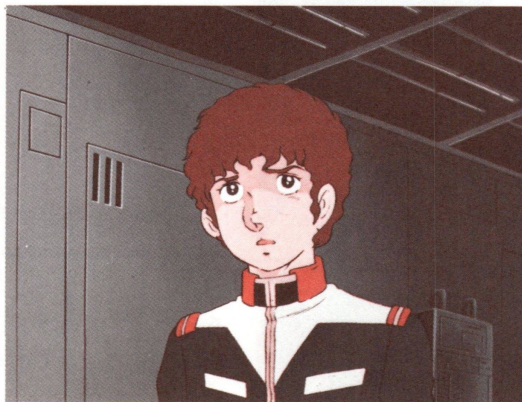
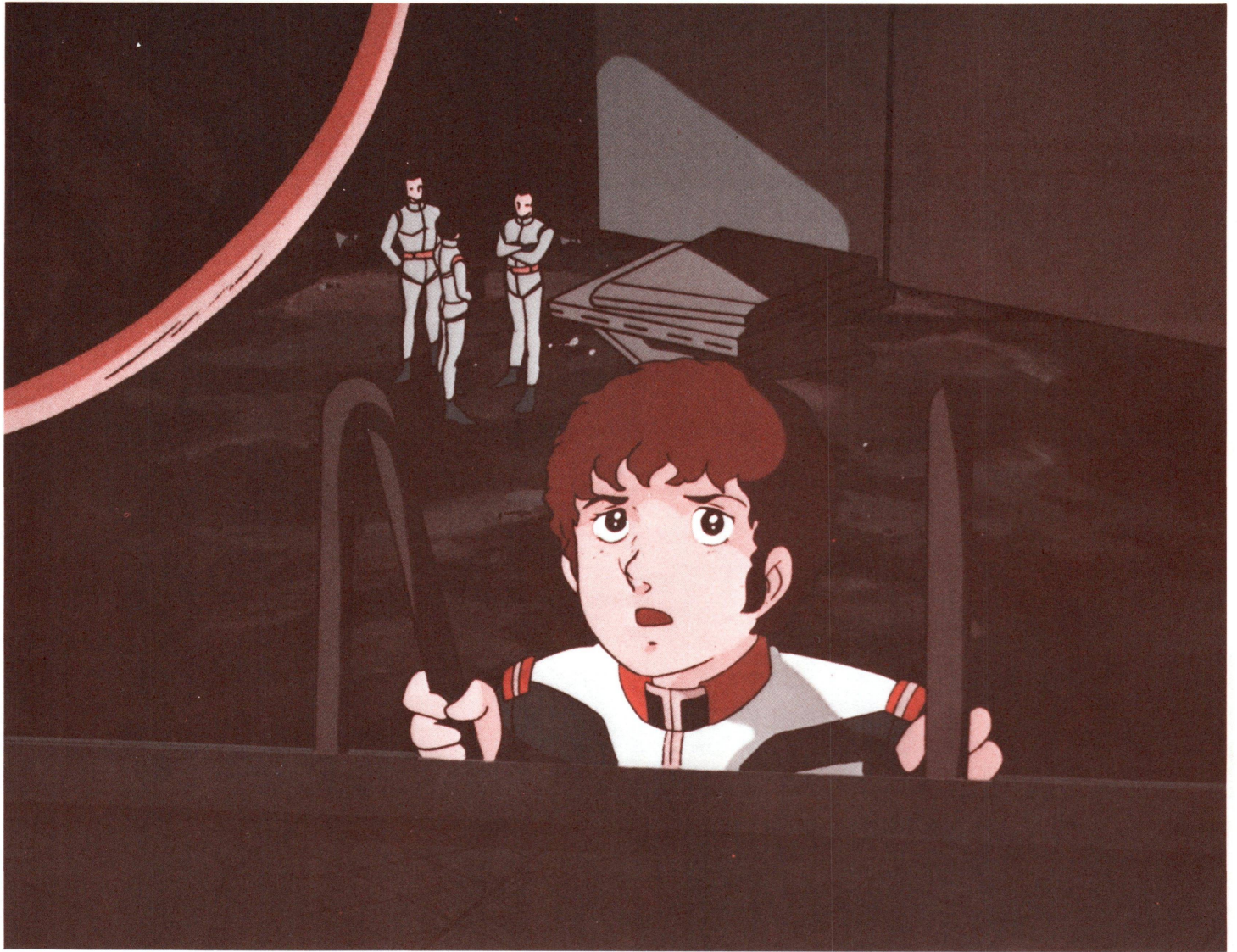
出現

○敵を追って，ジャンプし続けるガンダム。山を越えたとたん，アムロは前方に障害物を発見して，急制動をかけた。ガンダムは，足を前方につき出して，ターンした。

○ミデア輸送機が，山はだすれすれに飛んでいるのだ。危ういところで衝突はまぬがれ，ホワイトベースも無事，補給を受けることができた。

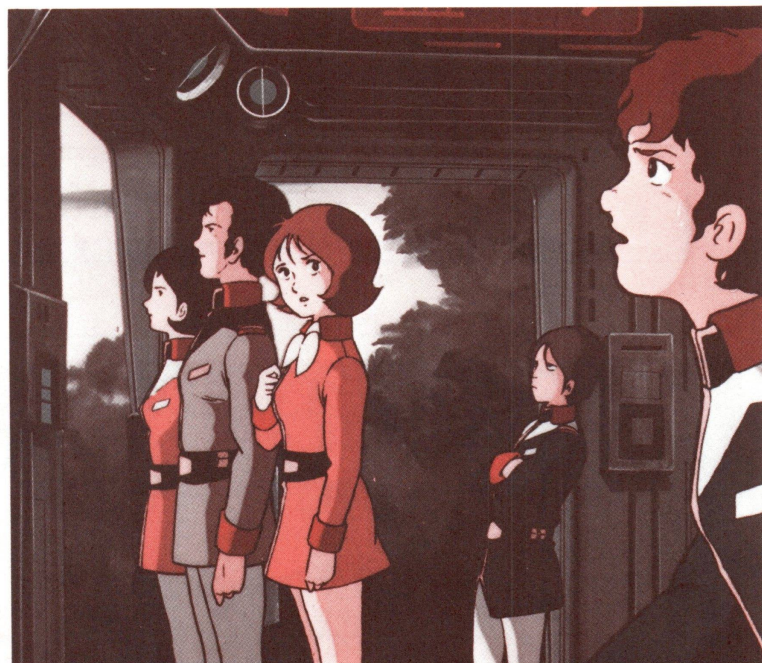
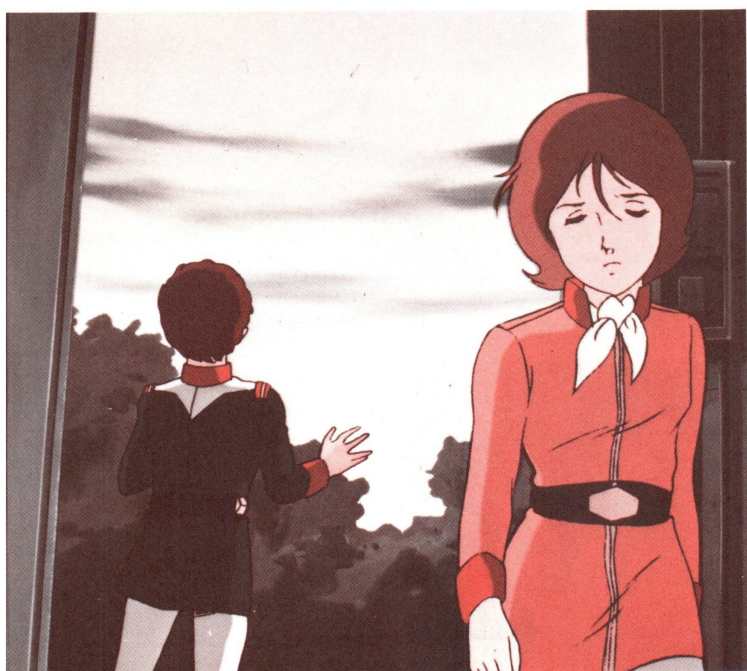
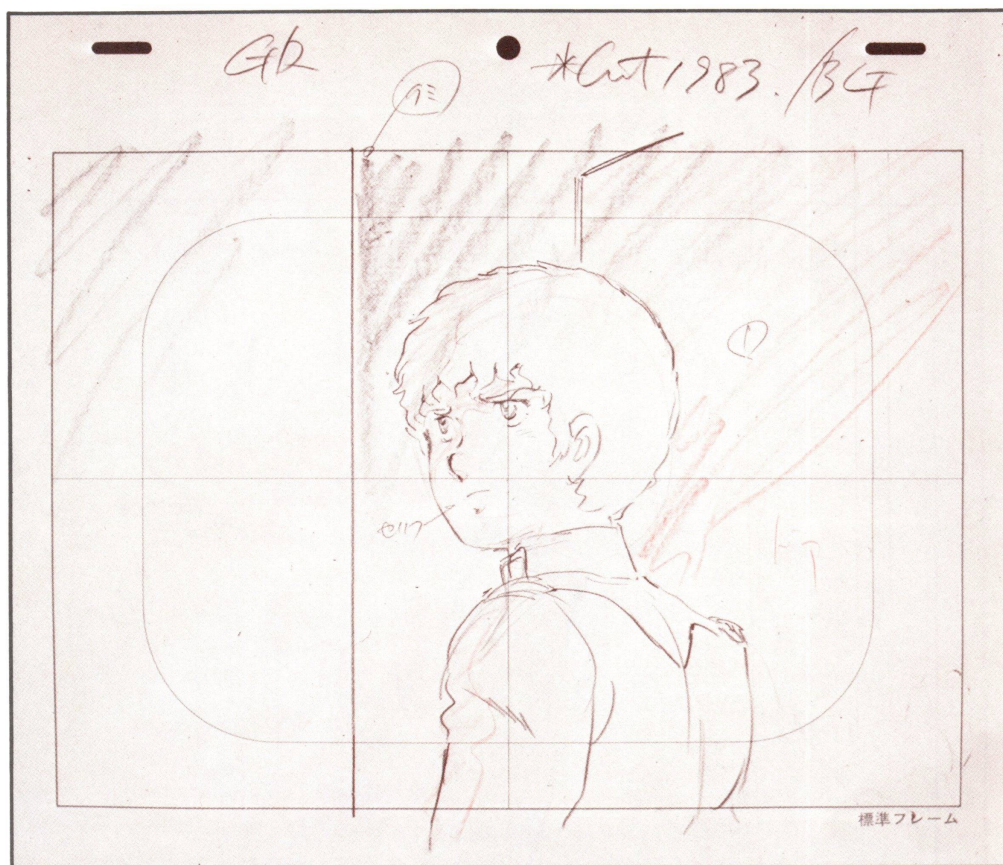
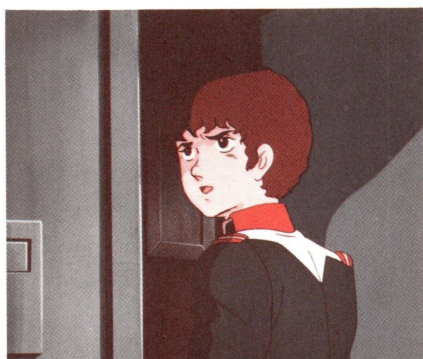
炎上

MOBILE SUIT GUNDAM

○アムロが，母へのやりきれなさをジオン基地にぶつけた。その事が，結果としてミデア輸送機を１機墜落させることになったのかもしれない。低空飛行のミデアは，ジオン軍の車に激突し，大破炎上した。

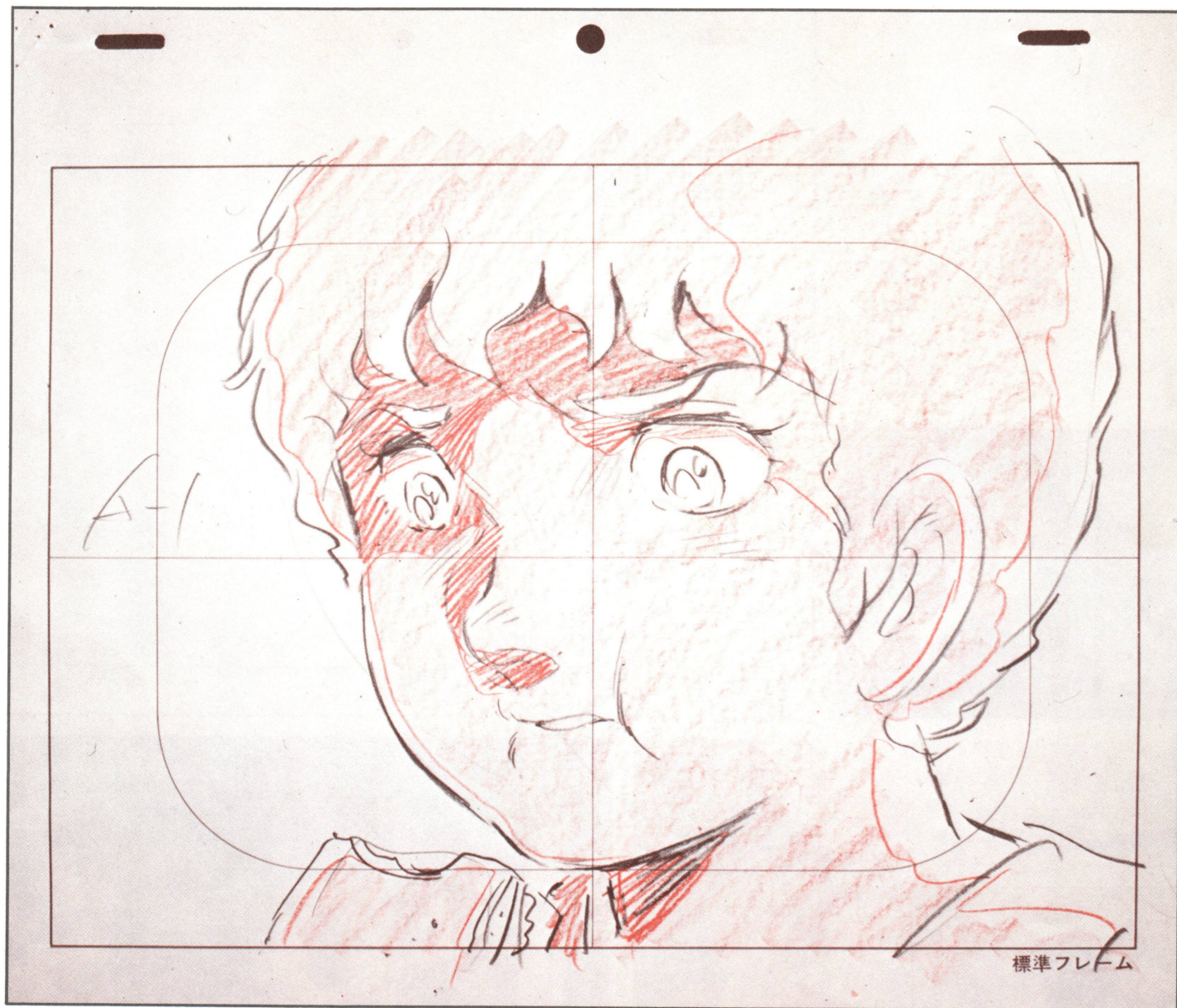
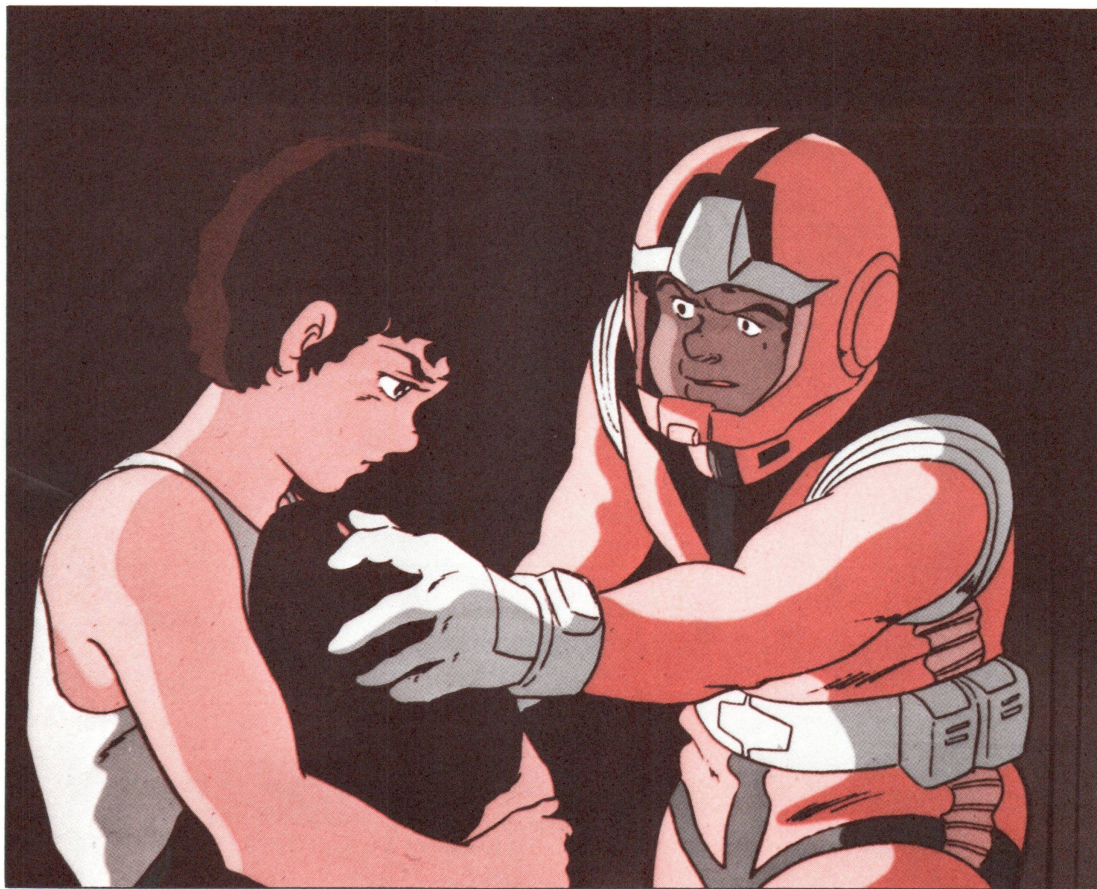
○「むざむざ救援物資を‥‥。コアファイターに引き揚げさせろ！」さしものマチルダも，顔色を変えた。

○「あとは‥‥あとは！」左右をきょろきょろと見回すアムロ。「引き揚げろ！　ここに足止めは危険だ。」その声で，アムロはやっと攻撃するのをやめた。

思春期

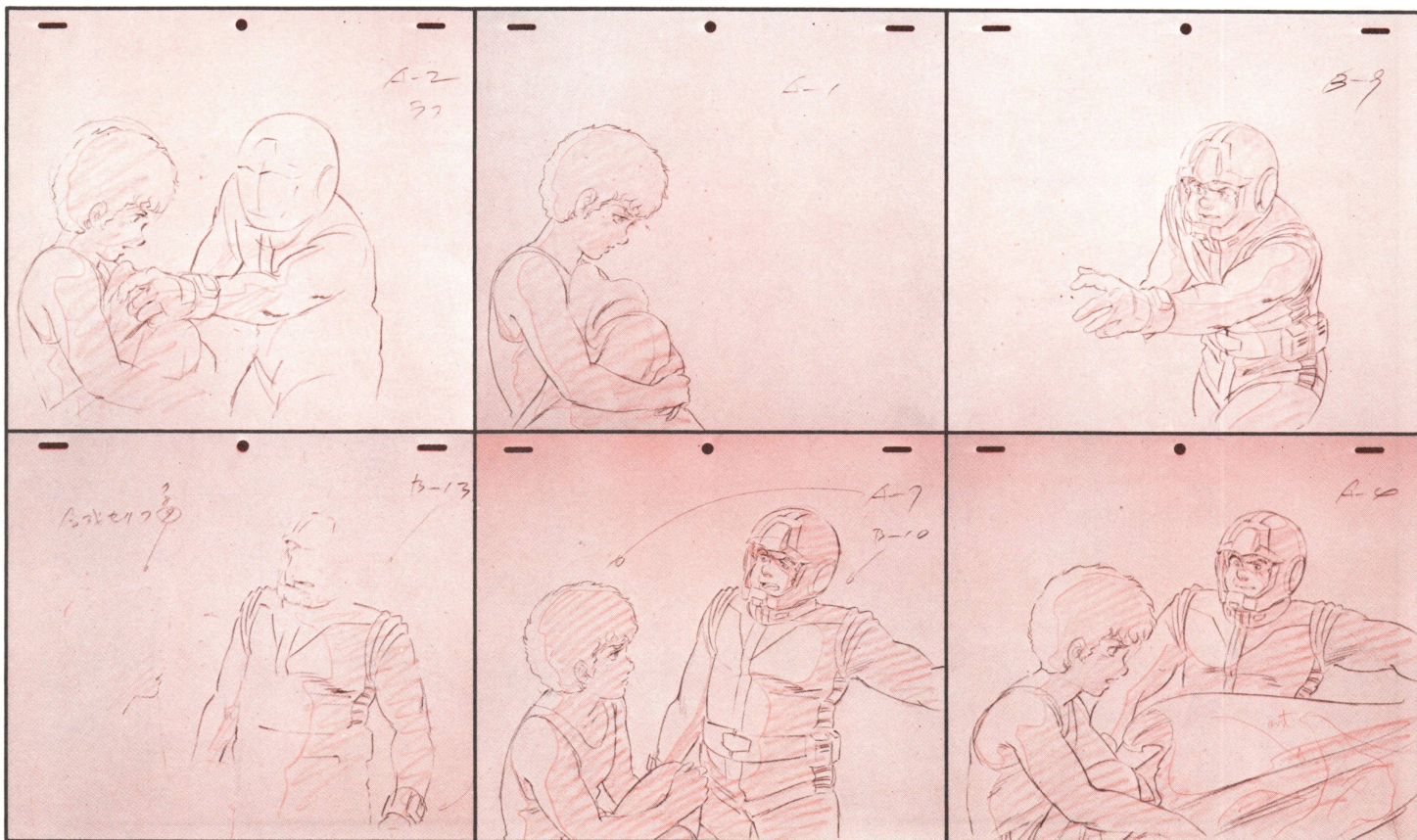
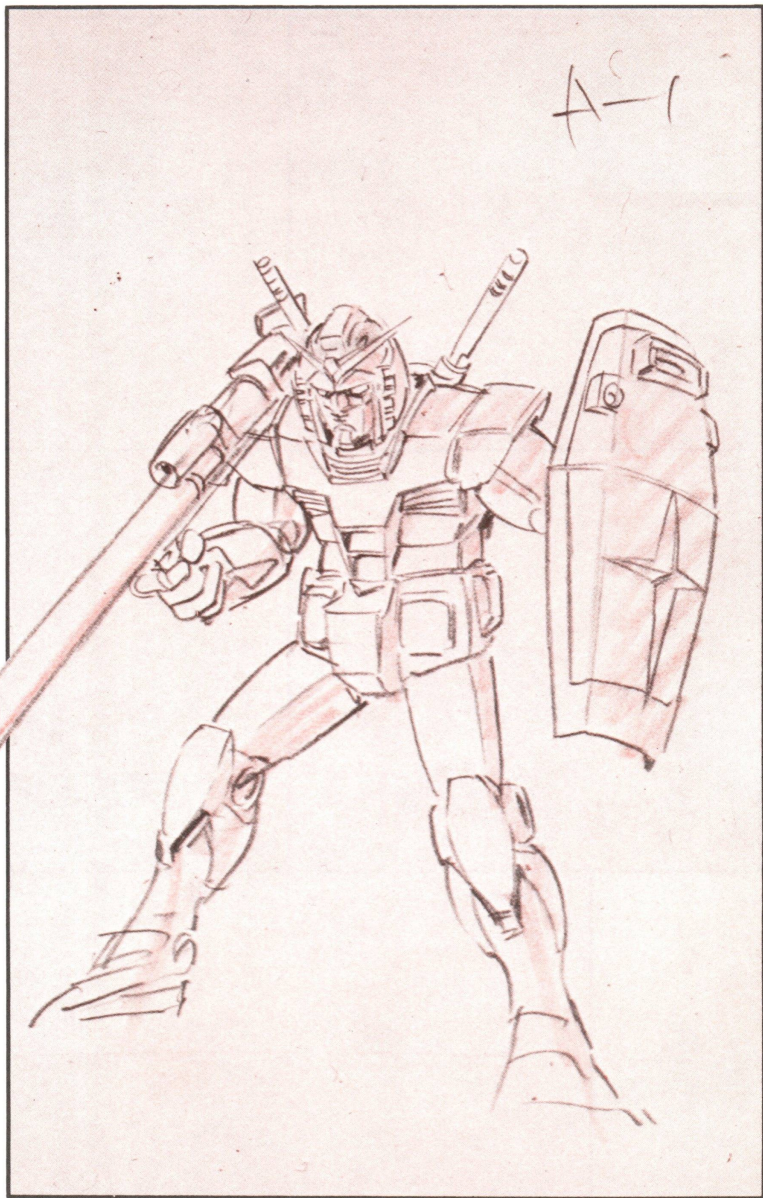
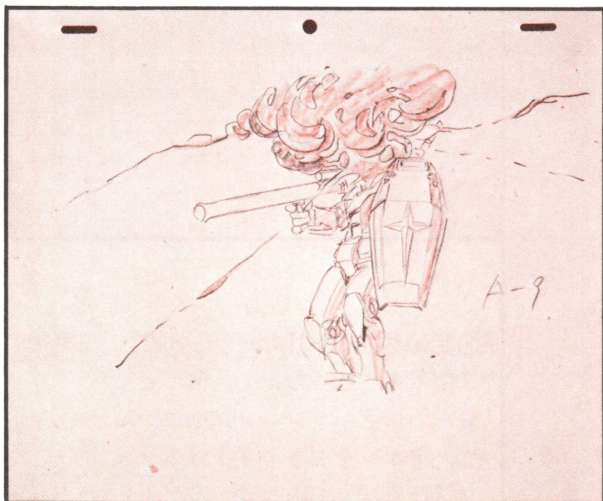
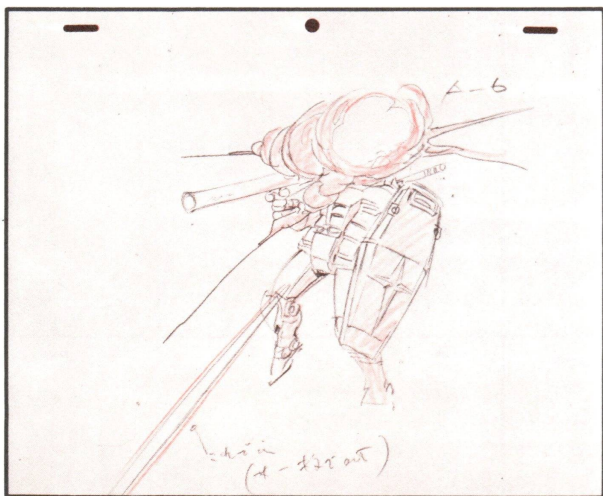
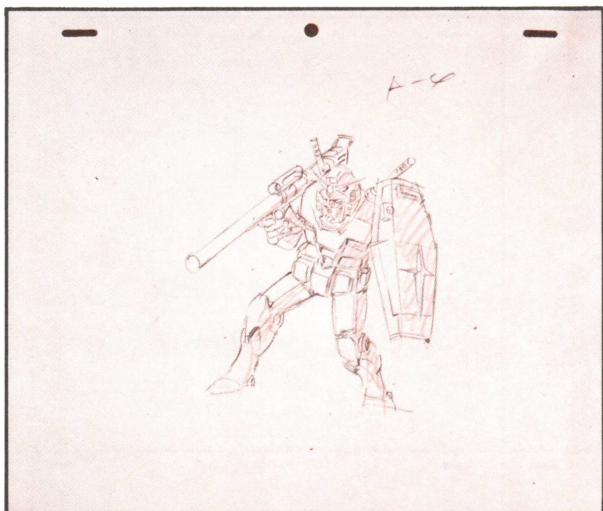
MOBILE SUIT GUNDAM

○あのマチルダさんが，補給に来ている‥‥。アムロは，就寝時間なのに，ついのぞきに来てしまった。それをフラウに知られたとき，アムロはおもわず開き直った。「いいじゃないか！」

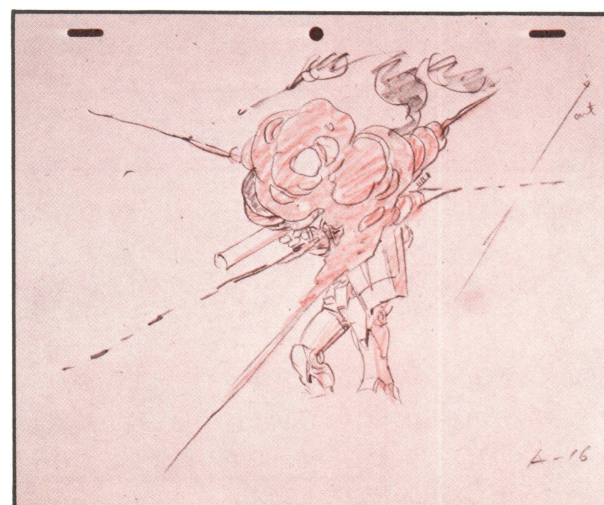
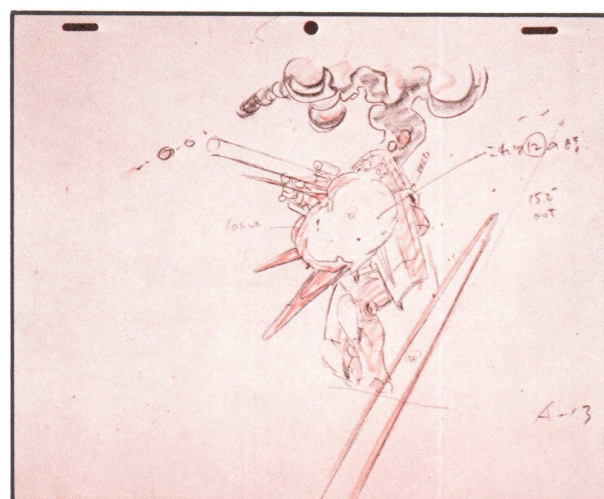
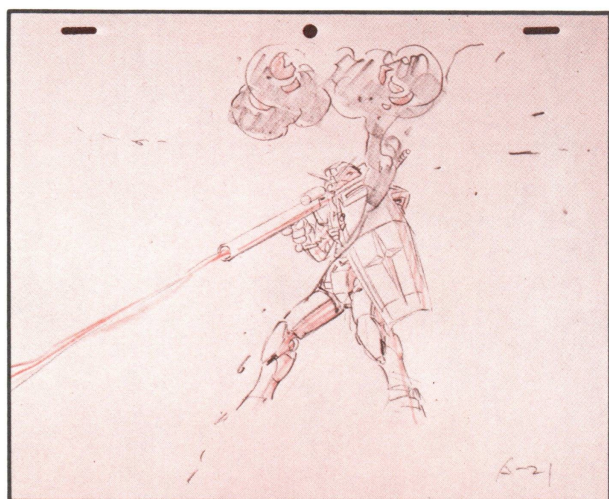
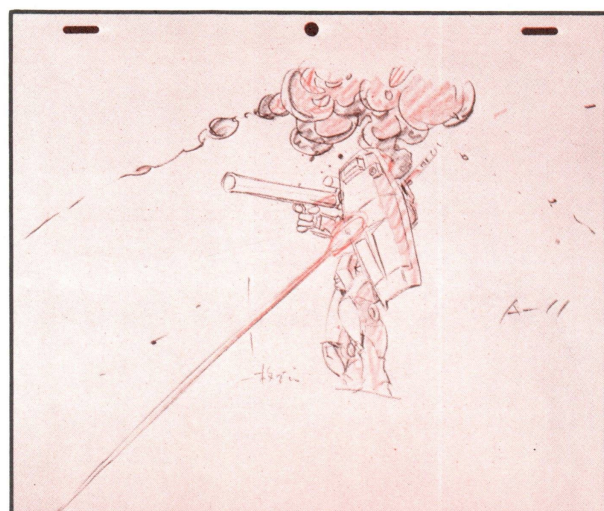
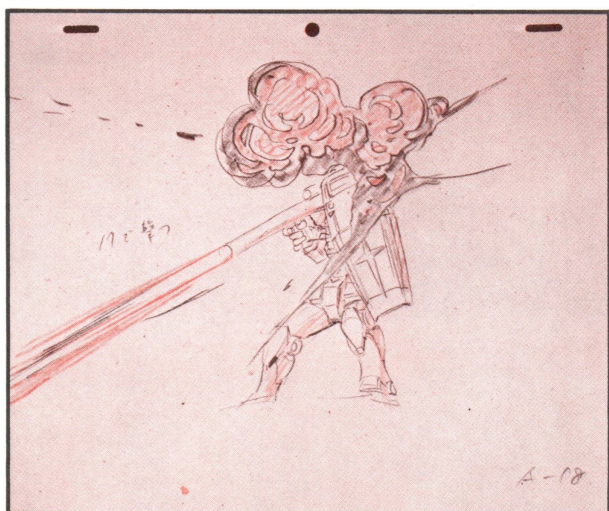
○「なんだよ・・・・』アムロは自分の部屋にはいった。翌朝，アムロがマチルダを見送りに駆けこんでくるのを見たとき，フラウ・ボウは悲しそうにその場を立ち去るしかなかった。

放心

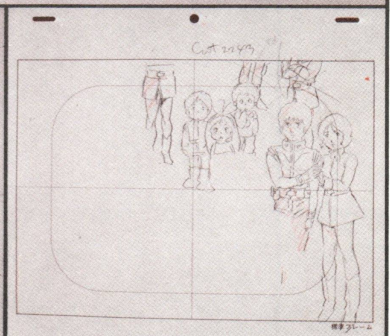
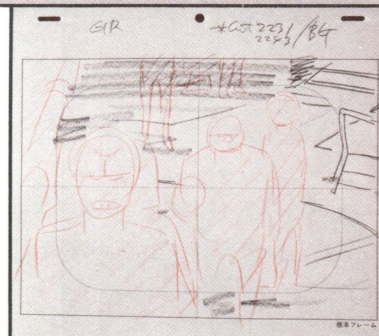
MOBILE SUIT GUNDAM

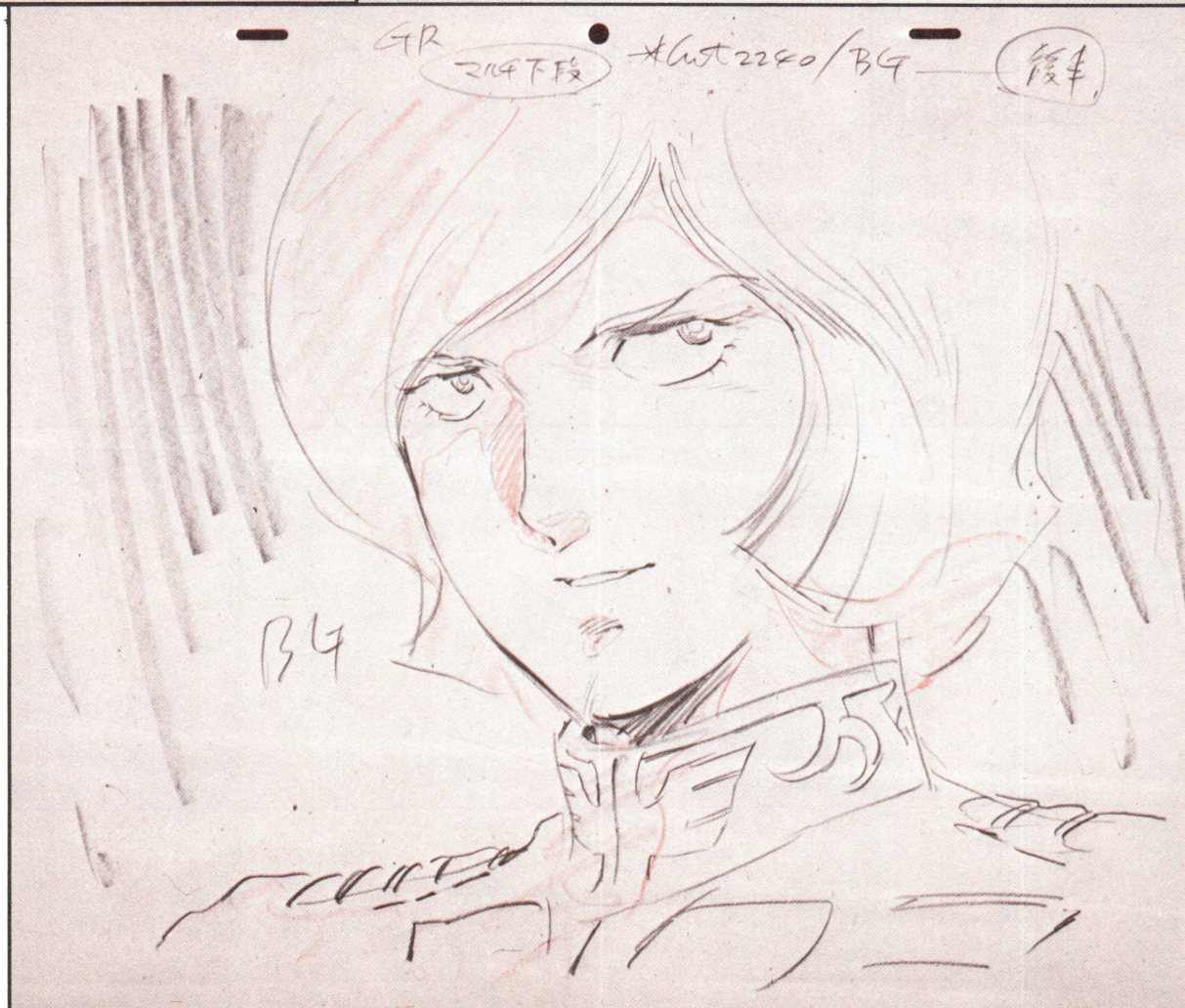
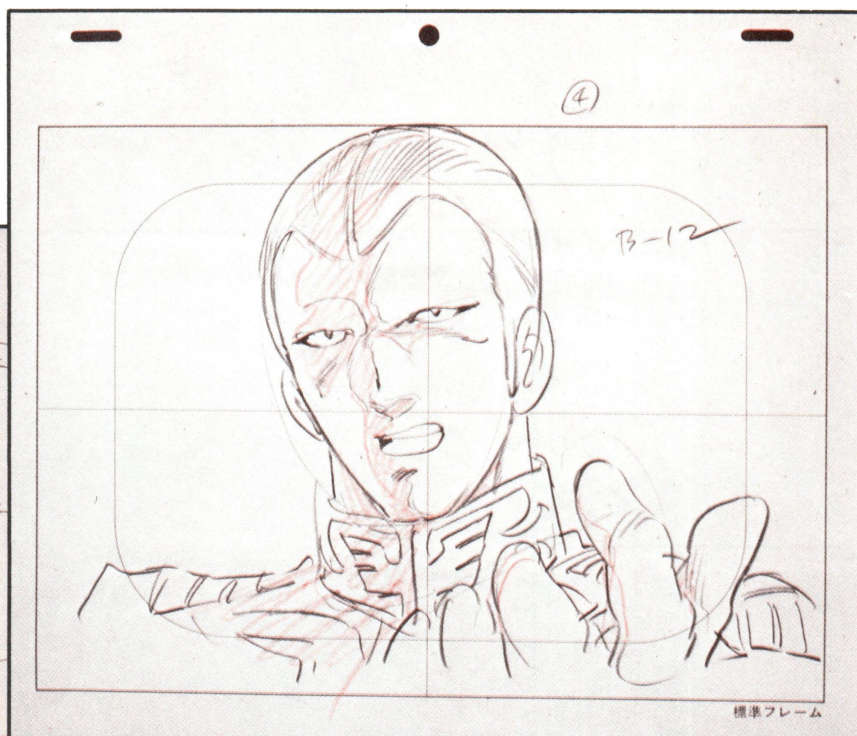
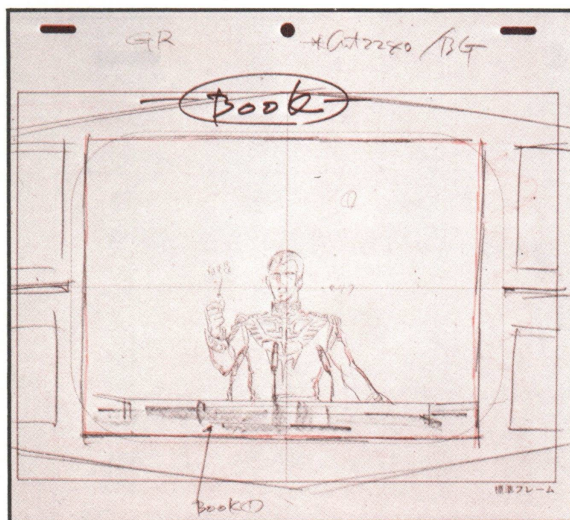
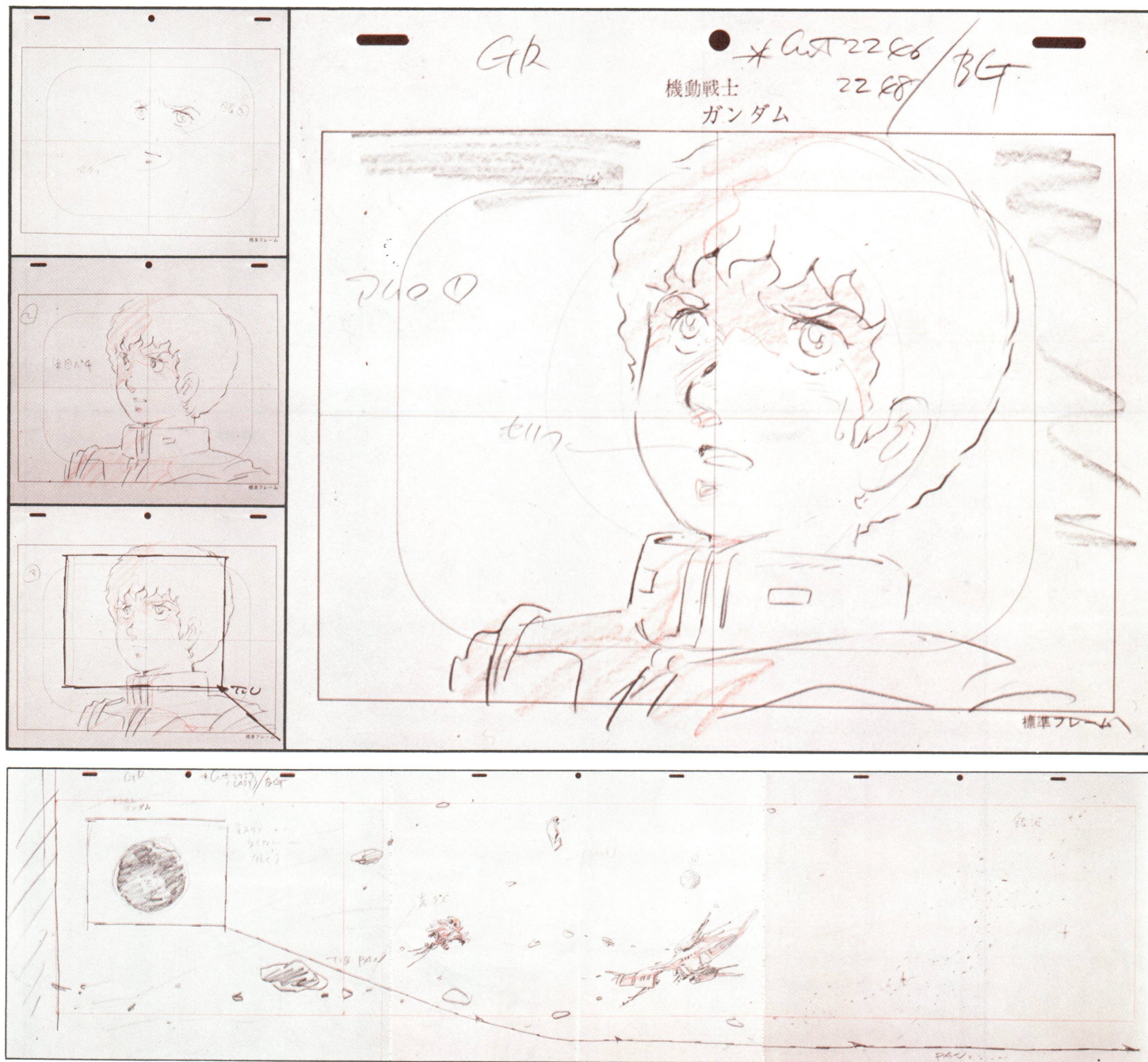
標準フレーム

○ひどく不自然なかっこうで，修理に没頭していたアムロ。‥‥フラウ・ボウが何かおいていったっけ‥‥。「あ，食べなくちゃ」アムロは思いついたように立ち上がると，サンドイッチをほおばった。

○「アムロ‥‥まさかと思ったが，まだこんな所に。おい，アムロ！」リュウはアムロに近づくと，毛布をはぎ取った。「しっかりせんか！　出撃だ｡」「リュウさん‥‥｡」

○リュウの平手打ちが，とんだ。「ぼっとしとったって，何にもならんのだぞ」ランニングをつかんで，アムロを引きずり上げるリュウ。「ほら，立て！　立つんだ！」

被弾

○ガンダムめがけて，ザクとグフのマシンガンが，集中砲火をあびせる。次々と爆発する砲弾。ガンダムは，よろめきながらも，反射的にバズーカを撃ち返した。

A-18
A-11
A-21
A-13
A-27
A-16

ジーク・ジオン

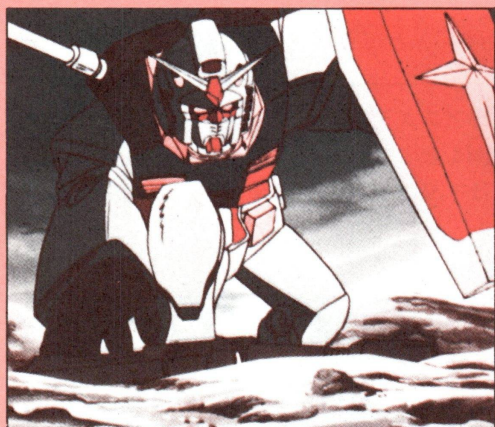
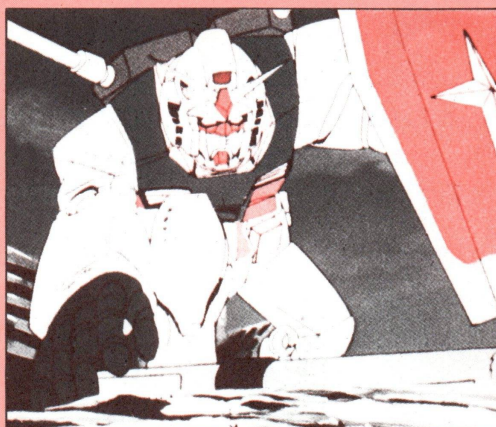
MOBILE SUIT GUNDAM

○ブリッジにもどったアムロは，ギレン・ザビの姿を見た。ガルマの葬儀における演説を，世界じゅうに放送しているのだ。「わたしの弟，諸君らが愛してくれたガルマ・ザビは死んだ。なぜだ！」

GR
BOOK
標準フレーム
B-12
標準フレーム
GR
BG

○「悲しみを怒りにかえて，立てよ！　国民よ！　優良種たる我らこそ，人類を救いうるのである。ジーク・ジオン！」ジオン国民のあげる「ジーク・ジオン」の喚声に，アムロはただ圧倒されるだけだった。
（下は，ラストシーンの第１原画。）

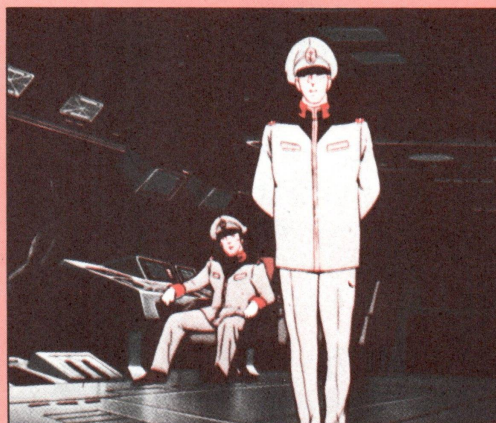
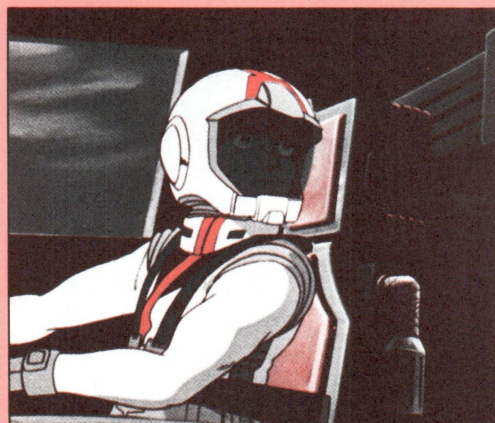
○劇場用に新しく作画された場面の秘密を初公開！

新作ショットの できるまで…

A.新作ショットの種類

●修正ショット

〈劇場版〉

〈TV版〉

○話数の異なるフィルムをつないだことで，前後に物理的な不都合が生じた場合，これを直したもの。この写真の場合は，背景（廃虚と荒野）および武器（バズーカとライフル）が，修正されている。

●完全新作ショット

○ＴＶではばらばらに放映されたものを，一挙に見せるため，エピソードとエピソードの橋わたしの役割をはたすもの。ルナツーの場面や，ガンダムがスペアのライフルを受けとる場面などが，これにあたる。

B.第1原画から完成画面まで

①第1原画

○まず，安彦良和アニメディレクターが，絵コンテにしたがって第1原画を起こす。外側のわくは撮影フレームを，内側のわくはＴＶフレームを示す。

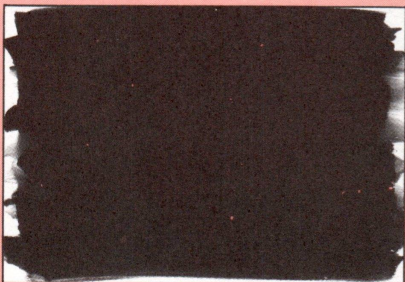
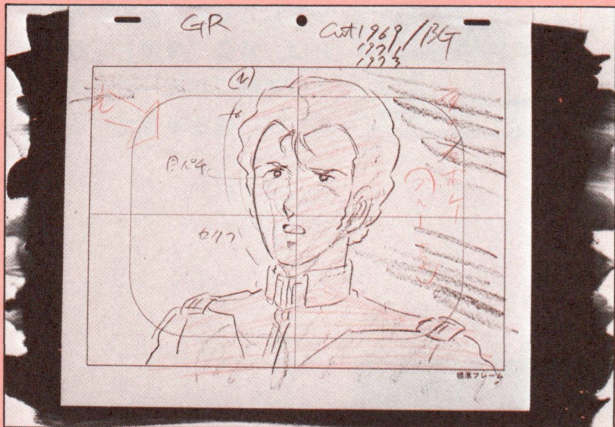
②第2原画

○比較的ラフな絵で動きを指定した第1原画は，各アニメーターの手で清書(クリーンアップ)され，第2原画ができ上がる。通常のアニメでは，この二つの作業を原画マンが行う。

⑤セル

○動画に記された色指定どおりに，セルに色が塗られる。目や口は，別に描かれることが多い。

◀色指定

⑥背景原図

○第1原画の一部には，背景の指定があり，そのコピーは背景原図（レイアウト）になる。

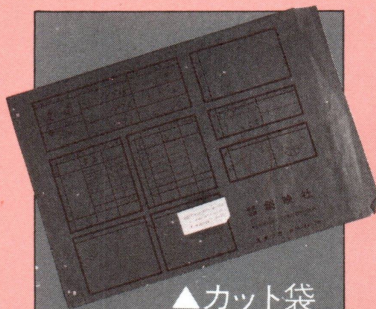
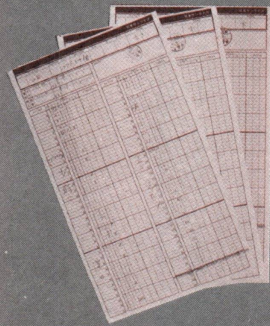
⑦背景

○背景原図の指示により，ポスターカラーで背景が描かれる。もう少し複雑な背景の場合，物の大まかな位置を鉄筆で画用紙にトレースしてから描かれる。

④動画

○動画マンは，動きのポイントしか描いていない原画と原画の間に，何枚かの中間ポーズを描く作業をする。同時にトレースマシン用に，線をきれいに清書(クリーンアップ)する。

③修正原画

○第2原画の仕上がりが，演出意図にそぐわない場合，安彦良和作画監督がキャラクターのニュアンスなどを修正する。修正原画は区別のため，黄色の作画用紙を使う。

▲カット袋

▲タイムシート

○それぞれの作業の受けわたしは，カット袋に入れて行われる。動きのタイミングは，タイムシートに示されている。

⑧完成画面

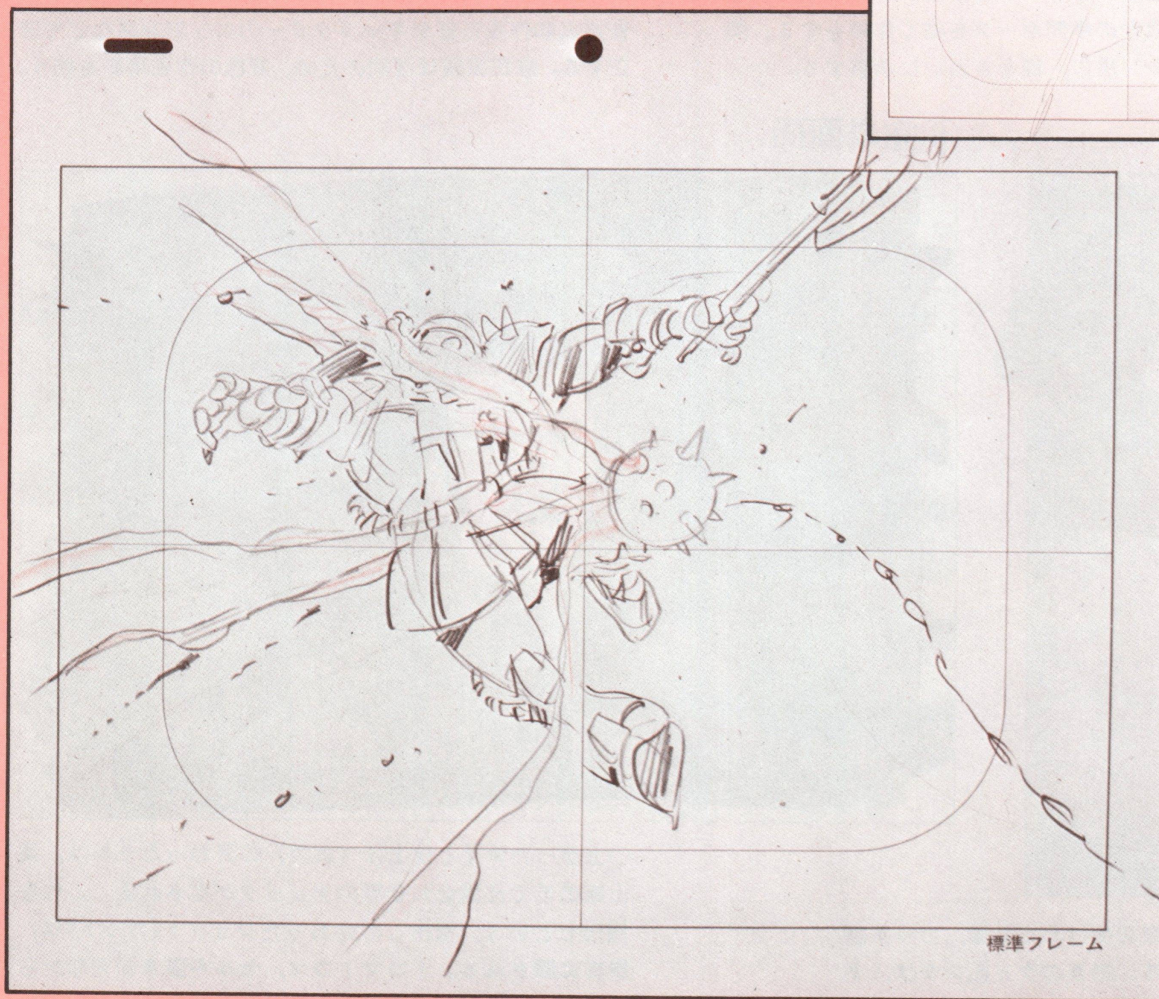
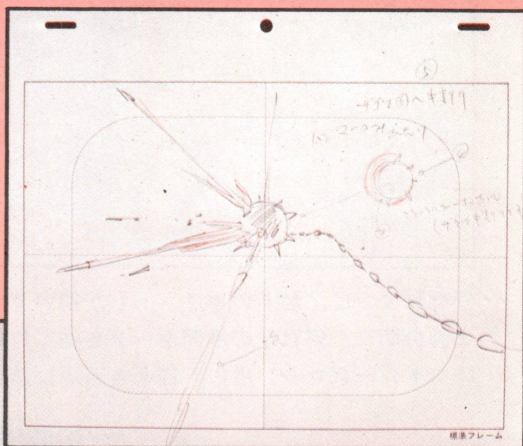
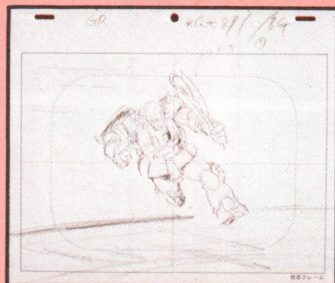
○上がった背景と仕上げ（彩色）の終わったセルは，演出家の手で位置合わせ等のチェックがなされる。これを撮出(さつだ)しという。撮出(さつだ)しの終わったショット(カット)は，撮影に回される。1コマ1コマ，セルを置きかえながらフィルムに撮影し，ようやく完成となる。

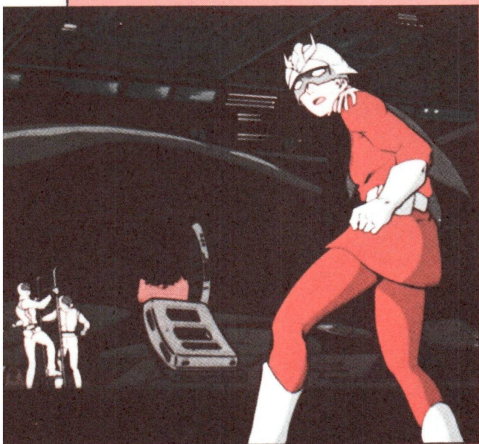
劇場版
機動戦士**ガンダム**

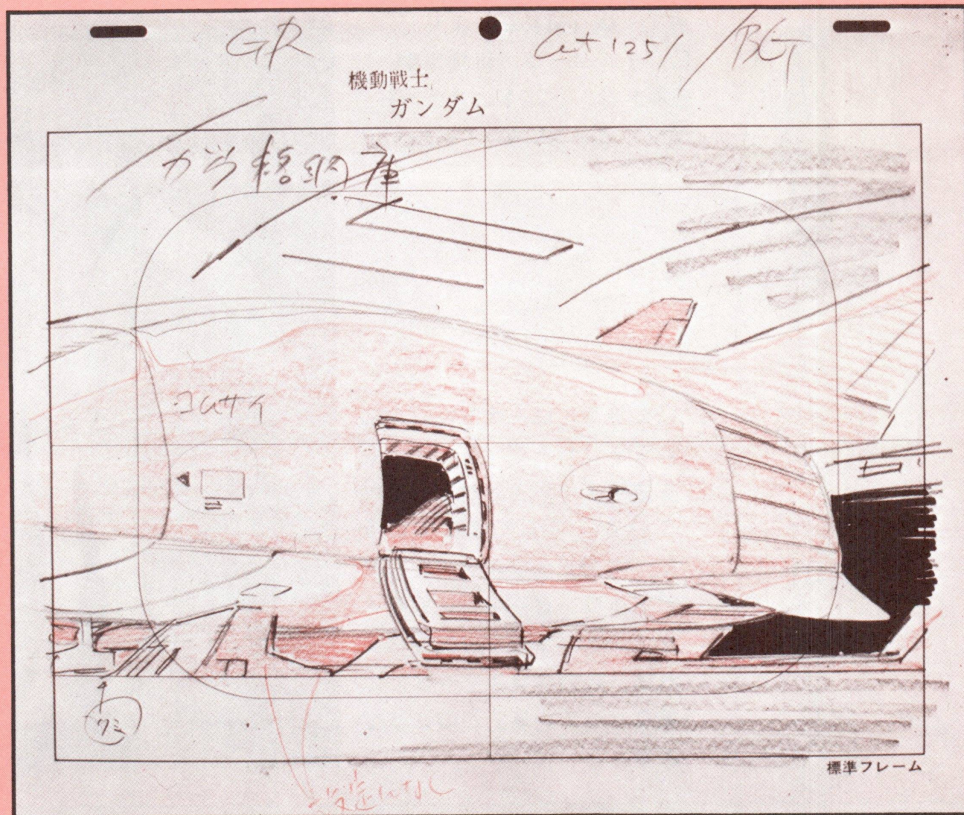
新設定集

○今回の劇場版用に描かれた設定書は，基本的にはない。にもかかわらず，設定がＴＶ版と異なるシーンがいくつかある。それらをここに，収録してみよう。

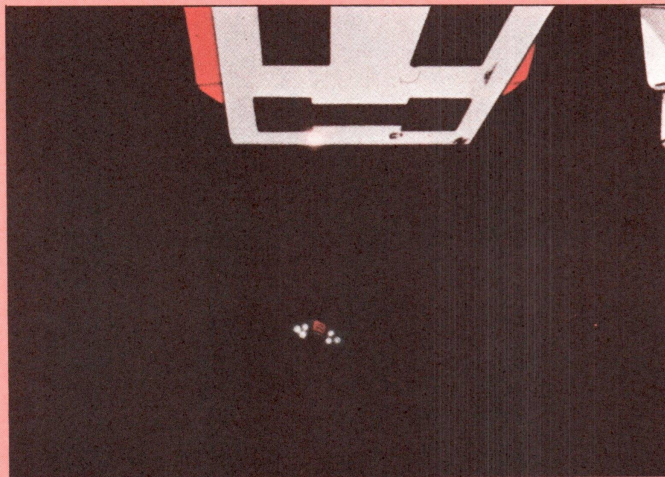
1.ガンダムハンマー

○ＴＶ版では，ただのとげつきの鉄球だったガンダムハンマーは，さらに迫力あふれる武器に変更された。ハンマーが命中すると同時に，爆圧によってとげが飛び散り，相手をずたずたにするというものである。惜しいことに，コムのザク対ガンダムハンマーのシークエンスそのものがカットされたため，画面には出ずに終わった。

標準フレーム

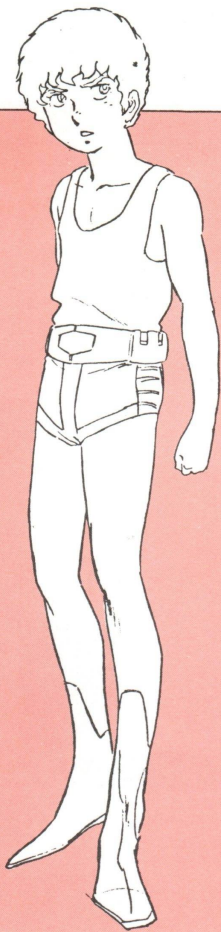
2.コムサイのハッチ

▲ジオン側メカマンの姿も見うけられる。

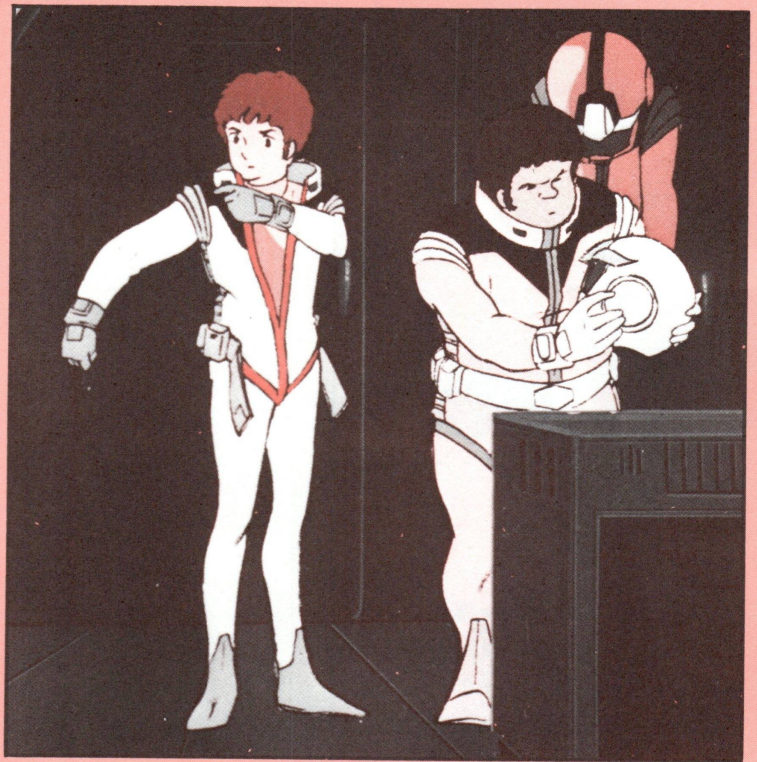
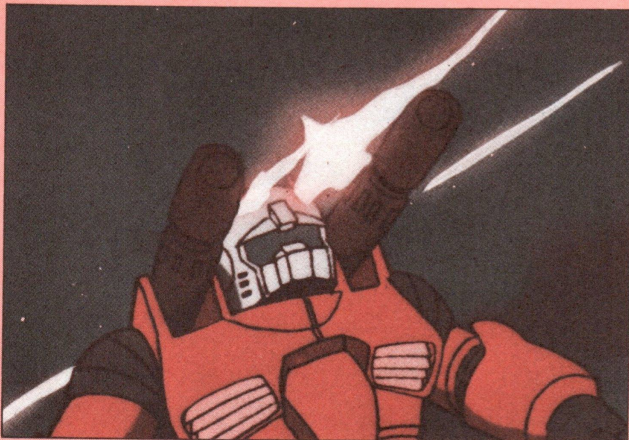
○シャアが，ガルマの援護にコムサイで出る——この場面は，完全新作ショットだが，コムサイのハッチは設定書にはない。１ショットのみに登場したため，第１原画が設定書の役割をはたしているのだ。

3.ホワイトベースの艦底部

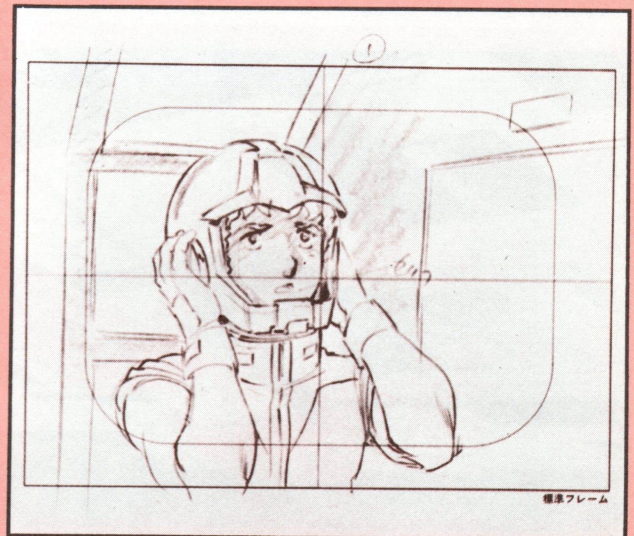
▲着艦フック

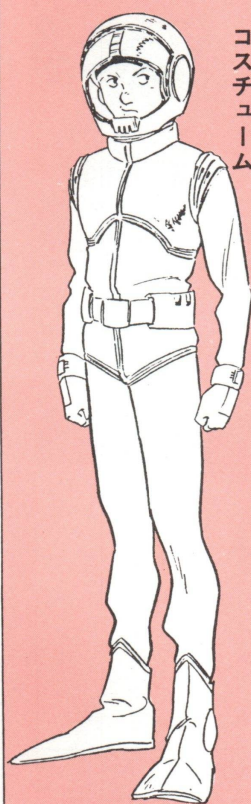
○着艦フックそのものは，ＴＶ版第７話に登場しているが，艦底部の表面が描きこまれ，よりリアルになっている。

▲表示灯

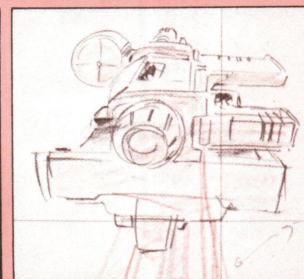
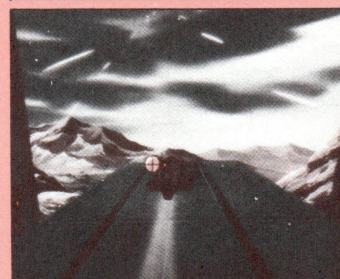
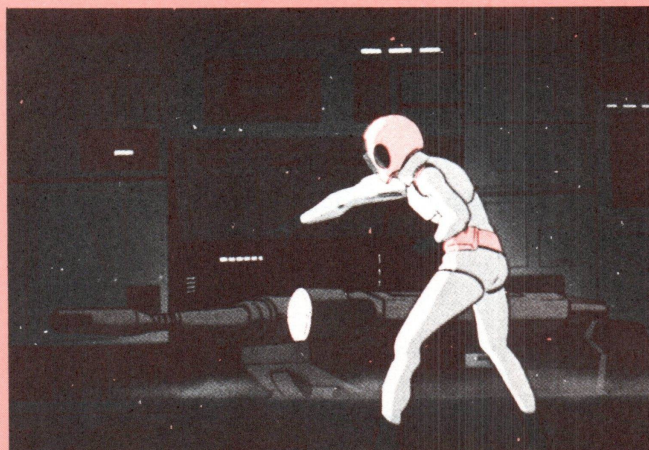
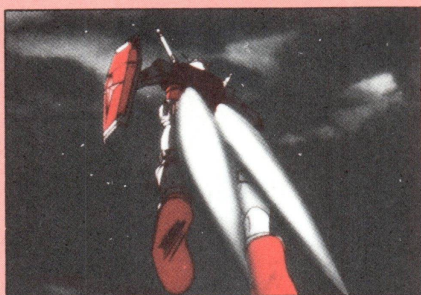
○ルナツー直前で，ホワイトベースに着艦するコアファイター。このとき，艦底部には，誘導用の表示灯が点滅していた。

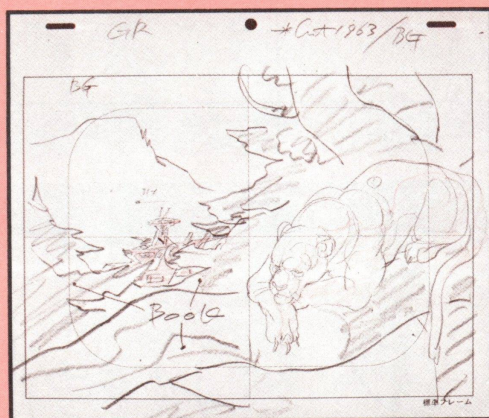
4.バトルスーツの着用法

◀ＴＶ版（第15話）より
○バトルスーツ（戦闘用宇宙服）は，ベルトのところでツーピースになっていた。

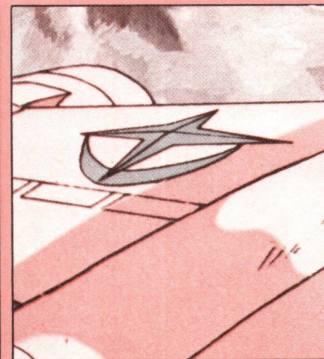
○劇場版では，大気圏突入前にアムロたちがバトルスーツを着用するシーンが新作されている。ここでは右のように，アンダーウエアの上に直接着るワンピース式に変更されている。リュウの言葉によれば,「首のファスナーは，二重になっている」とのことである。

6.ガンキャノンの頭部バルカン砲

○カイの乗るガンキャノンが，ガンダムを援護するシーンは，ＴＶ版ではビームライフルだった。劇場版では，ライフルのかわりに，ＴＶ版ではっきりと使われたことのなかった頭部60ミリバルカン砲が用いられていた。

5.バイザー開閉装置

○ヘルメットの緑色のバイザーは，耳のところにあるスイッチで開閉する。アムロが試着したときに開閉させたことで，スイッチのある場所が明らかになった。（安彦氏のイラストの中には，目盛りまで描いたものもある。）

7.ビームライフルの射出

◀メカマンのコスチューム

（TV版では22話より登場）

○「行けー！」メカマンのオムルの合図で，カタパルトに乗ったビームライフルが射出される。すかさず，ガンダムが空中でキャッチ。忘れられない場面である。

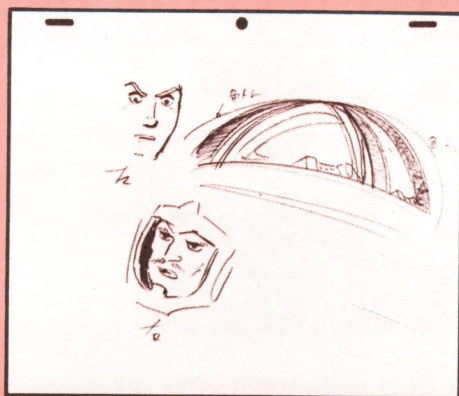
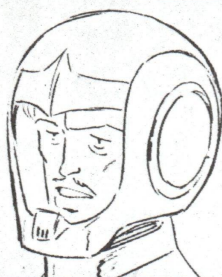
9.アムロの故郷

○アムロの故郷は，TV版の日本の山陰地方から，北米大陸西部のプリンスバードに変更された。近くにはアメリカライオンもいる。

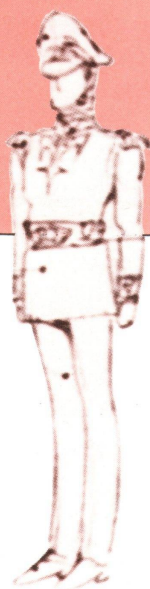
8.連邦軍・ジオン軍のマーク

▲ジオン軍のマーク　▲連邦軍のマーク

○連邦軍のマークは，ミデア輸送機の翼に描かれていたもの。ジオン軍のマークは，アムロの故郷近くの基地を走っていたトラックに描かれていたもの。

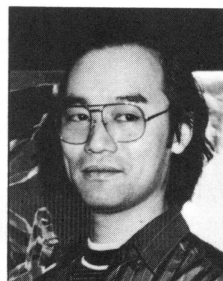
10.新・人物名

○ＴＶ版では，はっきりした名まえのついていなかった人物の一部に，劇場用の名まえがつけられた。これは，キャスティングの混乱を防ぐためである。アムロの母の名まえは，小説版に合わせてつけられたもの。また，ブライトは士官候補生から少尉に，ドレンは少尉から中尉に，それぞれＴＶ版より昇進した。

▶作画用紙に指定された、カンプとゲージのキャラクター。

11.儀仗兵

○ガルマの葬儀の際に，ガルマの棺やジオン国旗をたずさえ，式をとり行った兵である。作画用紙で，特別に指定されたキャラクターだ。

ガンダムの行方

■富野喜幸総監督特別寄稿

○「機動戦士ガンダム　パートII」七月に公開！　新たな劇場版にかける富野総監督の構想は？

すんでしまった仕事のことを書くのはつらい。まして、作品を創らせてもらったのだから、制作者は外でしゃべってはなるまい。

で、ガンダムの二本目の映画化が決定されたので、そのための話をさせてもらう。

しかし、今日現在、制作レベルでの内容の合意が成立していないために、あくまでも僕個人の考え方でしかないことをお断りしておく。

○エピソードの積み重ね

映画版の一部は〝ジーク・ジオンの声が聞こえる〟というターゲットに向けて、ひたすらガンダムの世界を大観し、アムロという少年がいることを示して終わった。

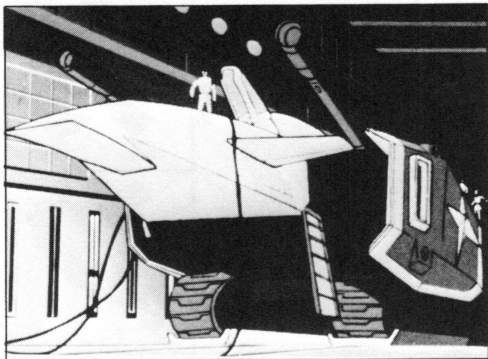
ドラマとしての骨格はやや見えにくくて、そのためにやや難しいとの感想を得た。

第二部はこれを、よりアムロに絞って作劇をすすめなければならないのだが、これこそ理屈であって現実的な対処ではない。

テレビ版は、アムロの反抗と、それに対する敵、ランバ・ラルとハモンのストーリー。

一方に、セイラがシャアを思って敵と接触をしようというエピソードがからみ、すでに前半部でアムロの話という流れからは外れているのである。

そして、次にレビル将軍麾下の戦線が説明されて、マチルダの補給がホワイトベースに続けられ、三機の新型モビルスーツ〝ドム〟の登場と、オデッサの作戦を背景に、マチルダが死んでいくエピソードが語られる。

▶ガンダムは、パワーアップパーツをとりつけられて、Gアーマーになる。

◀Gパーツの出現で、セイラはパイロットとして活躍し始める。

ところが、ここのシークエンスで物語をかためていく上での障害物にぶつかる。

○作劇上の物理的障害物

ガンダムのパワーアップパーツの出現である。

しかし、この出現によって、セイラはパイロットに転向する。この必然性は、本来、まったくないのだが、テレビ版ではパワーアップパーツの存在を少しでも物語の中に埋めこむために、セイラをパイロットにした。

つまり、新しい登場人物を出さずにすませたのである。この処理によってセイラは、俗にいう〝活躍〟する場を与えられ、さらに、セイラの座っていた通信士の席にフラウ・ボウが座ることによって、添えもの的になりつつあったフラウ・ボウも活躍の場を得ることとなった。

この、人の配置の移動が発生したために、パワーアップパーツの存在を否定するわけにはいかない。

しかし、ガンダムのメカ展開の中で、この存在ほど玩具指向に走ったものはない。しかし、時の必然によって登場することを余儀なくさせられたにしても、登場させるからには物語から遊離させたくなかった。だから、あえてレギュラー人物の配置換えまでからめてみせたのである。

テレビ版制作のときから、映画化が決定されていれば、こうはしなかったろう。パワーアップパーツの存在を、ガンダムの上半身、下半身パーツと、コアファイターとの空中換装（ドッキング）のように扱うだけにすませたろ

●予想されるパートIIの

クライマックスシーン 1

●脱走したアムロは、ソドンの町の酒場で、ランバ・ラルとハモンに出会う。（TV版・第19話より）

●ランバ・ラルを失ったハモンは、執念に燃えてW.B.に攻撃をかける。（第21話より）

●グフ対ガンダムの戦いの中で、アムロとランバ・ラルは互いの姿を認め合った。（第19話より）

●リュウは、傷ついたからだでコアファイターに乗り、アムロを助けて死にゆく。（第21話より）

●W.B.（ホワイトベース）に連れもどされたアムロはつぶやく。「ぼくは……あの人に勝ちたい……。」（第19話より）

●リュウの死という大きな代償を払って、W.B.の仲間は一つにまとまっていく。（第21話より）

●アムロは、ガンダムに乗ってW.B.を脱走。

う。

空中換装のように扱っておけば、その部分をカットすることはできるのである。あくまでも見せるだけのためにおいた、物理的な配列でしかないのだから……。

しかし、テレビ版のときはそのときで、全力を尽くした。それが制作者のスポンサーに示すことのできる唯一の誠意なのだから、と、僕は考える。

しかし、である。このパワーアップパーツという存在は、生理的に許容し難い夾雑物であることには変わりがないのである。これを排除できないことに切歯扼腕せざるを得ない。

○映画版へのアプローチ

オデッサからジャブローへ至る道程で、シャアの登場と、カイとミハルのエピソードがあって、さらにジャブローでマチルダの婚約者ウッディ大尉の死と、シャアのゲリラ戦を阻止するためにカツ、レツ、キッカの活躍が描かれて、ホワイトベースは地球から宇宙へと発進する。

ここまでが映画版二部の区切りとなろう。

一部以上に三段、四段構えのエピソードの積み重ねであって、ドラマツルギー論から外れることおびただしい。正直いって、こんなベースで一本の映画を創って、作劇の下手な監督だという烙印を押されるとなると、間尺に合わない仕事だ、と声を出していいたいところである。

一部の二時間二十分は長すぎるという、大半のファンの要望を受けて、二部は二時間五分から八分にしたいと思

●予想されるパートIIの

クライマックスシーン2

●Gパーツを運んできたマチルダは、少年たちにつかの間のよろこびをもたらす。（第24話より）

●トリプル・ドムの急襲からW.B.を守ろうと、マチルダはミデア機で出撃する。（第24話より）

●じゃまをされて怒ったオルテガは、ミデア機を破壊。マチルダは帰らぬ人となる。（第24話より）

●W.B.は、オデッサ作戦に参戦。戦いは、連邦軍の勝利に終わる。（第25話より）

●キシリアの命を受け、再びシャアが動きだす。マッド・アングラー隊を引き連れて。（第26話より）

●ベルファスト基地で、女スパイミハル・ラトキエが、W.B.に潜入する。（第27話より）

▲マ・クベ大佐
ヨーロッパ方面のジオン軍を指揮する。

▲ミハルを失ったカイは，絶叫する。「なぜ，死んじまったんだよう！」

う。

そうなると、まずアムロにいちばん関係のないカイとミハルのエピソードが欠落することとなる。個人的には、あのエピソードは大変好きだ。だから、断片でも挿入したいという欲望も抑え難いが、現実的にはどうなるかはやってみなければわからない。

○ツギハギ映画の作り方

まず、絵コンテを見流して、必要と思われる個所を指定して、画だけのフィルムをプリントしてもらって、通しのつなぎこみをやる。

そして、反射神経だけで厭な画、不必要なストーリーの枝葉を削る。

ここまでで三時間半ぐらいにまとめあげて、ストーリーの再構成をするのである。テレビ版のストーリーと前後を変えるとか、アムロのストーリーとしての最少必要な科白をチェックする。

この段階で、カイとミハルのエピソードの生き死にが決定される。

そのプランニングをもとに、フィルムを整理していく。同時に、あまり何度も使われているショットを別の画で代用が効くのか、新しく作画すべきかの判断もしていく。

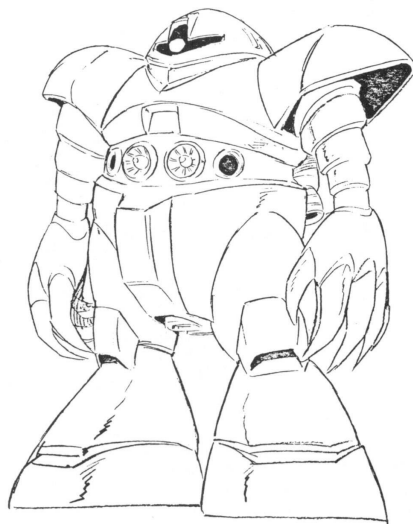
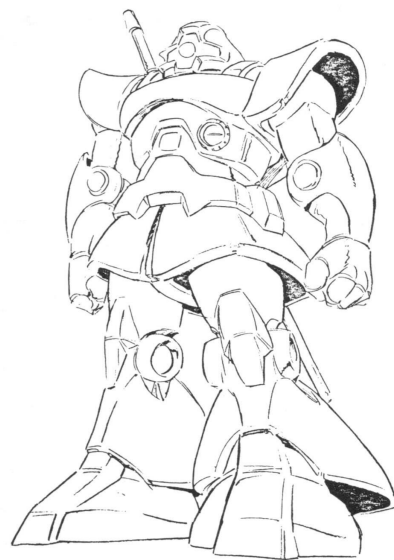
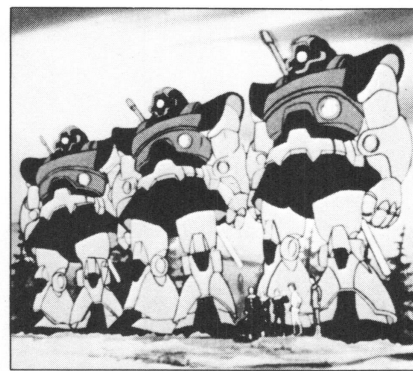
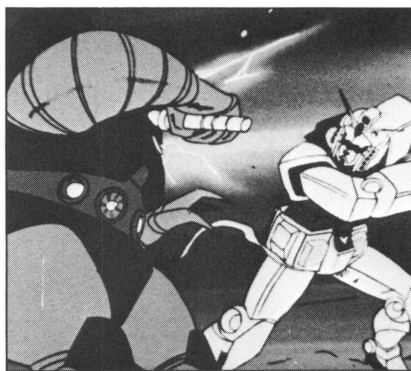
この段階で二時間半のフィルムにまとまれば、しめた！ といえる。なかなか、この時間数にもちこめない。

ここに至って、ようやく新しいショットの作画の指令を出す。

そのうえで、フィルムのほうの最終カッテングをやるのである。

これだけの作業をすすめながら、ストーリーの骨格を得ていかなければならないのだから、ガンダムをツギハギ

●予想される主要登場モビルスーツ

▲水陸両用モビルスーツ・ズゴック
復帰したシャアは，赤いズゴックに乗りこんで，ジャブローを襲撃する。

▲水陸両用モビルスーツ・ゴッグ
最初の水陸両用タイプ。ベルファスト基地で，ガンダムと水中戦を演じる。

▲陸戦用重モビルスーツ・ドム
ジオンの黒い三連星と呼ばれる歴戦の兵士が，３機のドムに乗って攻撃する。

●そのほかにも，ＴＶ版ではザク，グフはもちろん，ゾック，アッガイといった水陸両用モビルスーツや，グラブロ等のモビルアーマーが登場したが，時間の都合上，すべて登場するというわけにはいかないだろう。

映画という。

○なぜ、ガンダムを創るのか？
　ストーリーを組んで画を創るのではないのである。存在するフィルムと相談しながらでないと、何事も始まらないのである。これはもう、創作するという行為からはかけはなれた技術職である。

　だからといって、フィルム編集ができる演出家ならば誰にでもできるか、というとそうではない。

　なぜなら、ストーリー作りが同時に進行するから、物語の根幹を握み、ストーリー・テリング（語り口）を明確に把握していないと、フィルムの取捨選択はできない。

　シナリオ・ライターにも無理だといえる。画よりもまずストーリーが先行する思考を持つライターにとって、この仕事は過酷すぎる。

　すでにフィルムで芝居が決定されているのである。時間も場所も。その条件を呑みこんで最少限度の直しでストーリーを創るのである。作家としての自己主張を持ちすぎると、この仕事は己を変節させるだけだと気付いて、自己嫌悪に陥るのがオチである。

　奇妙な話だが、まず、つなぎ屋、便利屋、捌き屋にならなければできないのが、ツギハギ映画をデッチ上げる要諦である。まして、総監督なんて偉そうに構えた瞬間に、フィルムに巻き殺される。

　クリエイティブなモチーフを発動してはならないのである。

　そして、自ら問いかけるのは、なぜこんなにまでしてガンダムの二部、あ

●予想されるパートIIの

クライマックスシーン3

●苦難の旅を乗りこえて、W・B・は南米にある連邦軍本部ジャブローにたどりつく。（第29話より）

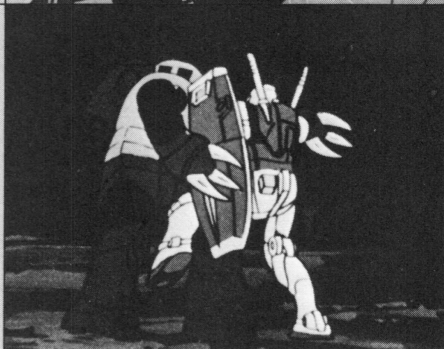
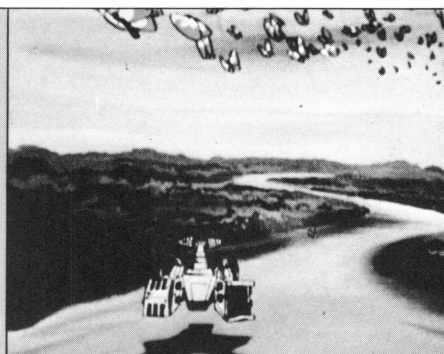
●アムロは、ジャブローで、マチルダの婚約者だったウッディ大尉に出会う。（第29話より）

●ジャブローにまで攻めてきたシャアを、アムロはガンダムで迎え撃つ。（第29話より）

●さしものシャアも、戦いの腕を上げたガンダムのパイロットに、驚きを禁じ得ない。（第29話より）

●シャアが仕掛けた爆弾を、大急ぎでとりはずすカツ、レツ、キッカの大活躍。（第30話より）

●戦火の中で、シャアとセイラの兄妹は、二度目の再会をする。（第30話より）

▲マチルダ中尉は、オデッサ・デイが終了したら、W・B・の一同をウッディ大尉との結婚式に招く予定だった。

るいは三部を創るのだろうか？　ということである。

ファンの要望？　それは違うと思う。ファンなら、テレビでガンダムの何たるかは知っているはずであるから、今さら……であろう。

では、ひるがえって、商売になるという功利主義だけのためだろうか？　そうかも知れない。しかし、功利主義を成立させるためには、客が欲求するものを提供しなければならない。

では、なぜ、ガンダムにファンがつき、その欲求を満たしたのか？

ガンダムが欲求を満たしたのではない。ガンダムは、ファンの欲求のわずかの部分をかすめたにすぎない、と思っている。にも拘らず、ガンダムのファンに力があるとすると、それは、ガンダムのファン構造が示す欲求があったからだと思う。

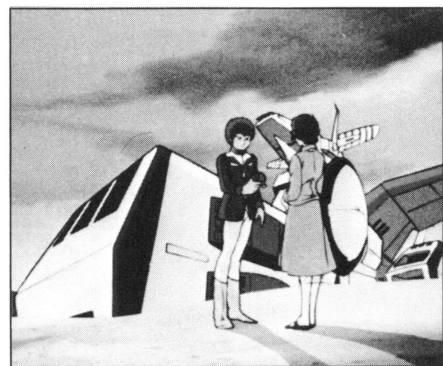
アニメのファン構造の変革である。それを示したが故に力があるのだ。ガンダムの力ではなくて、ファンの力なのである。

このファン構造の変化を、人はややないがしろにしていたのではないだろうか？　そのファンの反動が、ガンダムという名のもとに集まったのだと思う。

そして、このファンの構造が確実に変わっていることが、今、始まっているのだということを世間に示すことは重要なことだと思う。

ガンダムによって、この事実を知れば、次の機会には誰かが真にファンの欲求に応えるものが創れるようになろう。創り易くなろう。

そのためには、多少恥知らずと人に

▶アムロは、母と子の間に生まれた大きな溝をも乗りこえて、生きていかねばならない。

◀はたしてアムロは、人の世の光明を見ることができるか。（収録した絵コンテは、富野監督の手によるものです。）

ののしられようと、ガンダム、ガンダムと喚く必要があるのではなかろうか？

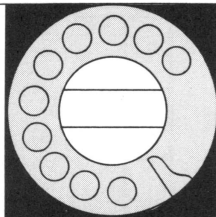
恰好つけていわせてもらえば、ファンの代弁者として……、と。

ならば、与えられた機会の中で、最大限に力を出して、それがツギハギ映画であろうがなかろうが構わぬと覚悟したのである。

個人としてのリスクが大きすぎるのはすでに承知である。道化芝居であると実感する。

しかし、やって見せても判らぬ人たちが多いからといって、やめるわけにはいかない。

判っている人々もまた多いからである。そして、いつの日か主権を得たい、と欲する。

（一九八一年三月八日　記）

ガンダム情報電話

完全再録

●公開前、貴重な情報をファンに流してくれたテレフォンサービス。ファンとガンダムを結んだホットラインのすべてを、ここに再現！

第1回

■昭和55年12月20日〜12月30日

「ガンダムファンの皆さん、こんにちは。アムロ・レイです。〝機動戦士ガンダム〟が好評のうちに終了し、早いもので一年近く過ぎました。ぼくも、皆さんの熱い声援に支えられてがんばった日々を、なつかしく思っていましたが、今回〝機動戦士ガンダム〟の劇場公開が決定し、また皆さんと、劇場の大スクリーンで再びお目にかかれることになりました。（皆さんの圧倒的な声援が、今回の映画化を決めさせたのです。）TVのブラウン管と、また違った迫力で、〝ガンダム〟の世界をぶつけるつもりです。感謝とともに、ぼくも新春三月十四日の劇場での皆さんとの再会を、期待しています。」〔声／古谷徹　（　）内は、第二回のみ〕

「アムロ、行きま――す！」

N「宇宙への移民が始まって五十年。地球連邦に対して開かれた独立戦争は、人類の総人口の半数を死にいたらしめた。モビルスーツの白い機体が、一人の少年の命をかけて、巨大な戦場に疾駆する！…君は、生きのびることができるか？」〔声／永井一郎　BGM／〝悲愴、そして決然と〟　特報予告編より〕

「ガンダム情報（以下略）」〔新春のガンダム関係のイベント紹介。声／古谷徹　BGM／〝いまはおやすみ〟〕

第2回

■昭和55年12月31日〜56年1月16日

――アムロの語り、特報予告編は、第一回とほぼ同じ――

（BGM／〝いまはおやすみ〟）

「倍賞千恵子です。ガンダムファンの皆様、あけましておめでとうございます。〝機動戦士ガンダム〟で、アムロの母親、カマリア・レイの声の出演をいたします。皆さん、ぜひ、見に来てくださいね。」

「あけましておめでとうございます。〝ガンダム〟の監督の富野喜幸です。三月十四日、松竹系で、〝機動戦士ガンダム〟を上映させてもらうことになりました。アムロが、ホワイトベースの乗組員（クルー）として、仲間といかに交わっていくか、の物語です。以前からのファンの方にとっては、やや異なった形のものとなります。しかし、作者として、アムロの心の流れをわかりやすく描いたつもりです。皆様のご声援で、よりよい形で完結させていただけたら、と思います。ご声援をよろしくお願いします。」

▲アムロの母，カマリア・レイの声を吹きこむ倍賞千恵子。

▲右から，鈴置洋孝，古谷徹，井上瑶，倍賞千恵子の各氏。

▲アムロが母と再会するシーンは，スケジュールの都合上，先に収録された。

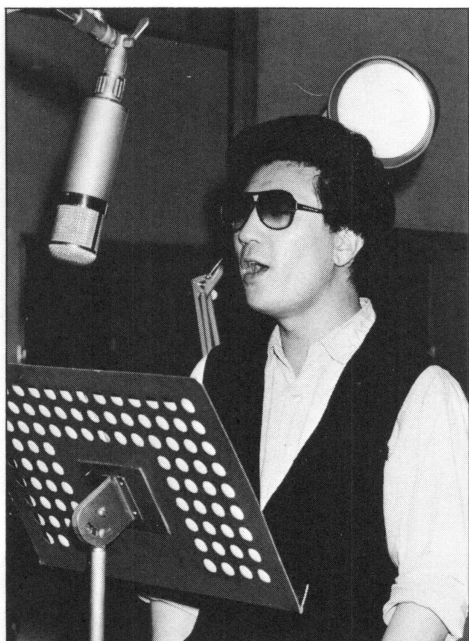
第3回

■昭和56年1月17日～2月4日

（BGM／〝砂の十字架〟）

「皆さん、こんにちは。やしきたかじんです。二月二十一日に〝機動戦士ガンダム〟の主題歌を出します。その主題歌は、谷村新司作詞・作曲の〝砂の十字架〟という、非常に雄大な曲ですので、皆さん聞いてください。」

「ガンダムファンの皆さん、こんにちは。キングレコードの藤田です。今回、劇場用〝ガンダム〟の主題歌を作るにあたっては、アリスの谷村新司さんにすばらしい曲を書いていただき、スタッフの一人として、たいへん幸せに思っています。谷村さんの世界と、富野さんの世界がスパークしたとき、そこにアムロたちの生き方、そして若者たちの生き方を、みごとに表現した〝砂の十字架〟が生まれました。

なお、シングル盤〝砂の十字架〟のためには、安彦良和さんにオリジナルイラストを描いていただきましたので、ファンの方々に、必ず満足いただけると思います。」

▲12月19日，東京都文京区のキングレコード録音スタジオにて,〝砂の十字架〟のレコーディング。

▲テストが終わって，やしき氏に注意する点などを伝える富野総監督。

▲キングの藤田純二ディレクター（右）と打ち合わせをする，やしき，富野の両氏。

◀〝砂の十字架〟を吹きこむやしきたかじん氏。

第4回

■昭和56年2月5日〜2月22日

（BGM／〝砂の十字架〟）

「ガンダムファンの皆さん、ミライ・ヤシマ役の白石冬美です。〝機動戦士ガンダム〟の本編製作も、スタッフ一同大奮闘です。アフレコでは、キャストがなんと四十七名もいて、現場の熱気にもう圧倒されちゃいました。アニメ好きがほんとうに見たかったアニメが、とうとう生まれるんだな、って感じです。

さて、来る二月二十二日、日曜日、〝機動戦士ガンダム〟劇場公開を記念して、〝アニメ新世紀宣言大会〟を開催したいと思います。午前の部は、新宿松竹に八百名の方をご招待して、交流会、ガンダム・ファッションショーなどを行います。ガンダムファッションに応募ご希望の方、特等賞には安彦さんのイラスト原画を用意しています。午後の部は、新宿駅東口前広場に場所を移しまして、一時から宣言大会を行います。参加は、自由です。午前九時から十二時まで、抽選券を配布、先着五千名様まで、宣伝ポスターをさしあげます。これは、非売品ですよ。ファッションショー入選者表彰式、やしきたかじんさんの主題歌発表、スタッフのごあいさつ、そして〝アニメ新世紀宣言〟のあと、抽選発表会をALTAスクリーンを使って二時三十分から行います。当選者には、セル原画五百枚、第一原画五百枚、TV三十秒スポットフィルム五十本、そしてなんと安彦さん、大河原さんのポスター・イラスト原画が、三人の方に当たります。くわしくは、読売新聞首都圏版二月六日夕刊をごらんください。ファッションショー、ガンダム・パロ劇に出演の方は、ご連絡をお待ちしています。（住所略）」

▲「ガンダムフェスティバル」に駆けつけた，富野喜幸（右），安彦良和（中央），大河原邦男（左）の各氏。

▲2月22日，午前の部として，新宿松竹で「機動戦士ガンダム完成記念・ガンダムフェスティバル」が開催された。

▲午後の部として，新宿駅東口広場で〝アニメ新世紀宣言大会〟が開かれた。幸い晴天に恵まれ，およそ2万人のガンダムファンが，新宿駅前を埋めつくした。

アニメ新世紀宣言

私たちは、私たちの時代のアニメをはじめて手にする。『機動戦士ガンダム』は、受け手と送り手を超えて生み出されたニュータイプアニメである。
この作品は、人とメカニズムの融合する未来世界を皮膚感覚で訴えかける。しかし、戦いという不条理の闇の中で、キャラクターたちはただ悩み苦しみ合いながら、呼吸しているだけである。そこでは、愛や真実は、はるか遠くに見えない。それでも彼らは、やがてほのかなニュータイプの光明にたどりつくが、現実の私たちにはその気配すらない。なぜなら、アムロのニュータイプはアムロだけのものだからだ。これは、生きるということの問いかけのドラマだ。もし、私たちがこの問いを受けとめようとするなら、深い期待と決意をもって、自ら自己の精神世界（ニュータイプ）を求めるほかないだろう。
今、未来に向けて誓い合おう。
私たちは、アニメによって拓かれる私たちの時代と、アニメ新世紀の幕あけをここに宣言する。

アニメ新世紀〇〇一年二月二十二日

▼新宿駅東口のALTA大スクリーンに映しだされる〝アニメ新世紀宣言〟。

第5回

■昭和56年2月23日～2月28日

（BGM／〝砂の十字架〟）
「ガンダムファンの皆さん、こんにちは。ミライ・ヤシマ役の白石冬美です。おかげさまで、二月二十二日〝アニメ新世紀宣言大会〟も、無事終了いたしました。ほんとうにありがとうございました。『私たちの時代のアニメを今、初めて手にする――〝機動戦士ガンダム〟は、人とメカニズムの融合する未来世界を皮膚感覚で迫ってみせる。生き続けるということの、これは問いかけのドラマだ。』という主旨の宣言を、皆さんとともにいたしました。アニメファンがほんとうに見たかったアニメ、ブラウン管画面を壊さずに劇場大スクリーンに移す慎重な作業の連続、この試みはみごとに成功したと、スタッフは今、ひそかな自負を持っています。公開まで何日かを、祈る思いで待っております。
さて、TBS〝パック・イン・ミュージック〟が、二月二十八日午前一時から三時まで〝ガンダム特番〟をお送りします。その直前一週間の〝パック〟も、どうぞ聞いてくださいね。ちょこっと、ガンダム情報が流れます。そして、三月八日には、ニッポン放送が午後八時から九時まで、やはり〝ガンダム特番〟をお送りいたします。どうぞ、お楽しみに。
皆さん、〝ガンダム〟が二部、そして完結編まで行くように、どうぞ応援してくださいね。皆さんの支持が作らせたアニメ映画が、〝ガンダム〟なのです。どうぞ、これからも応援してください。」

第6回

■昭和56年3月1日～3月14日

「アムロ、イクノカ、アムロ、イクノカ。」
（BGM／〝砂の十字架〟）
「〝機動戦士ガンダム〟ファンの皆さん、こんにちは。〝ガンダム〟唯一のロボット・ハロ役の高木早苗です。ファンの皆さんの支えで、二月二十二日〝アニメ新世紀宣言〟や〝五大都市試写会〟も、大盛況のうち、無事終了することができました。ほんとうにありがとうございました。それにしても、一本の映画を公開することが、どんなに多くの人たちの協力がなくてはならないか、改めて思い知らされます。キャストだけで四十七人。スタッフになると、いったい何百人になるのでしょう。そして、何よりも映画公開自体が、ファンの皆さんに支えられたのです。送り手と受け手を超えて生みだされたアニメだ、といっても、ファンの皆さん、〝うそだーい！〟なんていわないでくださいね。
（ガンダム情報・略）
なお、情報電話をお友だちに知らせてくれる場合、まちがえないようにお願いしますね。（番号略）スクリーンでお目にかかれるのを、楽しみにしています！ ありがとうございました。」

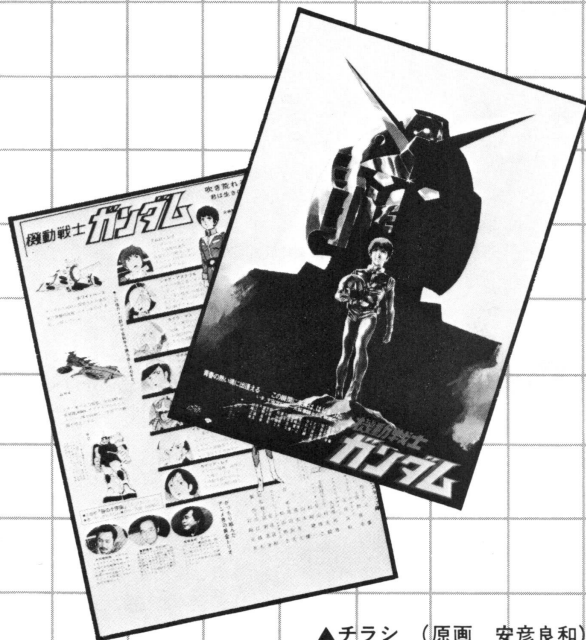
▼3月14日，初日の劇場前。

劇場版 GUNDAM COLLECTION

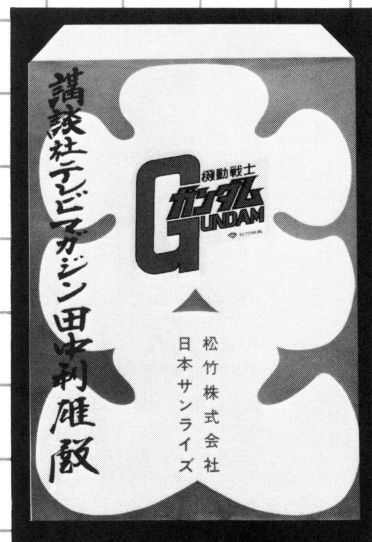
劇場版「ガンダム」にまつわる，ポスター，パンフレット，レコードなど主なものを紹介！

◀Ｂ全ポスター
（原画　安彦良和）
劇場の前などにはられる大判ポスター。

◀中づりポスター
（原画　安彦良和）
電車の車内につりさげられる，Ｂ３判のポスター。

◀サービスポスター　（原画　安彦良和）
前売り券を劇場で買った人にプレゼントされる，Ｂ２判ポスター。

▲チラシ（原画　安彦良和）
B5サイズ。図柄はAポスターと同じ。

▲Bポスター
（原画　大河原邦男）
宣伝用に使われるB2判ポスター。

▲前売り券（全国共通券）
AポスターとBポスターの絵を使用。それぞれに学生券と一般券があり，計4種。

◀大入り袋
劇場版「ガンダム」の大ヒットを記念して，各関係方面に配られた。

▲表　▼裏

▲プレスシート
A４サイズで，マスコミ関係者の資料用に配られるパンフレット。三つに折りたたまれている。

▶パンフレット
映画鑑賞の手引きとして，劇場で販売される。A４サイズ，オールカラー。

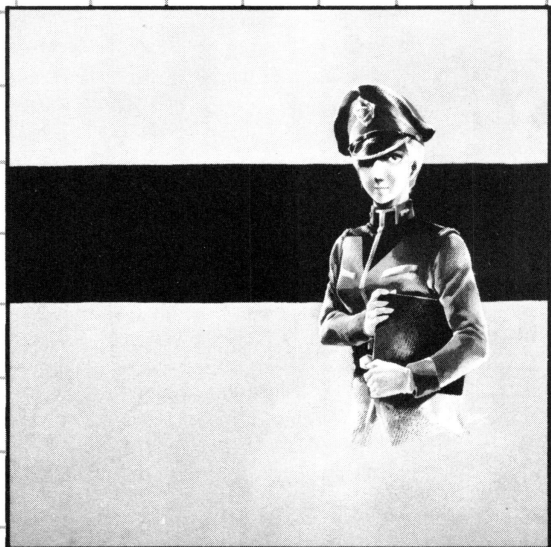
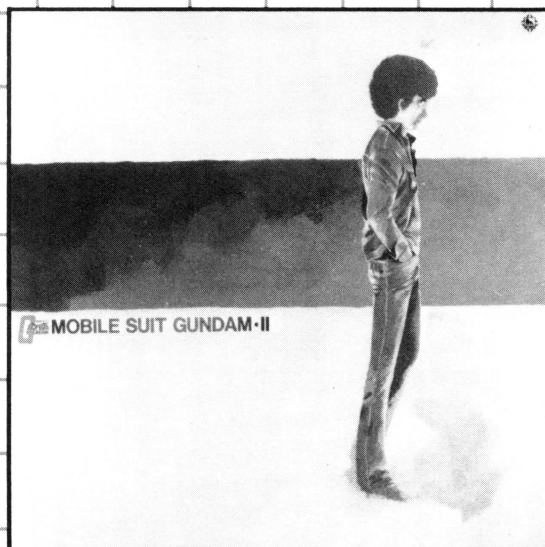
▲裏

▲表

劇場版 GUNDAM COLLECTION

●レコード
劇場版のために新しく録音された主題歌，BGMのレコード。キングレコードより発売中。(〝ドラマ編〟のみ5月5日発売。)

▲〝MOBILE SUIT GUNDAM-Ⅰ〟
(K25G・7017) BGMの第1集。

▲〝砂の十字架〟シングル盤(K07S・157)
谷村新司作詞・作曲の新主題歌。

▲〝MOBILE SUIT GUNDAM-Ⅲ〟
(K20G・7019〜20) 2枚組のドラマ編。

▲〝MOBILE SUIT GUNDAM-Ⅱ〟
(K25G・7018) BGMの第2集。

CONTENTS

なぜ，"アムロ，ふりむかないで"なのか？

●総監督
富野　喜幸

宇宙移民が定着して半世紀もたてば，人類は新たな覇権争いを演じるのは，歴史の必然であろう。

地球生活者と宇宙生活者。その覇権争いが具体化した時代が，ガンダムの世界を支える。

しかも，独裁と絶対民主主義という体制の最終的な抗争は，人類が過去の歴史に対しての訣別を暗示する。

すなわち，地球上，宇宙圏を対立するものと考えず，同化する広い認識力と，政治力を体制と考えず，人の和とするやわらかい心を持つべきではないのか？

そんな夢物語を思うのが，ガンダムの真の物語である。

そして，その物語の始まりが，１人の少年の目覚めから起こるのである。

やや内向的で，若い人たちの中によく居る少年の典型，アムロ・レイ。

特別に際立った才能を持つことのない少年は，真に平凡人たる代表である。同時に，過去のあらゆる時間の中で黙殺されていった人でもある。

その少年は，地球と宇宙とをつなげる世代の代表である。その少年が，新しい世代へと目を向けていくためには，あともどりをしてはならないのだ。

その思いが，アムロにふりむくことをさせない，という作者の願いである。

確実に目の前の事々をのりこえて，生きのびていかなければならない。それは，彼，アムロの意志から始まったものではない。が，ふりむいてはならない。そのときは，彼の（平凡人の）敗北を意味するからだ。

与えられた義務を義務と認識して，その義務を何故に行わなければならぬのか，と意識したときに，そこに現実が見えてくる。

これは，目覚めでなくて何であろう？

男が男として，両親から離れ，守るべき女性たちを得，そして，倒すべき敵を見る。

そして，その敵にも正義がある。

少なくとも極悪でない敵。むしろ，彼にこそ，人の光明が見えるかも知れぬ可能性さえアムロは見るのである。

しかし，戦いぬかねばならぬ戦場があるのも現実であるのだ。

機動戦士ガンダムは，人の新たな認識力を得たいとする願望の物語である。

人に光明を，と。

そのためには，アムロ，ふりむかないで，と作者自らが願うのである。

それ故に，今回のストーリーは，その少年アムロが，いかに現実に対決し，自立していくのかを描いた，序章ともいうべきものである。

あらゆる意味での男の乳離れ，の物語と信ずるのが本編である。

（プレスシートより）

テレビマガジンデラックス④

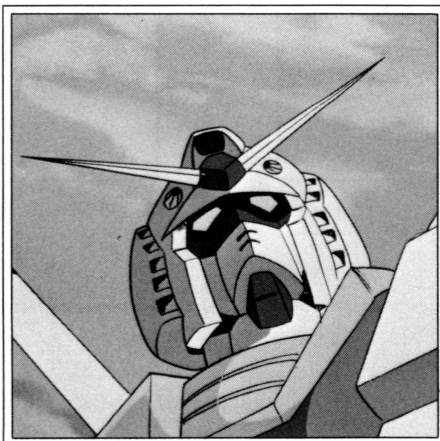
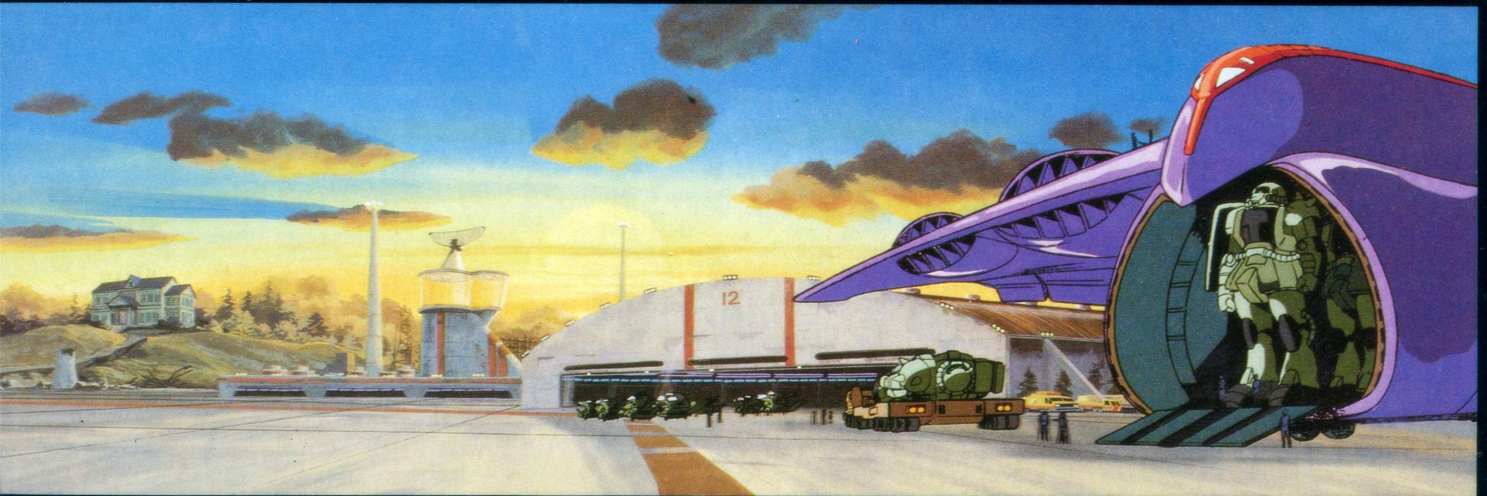
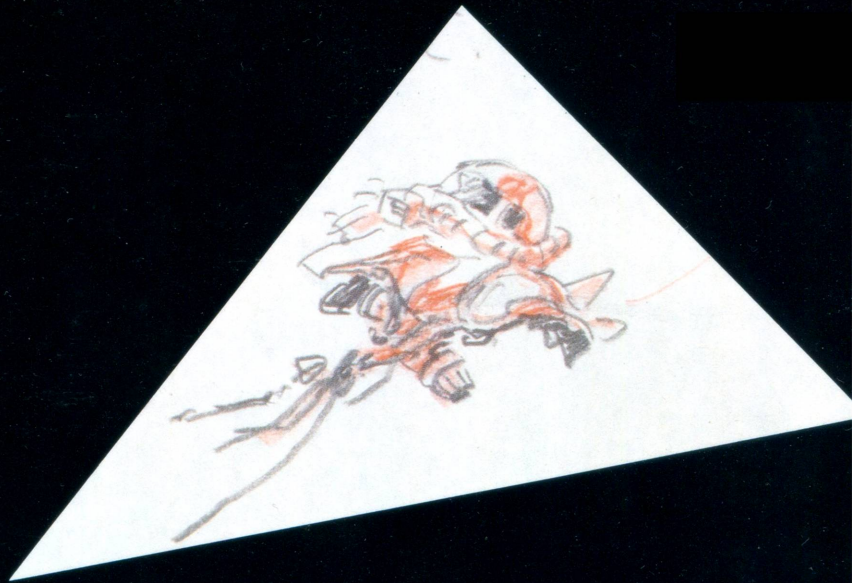
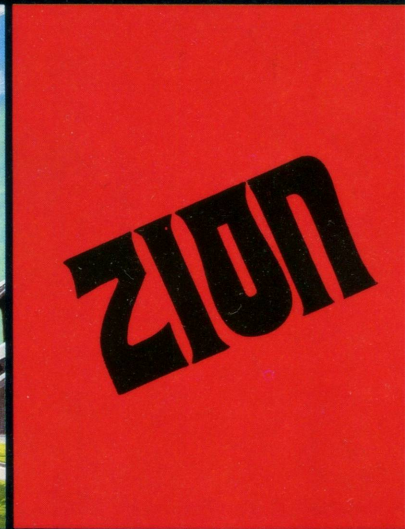
劇場版　機動戦士ガンダム
アニメグラフブック

定　価　850円
発　行　昭和56年5月15日　第1刷

発行者　野間惟道
発行所　株式会社　講談社
〒112 東京都文京区音羽2-12-21
電話　東京（03）945—1111
振替　東京8-3930
印　刷　共同印刷株式会社

雑誌66575-04　724542-2253(0)（Tマ）

★落丁本・乱丁本は，おとりかえします。

ZION

MOBILE SUIT GUNDAM

ANIME GRAPH BOOK

雑誌 66575-04 724542-2253(0)　　定価850円

劇場版

機動戦士ガンダム

ANIME GRAPH BOOK

講談社